やんば
八ツ場ダム

をつくることがどんなにムダかって
知って欲しいなあ

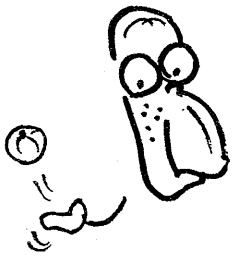
群馬脱ダム宣言

わたしの名前はショウ。
吾妻渓谷にずーっと昔から生えている、ミズナラの樹の精です。
そして、これはイヌワシのクー。そばの崖の上にいく代もいく代も前から巣を作っています。

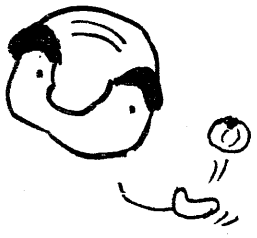
わたしたちの住む吾妻渓谷も、すぐ上流の川原湯温泉も、まだダムの水の底に沈んでいません。

50年も前に計画されたダムをこれから造る意味が本当にあるのかどうか、皆さん、どうぞ本気で考えてみてください。

八ツ場ダムを考える会



福田・中曽根の上州お手玉ダム



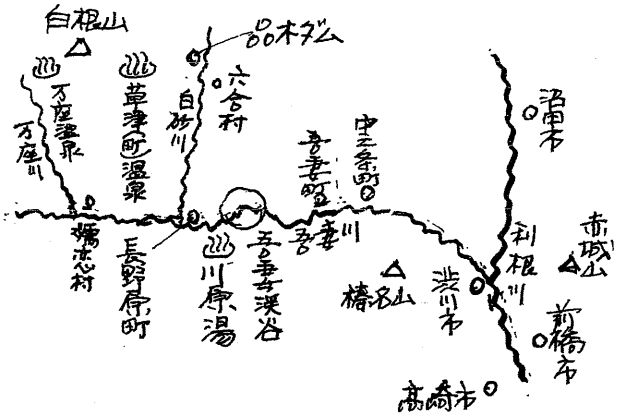
―― 漫画・八ッ場ダム物語 ――

この話の主要登場人物は、福田赳夫と中曽根康弘。二人は、十余年の時間差で共に高崎高校から東大法学部へ進学し、大蔵官僚に。そして戦後、中央政界に進出し、相次いで内閣総理大臣にまで昇りつめた大物政治家です。二人の選挙区は、共に旧群馬三区。票と権力をめぐって、県内の自民党は福田派、中曽根派に分かれ、「上州戦争」とまでいわれた激しいバトルを展開していました。

この八ツ場ダム建設の問題は、二人の足元、旧群馬三区での出来事なのです。

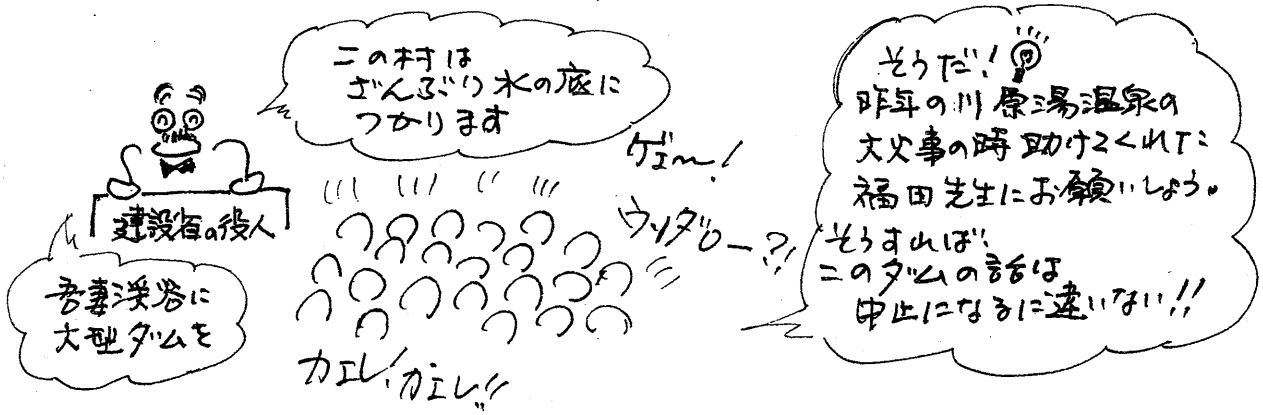
ことの始まりは、もう半世紀も前の、第二次大戦直後。1947年、カサリン台風により、利根川の下流域では、倒壊家屋3万戸、死者1100人という大洪水に見舞われました。

そこで、時の政府は、大至急「利根川治水計画」を作成しました。それは、上流の群馬県内に、下久保、薗原、藤原、相俣ダム（以上、完成）、沼田ダム（住民の大反対で中止）、八ツ場ダムの複数のダムを造るというものでした。



＊戦争とその復興のために、森林は大伐採され、上流はハゲ山だらけに。このため自然の保水力（緑のダム機能）が失われ、未曾有の大洪水をまねいた、といわれています。

第二次大戦から7年後の1952年の初夏のこと、長野原町川原湯地区の住民は集会場に集められました（等の水没予定）

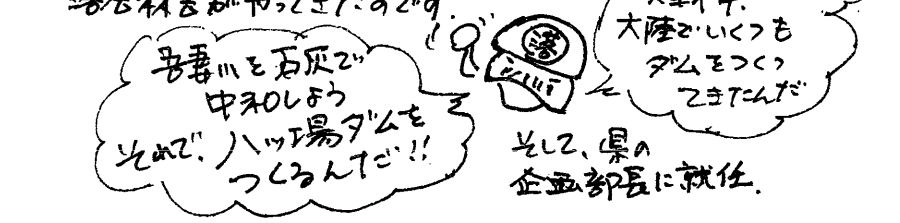


'53年2月、ハッ場ダム建設反対住民大会

しかし、'55年、ダム建設の話は突然消えました。
吾妻川の水は、クギやコンクリートもボロボロにしてしまう強酸性の水だということが判明したからです。

ところが…

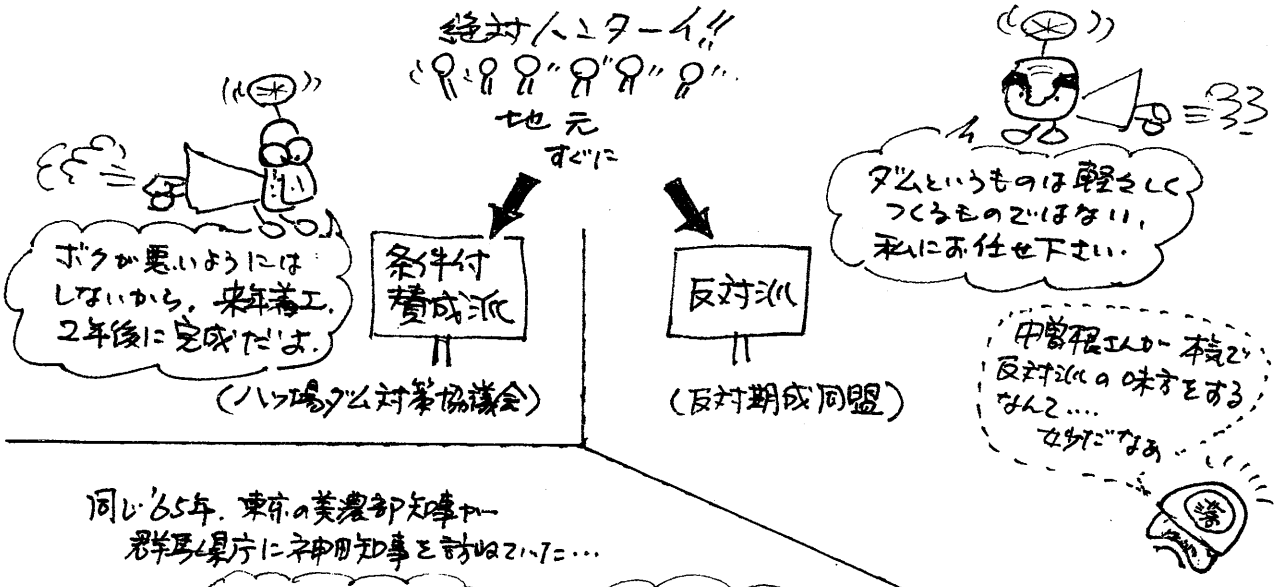
建設省から群馬県に、ひとりのダム男落合林吉がやってきたのです。



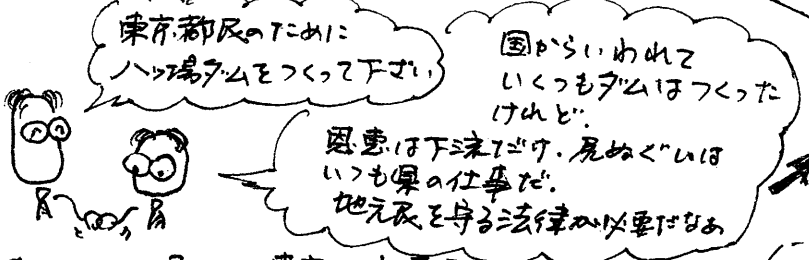
そして、県の企画部長に就任。

'63年、吾妻川支流の強酸性河川に、大量の石灰を投入して中和工場と、その水を貯めるための80本ダムが完成しました。

'65年、ハッ場ダム計画がよみがえる



同じ'65年、東京の美濃部知事が群馬県庁に神田知事を訪ねていた…



全国の知事会に働きかけて「水特法」成立('73)に動いたのです

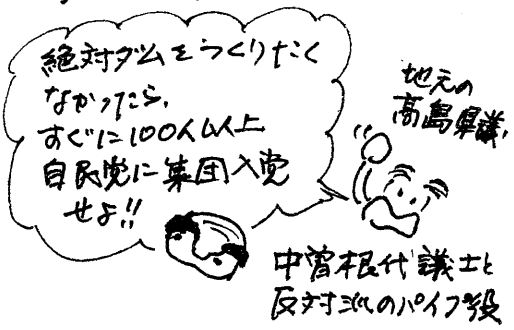
(ただ水のことだけに?
ザル法にされてしまいました)

しかし、この頃から、東京の水需要は頭打ちになってきたのです。

この後、ハッ場ダムの問題は、県議会で足掛け4年、12回の継続審議事項になっていったのです。

そこに

一方地元では…



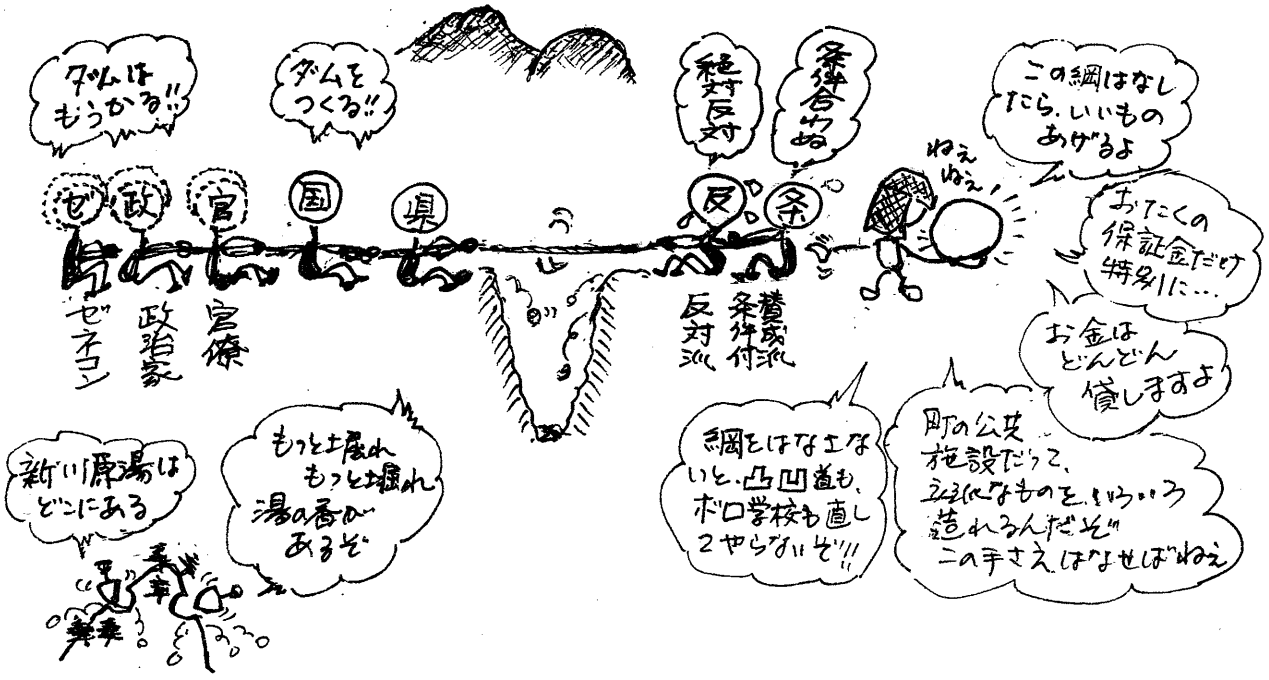
それならと、集団入党してみたが…

'69年
県議会は、13回目の審議会で
ハッ場ダム建設促進決議を
自民党議員の全員一致で通す

そして、これからなんと1/4世紀にも及ぶ
吾妻渓谷をはさんでの(?)

——ハッ場ダム綱引き合戦——

が始まりました



県は3億ひけて
川原湯温泉の
移転場所を探せ

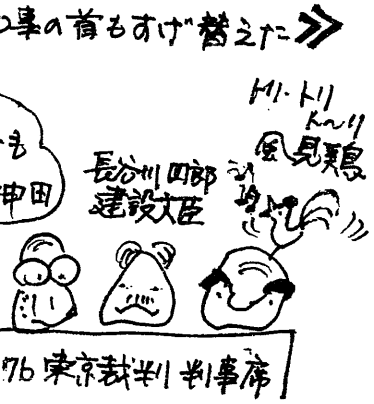
(P10の年表も参考にして下さい)

この間、福田・中曽根の両氏は、それぞれ派閥のトップから総理総裁へと激しいせめぎあいを展開。

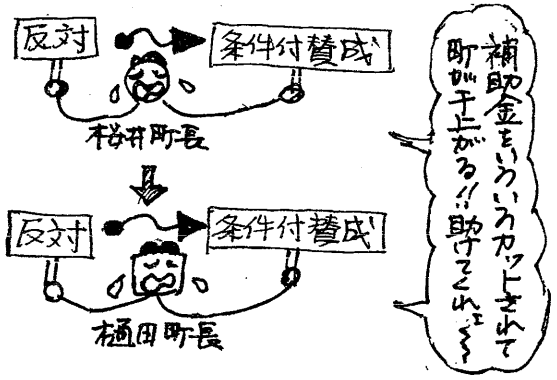
八ッ場ダムの利権をめぐっても同様のことでした。

《八ッ場ダムは知事の首もすげ替えた》

判決を申し渡す。八ッ場ダムを何が何でも推進するため、ぐずの神田知事を降ろし、清水一郎氏を押すこととする



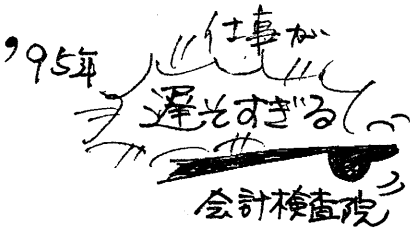
《長野原町の町長も苦しんだ》



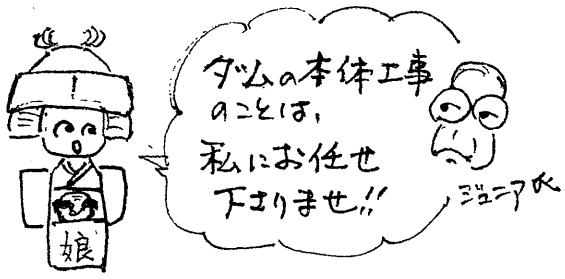
- ダム建設反対をかかげて当選した町長も、国や県のしめつけがきびしく、条件付賛成へと変わらざるをえませんでした。
- 町と国・県は、ダム建設に向けて交渉をすすめ、そのための協定を結んでゆきました。

そして、

'92.長野原町、'94吾妻町 ダム建設受け入れ



以来、ダムの関連工事が急速に進展。
この2002年秋、長野原町立第一小学校が移転



(中曽根氏の次女は、鹿島建設の渥美社長の長男(専務取締役)と結婚。鹿島建設は、県内の多くのダムの本体工事を手がけている)

しかし・吾妻線・国道145号線の付け変え工事は全く始まっていません。
・住民の移転もほとんど始まっていません。(移転先が地すべり地区ともいわれています)
これらが完了しないと、ダムの本体工事はスタートできないのです。

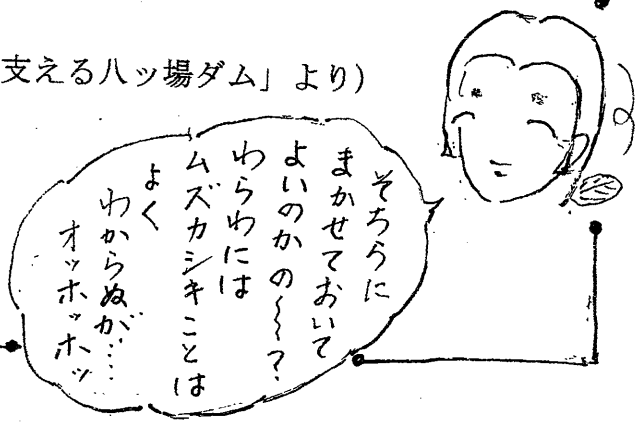
この先、私たちの棲む吾妻渓谷や川原湯温泉がどうなるのかは、皆様のお心次第なのです。

合掌
ショウ

八ッ場ダムを造る

メリット

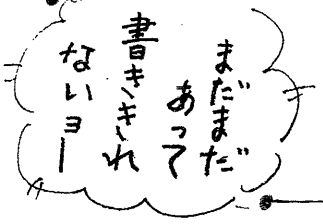
1. 洪水から人々の命、財産を守る
2. 暮らしに欠かせない水を確保する
（平成10年建設省資料「首都圏を支える八ッ場ダム」より）
3. -----
4. -----
5. -----

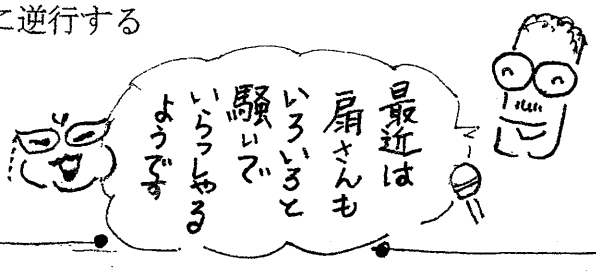


八ッ場ダムを造る

デメリット

1. 強酸性の水、生活排水、農薬の混入した水をダムにためて濃縮することにより、水道の水質悪化
2. 水没面積304ha、水没世帯数340世帯
3. 多額の建設費負担によって、国税、地方税、水道代が上がる
4. イヌワシ、クマタカなど絶滅危惧種をふくむ、貴重な生態系の破壊
5. 吾妻渓谷の美しい自然景観が失われる
6. 吾妻渓谷の自然の洪水調節機能が失われる
7. ひなびた情緒のある川原湯温泉が失われる
8. 水需要の頭打ちで、水あまりとなる
9. 夏期の利水容量が少なく、渇水期には役立たない
10. 建設予定地は地層がもろく、地盤災害、土砂災害の可能性が高い
11. 大規模公共事業により、国や地方自治体の財政赤字が増加する
12. 地震誘発、浅間山噴火の危険
13. 狭い谷あいの地形で、水没世帯の移住、生活再建が困難
14. 縄文遺跡、石仏群、神社、仏閣などの重要な歴史遺産が水没する
15. 小泉内閣の進めている構造改革に逆行する





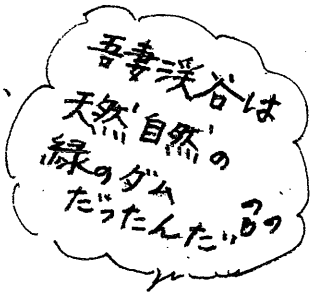
ちょっと待って！よく考えてみると…

ダムが計画されたのは、50年も昔のこと。メリットとデメリットをもう一度いまの視点から見くらべてみました。

1、治水のこと

山林の保水力はダムをはるかにしのぐ。渓谷は自然の洪水調節機能を備えている。それもこれも、この半世紀の間にわかってきたこと。すでに欧米では「ダムの時代は終わった」（1994年、米国）と宣言され、既存のダムをとりこわし、河川の再生をめざす『脱ダム』の時代が始まっています。

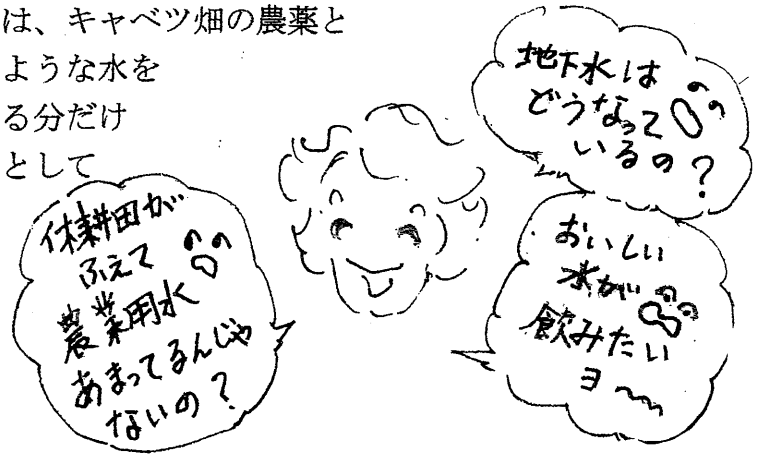
ダム予定地は、火山からの噴出物によって出来たもろい地盤。従来から地すべり、山崩れの危険が指摘されてきました。その上、わが国有数の活火山である浅間山は予定地から20キロの近さ。浅間山噴火の際には、ダムが崩壊し、首都圏の下流域にまで、想像もつかない被害がおよぶことに。



2、利水のこと

この不況下です。バブルがはじけ、“右肩上がり”の経済予測もはずれました。工業用水も飲用水も、需要は下がり気味。今でも水は足りているのに、この上さらにダムを造っても、水はあまるだけです。

それより心配なのは、水質のこと。ダム予定地は、草津・白根の活火山帯に位置します。周辺には廃坑となった鉱山も。そのためカドミウム、ヒ素などの重金属をふくむ強酸性の水が、吾妻川に流れ込んできます。酸性対策として40年前に、石灰を投入する中和工場と中和生成物の沈殿池（品木ダム）が造られました。それでも中和されるのは、全酸性成分の半分ほど。
さらに、上流の草津温泉をはじめとする観光地からは大量の生活排水、高原野菜の生産地である嬬恋村からは、キャベツ畑の農薬と化学肥料が流れ込んできます。このような水をダムでせきとめると、水分が蒸発する分だけ濃縮し、水質はさらに悪化。飲用水として利用するのは、とてもムリみたい。



3 子供たちに残すのはダム？それとも…

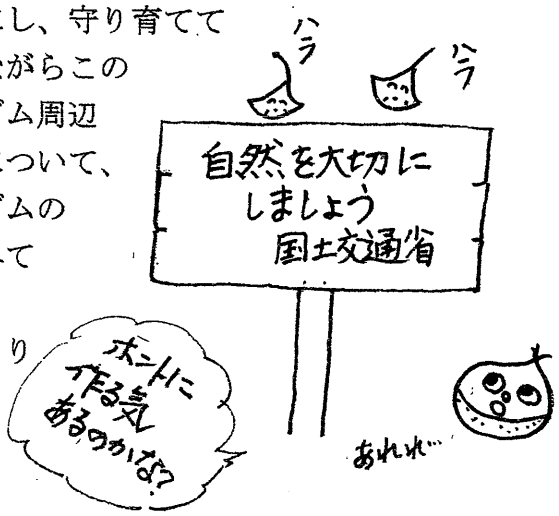
現在、日本中にダムは2500余り。さらに計画中のダムが300を超えます。

一方、上流が水没する予定の吾妻渓谷は、「耶馬渓しのぐ・・」とうたわれた景勝の地。かつて若山牧水が感動した迫力のある自然美を、子供たちに残してあげられないとしたら、この社会って、どこかオカシイ。

渓谷を眼下に見下ろす川原湯温泉は、源頼朝発見との伝承が残る、鄙びた出湯。温泉周辺の森林は、まさに「生きものの宝庫」です。絶滅が危ぶまれるイヌワシ、クマタカ。特別天然記念物のニホンカモシカ。その他、環境庁のレッドデータブックリストに載っている動植物を、数え上げればキリがない。豊かで多様な生態系をこわすことのツケは、いつか人間に回ってきます。

吾妻渓谷も川原湯温泉も、JR「川原湯温泉駅」の目の前。ダム建設を推進しているハズの国土交通省でさえ、八ッ場への旅を呼びかけています。

「一度、八ツ場ダム周辺地域をたずねてみてはいかがでしょうか？ここに暮らす人々が古来より水や森を大切にし、守り育ててきたことやその苦労をしのび、思いを馳せながらこのマップを片手に四季折々に変化する八ツ場ダム周辺地域を散策してみてください。そして、水について、私たちの暮らしとダムについて、それからダムのできる地域の人々について思いを巡らしてみて下さい。」……「やんば散策マップ」
（国土交通省八ツ場ダム工事事務所発行）より



4 最後にお金の話です

八ツ場ダムには今までに、関連事業という形で、1350億円以上が投じられてきました。本体が完成するまでには、少なく見積もってもさらに5000億円が必要とされています。この費用を負担するのは、国と水利権をもつ地方自治体（東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、群馬県）。試算によると（次ページ資料　参照）、国の負担額が 2738 億円。地方自治体の中でもっとも負担の多い埼玉県が 715 億円。群馬県は 318 億円となります。これらの支出は起債で行われるため、その利息を含めるとさらに数字ははね上がります。ちなみに東京都の場合、負担額は653億円ですが、利息を含めると1000億円を超える金額になります。

過重な負担は、ただでさえ財政赤字の国、地方自治体を財政破綻に追い込みかねません。水道料金、国税、地方税も値上がりです。

八ツ場ダム事業費の負担内訳（億円）

		総額	国	東京	埼玉	千葉	茨城	群馬	栃木
1．ダム建設費		1,800	1,057	210	229	140	83	76	5
2．生活再建	(1)ダム事業	2,004	1,177	233	256	156	92	85	5
	(2)水特法事業	997	504	170	143	61	26	131	0
	(3)基金事業	246	0	79	87	38	16	26	0
合　計		5,047	2,738	653	715	395	217	318	10

＊　ダム工事費は、1985年のダム基本計画の数字しか公表されていないので、その後の工事単価の上昇を考慮して1.3倍の値を乗じた。生活再建事業のうち、水源地域対策特別措置法（水特法事業）の事業費は96年の協定、その他は92年の整備計画案案による。

五十年ダムの協議は進んだが
ふと気がつけば 財布からっぽ
国土交通省 大臣談

・「水問題原論」嶋津暉之氏 ナビキ出版
・「あなたは八ツ場ダムの水を飲めますか」 久慈力氏 マルジュ社
・「湖底の春宵」 豊田嘉雄 関東建設弘報会
・「八ツ場ダムの嘆い」 萩原好夫 岩波書店
・その他 月刊誌 評論社・カレンダージャーナル社等の出版物
・「ムダなダムは要らない」八ツ場ダムを考える会
等を参考に上せていただきました。

2002年9月の朝日新聞 声欄の投書から

川原湯温泉を残して欲しい

朝日 9/14

団体職員　渡辺　緑（東京都練馬区　53歳）

ぜひ建設を中止して欲しいダムがある。群馬県の八ツ場ダムだ。これができると、800年以上の歴史があるといわれる川原湯温泉が湖底に沈んでしまう。

東京から電車で3時間ほど。こぢんまりして派手なものはないけれど、文人たちも愛した豊富な湯と、渓谷の素朴な自然、伝統を感じさせる宿や町の人気に、訪れる度にひかれてゆく。

50年余りもダム建設に反対してきて、この数年ようやく補償や代替地の交渉と、建設に向けて断腸の思いで舵を切り直した地元の人たちには、「今更何を」とおしかりを受けるかもしれない。でもあえて「中止して」と言いたい。

ケヤキの大木など豊かな緑が渓流の谷をおおい、湯の里の穏やかな自然と優しい人の心が、山路に群れ飛ぶ色々な種類のチョウ、カモシカや猿、ムササビなどの生き物たちを育んでいる。これらの住み家、命をそっとしておいて欲しい。

「水余り」とのこと、今ならまだ、無駄なダム建設や自然破壊をくい止められると思うのだが。

牧水も愛した渓谷美残して

朝日 9/5

主婦　井上　曇子（東京都杉並区　55歳）

若山牧水の紀行をまとめた「新編みなかみ紀行」を読んだ。中でも印象深いのは、牧水が群馬の吾妻渓谷を馬車で行くところである。時は晩秋。吾妻川に沿いながら渓谷にさしかかる頃は日も高く、幌を上げて谷を見下ろす。そして彼は心よりこの渓谷を好ましく思い、眺めいるのである。

御者の「これでおしまいです」との声に、先の予定があるにもかかわらず、もう一度引き返して渓谷を歩こうかどうか迷った末、思い切って足をとどめ、川原湯温泉に一泊する。

私は、ぜひこの渓谷を歩きに行こうと思った。往時とは違っているかも知れないけれど、自然は同じ姿のままではないか。早速、図書館で借りた案内書を見ていると、何とここにダムが出来るとある。驚いた。それが八ツ場ダムのことと声欄（14日）で知った。

牧水が愛した渓谷美が、ダムで損なわれないだろうか。後世に自然を残すことこそ、日本が世界に誇れることではないのか。

今度開けばすべて官有林であるのだそうだ。私はどうかこの渓間がいつまでも、この寂しみと深みとをたたえて永久に茂っていてくれることを心から祈るものである。ほんとうに土地の有志家といわず、群馬県の当局者といわず、どうか私と同じ心で、このそう大でもない森林のために、永久の愛護者となってほしいものである。もしこの流れを挟んだ森林が無くなるようなことでもあれば、諸君が自慢しているこの渓谷は、水が枯れたよりは悲惨なものになるにきまっている。

（若山牧水「川原湯から草津を経て渋峠へ」より）

――約80年前、牧水は上のような一文を残しています

ハツ場ダムの水は誰が飲む？

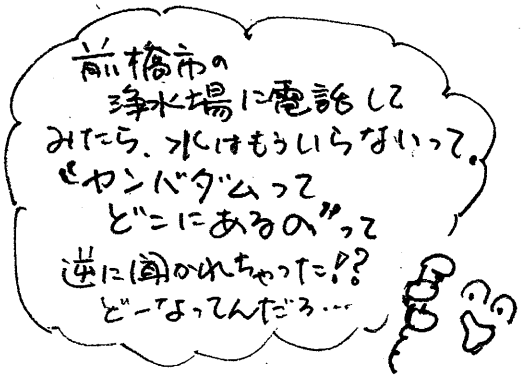
●給水団体状況表

	計画配分量	暫定水利権
群馬県：上水	3.020m³/s	0.233m³/s
工水	0.350m³/s	0.208m³/s
藤岡市：上水	0.250m³/s	0.235m³/s
埼玉県：上水	8.814m³/s	6.889m³/s
東京都：上水	5.779m³/s	0.559m³/s
千葉県：上水	1.460m³/s	0.470m³/s
工水	0.230m³/s	0.230m³/s
北千葉広域水道企業団：上水	0.350m³/s	0.207m³/s
印旛郡市広域市町村圏事務組合：上水	0.780m³/s	0m³/s
茨城県：上水	1.090m³/s	0m³/s
計	22.123m³/s	9.031m³/s

東部地域水道　太田市、館林市、尾島町、板倉町、千代田町、邑楽町、大泉町、明和町
水源…ハツ場ダム

県央第二水道　前橋市、伊勢崎市、赤堀町、玉村町、境町、大胡町、北橘村、富士見村、宮城村、粕川村、新里村、(仮)東村
水源…ハツ場ダム(冬)
奈良俣ダム(〃)
八木沢ダム(夏)
広瀬用水転用(〃)

※赤城村は地下水が豊富なため県央第二水道から抜けることを議会で議決しました。



太田市の広報にⓂさんとⓉさんのこんな会話がありました

Ⓜ八ツ場ダムの水は、完成したら県でつくっている「東部地域水道」で飲めるようにして東毛地域に供給することになっています。太田市では、この水も、県から買い入れる予定になっているんですよ。なにしろ八ツ場ダムの建設費用は数千億円とも言われていますからね。料金の引き上げもいくらになることやら。

Ⓣ・・・それ、ホントにぜったい必要なんですか？

Ⓜうーん。水道局では、水源はたくさんあったほうが安心感が得られると説明してますね。もっとも、県に対しては、その水の受け入れ開始時期を、少しでも先にのばしてくれるように要請しているそうですが。

Ⓣそ、それってつまり、まるっきり必要ないってことでは・・・。

Ⓜまあ、そういう説もあるかもしれませんね、ははは・・・。

八ッ場ダムの経緯

昭和 22（1947）　カスリン台風の被害（死者 1100 人、浸水戸数 303,160 戸）

〃　27（1952）　利根川改修計画の一環として沼田ダム、藤原ダム、園原ダム、相俣ダム、下久保ダムとともに計画され、予備調査に入る。

○街をあげての反対運動が盛り上がり、建設省に対し建設中止の陳情書、絶対反対の決議文をつきつける。

・吾妻川の強酸性の水質により、ダム計画は白紙に戻る。

昭和 39（1964）　草津の中和工場、品木ダムが完成し、湯川、矢沢川に石灰質中和剤の連続投入を開始することにより水質は改善され、ダム計画は蘇った。

〃　40（1965）　予備調査再開

〃　41（1966）　町議会で絶対反対の決議

○反対してもできてしまうなら条件付で賛成する派と反対派が県議会に対し、陳情合戦

昭和 44（1969）　県議会で 4 年間 12 回の継続決議を経て建設促進決議
建設省、川原湯駅前に「生活再建相談所」開設
水没線測量のため杭打ち

○反対期成同盟は作業阻止行動、抗議行動を行う

昭和 45（1970）　実施計画調査から建設に着手

〃　48（1973）　「水源地域対策特別法（水特法）」が成立（神田知事の活躍）

〃　49（1974）　反対期成同盟委員長の飛田氏が町長に当選

〃　51（1976）　利根川水系第三次フルプランに「水没住民の納得を得るよう努力するものとする」との但し書き付で八ッ場ダムが加えられる。

〃　8 月　清水知事当選

○ダム推進の清水知事の下で飛田町長も町の事業を進めるために県の提案する再建案について前向きに検討せざるを得なくなった。

昭和 58（1983）　反対期成同盟の目的を「八ッ場ダム建設阻止」から「犠牲を伴う八ッ場ダム建設に反対」へと変更

〃　60（1985）　飛騨町長と群馬県知事は「生活再建案」「進行対策案」について包括的合意に達する

〃　61（1986）　八ッ場ダム建設に関する基本計画が告示される。

〃　63（1988）　建設省は現地調査開始

平成　4（1992）　長野原町長、群馬県知事、関東地方建設局長は「八ッ場ダム建設事業に係る基本協定書」を、八ッ場ダム工事事務所長と水没 5 地区各代表は「用地補償調査に関する協定書」を締結、用地補償調査を開始

〃　6（1994）　長野原地区「尾坂進入路」「久〃戸橋」、横壁地区「小倉進入路」の工事着手

〃　7（1995）　「用地補償調査に関する協定書」を締結

〃　13（2001）　水没関係 5 地区連合補償委員会「補償基準」受け入れを決定、以後個別交渉中

〃　14（2002）　第一小学校、林地区代替地に移転

2002年度　方針（案）

I　現在県内で計画されている倉渕ダム、増田川ダム、戸倉ダムなどに対する運動と情報交換をしながらつながりあい、「群馬脱ダムネットワーク」設立に向けてしなやかに活動していく

II　「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」の運動と連携を強め、八ツ場ダム本体工事の中止を求めていく

III　地元住民との情報交換に努め、地権者の権利が損なわれないよう協力していく

IV　自然環境の保全に努め、特に名勝「吾妻渓谷」の保全を図り、次の世代に引き継ぐことを求めていく

V　ニュース「やんばダム」やパンフレットなどの広報活動を通じてより多くの市民に理解と参加を求めていく（定例幹事会にも一般会員の参加を歓迎します）

八ツ場ダムは現在の計画では、平成20年に完成の予定です。
けれども本体工事は、まだ始まっていません。
次の時代の命のために、八ツ場ダムをストップさせましょう。

「八ツ場ダムを考える会」会員募集中
年会費／個人会員　1000円，　団体会員　2000円
会員にはイベントのお知らせ、会報を郵送いたします

八ツ場ダムを考える会

やんば ハッ場ダム

2003.4 NO.2

ダムも戦争も
すべてのいのちになじまないもの

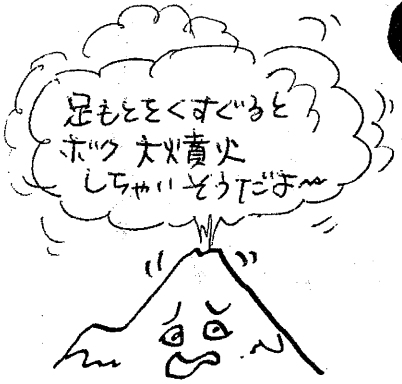
群馬脱ダム宣言

ブッシュさんが、そして私たちが、
「足るを知る」――このことの豊かさに気づき、
自分以外の世界への想像力をもう少し働かせることができたなら
今、イラクで起きている悲惨な事態は、回避できたことでしょう。

この悲惨な戦争は、私たちに何を気づかせてくれるのでしょうか。

八ッ場ダムを考える会会報

2003 八ッ場ダムに吹き込む 脱ダムの風



予定地
群馬県吾妻郡長野原町、吾妻町
吾妻渓谷、川原湯温泉付近

浅間山が
最近 ヤヤ大きく
煙を吐いたのです

代替地造成中

まだ着工していない
八ッ場ダムの本体

新R353

ダムに沈む温泉

小学校移転
(2002.9)

イヌワシ
クマタカ

むさぼり

脱土建行政
長野脱ダム宣言
山ひとつ越えて
やってきた

世界水フォーラム in 京都
終了直後に
「日米ダム撤去委員会」設立総会
(事務局長真下参加)
(2003.3.21)

統一地方選
公開質問状を出しました。
県議立候補予定者へ
(2003.3)

群馬県計画
倉渕ダム反対運動のうねり拡大

下流首都圏(水利権を持つ)から
"もうこれ以上 水はいらない"

『首都圏のダム問題を考える市民と議員の会』
発足(2002.3)

- 東京脱ダム集会 (2002.12.1)
- 八ッ場ダムパンフ作成
- 東京都、千葉県に住民監査請求

『八ッ場ダム事業の見直しを求める意見書』を、
千葉県佐倉市議会から決議し、
千葉県知事に提出 (2003.3.7)

＊ 5,6ページに一部紹介しています。ご希望の方は『首都圏のダム問題を考える市民と議員の会』にお申し込みを。連絡先は5ページにあります。

ついに出た!! 下流自治体より、八ッ場ダムに"まった"の声

八ッ場ダム事業の見直しを求める意見書

八ッ場ダム建設事業は都市用水の開発と洪水調節を目的とする多目的ダムであり、一九五二年国によって計画されたものである。……（中略）……。

千葉県は八ッ場ダム事業の受益者として……（中略）……県の総負担額は五百六十億円にもなると予想される。

治水対策については、既設のダムや森林、河川の整備が進み、大洪水に対応することはすでに可能とされている。

都市用水については、……（中略）……千葉県の水道給水量は近年横ばいになっている。数年に一度の渇水時には代替手段があり、新たな水源開発は不要である。

千葉県の財政状況は四十七年ぶりの赤字決算であり、財政再建団体転落への一歩手前である。ダム事業費の増大は水道料金の値上げにもつながり県民生活に重くのしかかっている。

よって、佐倉市議会は、千葉県に対し、次の事項を強く要望する。

一、今後、八ッ場ダム建設事業費の見直しにあたっては水需要量の精査をし、水利権量の縮小を国に求めること。

一、千葉県環境保全条例により、地域を指定し地下水採取の規制をしているが、その地域指定を見直すこと。

右、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

平成十五年三月七日

千葉県知事宛

佐倉市議会

倉渕ダム

3/18 知事「同意が不十分」

前上事延期 住民説明会を続行

倉渕ダム

3/22 県の洪水計算「過大」

民間再評価委の 烏川改修で治水十分

3/22 「高崎市長選 ダムが争点」

出馬予定の中島氏

3/26 倉渕ダム「争点にせず」

高崎市長選で松浦氏後援会

3/27 「治水、改修で対応可」

倉渕ダム再評価委 知事に中間報告書

倉渕ダム

4/4 高崎市が柔軟化?

「より良い方法を検討」

4/8 「ダム計画巡り公開討論会を」

考える会 知事に要望

倉渕ダムはいらない

倉渕ダム 水ダム 3/27 ムを巡って 熱い議論

最近の朝日新聞群馬版から見出しだけ拾ってみても…

群馬県統一地方選立候補予定者　各位様

（群馬脱ダムネットワーク準備会
八ッ場ダムを考える会 気付け
で発送しました。）

公　開　質　問　状

群馬県の吾妻渓谷で進められている八ッ場ダム建設事業をはじめ、水資源公団の戸倉ダム、県営の倉渕、増田川ダムは、まだ本体工事にとりかかっていません。ダム先進国のアメリカでは、現在ダム撤去の動きが進んでいます。日本でも脱ダムの流れが確かなものとなってきました。ダム計画から半世紀以上経過した現在、ダムをめぐる状況は一変しました。

(1)　水需要が頭打ち

不況が続き、この上ダムを造れば、水あまりとなることは確実な状況です。

(2)　治水に対する考え方の変化

山林の保水能力、渓谷の洪水調節機能など、自然のメカニズムが解明され、ダムによる治水という手法が時代遅れとなりました。

(3)　水質悪化による環境被害

吾妻川は強度の酸性である上、上流で生活排水、農薬が大量に流入しており、ダムによって濃縮されれば、さらに水質は悪化します。水の供給先である下流首都圏でも、ダム反対の声が高まっています。

(4)　環境問題への関心の高まり

ダム建設予定地は自然の宝庫です。群馬県も保護を呼びかけているイヌワシ、クマタカなど、絶滅危惧種をふくむ貴重な生態系が破壊されます。

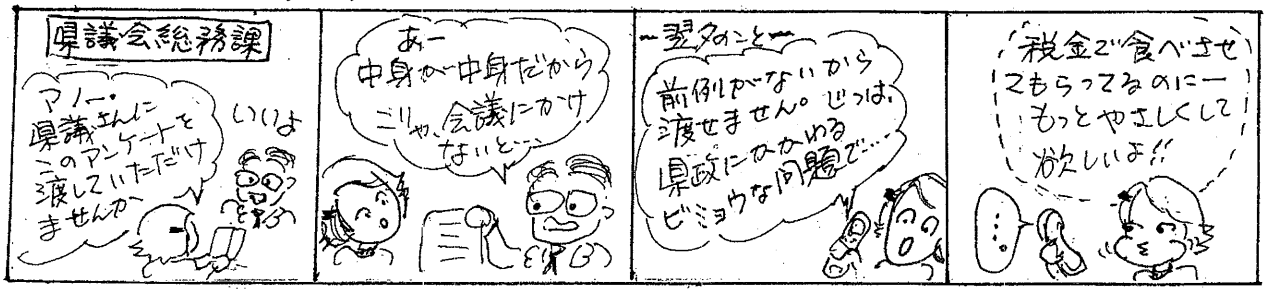
(5)　財政破綻

巨額の建設費負担により、国、地方自治体の財政赤字がさらに増大します。ダム建設予定地の住民が多大の犠牲を強いられるだけでなく、水道代、地方税、さらに国税の高騰という経済的負担を国民に強いることになります。

お忙しいなか恐縮ですが、以上のダム建設をめぐる現在の状況をご検討のうえ、以下の質問にお答えください。（3月20日までにお願いします）
（一部、25日までとしました）

1.　ダム建設事業は、小泉内閣が進める構造改革に逆行しないでしょうか？
2.　ダム建設事業のような大型公共事業の見直しをせずに、自治体の財政破綻を防ぐことが可能だと思いますか？
3.　「いいえ」と答えた方にお尋ねします。これ以上の財政赤字をよしとしますか？
4.　産業構造を自然といのちを大切にする方向に転換するべきでしょうか？
5.　今ならやめられる県内のダム建設を続ける必要があるでしょうか？

現職県議の立候補予定者に、手渡してもらえなかったのです…。



《公開質問状への回答結果》

はい…○　いいえ…×　判断できない…△　（五十音順）

・72人に発送
・回答率83%
（一括回答も含む）

氏名	回答					コメント（事務局で抜粋させていただきました）
あべ　ともよ	○	×	×	○	×	ダム建設計画全体を見直し、まだやめられるものは、積極的に中止すべき。
新井　雅博	△	×	×	○	△	県内ダム計画のすべての詳細を研究していないので、促進、変更等の判断が現在できない。
伊藤　祐司	△	×	×	○	×	これ以上のダム建設は、財政的にも環境の面でも造らせてはならない。
小野里　光敏	△	×	×	○	△	全ての公共事業は見直しをすべき。計画されて十年以上もたったものは、現時点での必要性を再精査すべきだ。県内の進行中のダムについては、具体的な内容を承知していないので何とも言えない。未着工のダムについては、当然再精査すべきだ。日本の産業構造は第三次産業へと移行していくだろうが、その際、国力を維持する上で、科学技術を中心とした産業も必要。むずかしいカジ取りが必要となる。
金子　泰造	△	△	×	○	○	必要なものは、検討を加えつつも続けるべきと思う。見直しを加えつつ、計画別に判断することが望まれる。
黒沢　孝行	○	△		○	○	全てのダムが“悪”だとは思わないが、地形なり治水面でも総合的に判断すべき。
重野　能之	○	×	△	○	×	1の質問の構造改革とダム事業中止は、関係ないのでは？
鈴木　庸	○	×	×	○	×	子孫に負の遺産を残すことには反対。脱ダムを力強く推し進め、Slow　Small　Simple な生活様式に。
須田　清七	×	×	△	○	△	
関口　直久	△	×	×	○	×	現在県内で進められているダム建設は必要なく、地下水の活用や河川改修などで代替できる。
早川　まさえ	×	×	×	○	×	ムダな大型公共事業をけずって、福祉教育、くらし優先に。
平田　英勝	×	×	△	△	△	倉渕ダムに限り、地元の意見を聞くと、十年、二十年に一度の大災害が発生し、被害甚大である。防災の面から必要と思う。倉渕ダムに限り、イヌワシ、クマタカが生息していますか？

ご自分の意見を添えての回答に感謝です。一括でなく、一人ひとりの生の声がもう少し有権者に届いたら…とも。

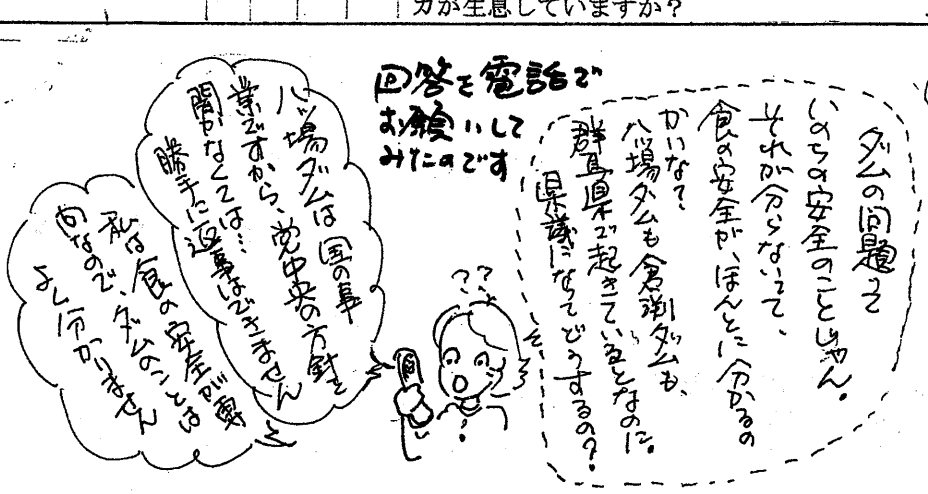
赤ちゃんを抱こしたお母さんが、ダム計画の全面見直しを公約に、立候補しています

民意の激しい変化に気付いてない候補者もいらっしゃるようで…

民主党系の人からの回答は一人。党中央で打ち出していた「緑のダム構想」はどうなっちゃったんでしょう？

自民党からは、一括回答とは別に、お二人。すごく前向き（世の中では普通かな）な回答ももらいました

自民党の方々にも、それぞれの頭で考えて欲しいものですね。



公開質問状に対する自民党県議団の回答書

最近財政の緊迫化を理由に、ダム建設事業を中止させるいわゆる脱ダム運動が一部住民の間で起こっています。

然しながら、人は古来から水の限りない恩恵を受けて暮らしを営んできた反面、水の危険にさらされながら生きてきました。

そのような中で、水害のない安全な生活を送りたい、水不足の心配のない快適な生活を送りたいと願うのは当然のことであります。

特に、上流に位置する我が群馬県において河川の管理や運営は中下流域に暮らす方々にとっての安全の確保・水の供給などを柱とする重要政策策定は政治にたずさわる者に課せられた重要かつ先見性を問われる最重要問題であります。

ただ単に、予算面だけのことを考えて公共事業のすべてを短絡に否定することは木を見て森を見ずの感があり、一般的な良識とは到底言い難いと思います。

何はともあれ、一般住民の方々の真の願いがどこにあるかを最優先に考え、生物との共生や自然環境を守ることと共存できるふるさとづくり、ダムづくりを進めることがいま求められていると私達は考えます。

平成十五年三月十八日

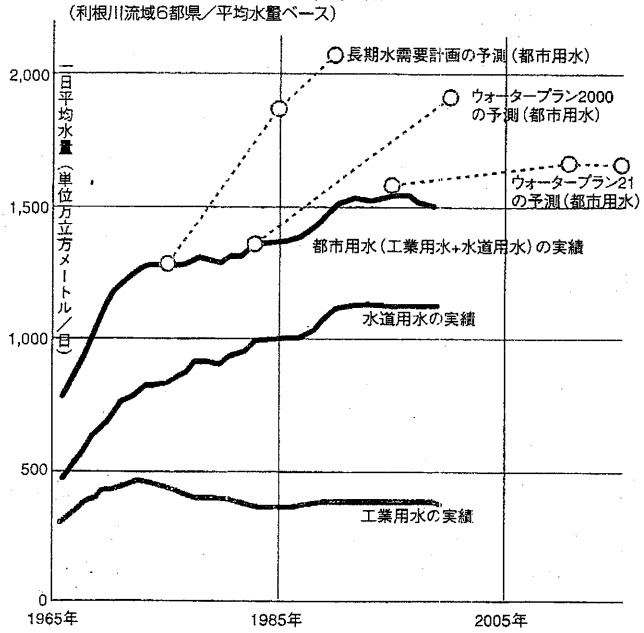
群馬脱ダムネットワーク
八ッ場ダムを考える会　御中

追伸
本文をもって我が党候補者の回答とします
なお個々の回答は差し控えさせていただきます。

↑この〜〜は事務局が付けたものです

しかし、ダム建設の目的は

■都市用水における実績と国の予測の違い
（利根川流域6都県／平均水量ベース）



首都圏はすでに水が余っています。

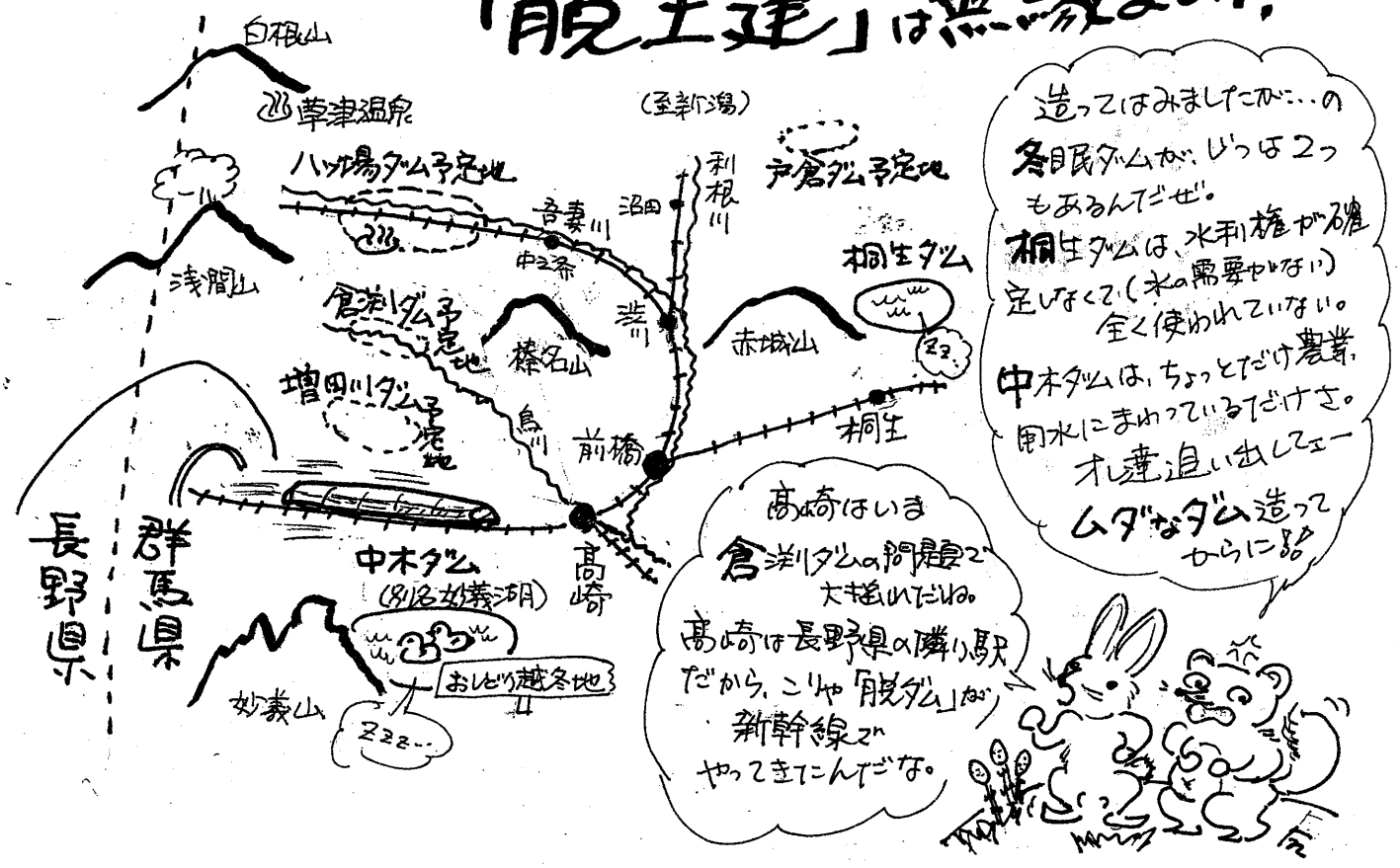
首都圏の都市用水の需要は最近10年近くほぼ横ばいが続いています。今後は日本の総人口が2006年にピークを迎えるのに伴って、首都圏の人口も頭打ちになり、その後は少しずつ減っていきます。したがって、近い将来に水需要が横ばいから漸減傾向に変わることは必至です。一方で水源開発が次々と行われたため、今は水余りの時代に入っているのです。

利根川水系の治水にとっても不要です。

利根川の治水計画は半世紀以上前、1947年のカスリーン台風の大洪水を想定してつくられています。しかし、この大洪水は戦時中、山の木の乱伐がもたらしたもの。今では森林の生長とともに洪水の出方がずいぶんと小さくなりました。しかも、堤防の整備が進んだため、新たにダムをつくらなくても利根川が氾濫することはありません。

「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」事務局
〒102-0093　東京都千代田区平河町1-7-1-W201
TEL 03-5211-5429　FAX 03-5211-5538
E-mail riverclub@pop17.odn.ne.jp

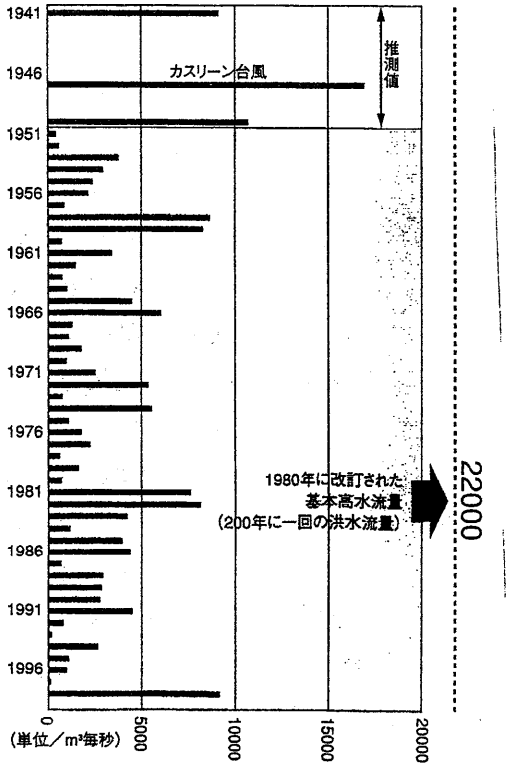
群馬県議会に「脱土建」は無縁なの??



既に破綻しています。

「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」パンフより

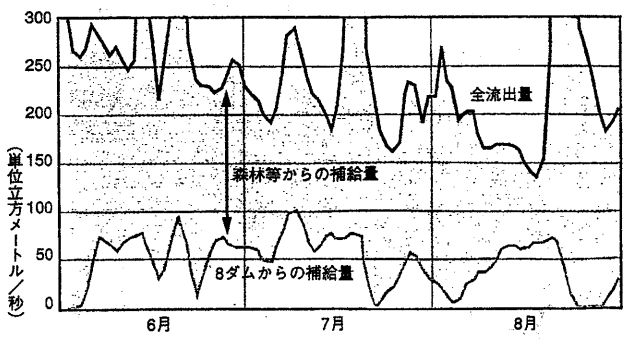
■利根川・八斗島地点の年間最大流量の観測値



渇水時におけるダムの役割は大きくありません。

渇水時には湖底があらわになったダム湖がマスコミで報道されるため、渇水への恐怖心が煽られ、もっと沢山のダム建設が必要と思うかもしれませんが、それは間違いです。渇水時の川の流れを維持しているのは主に森林であって、ダムの役割は大きくありません。ダムを建設するよりも、保水力がより大きい広葉樹林を中心とした森林の整備に力を注ぐべきです。

■利根川栗橋上流の全流出量と流域8ダムからの補給量
(1996年夏/3日移動平均値/ダム補給量は2日遅れ)



このパンフレットは、A4 3枚分の両面カラー刷りのすばらしいものです。一部200円。お申し込みは前ページへ。

笑も涙もどうしの放談

NO.1

イラク攻撃と脱ダムがつながってるって、ホントカナ？

Ⓐ ねえ、こないだ〈木枯らし紋次郎〉の講演会に行ってきたんだ。

Ⓑ え？　紋次郎ってもしかして、あの参院議員の中村敦夫のこと？

Ⓒ それじゃ、目の保養になったでしょ？

Ⓓ というより、しっかり耳の保養になったワ。

Ⓐ 紋次郎さん、今は環境をテーマに全国を講演してまわってるんだって。

Ⓑ どんな話だった？

Ⓐ 米英のイラク攻撃とダム問題が、実は根っこでつながっているということ。

Ⓒ ハァ～？

自由っていろいろあります

Ⓒ アメリカは自由のための戦争って言ってるけど…。

Ⓑ 自由は自由でも、自由の女神の自由とは違うよね。

Ⓓ ブッシュさんの『自由』は、欲望を満たすための自由でしょ。

Ⓐ そんな事のために、人殺しをしていいの？

Ⓑ テレビでネオコンの人たちの顔見てると、お砂場によくいる、自分勝手だけど気の小さいわがまま坊やを思い出すんだけど。

Ⓒ そうね。ネオコンの人たちには、他の人の痛みを想像する感受性ってものが欠けている気がするんだなあ。

Ⓓ でも、その欠けてるものが、政治家として、ていうか、人間としていちばん大切な資質じゃない？

Ⓐ 先が見えない時代だと、私たち庶民って、一見強くて頼れそう、でも実はいちばん危ないっていう、なんでも自信ありげに言い切るタイプの政治家を選びたくなっちゃうのよ。

Ⓑ 八ッ場ダムの上流にも下流にも、そういう政治家がいるわねー。

じゃあ石油争奪戦争

Ⓑ でも、なんでアメリカは、あんなにやっきになってイラクを攻撃するのかな？

Ⓐ ブッシュさんのテキサスには、あと二十年分の石油しか残っていないんだって。イラクには、まだ九十年分あるそうよ。

Ⓑ ふーん。つまり、石油争奪戦争というわけか。じゃ、アフガニスタンも、石油のためだったとか？

Ⓒ それじゃ、ビン・ラーディンとかアルカイダとか、あれもみんな石油争奪戦争のカモフラージュだったんだ…。

Ⓓ 真実は、常に単純なものですよ。

Ⓑ 石油といえば、今の文明を支えている基本的なエネルギーよね。その石油が終わったら、私たちの生活どうなるの？

Ⓐ 天然ガスや原発に使うウランだって、四十年しかもたないんだって。

Ⓓ あと十年もすれば、今の生活を支えている化石燃料がすべて値上がりして、終わりなきオイルショックの幕開けよ。

Ⓑ エ～、そんなの信じたくないよー。

Ⓒ でもさ、脱化石燃料文明っていう新しい時代への転換期ともいえるよね。

Ⓑ グローバリゼーションでアメリカの一

人勝ちみたいなこと言われてきたけど、大量生産、大量消費のアメリカ型ライフスタイルも、もうすぐおしまいね。

あれれー、「古文書」が届いたよ!

Ⓐ 中村敦夫さんが、グローバリゼーションは、産業革命以来の化石燃料文明が行き着いた、勝者なきトーナメント戦だって言ってた。

Ⓓ トーナメントに最後まで残ったのがアメリカと日本……。

Ⓒ そっかー。それで環境問題への関心が低いんだ。

Ⓑ 京都議定書の調印、日本が渋ったのも当たり前ね。

Ⓐ アメリカは、いまだに完全無視だわ。

Ⓒ だけど日本は、もうとっくにアメリカに惨敗してるわけでしょ。

Ⓓ 大型公共事業とか、ダム建設推進とか大声で叫んでるのは、いまだに高度経済成長の亡霊にとりつかれてるわけで、完璧に時代に取り残された方々よ。

Ⓐ 今回のアンケートへの自民党県議団の一括回答が、まさにそれ。

Ⓑ あれは古文書。でも、ダムが計画された五〇年前の時代の意識を知るには、とっても参考になるわ。

Ⓓ フツーの人たちの意識はどんどん進んでるのに。かえって今まで中枢にいた人たちの方が、時代の変化についていけてないみたい。

Ⓒ 私たち、この五〇年のあいだ、限りなく欲望をふくらませてきて、頑張って働いてあふれるほどのモノを手にはしたけど…。

Ⓑ でも、いくらモノがあっても、心がなぜか寂しいって気がついたのよね。

Ⓐ こりゃなんだかおかしいゾ、て思ってる人が、二、三年前じゃ考えられないくらい、まわりで増えてるし。

Ⓓ しかも、ふと気がつけば環境が破壊されて、人間のいのちまでもが崖っぷち。

Ⓒ 人間って、欲望に支配されて暴走しがちだから、哀しいな。

Ⓓ 調和とか、バランス感覚とかが、共生の二十一世紀のキーワードになりそう。

Ⓑ それに比べると、人間以外の動物のほうが、むしろいのちに忠実ね。

Ⓐ 中村敦夫さんが、人間は水と土と空気さえあれば、生きられるって言ってた。

Ⓑ いま、その水と空気がひどい汚染でしょ。私たちって、いちばん大切ないのちをけずって、簡便すぎる生活にしがみついてる。

Ⓓ 人間もいのちの大循環の中で生かされている存在なんだ、っていう肝心なことを忘れちゃいけないのね。

キューバ
スローライフ先進国

Ⓑ そういえば、いまキューバが面白いって知ってる?

Ⓓ えっ、何、それ?

Ⓒ こないだ、キューバの有機農業についての講演会があったんだ。

Ⓓ でも、なんで今ごろキューバなの?

Ⓑ 一九八九年にソ連が崩壊したでしょ。アメリカは、この時とばかりキューバへの経済封鎖を強化したの。ダブルパンチをくらったキューバは、食糧を自給しなきゃならなくなっちゃった。それまで食糧自給率が四〇%しかなかったのに。

Ⓐ でも四〇パーセントって、今の日本と同じね。

Ⓑ なにしろ、それまでは石油も農薬も化学肥料も、輸入一辺倒。

Ⓓ それじゃ、国をあげて有機農業へ向かうしか、生き残る道がなかったんだ。

Ⓐ だけどキューバっていえば、高温多湿で、有機農業やるには条件悪いはずよ。

Ⓒ ところが、案外うまくいっちゃった。

有機農法でかえって地力が回復して、農業生産性が百三十パーセントもアップ。

Ⓐ それ、ホント？

Ⓑ 科学技術や教育のレベルの高さが、有機農業への転換に役立ったそうよ。

脱ポチ的生活のススメ

Ⓓ なんだかキューバが、日本の未来を暗示しているような気がしてきた。

Ⓐ そういえば週刊誌ネタだけど、「脱ポチ的生活のススメ」っていうのがあったワ。

Ⓒ 忠犬ポチが日本の現状というわけね。日本はアメリカの〝食〟民地だもんね。

Ⓑ だけど、群馬県がキューバの有機農業についての講演会を主催したなんて、なかなかいいセンスしてる！

Ⓒ だって、日本は農産物のダイオキシン濃度が、世界のトップレベルだって。

Ⓐ 今までの農業が限界まできてるから、危機感もってるんだ、きっと。

Ⓓ でも、日本だけじゃなくて、世界中が近い将来、キューバみたいに産業構造を転換しなきゃならなくなりそう。

Ⓑ 人類は宇宙船地球号の同乗者だもん。地球環境を破壊する経済システムは、二十世紀とともにおさらばしたいよね。

八ッ場ダムから国が変わる!!

Ⓐ この頃日本でも、環境問題に対する関心がグーンと広がってきた感じ。

Ⓒ こないだも、この事務局に朝日新聞の東京本社のデスクがやってきたワ。

Ⓓ えっ？ そんなに八ッ場が注目されてるんだ。

Ⓑ 今まで、水没予定地の地元が犠牲になってことしかニュースにならなかったけど…

Ⓒ ホントは、いらないのにダムの汚い水と高額の負担金を押しつけられる下流首都圏も犠牲になるのよね。

Ⓐ 記者さんの話だと、八ッ場ダムができるデメリットを首都圏の人たちにキチンと伝えれば、すごく反響がある筈だって。

Ⓑ そっかー。八ッ場が熊本の川辺川ダム並に全国版になるんだ。

Ⓓ いちばん環境意識の進んでる首都圏の人たちが気がつけば、八ッ場ダムを止める動きが、ひょっとしてこの国まで変えられちゃう可能性もあるってことね。

Ⓒ それにさ～、川辺川の方よりずっと工事も遅れてるんだって。

Ⓑ だいたい、あのすばらしい吾妻渓谷を沈めちゃうなんて、純ちゃんも無茶苦茶。

Ⓐ 要するに、地元の人たちには、五十年の迷惑料としてキチンと補償する。そして、吾妻渓谷にコンクリートの大壁をそそり立たせない。それが目的よ。

Ⓓ 次の世代への負の遺産を、絶対これ以上残したくないよね。

（by 事務局）

キューバのことをもっと知りたい方は

『有機農業が国を変えた』 吉田太郎著 コモンズ出版社

国をあげて有機農業に転換したキューバを知れば、人類の未来が見えてくる！ モノを減らしたら豊かな世界が開けてきた。本当の豊かさって何？と著者。 冷涼な気候のヨーロッパでさえ、有機農業は難しいと言われてきた。なのに、どうして、モンスーン気候の、しかも熱帯のキューバが成功したのか…… 詳しく知りたい方は、ぜひご一読を。

次号は、『八ッ場縄文の旅』も予定しています。

水没予定地域には、群馬県内でもめずらしい縄文早期の住居跡をはじめ貴重な遺跡が数多くあります。
初夏・夏休みに訪ねていただけるよう6月発行の予定です。

そして、皆様にお願いです

- ひとりでも多くの方に会員になっていただけるよう、
- まだ小さな会ですので、資金不足に悩まされております。

"カンパしてもいいな"という方は、ぜひよろしくお願いいたします。

〈郵便振替口座番号〉
00550-2-32681
八ッ場ダムを考える会

吾妻渓谷のみなもの木の精ショウです。

2008年、ダムに沈まなかった川原湯温泉で楽しめる春の一日

●●●温泉駅を降りたら、先ず吾妻渓谷の散策●●●

山桜の枝を渡る風に迎えられて、色とりどりに芽吹いた木々の間を通い、渓流の瀬音を聞きながら歩く。

ヤマトタケルから与謝野晶子、牧山牧水まで歩いたという絶景の渓谷の道をたどり、木に触れ、草に触れ、土に触れ、体中の空気を全部入れ替える。

●●●宿に着いたら、露天風呂に●●●

一輪の山桜の花を浮べた盃で軽く一盃いただきながら

春をお腹いっぱいにつめ込んで部屋に戻ると…
火鉢のうもれ火の灰の上に、やぶ椿が一輪乗っていました。

照明を落として、椿の香に包まれて、しばし春のはの闇でひと休み。

●●●"春の自然をいただく"夕食メニュー●●●

＊次回の旅では、ダムに沈まなかった縄文遺跡をじっくり訪ねてから、夏の自然をいただくメニューとゆきましょう。

2008.川原湯 御宿香楽屋(事務局)版

地球上には、いま60数億人の人間が住んでいます。
でも、物質的な富は、ひと握りの先進国に集中しています。
私たちが当たり前のようにおくっている、アメリカ型大量生産、
大量消費の「豊かな生活」は、実は第三世界の人々の苦しみと、
地球規模のいのちの危機の上に、
かろうじて成り立っているもののようです。
もともと無理のあるこの「豊かな生活」を、
私たちがこのまま続けてゆこうとすれば、
摩擦やひずみが地球規模で起こってくるのは、
当然の成り行きといえましょう。
私たちが同乗している、宇宙船地球号の前方に、
危険が待ち構えていることを察知し、すばやく舵を切る
——それが今、求められている人間の叡智ではないでしょうか。
殺し合わず、奪い合わずに生きることが、人間の基本的な願いのはず。
食べ物と、水と土と空気があれば、人間は生きられます。
今こそ基本に立ち返って、国も、個人も、
自給的なスローライフに方向転換すべき時です。

八ッ場ダムは現在の計画では、平成20年に完成の予定です。
けれども本体工事は、まだ始まっていません。
次の時代の命のために、八ッ場ダムをストップさせましょう。

「八ッ場ダムを考える会」会員募集中
年会費／個人会員　1000円、団体会員　2000円
会員にはイベントのお知らせ、会報を郵送いたします

八ッ場ダムを考える会

やんば 八ッ場ダム

2003.7 NO.3

気がついたその時が
方向転換の時
群馬県ダム宣言

八ッ場より工事が進行している川辺川が
「平成の農民一揆」で注目を集めています。
八ッ場で一揆を起こすべきなのは
税金を払わされ、質の悪い水を供給される
私たち首都圏住民なのではないでしょうか?
総事業費 2110 億円は、1985 年（18 年前）の試算です。
でも、本体工事どころか、付帯工事も道半ばの現在、
すでに 1350 億円が使われているのです。
最終的に、総事業費が 5000 億円を優に超え、
全国一の金食いダムになることは必定です。

八ッ場ダムを考える会会報

巻頭言

孫子の代までも
巨大な負の遺産を残さない

八ッ場ダムを考える会代表　樽谷　修

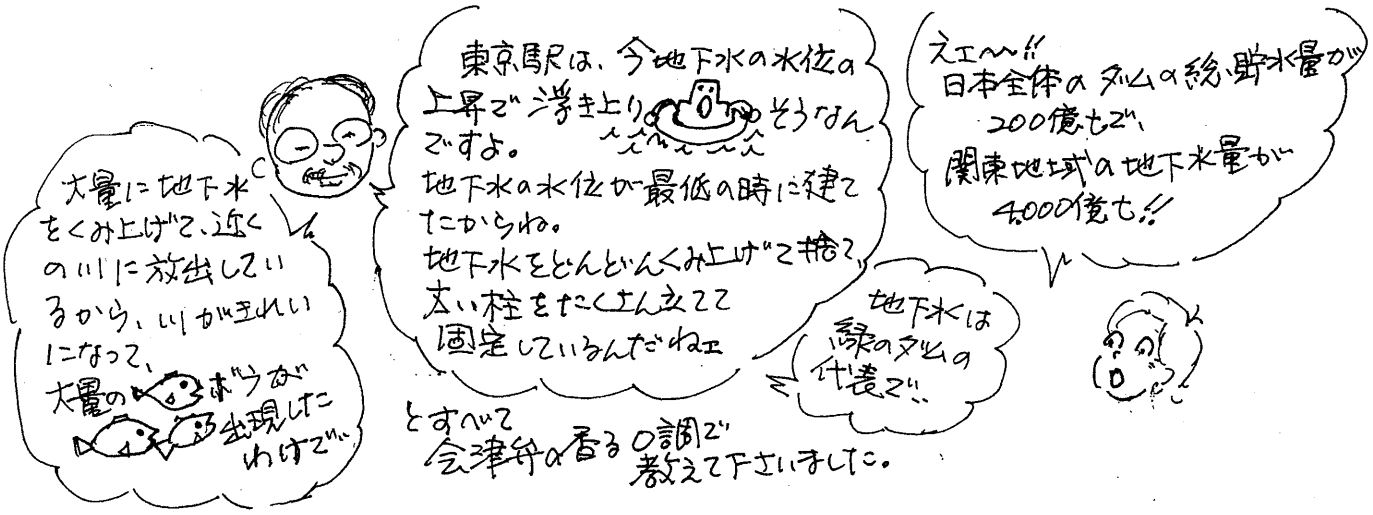
＊ **治水や利水という名目は崩れました。**
首都圏では、人口も工業用水の使用量も頭打ちです。
もう今以上に水は必要ありません。

＊ **ダムの本体工事を中止すべきです。**
水没予定地の人たちの半世紀にわたる生活破壊に対して、国は充分に補償すべきです。今まで作った道路は、生活用として整備する必要があります。新しい基準での環境アセスメントも行わないまま、JR や道路の付け替え工事が始まっています。生態系の破壊だけではなく、温泉の水源量にどのような影響を与えるか心配です。
　また水没地区には、人類の文化遺産である縄文遺跡があります。さらにこの地帯一体の軟弱な地層も気になるところです。国は、これらの問題点に関しての情報公開をしていません。

＊ **水没予定地の人たちだけの問題ではありません。**
これ以上、国民の血税をムダ使いさせないようにしましょう。今からでも遅くはありません。ダムを建てることで水質は悪化し、群馬県民、首都圏の人たちの水道料金は値上がりします。これは単に群馬だけの問題ではなく、利根川下流首都圏に影響します。私たちは大きな脱ダムネットを作りたいと思っています。

＊ **宇宙から見れば、美しいガラスのような地球、壊れやすい地球、生きている地球の自然を守るのが、私たち大人の責務です。**
気がついた時が、変える時。寿命の短いダムを、21 世紀の子どもや孫に負の遺産として残さないよう、政治家や土建官僚に頭の切り替え、発想の転換を求めます。

高崎市で、水についての講演会が開かれました。「地下水について、目からウロコの話が聞けるヨ」と「倉渕ダムを考える会」から声をかけられたわが事務局も、ウメ仕事の合間に出かけてみました。講師は、地質環境研究の第一人者、楡井（にれい）久さん。茨城大学広域水圏環境科学教育研究センターの教授です。前評判どおり、とっても面白かったので、皆さんに講演のポイントだけお伝えします。



地質環境は命のバロメーター

水資源を科学する

・地盤沈下と駅の浮上、そのどちらも防ぐために、地下水の適正揚水量を科学的に求めることが可能。

・安全な地下水を確保するため、地質汚染を完全浄化する技術も確立されている。
市民が科学的な視点を持ち、責任をもって社会のありかたを選択するために、行政に環境に関する完全な情報公開を求める。地質環境を保全する中小の環境ベンチャー・ビジネスを地域で育成していくことも、かけがえのない水資源を守るために有効。

地下水は日本列島のかけがえのない環境資源

首都圏の地質環境中には、六価クロムなどの重金属類、有機溶剤さらにはダイオキシン、放射性物質などが広く伏在している。

地質汚染が心配だから、飲み水は地下水より河川水をという動きがある。だが、汚染された地下水は湧き水として地表に流出し、汚染された地下空気は大気をも汚染する。私たちは汚れた大地の上では生きていかれない。

今は…

地下水を使わない —と→ 地質汚染を放置してしまう —すると→ いのちの危機

これからは…

地下水を飲み水として使う —ために→ 地質汚染を除去 → 健全な水循環の再生

—それは→ 21世紀の豊かな環境の創造

科学者の

八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会

ついに発足!!

6月8日、旧浦和市役所前の喫茶店「土瑠茶（どるちゃ）」の2階に、オーナー夫人の中平順子さんの呼びかけで、12人が初めて集まりました。
20年以上水問題を研究し、ダム反対を訴えてきた嶋津暉之さん（なんと埼玉県在住でした）から、八ッ場ダムについて説明を受け・・・

えエ〜!! 水が足りてるって、寝耳に水、目からうろこがぽろりですヨ。
県議会では、"水は足りないんだ"という大前提で、水対策を議論してきたんだもの。ず〜っと。
前県議・現さいたま市議・岡さん

知らないということは、う〜ん改めて、大変なことなんだと思いましたね。
水位の下がったダムの映像に、
ああ、水が足りないんだって・・・
80才の現役作家・石田甚太郎さん

八ッ場ダムなんて、今まで聞いたこともなかったですよ。
私たちの足もとに、こんなダム問題があったなんて・・・。
じゃあ、埼玉県の私たちの税金ももう使われているんですよね!?
さいたま市ネットワークの藤水さん

じゃあ、私たちとしては、どうしたらいいのか、
何ができるかっていうことでしょ。
- もっとよく知る
- みんなに知らせる。
- 議会で質問する
- 監査請求をする
- それから・・・

ともかく、できることをしよう。
さいたま市議・添野さん

八ッ場ダムが止まれば、それは、まさに大きな時代の転換点になりますよね。明治維新を越えるような。
朝日新聞市社記者・Tさん

「八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会」が発足したとたんに、長野の田中知事の唱えた知事任期3期説に猛反対した、土屋埼玉県知事の辞職という事態が起きました。脱ダム知事の誕生が待たれますね。

八ッ場ダムをストップさせる埼玉学習会

— 嶋津暉之さんを囲んで —

日時：　9月20日(土)　13：30〜

会場：　北浦和駅から徒歩2〜3分
クイーンズ伊勢丹3階
カルタスホール第3会議室

問い合わせ先：
TEL 048-861-1755　土瑠茶
TEL 048-825-3291
生活者ネットワークさいたま市

水はあまっている！

日本の人口のピークは2006年

最近の脱ダムのうねりを見ていると、隔世の感がありますね。八ッ場の地元の人に『ダム反対なんて、なにを今さら。都会の人たちのために犠牲を払えと言われ続けてきたのに』と言われると、本当に胸が痛くなります。でも、要らないものは、やっぱり要らないんです

我らがダム問題のプロ嶋津暉之さんを紹介します。
「首都圏の水問題を考える市民と議員の会」、
「水源開発問題全国連絡会」の中心にあって、
全国の」水源開発問題の技術的な解析を行っている。
東京都環境科学研究所主任研究員。
著書「水問題原論」（北斗出版）ほか。

減り続ける水需要

ダム建設の最大の理由は、増加する都市用水の需要をみたすことにあった。首都圏は人口集中などで水の需要が増加し続けるから、ダム建設を進めないと大変な水飢饉がやってくると言われた。確かに高度経済成長時代は水道用水、工業用水とも急速に増加した。だが都市用水が増え続けたのはバブル経済がはじける1990年頃まで。東京都の水道用水にいたっては、1971年頃から横ばいが続き、最近10年間は漸減の傾向にある。

首都圏の人口も減っていく

日本の総人口は2006年にピークを迎える。首都圏の人口も2010年にはほぼ頭打ちとなり、2015年以降は次第に減少していく（国立社会保障・人口問題研究所の最新の推計）。したがって、首都圏の水道用水がやがて漸減傾向に向かうことは必至である。

一方、工業用水についても、今後、減ることはあっても増えることはない。背景には、水を大量に消費する重厚長大型産業から、水をあまり使わない軽薄短小型産業へという産業構造の変化がある。

また、農業用水に関しても、水田面積が大幅に減少して、水田用水の必要量は小さくなってきている。

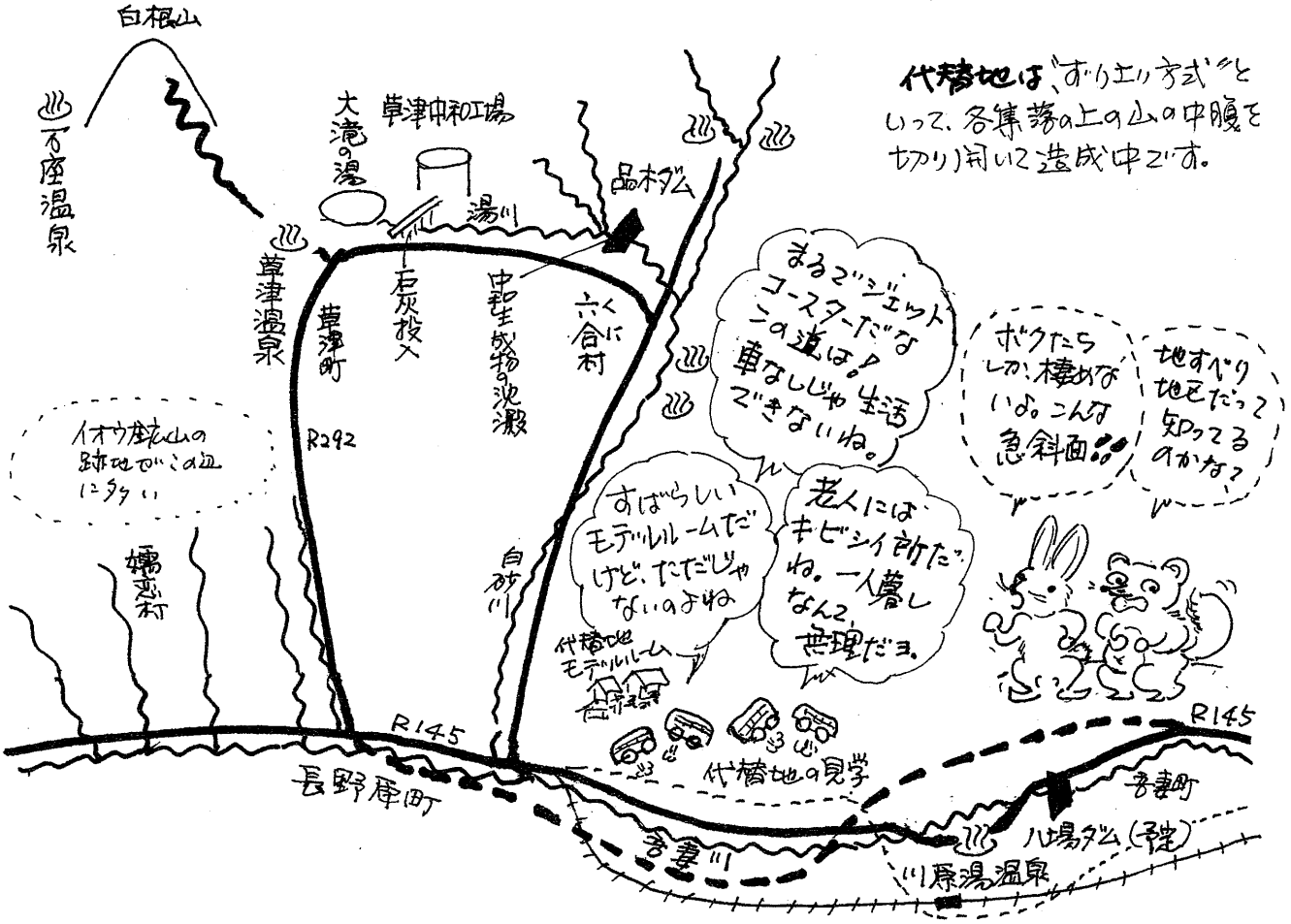
ダムを造ればさらに水があまる

このように、首都圏においても利水面であらたなダム建設の必要性は失われた。それにもかかわらず、利根川水系では多くの水源開発事業が計画され、工事が進められている。その代表的な事業が八ッ場ダムである。

研究者の

東京水道労働組合の皆さんの八ッ場ダム現地見学会

6月14日（約100名がマイクロバス4台で）K事務局3名同行しました



水を使うためには、中和するしか

吾妻川は、白根火山・温泉水・硫黄鉱山跡地などが原因の強酸性河川。　一日５０～６０トンの石灰を投入して中和し、発電や、下流のさまざまな生活用水に利用しています。

ところが、中和生成物（有害重金属類も含む）の沈殿池の品木ダムは、堆積物除去作業を続けていても、もう埋まりそう。もし八ッ場ダムが作られれば、沈殿地代わりになり、ダムの寿命は長くないと指摘されています。

道路・JR関係のダムに伴う付帯工事として、

- R145の付替ルート
- JR吾妻線の付替ルート　現在吾妻線は、ほぼR145に添っています
- 県道林の付替ルート

川原湯温泉で、夜の交流会

地元の住民・　補償交渉が終わったとたんに、国交省は　手のひらを返したようにいいかげんに、　不誠実になったんですよ。約束の代替地がいつになってもできない。保証金を手にした人は、櫛の歯が欠けるように集落から、他に引っ越しはじめています…。

嶋津さん・　ダム建設を中止させるための公共事業調査法の制定と、ダム計画中止後の生活再健支援法の制定が早急に必要なんですよ。

地元の人は、だれだって、できることなら、ダムは造りたくないと

水道のプロ集団だからわかる 水道行政の裏がわ

ー東京水道労働組合の水源地調査見学会資料よりー

1. 八ッ場ダムと多摩の地下水とのつながり

東京西部は良質の地下水に恵まれた地域。現在でも、多摩地区全体の給水量のうち、約3割が地下水を利用している。

地下水の汲み上げを制限した80年代以降、地盤沈下はおさまり、その後、井戸本数は一定量を保っている。阪神大震災や渇水を契機に、地下水は「身近で河川水より水質の良い自己水源」として見直されるようになった。

しかし、東京都は地下水を正規の水源とみなしていない。いまだに地下水に代わる新たな水源として八ッ場ダムに水利権を求めている。自らの水源を保全し、使い続けることを都が正式に決定すれば、八ッ場ダム建設は頓挫する。

地下水はいったん汚染されると処理に手がかかる。だが、地下水を水源として使うことをやめてしまえば、地下水をきれいに保つ必要もなくなる。地下水の汚染は放置され、知らぬ間にとりかえしのつかない事態になるだろう。

2. 水資源が市場原理にさらされる時

水資源を石油や鉄鉱石のような鉱物資源とみなす考え方が、世界規模で広がっている。私企業が「名水」の「採掘権」を独占的に買い取り、瓶詰めして世界中で高く売りさばいている。規制がなければ水源地の環境は大きく傷つけられる。

世界的な規模での水資源の不足に目をつければ、日本国内でダム開発を促進し、豊富な水資源を海外で売りさばくということはありえる。

3. 水道に求められる本来の公共性

ペットボトルメーカーは、安全な飲み水をユーザーに一定量提供すれば事足りる。水道・下水道事業の社会的責任は、水源地や河川の環境、それを取り巻く地域社会のあり方に及ぶ。現在、水道事業への民営化の圧力が強まっているが、利用者にとってそれは本当に望ましいことなのだろうか。

八ツ場ダムの工事に伴う遺跡の発掘で、水没予定地の吾妻川両岸には、縄文時代の遺跡を多数含んだ、十数か所もの遺跡が発見されています。
8000年以上前から、縄文の人々は、八ッ場の豊かな自然の中で、狩猟採集を中心とした自然の循環にすっぽりはまっ　た生活をしていました。
その生活の跡に立ったとき、私たちの耳に、なにが聞こえてくるのでしょうか。

エコツアー 八ツ場縄文遺跡を歩く

日時：　8月19日（火）
9時45分集合　10時出発

集合場所：　川原湯温泉駅

参加費　(資料代弁当代を含む)：
大人　1000円
子供(幼稚園～小学生)　900円

申し込み・問合せ先：
八ッ場ダムを考える会
[redacted]

8月12日までにお申し込みを
＊特急草津1号　万座鹿沢口行
川原湯温泉駅着　9：41
(新前橋発　8：52)

<お昼は、縄文弁当を用意します。>
★人類の発生とともにあったという雑穀、(餅キビ、黒米など)を混ぜた雑穀強飯おむすび。それに夏野菜、木の実、草の実、豆なども使ったおかずです。
★もちろん持込み自由、お好きなものを食べられるだけお持ち下さい。

八ッ場の縄文遺跡を代表する

配石遺構は縄文人の祈りの場

長野原町は、縄文時代遺跡の宝庫です。遠く縄文人たちは、見事な自然に包まれた吾妻川沿いの台地にムラを営み、豊かな木の実や木の芽、さらには鹿、猪などの動物を狩って生活の糧としていました。こうした人々の生活の跡が次々と発掘調査によって発見されています。

生活の場の中心となる竪穴住居跡、獣を捕るための落とし穴、食糧を蓄えるために掘った貯蔵穴、そしてお墓やお祭りの場所として考えられている配石遺構がみつかっています。

長野原一本松遺跡では、配石遺構の下やまわりから、墓穴や住居跡そして多数の柱穴がみつかっています。これらの遺構は、配石遺構をつくった縄文人たちの生活の跡でもあるのです。いうなれば、普段の生活と「祈り」の生活が一本化した様子が見事に現れた遺跡が長野原一本松遺跡なのです。

横壁中村遺跡は、壮大な「縄文の祈り」を語りかける遺跡です。「祈り」の場と「住まい」の場がどのように関係するのか・・・。身が引き締まる思いです。

（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の会報より）

当日は、八ッ場発掘調査事務所の方に、案内していただける予定です。

縄文遺跡を見学したら
ダムの付帯工事現場も見てみよう

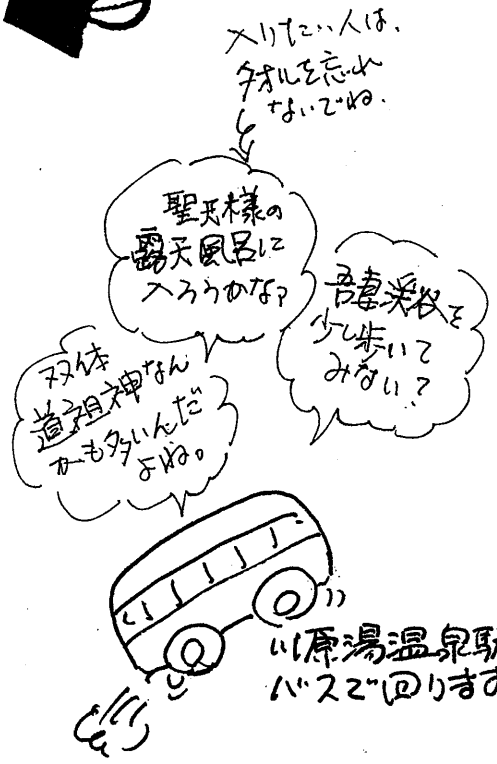
見学おおむね計画

10：00～12：30	長野原一本松遺跡 横壁中村遺跡
12：30～13：10	昼食
13：10～15：00	工事現場等の見学
15：10	川原湯温泉駅で一応解散

時間に余裕のある方は温泉・散策をお勧めします

＊ 特急草津６号	上野行	川原湯温泉駅発	15：19
普通	高崎行		16：08
特急草津８号	上野行	川原湯温泉駅発	16：38

＊ 宿泊希望の方には宿を紹介します



主催　　八ッ場ダムを考える会

◆今が正念場 ◆倉渕ダム問題◆

群馬県の玄関口、高崎市。かつて中山道の宿場町として栄えた街は、現在、上越、長野両新幹線の分岐点です。その高崎市がダム問題を争点に揺れています。

市内を流れる烏川上流、長野県との県境に、県は倉渕ダム建設を計画しています。計画地周辺は、ダム建設地の例に漏れず、自然の宝庫であり、食物連鎖の頂点にあるイヌワシの営巣地とされています。県の委託で現場周辺のイヌワシ調査を行っている「日本野鳥の会」県支部は、去る6月20日、小寺知事に3年間の工事休止を求める要望書を提出。県は、一ヶ月前の5月20日に再開したばかりの工事の休止を余儀なくされました。

県河川課は、「委員会を開催して今後の方針を決定する」としていますが、脱ダムの世論が高まる中、同課に対する風当たりは厳しくなる一方です。

高崎市長選では、現職の松浦氏が当選したものの、脱ダム新人候補2氏が善戦。合計得票数が松浦氏を上回りました。選挙後、松浦市長は「県の計画に乗せられただけ」と言い、県は「高崎市が水を必要としているから」と言う。互いに責任を転嫁しあっているばかりで、未だに市民に納得のいく説明はありません。7月の県知事選でも、現職の小寺知事が四選を果たしたものの、選挙期間中も選挙後も、倉渕ダムについては何一つ具体的な発言をしていません。

今、高崎では、倉渕ダムをめぐって市民たちが、前時代的な“お上まかせ”ではない、成熟した行政との関係を模索しています。「高崎の水を考える会」の角田さんに、市民の倉渕ダムへの取組みを報告してもらいました。

「高崎の水を考える会」　この会は「八ッ場ダムを考える会」の運動が先駆けとなって、二年前に発足しました。その後、住民の自主組織が次々に立ち上がりました。運動の広がりによって、県は本体工事を着工できなくなっています。

県議会では　県営ダムについては、3年前の県議会で知事が「再チェック」を約束。その結果、雄川堰ダム（甘楽町）を中止、増田川ダム（松井田町）は規模縮小。ところが倉渕ダムは、規模はそのままで、事業費を245億円から400億円に増大したのです。

県に資料の公開を求める　「高崎の水を考える会」（以下「会」）が県に資料公開を求めたところ、慌てた県は、初めに出した資料を別の資料に差し替え。しかしこのことによって、用地買収費を実態の20倍に過大評価し、事業費を水増ししていたこと、洪水被害地域も実際よりはるかに広く見積もっていたことが明らかになったのです。「会」は、県職員を公文書偽造、私文書変造、同行使容疑で告訴。いったん不起訴となりましたが、前橋検察審査会は4月18日、「不起訴不当」の議決。現在、前橋地検の処分が注目されています。

専門家集団もダムに NO　「会」では、国土問題研究会（京都）に調査を依頼。他方、別の市民団体は、宇沢弘文東大名誉教授ら専門家による「倉渕ダム再評価委員会」を立ち上げました。どちらの調査結果も、たとえ100年に一度の洪水があったとしても、治水は河川改修で対処できる、利水についても、良質の地下水を切り捨ててダムによる新たな水源の確保をする必要性は全くないとしています。

市民が賢くなるために　様々な情報が飛び交い、科学技術が急速に進歩している現代、何が本当なのかを知り、社会が進む道を誤りなく選択するのは、容易な事ではではありません。高崎の脱ダム運動は、今、正念場を迎えています。ダム問題を単に行政の責任にするのではなく、私たち市民一人一人が学びを深め、人と人とがつながり合い、賢くなることを求められているのだと痛感しています。（角田　凡夫）

読者のページ

会報ありがとうございました。さっそく会員になります。あんな美しい渓谷がダムで埋まってしまうなんて、許せませんね！小平市も受水予定者なら、「見直しを求める意見書」提出を市議会に働きかけることもできるのですね。ばからしい土建政治は何としても止めさせましょう。自然を無残なまでに破壊するダムは、特に！

（小平市・深澤）

子ども達の将来のため、自然保護のため八ッ場ダム不要の声を拡げてください。

（長野原町・匿名）

いま、多くの人が水を買う時代になってしまいました。私もその一人ですが、お料理に使う水まではとても賄いきれません。より安全な水を誰しもが求めていると思いますし、関心は高い筈です。八ッ場ダムの事実を一般の人々に知らせる事がとても大事です（私はこの会の活動を聞くまで、知りませんでした）。一通りではなく色々な手立てを考えるとよいと思います。特に関係する全家庭に情報が発信できればよいですね。

（世田谷区・ヨ）

一号の八ッ場ダムの歴史はよくまとまっていてわかり易かったと思います。下流域の若い人たちの関心がどの程度高められるかが勝負だと思います。（大田区・山本）

本体工事はまだのようですが、吾妻線の付け替え工事が始まったように聞きました。早く手を打たないと……気になります。

（葛飾区・長澤）

先日、子供と利根川の支流、湯檜曽（ゆびそ）川で遊んでいて、オオルリをみかけました。久しぶりに感動する光景でした。地元、水上町はこの川沿いにロープウエイ建設を計画しています。上信越国立公園のブナ原生林を伐採して、谷川岳の万年雪が積もる一ノ倉沢へ観光客を誘致しようというものです。バブル崩壊による水上温泉の観光客減少をくい止める策として期待されているようですが、八ッ場ダム計画と同様、愚かしい自然破壊がこの不況下でさらに各地で進行しているようです。環境問題に関心の高い読者の皆さんに、ぜひ反対の声をあげていただきたくてお知らせします。

（前橋市・風野）

「長崎男児殺害事件」は、人間の欲望の闇を
私たちの目の前に引きずり出すようなニュースでした。
こんな恐ろしい事件に出会うと、中学生の親も、幼児の親も、
子供をどうやって育てたらよいのか、わからなくなってしまいます。
社会の重圧という手カセ足カセがなくなり、自由が無限に与えられた今、
昔と違って子育ては、
人間というものが、そもそもどういう生き物なのか
という基本に立ち返って考えてみることを
私たちに要求しているのかもしれません。
男の子は、何も教えなくとも、どこからか棒切れを捜してきて振り回します。
人間が本能のうちにかかえている
攻撃性や限りない欲望、不安定感に向き合う時、
個々の人間が、そして社会全体が
困難であろうとも、それらをうまくコントロールする術を身につける事が
自由になったからこそ課せられた現代人への課題なのだと思います。

八ッ場ダムは、現在の計画では平成20年に完成の予定です。
けれども本体工事はまだ始まっていません。
次の時代の命のために、八ッ場ダムをストップさせましょう。

少しでも多くの方に、八ッ場ダムのことを知っていただくために、
皆さまの貴重な会費で作ったこの会報を、周りの方に回して下さい。
小さな願いが集まることによって、思いがけない大きな変化が生まれます。

「八ッ場ダムを考える会」会員募集中
年会費／個人会員　1000円、団体会員　2000円
会員にはイベントのお知らせ、会報を郵送いたします。
“カンパしてもいいな”という方は、ぜひ下記に。
〈郵便振替口座番号〉00550-2-32681

吾妻渓谷

八ッ場ダム

2003.9 NO.4

森林は、都市のいのちを守っている

群馬県ダム宣言

約８０年前、吾妻渓谷を訪れた若山牧水は、
詩人の直感を次のような一文に残しています。

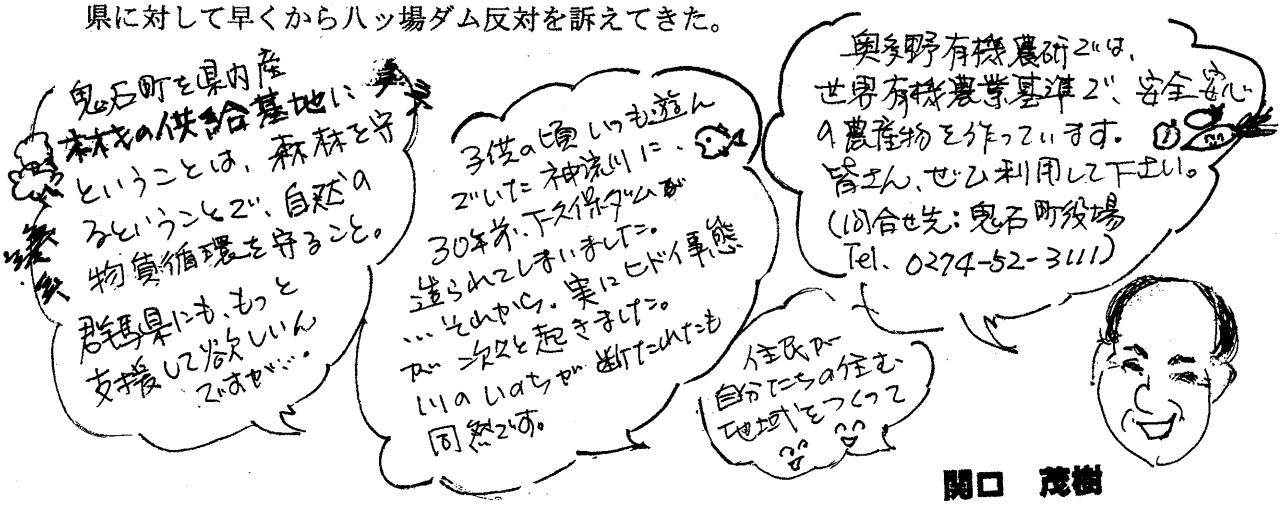
**「私はどうかこの渓間がいつまでも、この寂しみと深みとをたたえて
永久に茂っていてくれることを心から祈るものである。
ほんとうに土地の有志家といわず、群馬県の当局者といわず、
どうか私と同じ心で、このそう大でもない森林のために、
永久の愛護者となってほしいものである。
もしこの流れを挟んだ森林が無くなるようなことでもあれば、
諸君が自慢しているこの渓谷は、水が枯れたよりは
悲惨なものになるに決まっている。**
（『川原湯から草津を経て渋峠へ』より）

八ッ場ダムを考える会

群馬県の脱ダムの火付け人にして、緑の守人より。

会長へのメッセージ

関口茂樹さんプロフィール／群馬県多野郡鬼石（おにし）町町長。ダム所在市町村全国協議会会長。町内にかかえる下久保ダムによって、ダム下流の三波石峡が見る影もない無残な川になってしまったことから、「八ッ場ダムができれば吾妻渓谷も三波石峡の二の舞になる」と、国、県に対して早くから八ッ場ダム反対を訴えてきた。



関口　茂樹

台風10号が日本列島を縦断した8月9日、利根川支流烏川に計画されている県営倉渕ダム建設の是非をめぐって、県と市民団体の初の公開討論会が高崎市で開かれました。

双方がテーブルについてダム問題を論じるのは初めてとあって、住民の関心は高く、400人ほどが3時間半にわたる熱い議論に聞き入りました。

市民団体側が「県が想定する洪水流量は過大。烏川は堤防だけで治水が可能ではないか。安全なほどいいというだけでは決められない時代になった。財産や環境なども考慮して総合的に判断するべきだ」と指摘。県側は「洪水によって起こり得ることをすべて防ぐ事が基本的な考え方だ」と安全性を強調して譲らず、議論は平行線のままでした。

ダムは洪水から私達の生命、財産を守り、田畑を潤し、工業用水、水道用水を供給するなど、治水や利水に大きな役割を果たしています。従って治水も利水も安全であるにこした事はありませんが、ダム建設はそれと引き換えに大きな犠牲を生み出します。生活破壊、地域の崩壊、そして取り返しのつかない大規模な自然破壊などで、そのことを下久保ダムが私達に教えてくれます。

公開討論会で大熊孝教授（新潟大学工学部）が「川は地球における物質循環の重要な担い手であると共に、人間にとって身近な自然で、恵みと災害という矛盾の中に、ゆっくりと時間をかけて地域文化を育んできた存在。一方、ダムは副作用の多い劇薬だ。出来れば使わない方がいい。ダム建設は慎重に考えるべきだ」と発言すると、一瞬会場は静まりかえり、そして大きな拍手が湧き起こりました。

治水問題は数理や物理が支配する河川工学の世界から、さらに生物学や生態学そして哲学も加わって、私達が生かされる地球環境はどうあるべきか、子孫にどういう環境で生活させたいかという価値判断なくしては語れない問題になってきたと思います。

安易にダムは造るべきではありません。私達の生命、財産を守る為に、ダム以外に方法がないと心底思えるかどうか。胸に手を当て、今一度考えてみようではありませんか。

9月6日、川原湯温泉に於いて、全国自然保護連合の総会が行われました。八ッ場ダムの実態をぜひ他の仲間達にも見て欲しいと、千葉県自然保護連合の中山敏則さんらの呼びかけで実現したもの。その後開かれた下流の市民と地元住民の交流会は、互いの理解を深め合う、かつてない充実したものとなりました。
全国自然保護連合では、「八ッ場ダム事業の中止を求める決議」を採択しました。

全国自然保護連合も八ッ場にNO！

〈地元からの声〉

代替地の建設が遅く、住民は櫛の歯が抜けたように出て行く。国は『犠牲者の出ない現地再建方式』(ダム湖の周辺に新しい街を作り、村落ごとにまとまって代替地に移住）と言ってきたが、あれは夢物語だったのか

林地区では水没する 20 軒全てが移転した為、代替地が必要なくなってしまった

国のやり方に異を唱える地権者に対して、補償額で差をつけるなどの嫌がらせで住民に揺さぶりをかけてくる。かつてと何も変わらない

沢をそっくりつぶして工事用の立派な舗装道路を造ったり、防災ダムを造ったり…。そのため畑に清水が来なくなり、ワサビが作れなくなって国交省に抗議しても、『清水は自然に止る事がある』というふざけた返事しか返ってこない

〈下流市民の声〉

美しい自然に接し、八ッ場ダム反対の意をいっそう強くした。ヒトをはじめとするいのちを大切にしたい。ダムができてしまえば過疎化はさらに進み、ダムと一体となって整備されたインフラも無用の長物となってしまう。地域の活性化のための投資をさせていくことが大切。ダム建設と一体となった地域の活性化はありえない。今後も地元の方々と意思疎通をした上で、私達も国交省と話し合う場を設定し、都市住民として八ッ場ダム反対の意思表示をしたい。（日本消費者連盟代表運営委員：富山洋子）

ダムは絶対できないと思う。国交省は八ッ場ダムの関連事業で、皆の汗の結晶である税金を湯水のごとく使っている。それでもダムができないであの渓谷が残ればよいとしなければならない。まったく情けない話（千葉県自然保護連合代表：牛野くみ子）

夜の交流会では、二十数名、大いに盛り上りました。

地元で新たな動きが

長年のダム反対闘争に疲れ果てた地元では 2001 年、住民と国交省の間でダム建設を前提として補償基準が妥結。しかしその後国交省の誠意に疑問があるとして、水没４地区の有志が「国土交通省に約束を守らせる会」を結成。去る３月３日には「八ッ場ダム対策研究会」が、約束をキチンと守って欲しいと国土交通省八ッ場ダム工事事務所長宛てで請願書を提出しました。ところが半年経った９月現在になっても、返答はありません。地元では国に対する不信感がさらに拡がっています。

八ッ場の縄文遺跡を代表する

配石遺構は縄文人の祈りの場

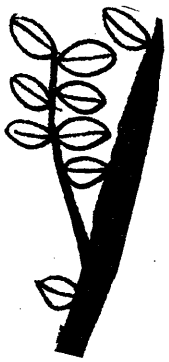
長野原町は、縄文時代遺跡の宝庫です。遠く縄文人たちは、見事な自然に包まれた吾妻川沿いの台地にムラを営み、豊かな木の実や木の芽、さらには鹿、猪などの動物を狩って生活の糧としていました。こうした人々の生活の跡が次々と発掘調査によって発見されています。

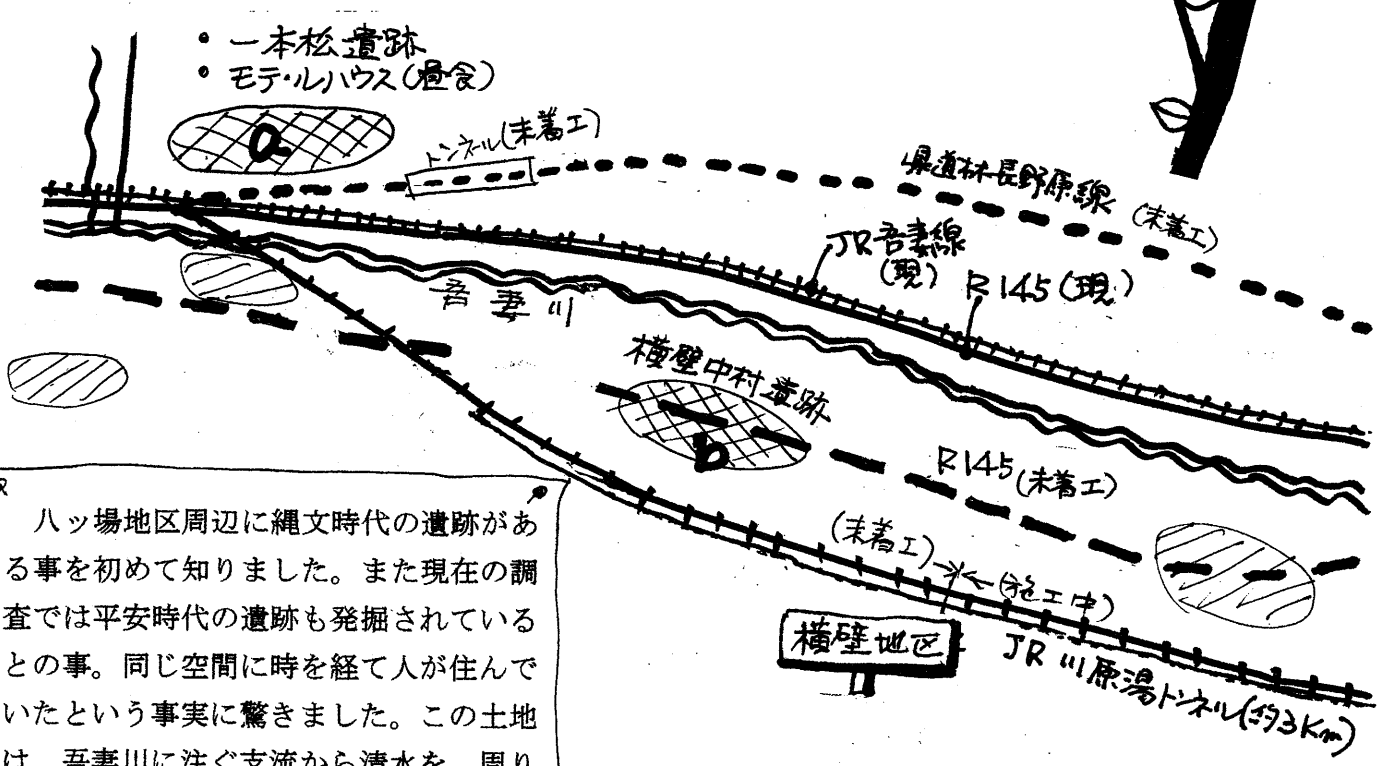
長野原一本松遺跡では、配石遺構の下やまわりから、墓穴や住居跡そして多数の柱穴がみつかっています。これらの遺構は、配石遺構をつくった縄文人たちの生活の跡でもあるのです。いうなれば、普段の生活と「祈り」の生活が一本化した様子が見事に現れた遺跡が長野原一本松遺跡なのです。

横壁中村遺跡は、壮大な「縄文の祈り」を語りかける遺跡です。「祈り」の場と「住まい」の場がどのように関係するのか・・・。身が引き締まる思いです。

（財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の会報より）

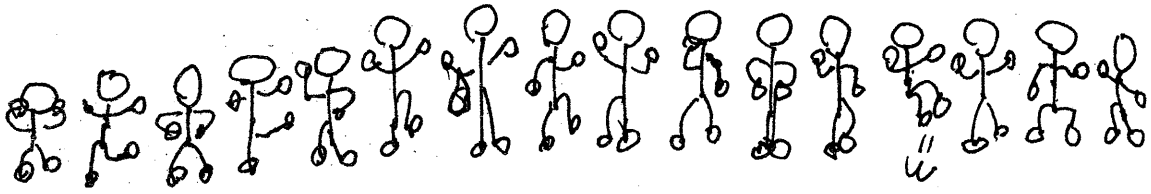
八ッ場発掘調査事務所の方の案内で遺跡見学をしました





八ッ場地区周辺に縄文時代の遺跡がある事を初めて知りました。また現在の調査では平安時代の遺跡も発掘されているとの事。同じ空間に時を経て人が住んでいたという事実に驚きました。この土地は、吾妻川に注ぐ支流から清水を、周りの豊かな森から木の実などの食糧を確保する事が出来、昔から自然が豊かで、人と自然が共生していた土地柄であった事を窺い知る事ができ、遺跡見学は大変刺激になりました。発掘調査のすぐ隣ではダム工事が進められていましたが、何だか奇妙な光景に映りました。

（八王子市・柳沢・大学生）



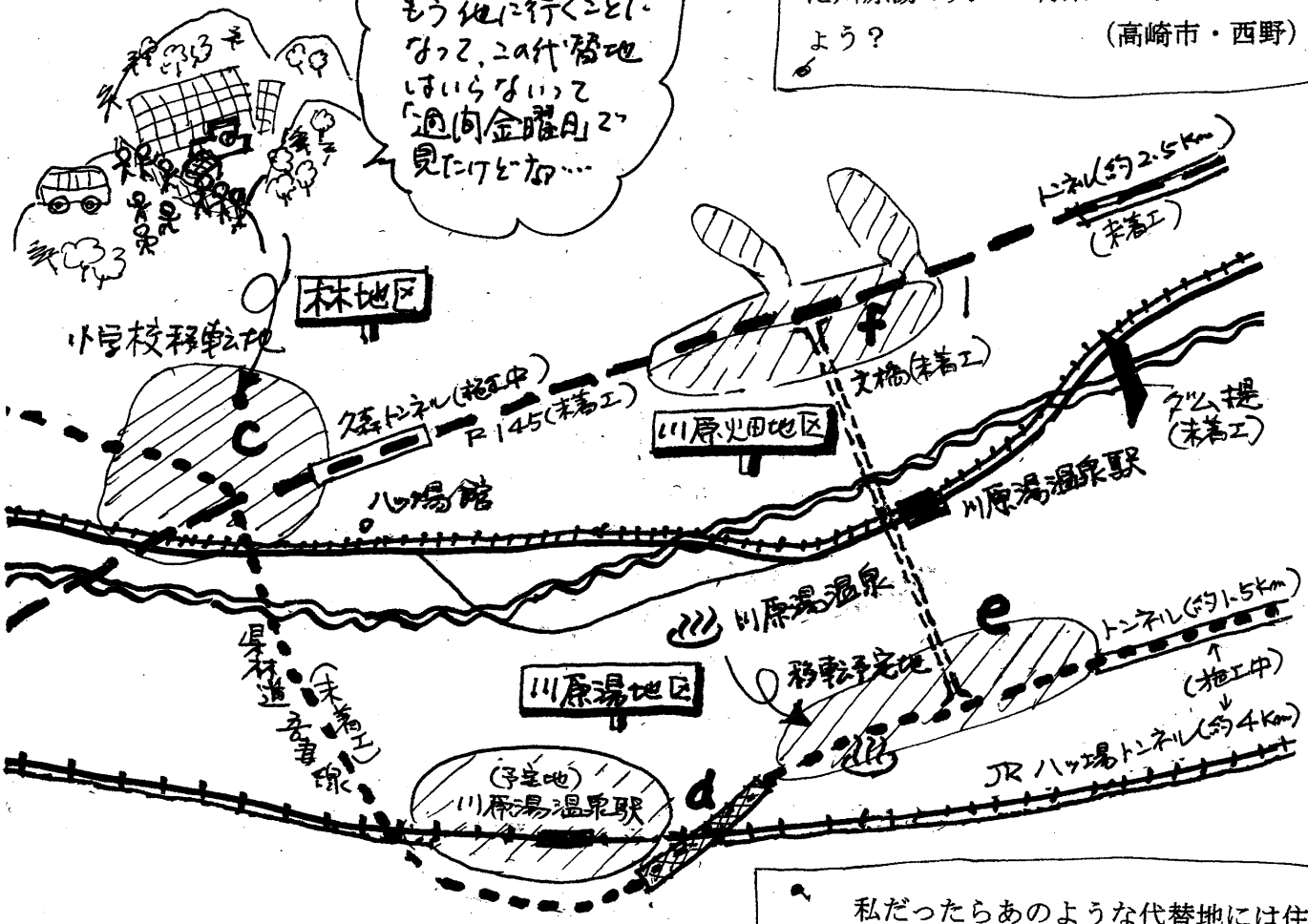
午後の部

八ッ場工事事務所の方の案内で、付帯工事現場を見学しました。

わ～!! 小学校が一すり鉢の底にあるぞ～

大丈夫、この前の山は全部くずして平らにしますから

林地区の移転予定だった20戸はもう他に行くことになって、この代替地はいらないって「週刊金曜日」で見たけどな…



川原湯温泉は土木工事のテンコ盛りでした。トンネルあり、鉄道あり、宅地あり、わざわざ崩れそうな所を選んで削っている…これなら巨大砂防として八ッ場ダムが必要という主張も頷けます。だがこの国交省の泥こね遊びの為に国民の借金がまた増えると思うと、目の前が真っ暗になります。それにしても郷土を公共工事のテーマパークに変えられてしまった川原湯の人々の将来はどうなるのでしょう？ （高崎市・西野）

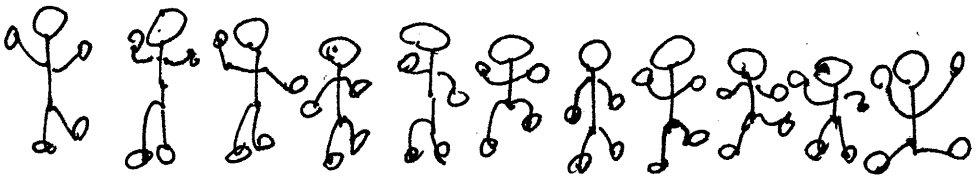
遺跡を歩く

ボクたちの棲みかなんでよな？

私だったらあのような代替地には住みたくない—どうしても住めと言うのなら、国交省のお偉い方に1年住んでもらって、安全が確認されてからにします。トンネルの内部は、数年前の小樽のトンネル事故を思い出して怖かったです。

ダムにしろ遺跡にしろ、国土交通省は過去の事には興味が無いのか…遺跡を潰

（次ページに続く）



（前ページから続く）

してでもダムを造りたいのかと残念でなりません。現地が何も言えない以上、周囲に訴えるしかありません。議員や権力者だけでなく、一般庶民にもターミナル駅でチラシを配るなどして訴えるべきです。私のような若い世代はダムの事など全く知りません。

ツアー終了後、川原湯温泉「王湯」で参加者の方と会い、ダムについて色々と話しました。普段接触のない年代の方と話せてよかったです。

（安中市・北澤・高校生）

ダムにかけるお金を国民に配ればいい

縄文遺跡はイノシシの落とし穴とか見られて面白かったです。でも「コンクリートの壁」を造っている作業がうるさくて、説明が聞き取れないところもありました。国土交通省の人の説明は、なんであんな事をするのかなと思いました。今にも土砂崩れが起きそうで怖かったです。あのダムにかけるお金を国民に配ればいいと思います。（前橋市・渡辺・中学生）

地元の人々の参画を促すべき

周辺工事の段階でかくも大規模な自然破壊が進んでいることに、ただただ驚いています。いずれにしても日本（地球）の状況は、自然と共生する以前に自然の回復を必要するところまで追い込まれていると思います。照葉樹による山林整備、田園の蘇生を進め、国土の保水力を高めることで治山治水、そして利水を図らねばなりません。それが日本の進むべき道でもあります。

ダムに沈む川原湯周辺の人々の心情は、「ダムは反対だが、中止になれば保証金が入らないので反対できない」と聞き及んでいます。周辺の整備回復の費用を含めても数百億円…ダムの本体工事にくらべれば遥かに少ない出費で済みます。こうした補償をも念頭におき、地元の人々の参画を促すべきです。今後の運動は下流域の埼玉、東京、千葉、茨城へ拡大していくにしても、地元が加わらない運動は求心力が働かないと思います。

（北軽井沢・神原）

八ッ場縄文遺跡を歩く（8/19）

参加アンケート感想（要約）

ダム工事に感じた人間の思い上がり

遺跡は担当職員も慣れた説明でわかり易かった。開発がなければ眠り続けるであろう遺跡群、これもよし。日の当たることで歴史のページがより豊かになる、これもまたよしということか。全てを保存する事は不可能だ。

現在の多様な自然は、自然の営みの長い年月の結果としてある。ダム工事には、この多様さを単純化して自然改造できるとする人間の思い上がりを感じる。「夢のある新しい街づくりプラン」には、行政のしたたかさを改めて認識させられた思いがする。（桐生・中島）

多くの人が工事現場を見たら意識が変わる

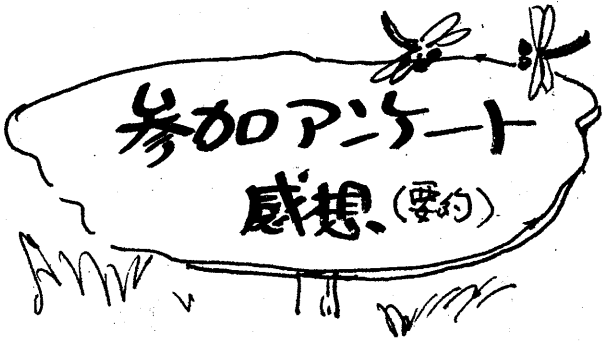
都市で生活している個々人の利便性の追及が、結果として大規模公共工事につながっている―ここまでして人は生きる必要があるのかと、巨大な建設機器を、そして開発現場を見て思いました。多くの方が現場に足を運ばれれば、少しずつでも意識が変わると思います。

（武蔵野市・植田）

ダム工事の当事者は下流の市民

団地造成やトンネル工事を目の当たりにし、生々しい思いがいたしました。まさに自然破壊です。あのような代替地に住みたい人がいるでしょうか？　八ッ場ダムの必要性に疑問があること、当事者は下流の市民であることを、もっともっと一般の方々にPRする必要を感じます。ダムを要らないと言った田中長野県知事の事例などを、皆で学びたいと思います。

（桐生市・中島）



エコツアーをどんどん企画して

友人に誘われて何の気なしに参加した今回のツアーだったが、現場をみてビックリ。百聞は一見にしかずとはこのことか。少しでも多くの方に、まずは自分の目で見て欲しいと思った。

「八ッ場ダムを考える会」には、下流都県の人たちのためにどんどんこのようなツアーを企画してもらいたい。参加費千円は安すぎ。今まで市民活動に携わってきた経験から、この企画が赤字だったことは明らか。経済的に余裕がない会なのだから、企画モノはバス代などの経費を参加人数で割って算出しなければ、会員が要望する活動を続けていくことは出来ない筈だ。

手作りのお弁当を囲んで、参加者皆で語らったランチのひとときもよかった。エコツアーが環境について同じ思いを抱く人たちにとって、最高の出会いの場にもなる事を実感した。　（渋川・加地）

なんとしてもダムをストップさせないと

こんな山奥にも縄文時代には集落があったとは、結構住み易かったという事でしょうか。実際に遺跡現場に来た事がなかったので、楽しい経験でした。

ダム工事現場は自然を造り替えてしまう事に何の抵抗ももたない人間のおごりを感じました。税金の巨大な無駄遣いというところでしょうか。埼玉、千葉そして東京の人々、議会にアピールしてなんとしてもダムをストップさせないと、後世への悔いが残ると思います。

（前橋市・植原）

工事現場が目に焼きついて…

遺跡を見たくて参加しましたが、ダム工事現場を見て本当によかったです（重い気分にはなりましたが）。代替地とされる山を削って作った台地と背景の急峻なハゲ山が目底を離れず、その晩は眠れませんでした。地元の人が本当に納得した場所なのでしょうか？　学校を何故あんな場所に移転したのか理解できません。

（前橋市・壁）

8/19の八ッ場ダム縄文エコツアーに同行の3人の新聞記者の目

2003年（平成15年）8月28日（木曜日）

群馬よみ

8/28 群馬よみうり

建設が進む八ッ場ダム
改めて疑問投げかけ
考える会が工事現場などを視察

長野原

八ッ場ダムを考える会（樽谷修会長、会員約百三十人）主催の視察会「エコツアー 八ッ場縄文遺跡を歩く」が十九日、長野原町の八ッ場ダム建設予定地で行われた。ツアーには県内外から約三十人が参加し、水没予定の縄文時代の遺跡や、現在進んでいるダム建設の付帯工事現場などを見学、参加者らは、多大な犠牲の下に建設が進む八ッ場ダムの計画について、改めて疑問の声を上げていた。

八ッ場ダム調査事務所職員が案内した。両遺跡は縄文時代中～後期の集落跡で、「古代の人々の暮らし…」

ている。見学者からは、「長…」「県埋…」

ダム工事コト…

八ッ場ダム

8/21

工事現場や遺跡
見直し求める「おごり」
市民団体

長野原町で国土交通省が建設を進める八ッ場ダムの見直しを求める市民団体「八ッ場ダムを考える会」（代表・樽谷修東京理科大教授）は19日、代替地造成など付帯工事の現場や工事の際に発見された縄文遺跡の視察会を開いた。樽谷代表は「大きな自然破壊。人間が自然を改造できるというおごりが、地球にのしかかっている」と話した。

県内外の市民や学生らが参加した。代替地…

…い。遺跡公園としてば観光資源になは」といった…

八ッ場…所の富…

長野原で遺跡や工事現場を見学
八ッ場ダムを考える会会員ら

八ッ場ダムを考える会（樽谷修会長）の会員ら約三十人は、ダムの地元、長野原町を訪れ、ダム建設のため住宅の代替地となる遺跡や工事現場などを見学した。

同会は、吾妻郡の豊かな自然を守るため八ッ場ダム…

参加者は…ま、水が余っている…市用水の確保という目的は薄れたのでは」「山を削って造られた代替地は安全なのか」など厳しい質問を浴びせた。

樽谷代表は「国は『ダムは200年もつ』と言っているが、そんな…

ダム建設…

影響が…など鋭…

明…

額…

立第一小…ンネル…畑地…場…

喜怒哀楽

異常気象「地球の悲鳴」では

朝日 9/

長野原町の八ッ場ダム建設に伴う代替地の造成現場や、工事によって発見された縄文遺跡を市民団体の人たちと一緒に歩いた。

96年ごろから調査が始まったという「横壁中村遺跡」や「長野原一本松遺跡」は、国道145号を少し入った静かな山里にあった。巨大な柱穴が円形に並んだ「ウッドサークル」や平らな石を敷き詰めた「敷石住居」、石で囲われた「配石墓」など、約4千年前の暮らしぶりを垣間見ることができる素晴らしいものだった。

自然や動植物と共存していた縄文時代の人々の目に映る吾妻渓谷は、一体どんな景色だったのだろう。目の前に映る白いコンクリートの壁を眺め、ふとそう考えた。

八ッ場ダム工事事務所の職員の案内で、川原湯温泉の数百メートル上にある代替地の造成工事現場に立った。大きなダンプカーや重機が忙しく動き回り、山肌を削り取り、谷を埋めている。

日頃の取材などで、吾妻渓谷を頻繁に行き来し、多くの工事車両を見ていたが、目に見えない山の上でこれほど大規模な造成工事が進んでいたとは、正直驚きだった。

「この山を全部削って、あそこに埋めて平地にします。そして、あそこに道路が……」。工事関係者の説明はあまり耳に入らなかった。

人間は「安全」「便利」といった旗印の下で、多くの山を削り、穴を掘り、海や谷を埋め立てている。産業廃棄物などの不法投棄も後を絶たない。

日本は記録的な冷夏。欧州ではアルプスの氷河も解け出すほどの猛暑。阪神や東北地方を襲った地震。有珠山や三宅島の噴火……。「言葉を持たない地球の悲鳴」と感じるのは、私だけだろうか？

（渋川通信局・高井和道）

カンパ（昨年秋～9/15）をお寄せ下さった下記の皆様に、心より感謝いたします。

代表 樽谷修

秋草美俊、紋次郎、関口茂樹
長澤端、植原民子、飯島静男
嶋津輝之、猪俣俊治、近藤洋一
北澤真理子、落合延孝、金子賢
黒須俊夫、小暮公孝、山路達雄
坂田雄輝、新開紘子、瀬山士郎
塩野谷孝四郎、滝沢俊治、小林薫
西薗大実、宇津野洋一、野上恭道
野村哲、小滝芳江、広田繁雄
牧山信、星野哲也、茂木英子
吉村駿一、深澤洋子、上柿俊子
柿澤さな江、大川正治、戸塚清一
全国自然保護連合会、犬塚隼人
浜松総枝（順不同、敬称略）

事務局にFAXと受信用携帯電話をプレゼントしていただきまして ありがとうございました

「八ッ場ダムを考える会」のおすすめ本

☆『なぜダムは要らないのか』

藤原　信著／緑風出版　　定価：2300円

脱ダム運動の盛んな栃木県で、市民運動が成果を上げています。去る7月31日、栃木県知事が県営東大芦川ダム計画中止を正式に表明しました。本書は、思川開発計画を住民の立場から批判してきた藤原信宇都宮大学名誉教授による渾身の労作で、栃木県のダム反対運動を知りたい方におすすめです。著者は田中長野県知事に請われ、長野県治水・利水ダム等検討委員を務めてきた研究者。「八ッ場ダムを考える会」会員でもあります。

☆『森と海とマチを結ぶ』

矢間秀次郎編著／北斗出版　　定価：2000円

地球環境全体の危機が言われる今日、私達はともすれば無力感に襲われそうになります。しかし本書は、「人間は環境を破壊することもできるが、林系と水系を結ぶことによって逆に環境を豊かにし、ひいては経済や文化を豊かにする事もできる」とし、日本各地で現状を逆転する実践例を示してくれます。「山々の破壊はもとより、最終的にはその森林に依拠して成立している都市の存続も危うくなる」という言葉を読むとき、八ッ場ダム問題が大都市東京の未来と密接に結びついている事を再認識させられます。編者は荒川、多摩川、利根川を総合的に研究するATT流域研究所理事長。

雑草の緑地帯がじつは…♡

事務局の花活けに、蓮の花が挿してありました。蓮の淡い緑の花穂が、幼い頃遊んだ原っぱの風を思い出させてくれました。

家の近くの緑地帯にも、今、蓮の花穂が勢いよく伸びています。他の区画は、サルビアやバラが手入れされて行儀よく並んでいるのに、ひと区画だけ手つかずのまま雑草が生い茂っているのです。

壺に挿してあった蓮をみてからは、雑草の一つ一つが目に飛び込んでくるようになりました。青い星のような露草、アカザ、エノコロ草…よく見ると、ミツバチやシジミチョウ、トンボも飛んでいます。草むらに足を突っ込むと、バッタがキチキチ鳴いて跳び上がりました。

この小さないのちの楽園に、除草剤がふりかけられませんように！（洋）

9月になって、忘れていた夏が思いっきりやってきたような毎日。ふと見上げたら、青い海いっぱいに、大小の魚が群れ泳いでいるような、うろこ雲――空には、確かに秋が来ていました。

足元の草むらには、アカザの穂が風に揺れています。そこで、

アカザの実の佃煮です。

＜作り方＞

- アカザの穂は洗って、半熟の実（種になっていない）をしごき取る。
- 酒・みりん・醤油を加えて煮つめる。縄文土器の内側にも着いていたというアカザの実。一野原のキャビアの食感が楽しめますよ。（全）

千葉が動く!!

八ッ場ダム見直し、習志野市議会でも

習志野市議会は6月30日、「八ッ場ダム事業の見直しを求める意見書」を採択しました。千葉県自然保護連合代表の牛野くみ子さん（習志野市在住）を始めとする市民達の働きかけが実を結んだもの。

千葉県の財政は47年ぶりの赤字決算で、財政再建団体転落一歩手前。けれども県内各地では草の根の市民活動がジワジワと広がり、行政を変える原動力となっています。

習志野市に先がけて今年3月、八ッ場ダムにNo！を突きつけた佐倉市。実際に行政を動かすまでにどんな経緯があったのでしょう？　これから議会に働きかけたいという首都圏各地の皆さんに贈る、佐倉市からのレポートです。

―八ッ場ダムを考える千葉の会発足―

去る8月、いよいよ「八ッ場ダムを考える千葉の会」が発足。千葉県の追原ダム計画を2001年中止に追い込むなど、県内の脱ダム運動を着実に進めてきたメンバー達が、「首都圏最後の水がめ」とされる八ッ場ダムストップの活動を開始しました。代表の北澤真理子さんは、「点から面へと変化してきた脱ダムの大きなうねりを、あの素晴らしい吾妻渓谷に届かせたい」「長く激しい反対運動に疲れ果てた地元の皆さんと、八ッ場を守るために手をつなぎたい。これからは人工物ではなく、自然そのものが経済の基盤になる時代」と語っています。

「千葉の会」では早速8月29日、要請文を持って千葉市議会の各会派を訪ねました。同会は今後、松戸市、成田市など県内の各市議会にも働きかける準備を進めています。

「八ッ場ダムの見直しを求める意見書」を

佐倉・習志野の両市議会が決議 → 堂本知事へ提出
千葉・松戸・成田・八街の各市も議会に提出か

最初にのろしを上げた、佐倉市の場合・・・

佐倉市は地下水豊かな北総台地の中央に位置する、印旛沼湖畔の町です。東京から40キロ、通勤電車で1時間の便利さから、1970年代には人口が増加しましたが、現在は人口17万人余と落ち着いています。

市の今までの水道計画は、地下水65%、表流水35%の利用割合を八ッ場ダム完成によって逆転させようというもの。美味しい地下水が飲める井戸33本のうち25本を使用できなくなる―さくら・市民ネットワークでは地下水の涵養と節水、雨水利用などの工夫をすれば八ッ場の開発水は不要と、行政に訴え続けてきました。一方、水道事業サイドでも、これ以上高価な表流水を買えば市民の負担が増え、水道事業経営も大変になると表明。ここ数年、市民の学習会に行政職員、議員も参加するようになっていました。市民と超党派の議員によって、地質環境や八ッ場ダムの学習会が地道に積み重ねられた結果が、3月議会での「八ッ場ダム事業の見直しを求める意見書」採択です。

千葉県では、地盤沈下を防ぐ目的で地下水取水を規制する1962年の条例が未だに生きています。しかし地盤沈下がほぼおさまっている今、時代の状況に見合った条例の見直しが必要です。今期の議会には、新しい佐倉市の「地下水保全条例」を提案したいと準備を進めています。

さくら・市民ネットワーク　中村春子

千葉の動きがわかる　楽しいホームページ

＊ 千葉自然保護連合　boso@js8.so-net.ne.jp
＊「市民ネットワーク・千葉県」にアクセス　→「県議の部屋」

■ 2003年7月18日(金)　八ッ場ダムに行ってきました。

「現地の皆さんは、私達佐倉の住民がなぜこのダムに反対するのかご存知ですか？佐倉は水道の65%がおいしい地下水です。ところが八ッ場ダムができると、その高くてまずくて危険なダムの水を無理やり買わされるので、せっかく豊富にある地下水の井戸を閉鎖しなければなりません。だから必死でダムに反対するのです」…（略）…「キレイな自然を残してほしい、だからダムに反対」というだけでは、現地の人の思いを無視した「よそもの」の勝手な願いでしかない。でも、私達も、生活をかけた必死の思いで、このとんでもないダム計画に反対しているのだ。そこを、もっと地元の人たちに訴えていかなければ、共感できる運動はありえない。（以下略）

県県 Go!Go!　≪千葉県議、大野ひろみさんのページ≫より

吾妻渓谷エコツアー第２弾

ー地質学者とともに八ッ場ダムを訪ねようー

８月のエコツアーの後、「知っていれば、参加したかったのに…」、「友達を誘ってまた行きたい」などの声がいっぱい事務局に届きました。そこで、さっそく第二弾を企画しました。前回と同じ企画で、という御希望もありましたが、それはまた次回のお楽しみということで、今回は趣向を変え、紅葉に染まり始める吾妻渓谷を地質学者、中村庄八さんのご案内で訪ねます。
中村庄八さんは、県立高校の先生を勤める傍ら、地質学者の立場から八ッ場ダムの問題を研究してこられました。渓谷に流れ込む40以上の沢の一つ一つに防災ダムが造られている現在、実際に現場を歩いて、地質学の視点から八ッ場について考えてみませんか？

日時　　：１１月２日（日）
集合場所：川原湯温泉駅　９時４５分
　　柏屋旅館　１０時００分
参加費　：大人　２０００円
　　子供　１５００円

特急草津１号	万座鹿沢口行		
		川原湯温泉駅	9：41
特急草津６号	上野行	川原湯温泉発	15：19
普通	高崎行		16：08
特急草津８号	上野行		16：38

八ッ場ダムを考える会申し込み問い合わせ先

[redacted]

行動予定：柏屋で中村庄八先生に簡単な講義をしていただいた後、先生のご案内でフィールドワークに出かけます。３時までに終了の予定。

「吾妻渓谷は、そこを流れる吾妻川の数万年以上の歳月におよぶ浸食作用によってつくられ、屏風のような断崖絶壁を特徴とする。この流域は、クリ・コナラ群の自然林が多く、これらの樹木の若葉や紅葉は、岩壁、流木と一体となり、見事な自然景観を醸し出している…（略）…このような吾妻渓谷の地形や地層が、太古以来どのようにして造られてきたのかを知ることによって、より一層、渓谷の貴重さを理解していただければと思う」

総会の後　交流会

川原湯温泉（柏屋）に泊まって、地元の方々、小川明雄さん 、会員どうしの話し合いをしませんか 。気楽にご参加ください。

翌朝、紅葉の吾妻渓谷の散策が楽しめそうです。

参加費：10000円（宿泊代）

ご案内

八ッ場ダムを考える会　総会　2003年

日時：11月1日　13:00～13:50

会場：前橋市市民文化会館 4階 第5会議室

八ッ場ダム事業をめぐる状況は、この一年で、大きく動き出したようです。下流の住民 自治体からは見直しの声や決議が出され、保証交渉が終盤にきている地元では、国交省の手のひらを返したような態度に、不満と不信の声があがっています。

このような中で、八ッ場ダムを考える会はどのような活動をしたらよいのか、会員の知恵を出し合いましょう。ぜひご参加ください。

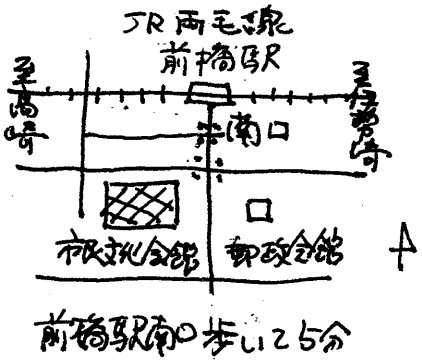
資料代：500円

総会記念講演

なぜ公共事業は止まらないのか

時間：14:00～15:30（総会会場にて）

講師：小川明雄



講師紹介

1938年東京に生まれる
1961年東京学芸大学英語科卒業．同年AP通信社入社．
その後，朝日新聞社に移り，アジア総局，アメリカ総局勤務を経て，外報部次長，論説委員
現在ー朝日新聞社国際編集部編集委員
著書ー「都市計画 利権の構図を超えて」
「議会 官僚支配を超えて」(以上いずれも共著，岩波新書)
「いまアメリカを読むキーワード」(共著，ダイヤモンド社)
「公共事業をどうするか」岩波新書

＜小川さんからのメッセージ－＞

考える会の総会での講演のご依頼（中略）、喜んで参上させていただきます。また、翌日の川原湯温泉への訪問ももちろんよろしくお願いします。

公共事業がこの国の財政を破綻の淵に追い込んでいるのは周知の事実ですが、不要なあるいは周辺住民の生活を破壊する公共事業が数多く相変わらず強行されています。この不条理の実情と裏側を具体的にお話させていただきます。

ダムの付帯工事によってできた急峻な坂道を登りつめると、
若山牧水が危惧した悲惨な光景が眼下にひろがりました。
吾妻渓谷の両岸の緑の山のいたる所に青いビニールシートや
赤茶けた地面ががあらわになった工事現場が見えます。
けれども、縄文の人々の祈りの対象だった丸岩をはじめ、
水墨画の世界のような峰々は、昔と変わらず大空を背景に屹立しています。
ひょっとして天の高みから、天狗がこの吾妻渓谷を
見下ろしているのかもしれない…。
渓谷沿いの谷底にへばりつくようにある道は、
昔から信州と上州を結ぶ大事な街道でした。
道の神、猿田彦を祀る川原湯神社、村落のあちこちに佇む道祖神や祠。
縄文遺跡からは、信州和田峠で採掘された黒曜石の矢じりや囲炉裏、甕棺、
イノシシの落とし穴まで発掘されました。
縄文遺跡に重なるように、平安時代の住居跡もみつかっています。
この渓谷に生き、この渓谷を行き交った人々の思いと共振する何かが、
現代に生きる私達の心の中にもあります。
私たちはこの手の内にある本当の豊かさを捨てて、
どこに行こうとしているのでしょうか?

八ッ場ダムは、現在の計画では平成22年に完成の予定です
けれども本体工事はまだ始まっていません
次の時代の命のために、八ッ場ダムをストップさせましょう

≪会員年中募集中≫
年会費(秋の総会から次の総会まで)／個人1000円、団体3000円
会員には年4回会報をお届けします。

≪カンパしてもいいなという方は・・・≫ どなたでもぜひ下記にお願いします
郵便振替口座番号00550-2-32681 (加入者名・八ッ場ダムを考える会)

八ッ場ダムを考える会

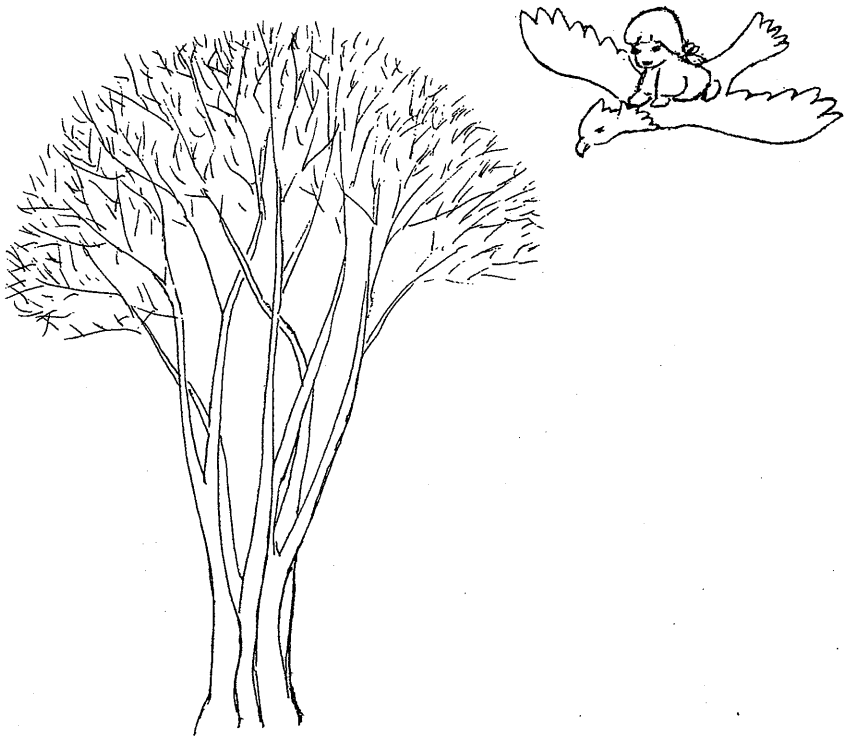
吾妻渓谷

八ッ場ダム

2003.11.NO.5

地元も下流も ダムの被害者にならないために

利根川流域脱ダム宣言



かつて上流と下流の住人は
河川を通して自然の恵みを分かち合う仲でした。
ダム建設によって故郷を奪われようとしている地元の人も
あり余るダムの水を押しつけられて悲鳴をあげている下流の人も
どちらもダムの犠牲者です。
上流と下流が共に“いのち”をはぐくむ
本来の姿を取り戻すためには、
「八ッ場ダム計画」の本当の施主が
私達一人一人であることを
思い出す必要があるのではないでしょうか?

八ッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

"やっとこ登場 やんばダム"

THE JOMO SHINBUN
2003年（平成15年）11月20日（木曜日）（日刊）
上毛新聞

八ツ場ダム代 水没地

長野原町の八ツ場ダム建設に伴う水没5地区（川原湯、川原畑、林、横壁、長野原）のダム対策委員会は26日、代表者会議とし地の連

事業費倍増 4600億

八ツ場ダム建設

現在の三百十億円から倍以上となる四千六百億円に引き上げる方針を固めた。

県の負担金200億超 圧縮要望を検討

経済変動で国交省見直し

国土交通省は十九日までに、長野原町で建設中のハツ場ダムの総事業費を現在の三百十億円から倍以上となる四千六百億円に引き上げる方針を固めた。

県分の事業負担金は二百億円を超える見込み。二十日の国交省関東地方整備局事業評価監視委員会で説明するが、大幅な五倍近くにもなる治水・利水関係者は厳しい対応を迫られる。

「県民理解 得難い」

八ツ場ダム事業費増

県、負担減を要請

国交省評価委了承 生活再建費、

国土交通省は二十日、長野原町で建設中のハツ場ダムで、総事業費を現行の二・八倍となる四千六百億円に増額する基本計画変更案を発表、同日の国交省関東地方整備局事業評価監視委員会で了承された。今後関係自治体の意見聴取、各都県議会の議決などを経て決定する。増額は水没関係者の生活再建費の変更や、物価上昇が大きな要因。県は十七年ぶりの事業費見直しで負担金が八十三億円増となることに「県民の理解を得るのは難しい状況」として、二十一日に一部負担金の国負担化や事業費圧縮などを国に要請する。

八ツ場ダム事業費倍増 知事「縮減求める」

町の総事業費を現在の倍以上に増額するとの基本計画の変更案について、小寺弘之知事は26日

なければ納得が得られないとして、変更案についての詳細な説明と、事業費の再検討を求める方向で国交省に話し合いを申し入れたいとの考えを示した。

総事業費4600億円に

八ツ場ダム

国交省 県82億円、藤岡市12億円増

長野原町で建設が進められているハツ場ダムについて、国土交通省が総事業費を、現行の約2・1倍の約4600億円に増額することが19日、明らかになった。同省が20日に基本計画の変更を正式に発表する。これに伴い、県内自治体の負担分も県が約82億円増えて計約210億円に、藤岡市は約12億円増加の約23億円に拡大する見通し。関係自治体は議会や住民の理解を求める必要に迫られるが、首都圏の動向によっては、建設の進捗に影響を与える可能性もあり、地元は複雑な反応をみせている。【清水善巳】

ハツ場ダム事業費倍増

国交省が変更案 4600億円に

県負担増78億 水道に藤岡市15億円

朝日新聞

国土交通省は20日、長野原町に建設中のハツ場ダムの総事業費を、現行計画より約2480億円多い、約4600億円に増額する基本計画の変更案を発表した。これにより、県は計約78億円の実負担となり、水道用水として使用する藤岡市は、約15億3千万円の実負担になる。小寺弘之知事は「大幅な増加に驚いている」との談話を発表したほか、市民団体からも反発の声が出ている。

国交省によると、増額の主な内訳は、①補償基準の確定などによって、水没関係者の生活再建にかかわる費用が45%増②物価の変化や消費税の導入による社会経済的費用が30%増③環境対策や埋蔵文化財調査など、地元などの自然条件にかかわる費用が19%増という。

県によると、総事業費は、86年の基本計画段階では85年度単価で算定した約2110億円だったが、そのうち約1700億円はすでに水没関係者の補償や道路の付け替え工事などで事業施行済み。計画変更に伴う県の実負担増額約78億円の内訳は、治水分が39億円、不特定利水分が29億円、企業局の利水分が10億円になる。

これを受けて県は20日、記者会見した。総事業費をさらに圧縮することや、国直轄事業の法改正も含めた地方負担の軽減のほか、今回新たに追加される吾妻川の景観保全のための水量確保についての費用は、国が負担すべきだ、などとした要

ハツ場ダム 一躍 日本一の金食いダムに!!

11/20

ちなみに、第2位 約4000億円 宮ヶ瀬ダム（神奈川）
第3位 約3550億円 徳山ダム（岐阜）
……
川辺川ダム

緊急集会

・12月7日(日)
10:00～12:00
・群馬県女性会館大ホール
問合せ先:080-3278-9005

日本一の金くいダム

「八ッ場ダムを考える」

―事業費倍増　負担額 8500 億円に！―

（水特法・基金事業・利息も含めて）

祝 八ッ場ダム事実上中止決定
たった今飛び込んだニュース
12月3日群馬県議会で知事答弁
モリ中

基本計画変更後
八ッ場ダム建設事業及び関連事業の負担額の試算　　（単位　億円）

		八ッ場ダム建設事業			水源地域対策特別措置法の事業	水源地域対策基金事業	合計負担額	起債の利息を含めた合計負担額
		負担配分額(国費を含む)	負担額(国費を除く)					
群馬県	治水	339	101	193	42	8	243	365
	群馬県水道	92	61					
	藤岡市水道	23	15					
	群馬県工業用水道	18	15					
埼玉県	治水	601	180	695	143	44	882	1,323
	埼玉県水道	773	515					
東京都	治水	539	161	634	131	41	805	1,207
	東京都水道	708	472					
千葉県	治水	586	175	405	61	19	485	727
	千葉県水道	152	101					
	北千葉広域水道企業団	46	31					
	印旛郡市広域市町村圏事務組合	69	46					
	千葉県工業用水道	64	52					
茨城県	治水	416	124	134	26	8	168	252
	茨城県水道	143	9					
栃木県	治水	31	9	9			9	14
国費			2,531	2,531	504		3,035	4,553
地元および受益者負担金					90		90	135
合計		4,600	4,600	4,600	997	120	5,717	8,576

注目事実!!

[注1]起債利息の総支払額を起債額の0.5倍とする。
[注2]水源地域対策特別措置法の事業費は1996年の計画値であるので、今後、増加が予想される。
[注3]水源地域対策基金事業はまだ総額がきまっていないが、現在までの支出額から見て120億円と仮定した。
[注4]治水分の国費負担率を7割とし、水道、工業用水道の国庫補助率をそれぞれ1/3、2割とする。

作成・嶋津暉之さん

やんば早わかり

八ッ場ダム建設事業の概要

（国土交通省発行『八ッ場ダム』より）

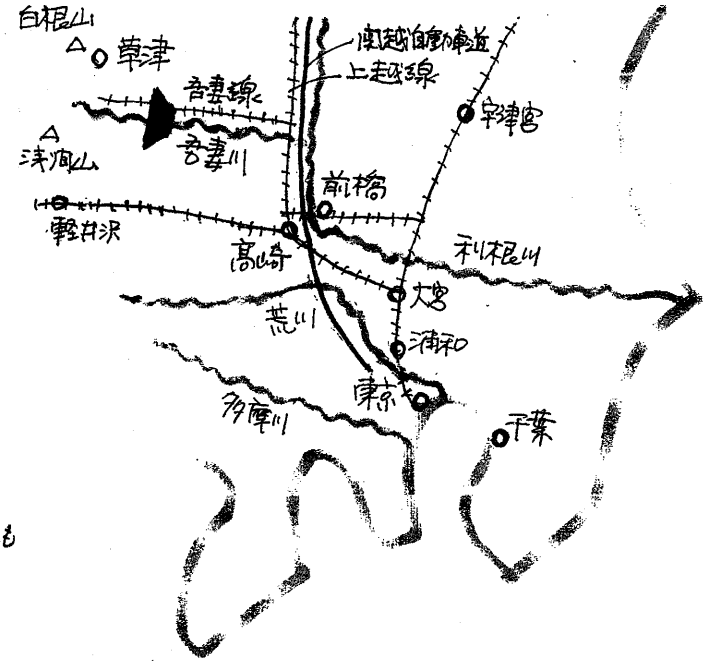
・位置…群馬県吾妻郡長野原町。
　　利根川水系の吾妻川中流に計画。

・目的…①治水（洪水調節）
　　②利水（首都圏の都市用水開発）
　　水道用水/東京、埼玉、千葉、群馬、茨城
　　工業用水/千葉県、群馬県

・規模…総貯水量1億750万㎥。高さ131m。
　　利根川水系で3番目の規模。

・水没予定…340世帯。面積316ha（山林169ha）。
　　ＪＲ川原湯温泉駅、国道145号線ほか。

・ダム建設事業費(案) 2003.11.20
4600億円（これは日本一の金食いダムになったということで、関連事業費も含めると約6000億円に）



八ッ場ダム計画の歴史

1952年　建設省が調査開始。

1953年　吾妻川は草津白根周辺に水源があり、コンクリートや鉄を溶かす、魚も住めない強酸性の『死の川』であることから、ダム計画は一時中断。

1963年　草津中和工場建設。強酸性河川にミルク状の石灰を毎日約60ｔ投入することで、ｐＨ2→ｐＨ5程度に改善。

1965年　品木ダム完成。石灰乳液によって生じる中和生成物を貯留させるため。（品木ダムの堆砂率は現在約80%）。建設省はダム建設の見通しが立ったとして、八ッ場ダム計画を発表。住民は「反対期成同盟」を結成。激しい闘争は「東の八ッ場、西の川辺川」と称された。

1975年　地元住民、県の生活再建案を二年がかりで見直す。国、県による切り崩し、町政への締め付けによって住民の生活はダム計画に翻弄され続ける。

1976年　八ッ場ダムを閣議決定。

1986年　八ッ場ダム建設に関する基本計画告示。

1992年　「反対期成同盟」は「対策期成同盟」と名称を変え、運動は条件闘争に。

1994年　付帯工事着手。

1999年　補償交渉委員会発足。地元と補償基準に向けた話し合いが始まる。

2001年　地元住民と国で補償基準合意。完成予定が1999年から2010年度に変更。

吾妻渓谷からの『脱ダム宣言』

1999年、前橋で「八ッ場ダムを考える会」が、2001年、東京で「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」が設立される。両会の提言は—

① **八ッ場ダムの本体工事の中止。**

② **地元住民の長年の精神的苦痛に対し、国は補償する。**

八ッ場ダムの問題点

① **水需要が頭打ち**

最近の都市用水は横這い又は減少傾向。
関連各都県は現在の保有水源で充分足りている。
ダム完成予定の2010年には、首都圏人口は
ピークを迎える。

② **治水に八ッ場ダムは不要**

利根川の治水計画は、1947年のカスリン台風の洪水をベースに、200年に一度の洪水に対応するよう策定されている。戦争直後の山が荒れ果てた当時と比べ、半世紀を経て森林整備が進み、利根川上流にはすでに六基の大型ダムがある。河川改修を計画通り実行すれば、治水上も新たなダムの必要性はない。

③ **自然破壊**

生態系の頂点にあるイヌワシ、クマタカはじめ、絶滅危惧種の動植物が数多く生息する自然の宝庫、吾妻渓谷を破壊する。

④ **水質悪化の影響**

吾妻川は「複合汚染の川」。上流の鉱山跡地からヒ素、カドミウムなど重金属類が、嬬恋村から大量の農薬が、草津温泉から生活排水が流れ込む。この水をダムに貯留して濃縮させるダム開発によって、首都圏では良質の自己水源である地下水を切り捨てる事になる。水質がさらに悪化し、未来世代に深刻な被害をもたらす事は必至。

⑤ **地質の問題**

浅間山の噴火泥流でできた軟弱な地質が、ダム工事を困難にしている。がけ崩れの恐れのある沢ごとに40以上の防災ダムが出来つつあるが、地質調査を進めていけばさらに工事費を上乗せしても寿命の長いダムのできる可能性はない。

⑥ **財政破綻**

八ッ場の事業費は全国の数あるダム計画の中でもトップ。不況にあえぐ経済を圧迫し、税金、水道料金の高騰を招く上、財政破綻の一因となる。

⑦ **政官財癒着の公共事業**

かけがえのない渓谷を鉄とコンクリートの捨て場にするのは、他の公共事業と同じく政官財癒着の構図があるから。特に旧群馬三区に位置する八ッ場ダムは、自民党大物政治家、福田、中曽根両氏の利権との密接なつながりが指摘されている。

関東甲信越大学生協 職員・理事・大学院生 44名 10/26 八ッ場エコツアー

吾妻渓谷を初めて訪れました。さすが名勝の地、訪れる人々の多いのも納得しました。丁寧な説明を聞きながら、これらを壊そうとする力に腹が立ちました。
（早稲田大学・牛山積）

ここに来るまで八ッ場ダムの事は知りませんでした。日常使っている水の問題が小さな村の人々の生活を破壊し、人々を苦しめている事を知って胸が痛みました。また相変わらずの硬直した行政には腹が立ちます。（明治薬科大学・井上忠也）

自然はありのままの方がいい

「人権」という言葉が印象に残っています。地元の人の気持ちを大切にしたいと思います。（明治薬科大学・向日良夫）

税金のムダ使いもさることながら、この景観を壊すのは忍びない。ダムの影響を自分達も日常受けていると考えると他人事ではない。（明治薬大生協・内堀均）

『脱ダム』をもう一度考えてみる必要がありそう。一体誰のための『ダム』なのか疑問です。（津田塾大学・澤田あゆみ）

川辺川ダムをはじめ西の方の河川をめぐる問題は知って　いるつもりでしたが、こんな身近にまさに私達の暮らしに直結するような形でダム問題があるとは知りませんでした。美しい渓谷、山々などの自然と拮抗した「ダム建設」には胸が痛むと同時に憤りを感じます。
（津田塾大学生協／三浦正義）

脱ダム宣言知事のお膝元、長野から参加しました。でも八ッ場ダムのことは全く知りませんでした。啓蒙の場としては最高でした。（長野県立短大・白鳥洋子）

ダム建設は地元住民の意思を優先させるべきだ。環境、景観などの点から、巨額な資金投入をしてまでの建設続行は疑問を感じる。（明治薬科大学・辻本利雄）

「トトロの森保存会」のためのささやかな活動を行っていますが、生活圏を破壊し、自然の治山、治水力まで破壊してしまうダム工事の不条理、不合理性を痛感しました。
（匿名希望）

人々の生活は安らかな方がいい

壮大なムダづかいを目の当たりにして、改めて政府の無策を思いました。
（電通大生協・石井愛）

日本の河川は急流のため土砂がたまり、ダムとしての機能が早期に損なわれる。また海岸への砂の補給を妨げるため、海岸侵食の原因となっている。水田、森林の保全を追及すれば、ダムは必要ない。首都圏の水は雨水、地下水の活用を考えるべきだ。
（東京農工大学・久野勝治）

さいたま市民としてできることをやっていきたい。（埼玉大学・松本三枝子）

「八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会」では、会員募集中。ぜひご連絡を！
[redacted]

● 八ッ場のおかしな物語　その1 ●

● 一億円上乗せは怠慢から ●

およそ二倍にもはね上がった事業費。では、実際どんな使われ方をしているのだろう？

春頃のことであった。国土交通省広報センター「やんば館」の東側、移転した長野原第一小跡地のうしろの急峻な山肌にユンボがへばりつくように出現し、人目をひいたのは。

ほどなく、久森トンネルの工事に伴って、工事用資材やダンプを70メートル上に運ぶ、ケーブル状のインクライン工事であるとの国土交通省の説明があった。会合の席で、費用は一億円以上も上乗せと聞いた水没関係者は、自分達への補償金はチマチマとしているのに、なんとムダなことかと苦々しく思ったそうである。

というのは、この工事は本来、侵入路のできあがった川原畑地区側から行われるはずであった。ところが国土交通省が地主を訪問して承諾を得ることを怠り、勝手に測量を行ってしまったため、地主が怒って決裂。進退窮まった同省の苦肉の策であることがつぶやかれていたからだ。

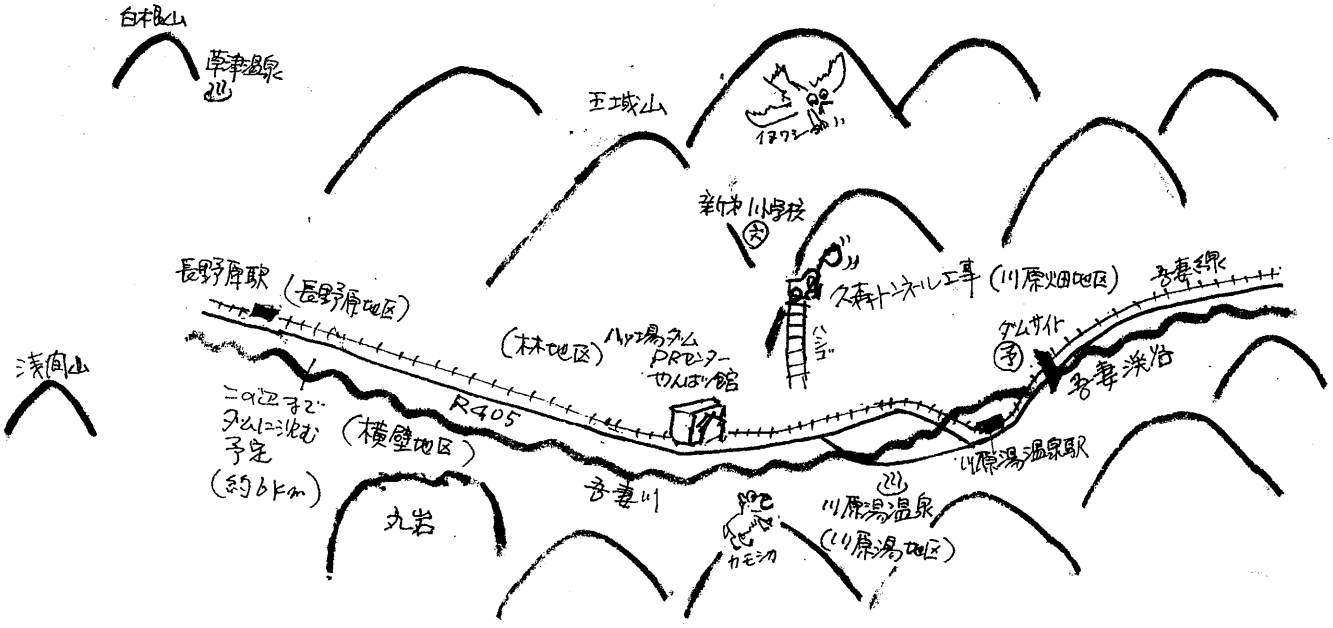
工事は7月に完成し、作業スタッフ用のモノレールも脇に設置された。

ところで、カラー刷りのぜいたくな装丁の「広報やんば」（発行：国交省八ッ場工事事務所、編集：上毛新聞社編集局）NO.5によれば、「急峻な地形、克服する運搬手段」の見出しのもと、同省の怠慢など微塵も感じさせない、お決まりの自画自賛記事となっている。

トンネルはもうじき出口に達する。さて、11月末現在、件の地主には未だなんの話もないそうである。

今後はどんな工法がとられ、ゼネコン企業がまたも潤うのであろうか？

水没予定地では官も民も、「カネはいくらかかってもよい」的な風潮が見受けられるが、そのカネが国民の血税であることを忘れてはなるまい。　（すずき）



八ッ場ダムを考える会　第5回総会

11月1日(土)、前橋市民文化会館

参加44名

2003年度活動方針

Ⅰ．東京、千葉、埼玉など下流域の運動と連携を強め、八ッ場ダム本体工事の中止を求めていく。

Ⅱ．地元住民と連携し、住民の権利が損なわれないよう協力していく。

Ⅲ．名勝「吾妻渓谷」をはじめとする自然環境の保全を図り、次の世代に引き継ぐ事を目指していく。

Ⅳ　現在群馬県内で計画されている倉渕ダム、増田川ダム、戸倉ダムなどに対する反対運動と情報交換をしながらつながり合い、実質的な「群馬脱ダムネットワーク」に向けた活動をしていく。

Ⅴ　エコツアー、学習会、水質調査をはじめとする各種調査、ホームページの更新などを行い、会報「吾妻渓谷を沈める八ッ場ダム」やパンフレット等の広報活動を通じてより多くの市民に理解と参加を求めていく。

＊ 2002年度活動報告・会計報告
2003年度活動方針は
全て総会で承認されました。

＊ 2003年度から
会費（総会から次総会までの1年分）
2000円も承認されました。
（学生1000円、団体3,000円）
年4回発行の会報代に1000円
会活動費に1000円です。

＊ 2002年度 会計報告

収入	前年度繰越金	154,810円
	2002年度会費	151,000円
	カンパ	527,035円
	その他	3,200円
	計	836,043円
支出		484,629円
次年度繰越金		351,706円

＊年度末にカンパをいただいて、繰越金が大きく増加しました。

千葉県の弁護士会からのメッセージ

弁護士の立場から、千葉県を中心に公害の根絶と自然環境の保全を求めて活動してきた者の一人として、八ッ場ダム建設事業の即時中止を求めます。

先日、県内の弁護士8名で現地に赴(おもむ)き、吾妻渓谷のすばらしさに感動しました。と同時に、このかけがえのない自然が根底から破壊されようとしていることに、煮えたぎる憤りを覚えました。

560億円もの負担を強いられる千葉県民の一人として、ダム建設を中止に追い込むまで奮闘する決意です。
ともに頑張りましょう。

2003年11月1日

弁護士　中丸素明(もとあき)
(千葉県弁護士会
公害対策・環境保全委員会委員長)

衆議院の総選挙が終わりました（11/9）

公開アンケート

「八ッ場ダムを考える会」では、群馬県の総選挙立候補者に公開アンケートを実施しました。うち民主党、共産党の候補者全員と自民党の谷津義男氏が回答。八ッ場ダム建設については、長沼広氏（民主党）と谷津義男氏が「推進」、他の候補者は「中止」。回答くださった全員が「群馬の豊かな自然を保全し、生かしていく」という意見で、推進と回答したお二人も地元住民の生活保障に配慮すべきという内容でした。

八ッ場ダム予定地は、群馬五区。「公共事業で地元の活性化を」と訴える前職の世襲議員から、回答はありませんでした。結果は従来通り、前職が大量得票で当選でした。

「ヤンバの学校？！」

総選挙のさなか、前橋では「八ッ場ダムを考える会」総会記念講演会が開かれました。講師の小川明雄氏は、「全国の市民運動は一定の成果を収めているが、**200 年遅れの市民革命いまだならず**」と語りました。

「政治は嫌い」という声をよく耳にします。そういえば、かつては多くの一般民衆が、自由がなかった代わりに何も考える必要がなかったのです。戦後 50 年を経て、もしかして具体的な事例と関わる市民運動が、民主主義という苗木を育てる場になっているのかもしれません。「八ッ場の学校」は私達に何を教えてくれるのでしょう？

大自然の循環がこわれてしまう

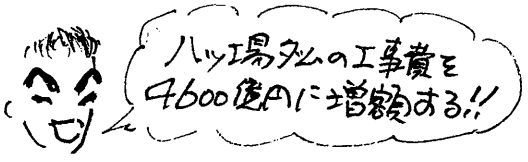
群馬は水源県であると同時に農業県でもあります。首都圏の「命の基地」であるはずの群馬県で、総選挙の間、「命の循環を踏まえた産業構造転換」といった本質的な政策論争は、ついに聞かれませんでした。

群馬県のみならず全国の農地が今、危機に瀕しています。海外から大量に飼料を輸入した結果、大地はチッソ過多で酸性に傾き、その影響は水にも現れています。

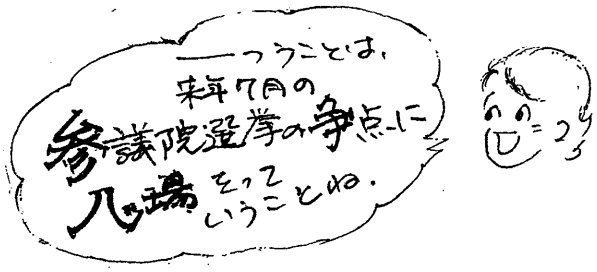
命の危機を脱するためにホンモノの政治を

小泉首相は「農業分野での鎖国政策の転換」を掲げています。経済を活性化させるためにと、大量の輸出の見返りとして 40%を切る食糧自給率をさらに下げ、海外への食糧依存度を高めれば、やがて日本の大地は荒廃し、山野はゴミとコンクリートの捨て場と化すでしょう。かつて滅んだ文明の歴史が教えるように、大地が死んだところで人間は生きてはいかれません。食糧危機が訪れれば、福祉も軍事も吹っ飛びます。

「八ッ場ダム」現地では、長年のダム闘争に疲れきった地元住民が、代替地と呼ばれる地すべり地帯に追いやられようとしています。政治の不在がこれほど酷い形で人々の生活に影を落としている所はありません。



選挙終了直後の11月20日に
国交省は発表したのです



この「八ッ場ダム」の問題は、命の循環を踏まえたホンモノの政治こそ今求められていることを、私達に示しているのではないでしょうか

栃木の県営ダムがストップ？！

7月、栃木県の福田知事は、東大芦川ダム中止の方針を正式に表明しました。県公共事業再評価委員会はこれを全会一致で了承。残るは県議会との対応です。

大芦川は前日光、足尾の山々から流れ出る思川の支流です。1973年計画当初、建設を恨みながらも容認してきた住民達が反対運動に立ち上がったのは、計画が目に見えて動き出した10年前頃。今回の知事表明は、多くの人々の“思い”の結実です。

「大芦川緑のダム宣言」（随想社）より―

＊　**石原政男（西大芦漁業協同組合代表理事組合長）**

「下流域の人が生きる為にダムが計画されたのであれば、それは皆で生きるためにはしょうがない。…水は天からの恵みであって皆のものです。これは山村生活のオキテなんです。でも、必ずしも水が不足していない状態でダムを造るとなったら、それは話は別ですよ。…ダム問題が浮上した時には対立もありました。…当時の自治会は地域の活性化につながるなどの理由でうまく噛み合いませんでしたね。…ダム問題が発端となって封建的なこの地域の平成維新ができた…」

＊　**竹澤正之（西大芦地区自治会協議会会長）**

「ここの自然を素晴らしいと感じたのは、実はダム問題が出てきてからなんです。当たり前の自然が壊されることに危機感を感じました。…（略）住民の意識調査を何度も行った結果、いずれも9割以上の住民がダム建設に対して反対でした。」

＊　**大貫林治（立木トラストの会、大芦川の清流を守る会）**

「立木トラストは三年前に藤原信先生との出会いがきっかけです。おかげさまでこの運動の参加者は1200人まで増え…（略）…離れていく人もいれば、また新しく住まう人もいる。これまでの落人集落とは違った新しい山村生活のスタイルを見出し、私達の地道な活動が地域活性化の第一歩に成ってくれれば…」

＊　**関谷忠一（大芦川自然クラブ代表）** おすすめホームページです

「私がいちばん好きなのは、朝霧に包まれた大芦川の姿とその背景にある山々の景色…感動して涙が出ますよ。…最近の川は水なんか飲めませんが、大芦川の水はいまでもゴクゴク飲めるんですよ。五臓六腑にしみわたるほどうまいんだから」

…というわけで、栃木県のダム問題も解決間近…と思いきや、実は県営ダムの後ろに、それより遥かに巨大な国のダム事業が控えていたのです。

1996年、会計検査院が八ッ場ダム計画と共に問題アリ、とした「思川開発事業」がそれ。「（首都圏の両事業は）洪水被害の軽減が今後も長期にわたって期待できないほか、事業費の増加などから原水単価が高騰する」（『会計検査のあらまし―平成6年度決算』）

じつはまだまだ

栃木のダム問題 パート1

藤原信
宇都宮大学名誉教授。農学博士。
思川開発事業を考える流域の会代表

思川開発事業

鹿沼市に計画中の思川開発事業は、水資源開発公団（今年10月より独立行政法人「水資源機構」）により1964年、東京オリンピックの年に発表されました。利根川水系、渡良瀬川の支流、思川の上流の小川に1億トンを貯水する南摩ダムを造るというもの。水の供給先は埼玉、千葉、栃木など首都圏です（東京都は利水権を返上）。

しかし小さな南摩川ではとても一億トンの水は貯まらないので、20キロ離れた今市市の大谷川から導水管で水をもってくる計画でした。水を取られる今市市では、反対期成同盟会が結成され、今市市、市議会、住民による反対運動が展開されてきました。

「脱ダム」めざす市民運動

1997年、「思川開発事業を考える流域の会」が結成されました。栃木県内の脱ダム運動はこの会を軸に、今市市、鹿沼市でダム反対運動を繰り広げる様々な団体、県自然保護団体連絡協議会、日本野鳥の会県支部などが互いに連携しています。運動方針は様々でも、相手を誹謗中傷することなく、ダム建設中止に向けて協力し合ってきました。

ダム計画を縮小、それでも・・・

2000年11月、建設省（現国土交通省）は「南摩ダム継続、大谷川分水中止」を決定。南摩ダムの総貯水量は5000万トンに縮小されました。大谷川分水に代わり、今度は鹿沼市の黒川、大芦川から取水し、10キロの導水管を通す計画です。

「脱ダム？」知事にイエローカード

同じく11月の知事選で、今市市長であった現知事は、ダム事業の全面的見直しを公約に掲げ、ダム推進の前知事を875票差で破って当選。福田知事の誕生は、ダム反対住民を中心とした“県民勝手連”による応援が大きかったと言われています。

福田知事は知事選後、初の12月議会でダム事業見直しの検討会を設置すると発言。しかし翌年3月の県議会において、共産党を除く四会派は2つのダム建設推進を求める決議を行いました。これを受けて5月、知事は「思川開発事業は参画、東大芦川ダムは結論を二年先送り」と表明しましたが、この知事表明は県民の怒りを買い、公約違反として県民から「イエローカード」が出されました。

そして残った重い課題

今年7月30日、ようやく知事は東大芦川ダムの中止を正式に表明しました。これからは思川開発事業中止に向けての運動になります。千葉県の住民運動と手を組み、利水からの撤退に向けて千葉当局を動かすのが当面の課題です。

川辺川ダムの現地からのメール

田中完治（人吉市）

熊本県人吉市在住の者です。ご存知の通り、こちらでも“川辺川ダム”が大きな問題になっています。中止に持ち込むのは実に困難なのではないか、そう思うこともあります。ですがこうして同じ活動をされている方々を知ると、我に帰り、奮い立つ事ができます。

実は私は地元出身ではありません。たまたま転勤でこの地を訪れ、球磨川、川辺川に取り憑かれてしまい（！？）、永住を決意したのでした。来た当時は、ダムはもとより川にさえ興味がない仕事三昧の転勤族サラリーマン。「ダムはきれい」、「人間がこんなもの作るなんてスゴイ」なんて調子で、今考えると悲しくなりますが、当時はダムも自然の一部のように錯覚し、木や草の緑があることが“自然がいっぱい”であると勘違いしていたのです。

ところが、地元で出会った一人の友人のおかげで、大きく価値観が変わりました。川で泳ぎ、釣りを覚え、沢歩きを覚えた頃、この川が健康でないことに気がつきます。あまりの砂防ダムの多さに驚き、非常に不快になります（確か現状で 150 基ほどあり、さらに倍近い数が予定されている）。地元の人が口にするのは―

「昔はよかったばい。水量も多く、魚もたくさんおったばってんね～」

今、工事もかなり進んでいますが、この状態でも破壊がここで止まるに越した事はありません。こちらも川辺川ダム反対運動を続けていきたいと思います。八ッ場ダムもなんとか阻止して建設中止となるよう心から願っています。頑張って下さい！

蛇口をひねれば水が出る
その水道の水も、ダムに沈む多くの住民の犠牲の上につくられた
おそろしい自然破壊、人間不信の国策によってつくられた水
ふるさとが湖底に沈む
生活している家が沈む
畑が消える
山が、川が、学校が、橋が・・・
言葉には表せないこの寂しさ、苦しさ、切なさを
一人でも多くの都会の人々に伝えたい

湖底に沈むふるさとへの思いを詩に託しています。（豊田こけし）

各都県議会の審議予定

【都議会】：12/11 の都市・環境委員会に注目！　事業費変更案を付託される同委員会の審議のみで、巨額な税金投入が決定される可能性もアリ。八ッ場ダム計画に反対する議員らは、都知事、議会各会派に要望書を提出し、継続審議に持ち込み、他県の反対運動と連携しようと頑張っています。

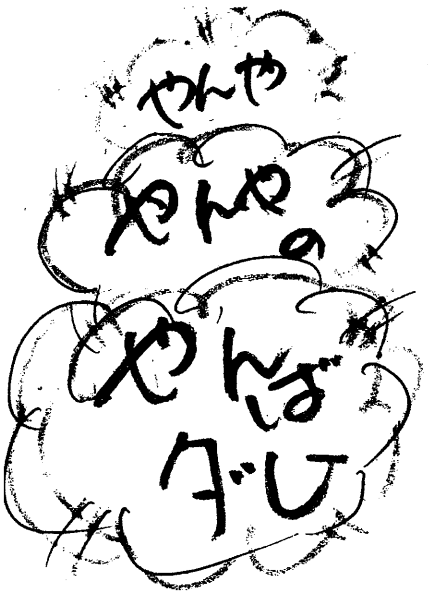
【千葉、埼玉、群馬各県議会】２月議会で審議予定。

≪議会の外で、私たちができることってなに？≫

いよいよ首都圏全体に拡がった「八ッ場ダム反対運動」が新たな段階に入ります。まずは２月議会に向けて署名運動“第一弾”をスタート。日本全国どこに住んでいる方も参加ＯＫ。その他、新聞に投書、テレビ局のホームページにメールなどなど…みんなの知恵を出し合って、“やんややんや”と八ッ場ダム反対運動を盛り上げましょう！

事務局だより

- 今号から会報は「八ッ場ダムを考える会」、「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」をはじめとする首都圏全体で“八ッ場ダム反対運動”に取り組む団体の共通会報となりました。
- 国土交通省による「八ッ場ダム事業費変更案」が発表され、事態が急展開したため今号は急遽増ページとなりました。
- 11/1 の総会記念講演会“公共事業はなぜ止まらないのか？”、11/2 の「地質」をテーマとしたエコツアーなど、是非お知らせしたい事で掲載できなかった分を含め、次号において“八ッ場ダム計画の今”をお伝えしていきます。



連絡先：

八ッ場ダムを考える会

[redacted]

首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

[redacted]

八ッ場ダムを考える千葉の会（北澤）

[redacted]

八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会（藤永）

[redacted]

八ッ場ダムを考える小平の会（深澤）[redacted]

八ッ場ダムを考える会太田支部

[redacted]

音の中で

豊田　こけし

私の住んでいる上の山から
裏の林から
対岸の畑から
朝からガーゴーギージーと
ダムの工事の音がする

その音の中で
洗濯物を干し　子守りをする
時には発破の音で
家はガタガタ　人はおののく
粉塵の上がる下で　畑を耕す
雨の日も　雪の日も
休むことなく　続けられる音

国道百四十五号線は
大型ダンプカーが
ひっきりなしに　ゆきかい
軽自動車を運転する私は
ハンドルにしがみつく

この歴史ある集落は
日々ダム工事が続いて
家はもちろん
山も　川も　谷も　畑も
すべてのものが
消えようとしている

ふるさとが
湖底に沈むということは
こんなにも
苦しく
つらいものなのか

音の中で
私は　また悲しくなる

八ッ場ダムは現在の計画では、平成22年に完成の予定です。
けれども本体工事はまだ始まっていません。
次の時代の命のために、八ッ場ダムをストップさせましょう。

【会員年中募集中】
年会費（秋の総会から次の総会まで）／個人2000円、学生1000円、団体3000円
会員には年4回会報をお届けします。

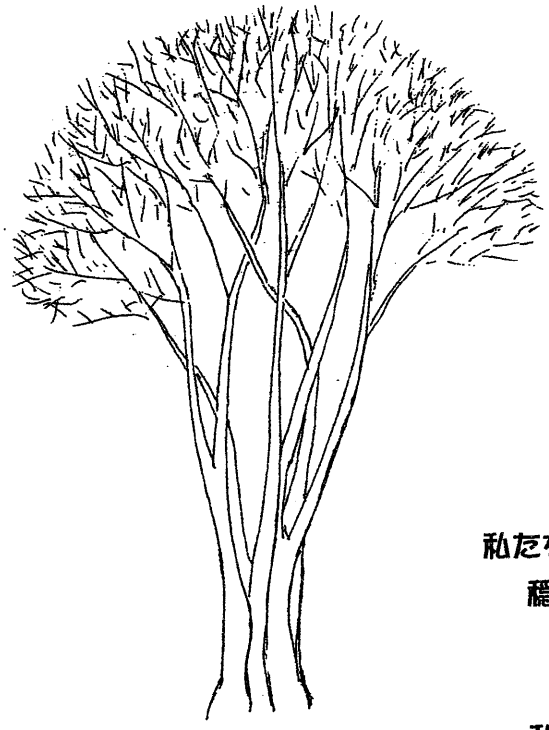
≪カンパしてもいいなという方は・・・≫どなたでもぜひ下記にお願いします。
郵便振替講座番号 00550-2-32681　（加入者名・八ッ場ダムを考える会）

発行、八ッ場ダムを考える会

吾妻渓谷
八ッ場ダム
2004.1.NO.6

選択のために　いま立ち止まるとき

利根川流域脱ダム宣言



冬から春に
自然は自然にほぐれだす
私たちの心も大自然の営みのように
穏やかに平らかにしなやかに
動き出したい

私たちと私たちの次の世代が
生きてゆける
根っこを選択するために

八ッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

吾妻渓谷にとどけ!! 群馬脱ダムの道

分水嶺のダム事業

人と自然見直し英断を

2003 喜怒哀楽 ワイド ⑥

ダム中止

拝啓、小寺弘之知事様。

私が群馬県に初めて転勤してきたとき、取材先の人が教えてくれました。「上州人はネ、義理と人情と自民党」

あれから2年9カ月。選挙や公共事業を取材して、なるほど実感いたしました。

県営倉渕ダム（倉渕村）はその最たるものでした。

折しも、隣の長野や栃木で県営ダム建設が中止となり、「脱ダム」のうねりが押し寄せてきた時、ある偉いお役人さんはこう豪語していましたっけ。

「脱ダムなんてたわごと言うやつは群馬県民じゃないぞ。この群馬で、ダムが止まるわけないがネ！」

国営ダムに比べれば、倉渕ダムは小なりとはいえ、それでも総額400億円。私たちの財布から出て行くお金です。

大規模公共工事の歯車が回り出せば、止められない。悲しいかな、止める政治もないし、止める仕組みもなかった。

しかし、小寺知事。あなたは倉渕ダム計画を見事に凍結しました。12月3日の県議会で、知事は「私の判断は200万県民の民意の最大公約数」。

正直申し上げて、「政治」がこれほど美しく心に響いたことはありません。

■■

水害防止、高崎市の利水の両面で県が描く倉渕ダムの必要性は、私たち税金を支払っている者を、「なるほど」と納得させる代物ではなかった。

絶滅が心配されるイヌワシやクマタカは、ダム予定地の上空を舞っています。身銭を切って調査した市民グループから、逆に倉渕ダムの「不必要性」を突き付けられました。

本体工事はストップしたままですし、知事の胸のうちは早い時期から「凍結やむなし」ではなかったでしょうか。

私の感覚では、春の県議選は「天下分け目の関ケ原」。倉渕ダム推進の方々が、巻き返す決戦の場だと思ったのです。

しかし、選挙戦を通じて「倉渕ダム推進」の訴えを聴くことは、ついになかった。当時、すでに「勝負あった」からだと今にして分かります。

■■

知事の凍結表明の直後、利根川下流域の都県が次々と戸倉ダム（片品村）建設に「ノー」を突き付け、国は中止に追い込まれました。

何が何でも巨大なハコモノをつくればいい、という時代は終わりました。今後、地方には未曽有の財政難が押し寄せるとのことです。

建設費が倍増し約4600億円にもなる国の八ツ場ダム（長野原町）。県の負担も倍増するらしいですね。

八ツ場ダムに反対する鬼石町の関口茂樹町長は「ダム問題とは人間の生き方の問題です」と言っています。

いま一度、人と自然のあり方を見直して頂けませんか。200万県民と「喜怒哀楽」をともにしたいと願うあなたであれば。

（奈賀 悟）

「脱ダム」年表

94年　「アメリカにおけるダム開発の時代は終わった」—米開墾局総裁ダニエル・ビアード氏による脱ダム宣言

00年　国内のダム計画、48件中止。群馬県の川古ダム、平川ダム、千葉県の追原ダムなどを含む。

01年　田中康夫長野県知事による「脱ダム宣言」。

02年　群馬県の栗原川ダム中止。熊本県、13年をめどに県営荒瀬ダムを撤去すると表明。完全撤去は国内初。

03年　7月、栃木県の県営東大芦川ダム中止を知事表明。

12月3日、小寺群馬県知事、県営倉渕ダム凍結表明。

12月16日、国土交通省、水資源機構、群馬県片品村の戸倉ダム中止を発表。着工後の国のダム事業が中止になるのは国内で初めて。既に280億円を投じていた。

拝啓、小寺弘之知事殿

小寺知事になって私も民意を代表してみました。S.N

2003.12.22

朝日新聞群馬版

ダム事業見直しが広がっている。事業費の一部を負担して取水する権利（水利権）を得る予定だった埼玉県や東京都が撤退した戸倉ダムが中止になり、大阪府や阪神水道企業団なども撤退を表明した。人口減が見込まれる中、完成済みのダムで水道水はほぼ充足。地方自治体が新規ダムに財政負担をする必要性は薄れている。これまで環境面から議論されてきたダムは今後、経済合理性がクローズアップされそうだ。

日本経済新聞
2003年（平成15年）12月24日

ダム事業、水余りで見直し

全国に広がる動き

財政負担、自治体に重く

建設費膨張、意欲そぐ

工業用水活用 国の許可待ち

近畿では「水利権転用」

経済産業省も工業用水の転用を後押しする。「水資源を有効活用して、工業用水道事業をスリムにしてほしい。経営悪化で水道料金を上げ、地域産業にマイナスになるのが一番怖い」という考えだ。

ただ、水利権の転用権限を持つ国交省の対応はまだ見えない。転用を認めないことで自治体のダム事業撤退を抑えてきた面もあり、大規模な転用を認めれば国交省の政策の大転換になる。

讀賣新聞
（平成15年）12月18日（木曜日）

戸倉ダム中止

地方の変化が国動かす

「治水」もはや免罪符にならず

ダムとし 馬県の戸倉 止が決まっ 業見直しの

池松 洋

埼玉県が先陣 遣を決め、東 なども相次いで 中止に伴い、 関整備などに や利水自治体 三百七十一億

度までの水需要見直しを要請。最大の利水者である埼玉県は、少子高齢化に伴って人口の伸びが止まることから、需要予想を一割程度引き下げた。この結果、九月に「事業参画の必要はない」との方針を固め、十一月には国交省と利水四自治体で事業撤退に基本合意したとされる。

大型事業の受け皿となる自治体の姿勢の変化を受け、国交省も水資源政策の全面的な見直しに着手した。利根川や荒川など主要七水系のダム事業の根拠となる水資源開発基本計画（フルプラン）について、新規計画の作成を断念し、新たなダム建設を含めた広域的、長期的な水資源開発事業から撤退する。

現在は二〇二年度を目標 [illegible] 見直 り、進行中の約二十事業を継続するかどうかが焦点となっている。

全国市民オンブズマン公共事業部会代表の広田次男弁護士は、「地方からの動きで国の大型ダム建設が中止となることは、水需要の過大予測が正常化するきっかけになるのでは」と歓迎する。

一方で国交省は十一月、八 [illegible] 五十箇所 故

埼玉 客 設 告 間の 考え

国土交通省は10日、利根川、淀川など全国7水系に対して政府が策定中の新たな水資源開発基本計画（フルプラン、目標年度は主として2015年度）では、国直轄や独立行政法人・水資源機構による新たな利水ダム建設計画を盛り込まない方針を固めた。少子高齢化の進展や景気の低迷を背景に水需要が伸び悩んでいることや、国や地方自治体の財政難に配慮したためだ。同省は、関係省庁や都道府県と調整を進めたうえで、04年度中に同計画を閣議決定する。

（日刊）
MAINICHI
毎日新聞
発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1 〒100-8051 電話(03)3212-0321
毎日新聞東京本社 郵便振替口座 00190-3-23840
©毎日新聞社 2004

2004.1.11

7水系新規ダム見送り

基本計画 需要減・財政難で

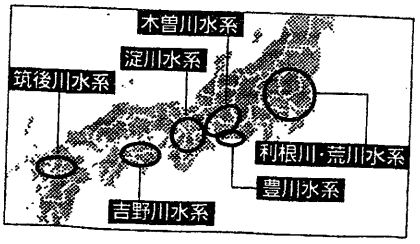
国交省方針

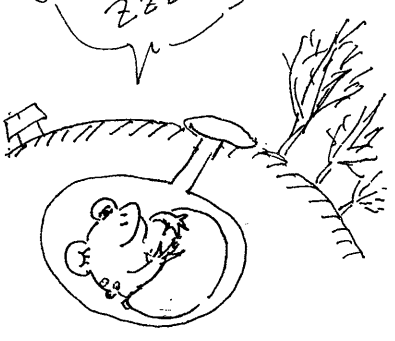
新たな基本計画では、これまでの計画で認められたダム建設計画は継続する方針だが、水資源機構が建設していた戸倉ダム（群馬県片品村）が建設中止となるなど、既存計画を見直す動きも強まりそうだ。

同省は、新たな基本計画では、ダムなどの施設建設に比重を置いてきたこれまでの計画を全面的に改めて、渇水期の安定供給をはじめ、用途転用などでの既存ダムの有効活用に重点を移す考えだ。

【中村篤志】

国交省方針





八ッ場事務局日記

疾風怒涛の12月

昨年11月20日、国土交通省が八ッ場ダムの事業費変更案を発表して以来、突然「やんややんや」と注目を浴び始めた八ッ場ダム計画。マスコミへの露出度もグンとアップしましたが、目に見えないところでも各地で様々な動きがありました。
（文中の「首都圏の会」は「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」、「ヤンバの会」は「八ッ場ダムを考える会」の略称です。）

まずは国会議員に訴え

12月1日　「首都圏の会」、「ヤンバの会」、国会議員会館へ。民主党国会議員、佐藤謙一郎氏と話し合う（中村敦夫氏の秘書も同席）。

都議会に向け―東京と現地で、同時進行

5日　国土交通省は事業費変更案を関係各都県の12月議会での採決を求めていた。(埼玉、千葉、群馬、茨木は、2、3月議会でと決定)。

都議会は12月議会で採決との情報が入り、「首都圏の会」メンバーら、都庁にて記者会見。都知事、都議会各派に要請書を提出。各地のメンバーが20名参加。

一方、八ッ場現地では民主党都議が現地入り。国交省の案内で工事現場を見学後、「ヤンバの会」に意見を求める。

前橋で緊急集会

7日　「首都圏の会」、「ヤンバ」の会共催の集会が、たった一週間の準備で開かれる。鬼石町の関口町長、都議の大河原雅子氏らの熱いスピーチ、水源連の遠藤氏の科学的なデータを駆使した解説に、聴衆は熱心に聞き入る。利根川の上流、下流の住民が、初めて心を一つにして集会アピールを採択。

「生活者ネット」都議らが泊りがけで現地視察。国交省の現場案内の後、「ヤンバの会」と意見交換。

要請書を手に群馬県庁へ

9日　「ヤンバの会」「首都圏の会」連名で群馬県知事、県議会に要請書を提出。

千葉でも要望書が

10日　千葉県議会の共産党、社民党・県民連合、市民ネット・無所属市民の会、水と緑の会の四会派が、事業から撤退するよう堂本知事に要望書を提出。知事は「水をいただく立場の下流県から反対は言いにくい」としながらも、水需要を再検討する必要はある」と。

都議会、都市環境委員会スタート

11日　都議会都市環境委員会で質疑。

民主党―　水の自給率を上げる施策を掲げる「東京都水循環マスタープラン」との整合性を追及し、「慎重審議」を要望。

共産党―　水需要予測が過大、水道料金値上げにつながる。ダムを造らない政策を考えるなど、時間をかけて審議する問題だ。

市民ネット―　利水、治水両面で目的を失ったダム計画。地下水利用自治体の意見を聞き、負担金増額について、都民へ説明責任を果たす必要がある。

12日　同委員会で採決。野党は「継続審議」を求めたが、自民、公明両党の賛成で、7：5の僅差で採択。　一方、足銀問題で揺れる栃木県議会では、八ッ場問題は注目されず、この日あっさりと本会議で採決された。

ニュースステーション

17日　都議会本会議最終日。民主党は採決にあたり、全員退場。

Nステ放映。久米宏キャスターは「なんで石原都知事がOKしたのか理解できません」とコメント。

埼玉県知事、「不愉快千万」と

18日　埼玉県で懇話会を開催。識者らによって八ッ場ダム計画増額の根拠が問われた。懇話会メンバーからは、ダム計画の必要性を問題視する意見は出ず。

19日　「埼玉の会」、「首都圏の会」などで埼玉県知事に要望書を提出し、20分知事と面談。上田知事は「国交省は事業費を見直す機会がありながら途中経過を報告せず、いきなり倍増では簡単に受け入れられない。戸倉ダムから撤退の際、八ッ場ダムの水があれば足りるという計算だったので、計画そのものは原則的に賛成との立場だが、データや状況の変化があれば再検討の余地もある」と語る。

現地レクチャーツワー

25～27日　2グループの現地視察＆レクチャーが行われる。マスコミ関係者、埼玉県会議員らが泊りがけで現地入り。

2003.12.27 朝日新聞群馬版.

八ツ場ダム建設予定地

地盤・水問題学ぶ

「考える会」見学ツアー　埼玉県議も参加

25、26の両日、長野原町の八ツ場ダム建設予定地を見学するツアーがあった。主催した市民団体「八ッ場ダムを考える会」の会員や学生など約20人が工事現場を見学し、地質や水問題の視点から、ダム事業の問題点を学んだ。同ダムの利水者の埼玉県から県議らも参加した。

国交省の担当者の説明を聞く参加者ら＝長野原町の「代替地」工事現場で

25日は、ダム本体の建設予定地などをバスで巡り、国土交通省の担当者の説明を聞いた。地元住民がダム完成時に移住する「代替地」の工事現場では、参加者から「山を切り開いて造った土地が崩れる心配はないのか」などの質問が出た。

26日の勉強会では、地元の地質を研究する中村庄八さんが、建設予定地の地盤の弱さについて解説した。中村さんは「浅間山が噴火し、崩れてできた土砂が堆積している。ダムができて水が入れば、弱い地盤がさらに崩れやすくなる。代替地でも地滑りが起きるかもしれない」と指摘した。

また、水源開発問題全国連絡会代表の嶋津暉之さんは「水利用の増加はすでに頭打ちで、新たなダム建設は必要ない」と訴えた。

26日には、大口利水者である埼玉県の県議ら5人が参加。民主党の当麻よし子県議は「地元の人はほとんど利益を受けず、50年間翻弄されてきた。埼玉の水利権は八ッ場ダムとは別に確保できるよう考えたい」と話した。

現地レクチャーより　（2003.12.26）

八ッ場ダムの問題点

嶋津暉之（水源開発問題全国連絡会共同代表）

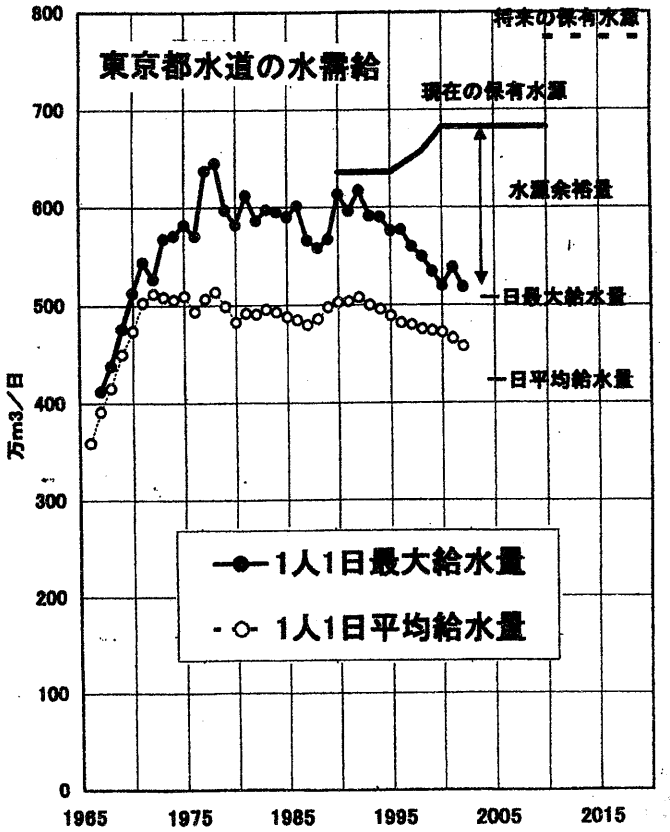
水あまりの首都圏

首都圏の水をめぐる状況は、この十年で一変した。

東京都では（下図）一人当たりの給水量が減少の一途を辿り、人口は依然増え続けているにもかかわらず、この十年間で水道給水量が一日100万m3も減少している。

現在、都は一日約680万m3の水源を確保している。最近の一日最大配水量は520万m3だから、150万m3／日以上の余剰水源を抱えていることになる。

埼玉、千葉においても水あまりの状況になっている。首都圏では2015年頃には人口がピークに達し、その後は減少傾向になる事を考慮すれば、新たな水源開発の必要性は見出せない。



治水に八ッ場ダムは必要か

次にダム建設のもう一つの目的、治水について検討してみることにしよう。

利根川の治水を語る時、必ず引き合いに出されるのが1947年のカスリン台風である。治水計画は、この時の洪水をベースに策定されている（右上図）。

利根川中流に八斗島（やったじま）という地名がある。この八斗島を基準点として、カスリン台風並の洪水に備えるというのがダムを造る理由である。しかし、カスリン台風は戦争直後に起こったものであり、食糧難で山麓を開墾し、燃料確保のために森林を乱伐した当時の時代状況が原因で大洪水が出たことは今では明らかになっている。それでも八斗島地点での実績流量は1万7000m3／秒に過ぎない。

国土交通省は、流域の開発が進んだなどの理由で、現在カスリン台風並の雨が降れば、2万2000m3／秒の最大洪水流量になると計算している。しかし実際には、戦後、森林が

生長してきた結果、図にも示されている通り、最大洪水流量が1万m3／秒を超えたことがない。国は200年に一度の洪水に備えた計画としているが、2万2000m3／秒という数字そのものが信憑性のない数字であると言わざるをえない。

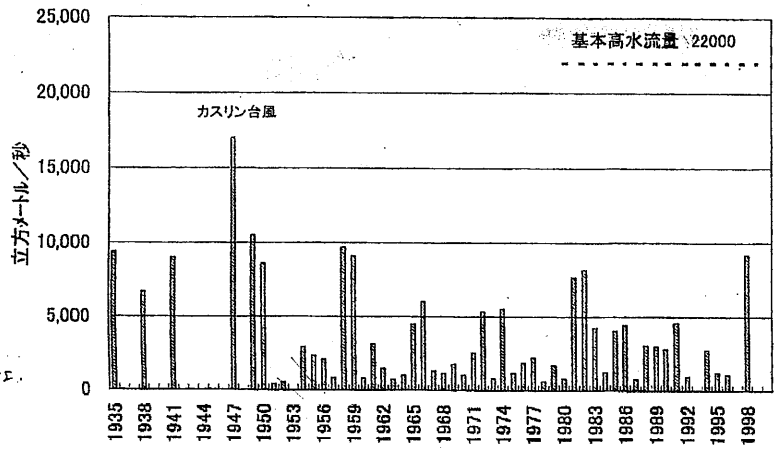


図3　利根川・八斗島地点の年最大流量

八ッ場ダムの完成時期は？

八ッ場ダムの完成予定年度は2010年度となっているが、これから代替地の本格的な造成、個別の補償交渉、付け替え鉄道の建設、転流工、本体工事などを進めるわけで、順調にいって15年以上かかるとみるのが妥当であろう。

それは予算の面からも裏付けられる。事業費が2,110億円から4,600億円になっても、国家財政が厳しい状況にあることから、毎年の事業費は従来どおりの予算が精一杯というところである。今後の残事業費は約2,900億円であるから、毎年の事業費を今まで通りの200億円前後とすれば、あと15年以上かかることになる。実際には他のダムと同様、事業費の再度の増額があるだろうから、完成時期は順調にいっても2020年頃であると考えられる。

オールクリアーの時代

現在のダムをめぐる状況は、次の4つの特徴で言い表せるのではないだろうか？

① 水あまりの時代
② ダム不要の治水対策の時代
③ 地方が国にものを言う時代
④ オールクリアの時代

つい最近までは、一度始まった水源開発が止まる事は殆どなかった。

長良川河口堰問題で、三重県が国に水利権の返還を申し入れたにもかかわらず相手にされなかったなどは、その好例である。ところが最近は、地方が申し入れをした場合、国がその要求を無視できない状況が多くなってきた。或る政治的な変化が、それまで不可能だった事を突然実現させてしまう、つまり何でもありの時代になったと言えるであろう。

八ッ場ダムに関しては、水没予定地の人々が50年以上もダムに翻弄されてきた歴史を無視するわけにはいかない。今ダムが突然中止になれば、代替地などへの移転を前提とした生活設計が白紙に戻され、地元の人々を絶望の淵に追い込む事になりかねない。

政策転換の時代にあって、今後はダム中止後も、ダム予定地の生活再建の推進を可能にする法制度の枠組みを考え、その整備を図る事を国に求めていくことが必要である。

これは大変！八ッ場の地質

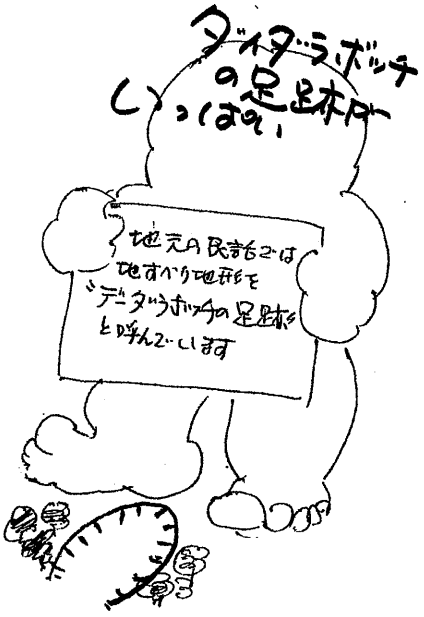
吾妻渓谷から白砂川との合流点に至る約８キロは、地殻変動の激しい地帯です。

— なんと、ここがそのままダムの予定地なのです。

吾妻渓谷は約２万年前にできたばかりの赤ちゃんのように新しく脆弱な地質からなっています。

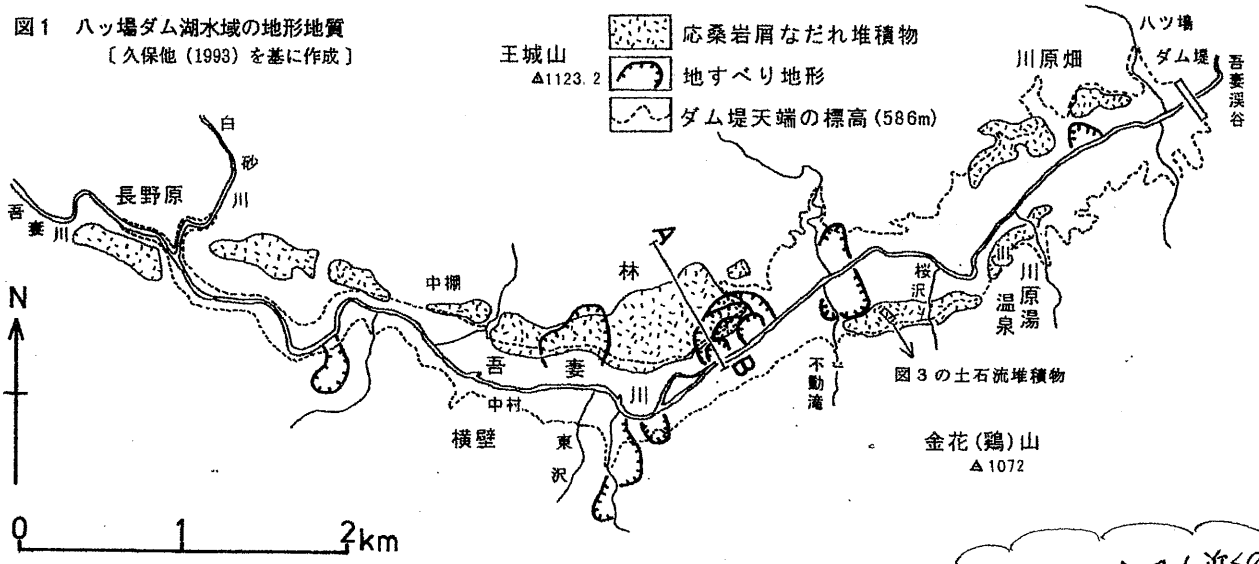
浅間山噴火によって発生した「応桑岩屑なだれ」(岩屑なだれとは、火山体の一部がこわれて岩塊群となり、なだれのように高速で崩れ落ちる現象)は、渓谷一帯を厚く覆っています。そのため吾妻渓谷は、重力的に大変不安定な地形となっています。

この地質は岩塊と粗い火山灰からなり、多量の水を含むと粘土状になり、地すべりを起こします。



No.87・夏・群馬評論(2001)　地学団体研究会　中村庄八

図１　八ッ場ダム湖水域の地形地質
〔久保他（1993）を基に作成〕



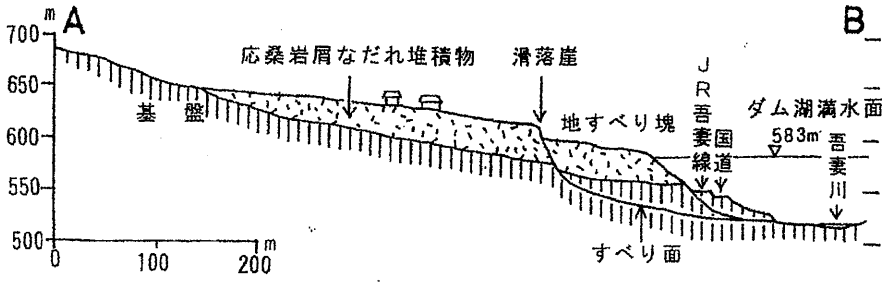


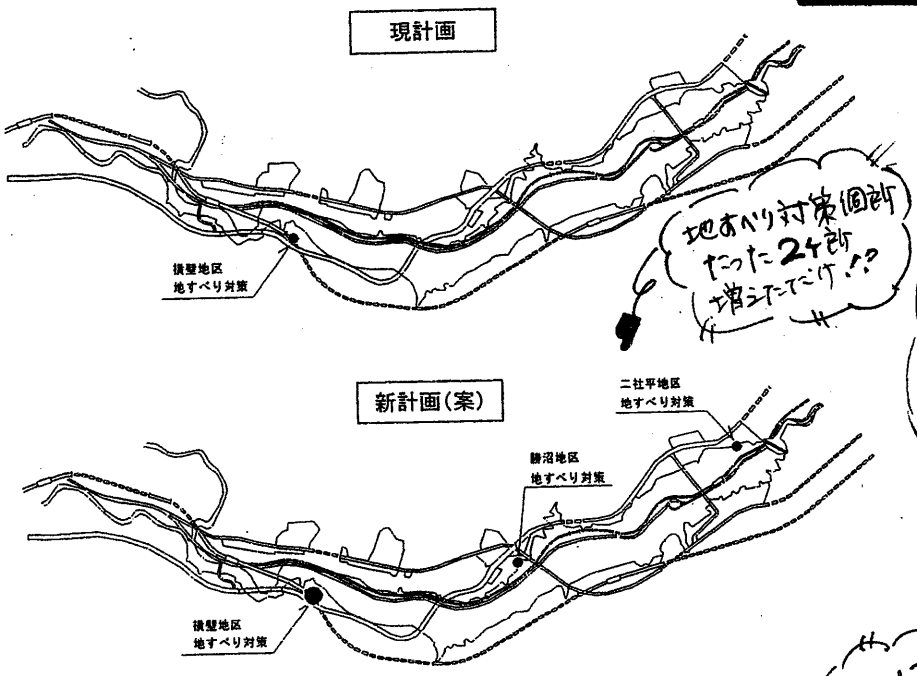
図２　林集落の表層地質断面
（A－Bの断面位置は図１に記入）

水をはったら、ダム近くの住宅地に地割れが起きたという、奈良の大滝ダムよりも、地質的には八ッ場の方がずっともろいダムに向かないところです。使えるダムにしようと思ったら、もう一つダムを造るくらい工事費がかかるでしょうねエ。

中村庄八さん

図表は
関係6都県からの質問に対する
国交省の回答より
2003.秋版

地滑り箇所位置図



地すべり対策個所
たった24箇所
増えただけ!?

この新計画で
八ッ場ダムを
造ったら…
どうなっちゃうの〜

国交省は
本気なのかな?

葉っぱをのっけても
オレたち とても
ここまでは…

地すべり工事 安全性には目をつぶり

え!? え!?

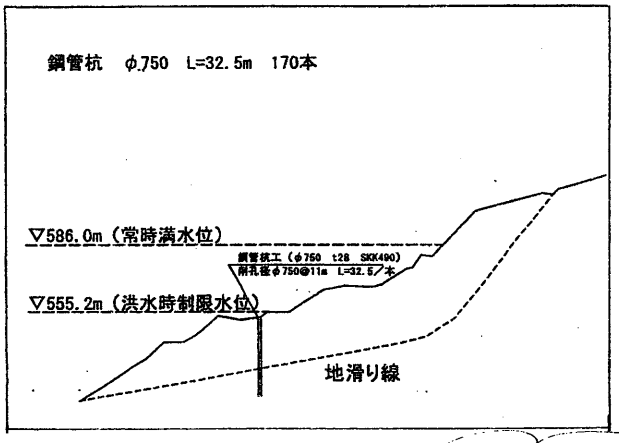
工種	現事業費 数量	現事業費 金額(百万円)	新事業費(案) 数量	新事業費(案) 金額(百万円)	増減 数量(千円)	増減 金額(百万円)
横壁地区地滑り対策	1式	234	1式	395	1式	161
勝沼地区地滑り対策	0式	0	1式	(3,554) 100	1式	(3,554) 100
二社平地区地滑り対策	0式	0	1式	(968) 87	1式	(968) 87
計		234		(4,917) 582		(4,683) 348

注)(　)書きはコスト縮減前額である。

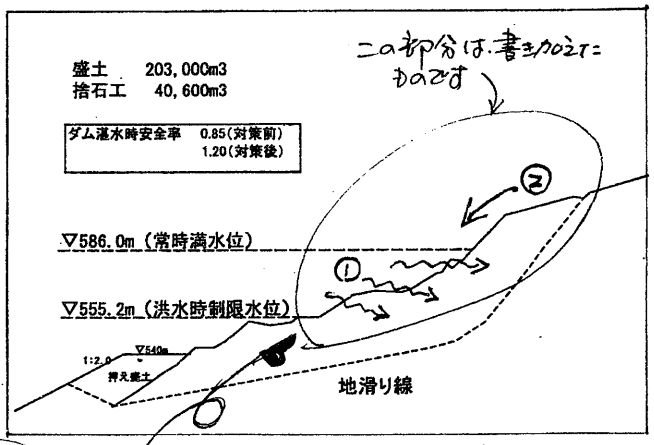
価格的には
充分ご満足いた
だけるかと…

勝沼地区地滑り対策
対策断面図

コスト縮減前



コスト縮減後



湖水が満たされると、
地すべりを起こしやすい地層に水がしみ込み、
② その上の湖上の地面までくずれる危険性があると、地質の専門家から指摘されています。

2003.12.3
群馬

倉渕ダム凍結！

高崎の水を考える会代表・高階（たかはし）ミチ子

昨年12月3日、小寺群馬県知事は県営倉渕ダムの凍結を表明しました。一度始まったら止まらないはずの公共事業、しかも総事業費400億円のうち、すでに160億円が投じられたダム建設が事実上止まったのです。

知らないことの怖さ

下久保ダムを町内に抱える鬼石町町長、関口茂樹さんが、大きな目をさらに大きく見開き、柔和な顔を鬼のようにして力説されているのを多くの方はご存知だと思います。

「知らないということは、本当に怖いことですよ！　ダムを造ればこんなにも村が発展すると言われました。でも今になってみると、みなウソの情報だったんです。造ってからでは何を言っても遅い。その前にしっかり検討することです」

私は一昨年、「高崎の水を考える会」に参加して、倉渕ダム計画の全容を知り、改めて知らないことの恐ろしさに気づきました。

ダムの契約には、お金の負担のことが書いてあるだけです。400億円もの巨費を投じるからには、ダムによって得るもの、失うものがキチンと検証され、その情報が公開されて皆の納得が得られなければならない筈です。

この2年間、科学的な事実をどのように見直しの力に変えるかに腐心してきました。まずはダムの目的とされる治水・利水について、専門家に疑問点をまとめてもらいました。その情報を首長、議員、土木業界などあらゆる方面の方達にうるさく思われるほど提供し、本当にこの事業はプラスなのか公開質問を重ねました。高崎市、榛名町、倉渕村など流域の一般の方々にも学習会、署名活動を行い、人々の思いを引き出してきました。

聞く耳をもたないからとあきらめず

高崎市では、市内の公民館で学習会を開催。統一地方選の前にやらなくてはと、寒い最中26の公民館を会場にして…正直言って寝る間もなく、傍からは無謀だと言われました。それでも私自身、新しい事を知る喜びをエネルギーとし、時には暖かい着物でおしゃれも楽しみつつ連日の学習会をこなしました。後にこれが功を奏した事がわかりました。

当初は殆どの議員が、行政側の主張を鵜呑みにしていました。

「議会ではもう10年も前に議決してしまった。今更そんな事言われても…第一、地盤沈下や地下水の問題がある。ダムを造って表流水を得るしかないんだ」

ところが市長選が終わった頃、議員の方から「話を聞きたい」ともちかけて来るようになり、私達の説明に、「驚いた。全く知らなかった」という反応が返ってきたのです。その後、私達が得た情報は市議会から県議会へ、党派を超えて伝えられていた事を知りました。

つながり合うことが力に

現在、私たちの社会が直面している環境問題は、従来の手法ではなかなか解決の道筋が見えてこないのではないでしょうか？　「いのち」の存続が問われる時、知事も、市長も、議員も、学者も、一般市民も、みな立場の違いを超えて、同じ一人の人間として答えを求められているのだと思います。　人と人とのネットワークを駆使して情報を共有化していく事―倉渕ダム問題に関わって、新しい市民運動の一つのあり方が見えてきたような気がしています。

八ッ場のおかしな物語　その2

一億円上乗せは、怠慢から

4600 億円と二倍にもはね上がった八ッ場ダム事業費が値上げされ、正式発表されたのは去る 11 月 20 日。その日、現地では予測済みのすでに周知のこととして、極めて冷静であった。

それよりも腹立たしいのは、国道１４５号線の付け替え道路、八ッ場バイパスは国土交通省側がしぶる住民たちを説得し、四車線道路建設を言い張って強行したはずであったのに、変更となり、地元民の主張どおりの二車線になっていたことである。水没民たちは手放しでは喜べず「それなら、なにも最初から」と不満の声が出るのも至極当然。

そもそも「四車線なんかいらない。ムダであり、車が素通りしてしまって、活性化しない」と二車線を希望してやまなかった。「させてくれ」と拝み倒すように懇願の果ての決定であったそうである。それがどうしたことか、今回の縮小となった。しかも事前に何らの参考意見も求められずの決定であったという。

つまり何事もゼネコン業界の仕事づくりであることが浮かび上がる。コンサルタントも設計業者も、そしてどこかの政党ならびに政治家への献金も、また額面の大きな工事ならば、その受け取る額面もおのずと大きくなるのだから……。

いまや道路建設のカラクリが指摘され、かつてない不景気風の前に、初の志断念か。だが、犠牲を強いる住民への生活再建の変更だけはあってはなるまい。

想えばダム建設の１通の文書が届いた 1952 年以来 51 年間、ここでは何一つ自分たちで、明日の方向付けが出来なかった。闘争挫折後は、日々建設促進にむかってノロノロ歩かせられ、ダム建設地の宿命という檻の中に囲われてきた。

嘆きの声は住民無視の歴史の底にくすぶり、癒しがたくよどむしかないのか。

さて、初春の現地では、昨年 12 月 15 日夕刻発表された代替地分譲価格が等価交換価格を上回ったことにより、揺れている（因みに灰塚ダムでは半額）。

（すずき）

2,3 月議県会の前に

シンポジウム、講演会のお知らせ

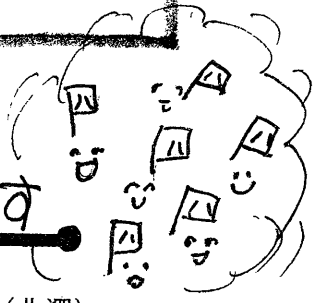
埼玉，千葉，群馬，栃木の４県では、八ッ場ダム建設の事業費大幅総額案が 2,3 月議会で決議される予定です。
大変な問題が，その内容も意味もほとんど知られないままに決められていくのは，それこそ大変な問題。
目の前に立ち現れた首都圏のダム問題を，今、考えてみませんか。

2月1日（日）　**「シンポジウム　八ッ場の地質を検証する」**
会場：　前橋市　群馬県女性会館
時間：　午後１時～4時
講師：　中村庄八　嶋津暉之　藤原信　関口茂樹

2月7日（土）　**「今、八ッ場ダムは必要か？」**
会場：　国分寺労政事務所
時間：　午後１時半～4時半
講師：　中村敦夫　嶋津暉之　中村庄八

2月11日（祝）　**「八ッ場ダムは本当に必要か？」**
会場：　さいたま市文化センター
時間：　午後１時～4時
講師：　中村敦夫　嶋津暉之

首都圏の各地に　市民の拠点があります



＊八ッ場ダムを考える会
[redacted]

＊首都圏のダム問題を考える市民と議員の会
[redacted]

＊八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会（藤永）
[redacted]

＊八ッ場ダムを考える千葉の会（北澤）
[redacted]

＊　八ッ場ダムを考える小平の会（田中）
[redacted]

＊八ッ場ダムを考える市民の会おおた（あべ）
[redacted]

【事務局からのお知らせ】

☆署名運動について

今回は、「群馬県知事宛て」と「国土交通大臣宛て」の署名用紙２枚をＡ3 用紙一枚にして同封いたしました。「群馬県知事宛て」署名は、２月議会直前の 2/15 が締め切りとなります。**全国から「八ッ場ダムに NO!」の声を是非お寄せください。**

また、「国土交通大臣宛て」の署名運動は、「八ッ場ダム計画」がストップするまで続きますが、ある程度署名が集まりましたら、どうか返送をお願いいたします。

☆新ＨＰスタート！

お待たせしました。やっとこ新しいホームページが立ち上がる事になりました。表紙から順次アップしていきますので、すばらしい（？）ページになるまでにはまだちょっと時間がかかりそうですが、ぜひ「**八ッ場ダムを考える会**」を検索してみてください。

☆会費納入のお願い

今年度（昨年秋の総会より次年度の総会まで）の会費納入がまだの方は、同封の振込用紙にてお振込みをお願いいたします。すでにお振込み済みの方にも、振込用紙が同封されておりますが、カンパの際にご利用いただくためですので、何卒ご了承ください。

今年もどうぞよろしく

さつま芋、里芋、じゃが芋、それにかぼちゃ

芋で太りがこの一年

八ッ場ダムを考える会事務局

カモシカ

豊田　こけし

前の山も
裏の林も
下の川も
ダムの工事で
カモシカは棲むところを
追われたのか

我が家の段々畑に
この一週間
カモシカは動かない

今朝は霜の降りた庭に
子どものカモシカが
ゆっくり散歩していた
食べ物がないのかな

カモシカは
大根の葉をいっぱい食べて
雑木林の中へ
ゆっくり帰っていった

八ッ場ダムは現在の計画では、平成22年に完成の予定です。
けれども本体工事はまだ始まっていません。
次の時代の命のために、八ッ場ダムをストップさせましょう。

【会員年中募集中】
年会費（秋の総会から次の総会まで）／個人2000円、学生1000円、団体3000円
会員には年4回会報をお届けします。

≪カンパしてもいいなという方は・・・≫どなたでもぜひ下記にお願いします。
郵便振替講座番号 00550-2-32681　（加入者名・八ッ場ダムを考える会）

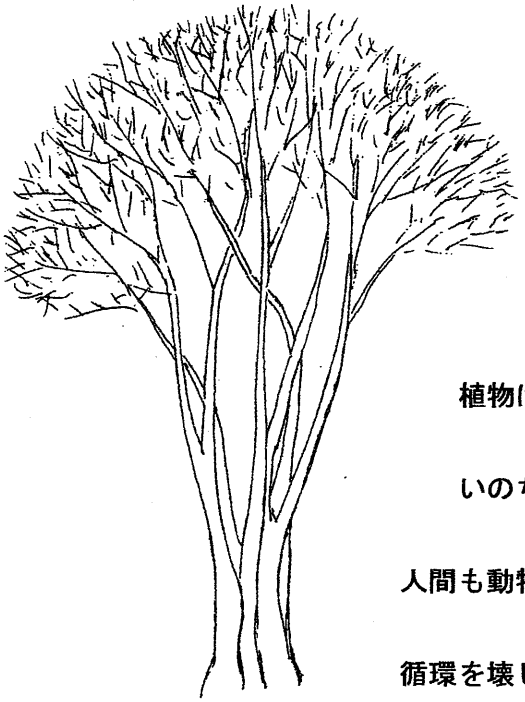
発行：　八ッ場ダムを考える会

吾妻渓谷
八ッ場ダム
2004. 4.　No. 7

本当の事は単純なはず

いのちの大曼荼羅の中で

利根川流域脱ダム宣言



地球上はいのちの大曼荼羅。

植物は花と新緑にあふれ、鳥たちはさえずり合い、
光に輝いている今、
いのちの、エネルギーの大循環が伝わってくる。

人間も動物も植物も、よく生きよとて生まれてくるはず。
その頂点に立つ人間が、
循環を壊し、いのちを破壊し、共喰いをするような道を、
何故進もうとしてしまうのか。

私たち一人一人の心の中で、
自足と想像力と寛容の領域がもう少し広がったなら、
いのちの大曼荼羅の中で、
人間も、それらしく豊かに生きられるのでは。

八ッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

舞台は国会　いよいよ登場、国交省　院内集会

昨年 11 月、事業費の倍増案が発表されて以来、首都圏ではそれまで一般に知名度の低かった「八ツ場」への関心がにわかに高まりました。各地の市民団体は 12 月以降、7 回の集会を催し、延べ約 700 名が参加。中でも 2 月 12 日の院内集会では、佐藤謙一郎国会議員（公共事業チェック議員の会事務局長、民主党衆議院議員）のコーディネイトにより国交省との意見交換が実現しました。

院内集会で市民側が提起した問題点は主に以下の三点。

① 八ツ場ダムの利水上の必要性
② 利根川の治水計画の現実性
③ 奈良県の大滝ダムのようにダム完成後に地質が問題となる可能性

嶋津暉之氏ら市民側は、科学的な分析を踏まえ、八ツ場ダム計画の矛盾点を次々と指摘。佐藤謙一郎議員をして「国交省と市民との意見交換に今までいろいろなテーマで立ち会ってきたが、官僚がこれほど返答に窮する場面は遭遇したことがない」と言わしめるほど熱のこもった論戦が繰り広げられました。

院内集会後、市民側はさらに過去のダム事業費の実績、治水計画の計算の根拠などについて国交省に資料を請求しました（右ページの資料はその一部）。

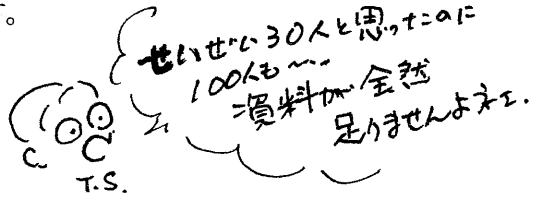
この間、千葉、埼玉県議会では、八ツ場ダムをめぐって様々な角度から質疑が重ねられましたが、結局は与党の力に押切られる形で、両県とも負担を受け入れることに。

千葉県議会最終日の３月１９日、市民側にようやく請求資料が届けられました。回答の内容について嶋津氏は、「今回の回答で国交省の主張がいかにいい加減なものであるかよくわかった」とコメント。

市民側は現在、国交省と二回目の意見交換を行う準備中。予定のテーマは

① 利水について・・・今後の水需要、利根川の不安定水利権
② 治水について・・・基本高水流量 22.000m3/秒の妥当性、八ツ場ダムの治水効果、利根川の氾濫と八ツ場ダム
③ 八ツ場ダムの完成時期について・・・予算からみた完成時期
④ 川原湯温泉街の移転再建について・・・代替地の造成時期、安全性など

地元、群馬県議会をのぞき、関係各都県は負担金受け入れを決定しましたが、同時に６都県は負担減額を要請しました。それを受けた国交省は３月末に「八ツ場ダムに関して意見交換をする機関を設置する」と発表。今後はいよいよ八ツ場ダムの事業主である国交省の判断が問われることになります。



国交省の資料は語る

2010年度完成は到底無理

ダム事業費

「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」では、八ッ場ダムの事業費について国交省に以下の表の資料を求めた。これは、今までのダムで予算額が大きい例を具体的に示すことによって、八ッ場ダムへの予算投入が現実に可能かどうかを国交省に示してもらうためである。

ダム事業費について

(1)年度予算額

順位	事業名	年度※1	予算額※2（百万円）	
1	宮が瀬ダム	H5	41,750	神奈川県
2	大滝ダム	H10	30,300	奈良県
3	琵琶湖開発	H元、H2、H3	27,000	滋賀県
4	長良川河口堰	H4、H5	25,000	三重県
5	月山ダム	H10	24,818	山形県
6	摺上川ダム	H10	24,760	福島県
7	滝沢ダム	H14	23,606	埼玉県
8	浦山ダム	H4	23,080	埼玉県
9	富郷ダム	H7	21,889	愛媛県
10	八ッ場ダム	H14	21,499	群馬県

※1　各事業毎に最終予算額が最大となる年度を抽出。
（期間は昭和61年度～平成15年度）
※2　予算額は年度の最終予算額（共同費）

(2)連続した5ヵ年の年度予算額の合計

順位	事業名	年度※1	予算額※2（百万円）	
1	宮ヶ瀬ダム	H3～H7	162,410	神奈川県
2	琵琶湖開発	S62～H3	126,570	滋賀県
3	大滝ダム	H9～H13	122,953	奈良県
4	八ッ場ダム	H11～H15	95,999	群馬県
5	摺上川ダム	H10～H14	89,261	福島県
6	滝沢ダム	H10～H14	88,245	埼玉県
7	長良川河口堰	H元～H5	87,040	三重県
8	利根川広域導水	H3～H7	85,190	千葉県
9	徳山ダム	H10～H14	80,499	岐阜県
10	灰塚ダム	H6～H10	80,220	広島県

※1　各事業毎に続した5ヵ年の最終予算額の合計が最大となる期間を抽出。
（期間は昭和61年度～平成15年度）
※2　予算額は最終予算額（共同費）

八ッ場ダムの事業費が4600億円になったのに伴い、2005年度以降の残事業費は2700億円―つまり6年間で2700億円、年間450億円を6年間続けて注ぎ込まなければならなくなった。

資料によれば、今までのダムで単年度予算の最高額は宮ケ瀬ダムの約1620億円（1991～95年度）。八つ場ダムの場合は5年間で2250億円必要であるから、宮ケ瀬ダムをはるかに上回る予算が必要である。しかも1997年頃までは全国のダム事業費が約6500億円あったが、その後は減りつづけて来年度は3800億円になっている。これからは宮ケ瀬ダムのような予算をとること自体が困難になっている。

八ッ場ダムの完成年度は予定では2010年度となっているが、事業費の面からもこれは到底無理である。

嶋津暉之（水源開発問題全国連絡会）

。首都圏以外の国会議員も多数参加。
熊本（川辺川）の議員さんも来てくださいました

埼玉

埼玉県に公開質問

八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会

埼玉県では３月の県議会で八ツ場ダムの事業費変更案が通過しました。

上田県知事は「国交省に追随するだけではいけない」と、昨年 12 月、第三者機関による懇話会を設けましたが、懇話会が出した結論は「増額やむなし」。今回の議案通過は、既にこの時に道筋がつけられていたわけですが、「増額を受け入れるが、後で減額を要求する」という県の説明は何とも歯切れが悪く、一般県民にとって納得のいくものではありません。

そこで市民側では 2 月 21 日に公開質問書を埼玉県に提出しました。3 月 29 日にその回答がありましたが、なお不明な点が多々あるため、今回再度、公開質問書を提出しました。その中で特に重要な点は以下のとおりです。

1　八ッ場ダムの完成時期について

八ッ場ダムの完成時期は 2010 年度となっていますが、実際に 2010 年度に完成させるためには今までに例のない集中的な予算投入が必要で、予算面からみても 10 年程度の遅れは必至と考えられます。完成時期が 10 年も遅れれば、水需要のピークも過ぎてしまうので、この完成時期は非常に重要です。この件に関して県は「国土交通省が 2010 年度に完成できると明言している。」と回答するだけで、実際に可能かどうかの検討を行おうともしません。そこで、仮に 2010 年度に完成させるため、八ッ場ダム建設に予算を集中的に投入した場合(毎年 450 億円)、埼玉県の毎年の負担額がいくらになるかを計算することを求めました。

2　埼玉県水道の冬期水利権の不可解な負担率引き上げについて

今回の基本計画変更に伴い、埼玉県水道の場合、冬期水利権（冬期のみ取水できる水利権）の毎秒 1m3 あたりの負担率が 1.09%から 1.61%へと、大幅に引き上げられています、変更前の負担率のままならば、埼玉県水道の負担額は 220 億円も減額されます。他の都県の場合、冬期水利権の毎秒 1m3 あたりの負担率が 1%程度であるのに、なぜ埼玉県のみがその 1.6 倍の負担をしなければならないのか、理解できません。この点に関しては不明朗な回答しかなかったので、負担率 1.61%の計算根拠を明らかにすることを求めました。

3　利根川治水計画の妥当性について

先の質問書で、利根川の治水計画は現実性を欠いており、八ッ場ダムの治水面での必要性が希薄であることを指摘しましたが、この件に関して県は「利根川の治水計画は国が立てることになっているから、その妥当性を本県では検証したことがない。」と回答するだけでした。しかし、八ッ場ダムの治水部分だけで埼玉県は 180 億円も負担するのですから、検証しないと言って済む話ではありません。そこで、利根川における八ッ場ダムの治水効果について、その数字と根拠データを示すことを求めました。

「実は民主党の埼玉県議団がいろいろと頑張ってくれたんです。昨年末には川原湯温泉にとまり、真剣に八ッ場問題に取り組んでくれましたが、数の力に負…」

八ッ場ダム攻防戦 ～千葉冬の陣～

大野ひろみ
（千葉県議会議員・市民ネットワーク千葉県）

前哨戦

時は西暦2003年11月、お上からのお達し「事業費倍増」で、わが房（ふさ）の国もにわかに騒がしくなった。

とにかく、事業費増額を議会に上程されたら、圧倒的多数の自民党衆によって可決されるのは火を見るより明らか。環境派知事堂本さんも、こと八ッ場ダムとなるとトーンダウン。「千葉は水がないのよね」を繰り返すばかり。「お金もないでしょ？　知恵もないでしょ？」と混ぜっ返したくなるのをグッとこらえ、反対の意見書、要望書を出し、アピールの記者会見もした。

幸い、12月県議会では議案は上程されず、無事年を越したが、テキは虎視眈々。

人口予測、波高し

県の言い分は一貫して「人口のピークを迎える2015年には水は足りなくなる」。県の推測では、15年には人口が630万～640万人。今より30～40万人もふえるから、40万人分の水がめとなる八ッ場ダムは必要というストーリー。ところが国の人口問題研究所の推測値は610万人。しかもそれ以降は減っていく。

しかし驚いたことに、県の担当者は、人口研の数字より自分の数字の方が正しいと言い放った。年金など国の政策は人口研の予測を基にしているんだけど、といくら反論しても、「千葉には千葉の事情がある」。

いろんなすれ違いの中で特に面白かった(？)のは、県が八ッ場ダムに参画を決めた昭和62年の人口予測。平成12年には人口631万人以上という超バブリーな予測を立てた。ところが実際の人口は590万人。その差ずばり40万人！

主戦場にて

さて、本会議が始まり、各会派が次々と八ッ場ダムについて質問を繰り広げた。

自民党はもちろん賛成の立場の質問。民主党は、湯浅県議が反対の立場での代表質問をした。公明党は特に八ッ場には触れず、社民、共産党はもちろん反対の論陣を張る。

そして、わが会派の吉川さん。前夜私の用意した人口予測のグラフを振りかざし、正鵠を射る質問ではあった。もっとも、傍聴席で見ていた人からは、カレンダーの裏紙だというのはすぐ分かったよ、と言われたが…

内堀も埋められる

県議会は数の世界。最大会派の自民党が「クロ」と言えば、シロもクロ。だから、議案が上程された時点で結果は明白。従って、そのあとの土木常任委員会でも、最終日の本会議でも、八ッ場ダムが可決されるのは、長島監督がアテネに行くよりもありえないことは分かっていた。

しかしゴマメは歯ぎしりをするもの。私は最終日に、この議案に対する反対討論をした。

闘いすんで、日は暮れて

千葉県もダム建設へとGOサインを出してしまったが、まだあきらめたわけではない。相撲でいえば徳俵に乗っかっている状態。一発逆転もありえる。それには世論を形成するしかない。

私の住む佐倉市では、八ッ場ダムができると、水道水の地下水と表流水の割合が、今の65：35から、30:70へと逆転する。うまくて安い水が、まずくて高い水になると聞けば、殆どの市民がダムなんか要らないと言う。今後もせっせと世論を盛り立てようと、まずは5月に嶋津さんの学習会を開く予定。

現地「上流」社会の皆さんとも連絡を密にして、下流の千葉もがんばります！

三月議会に掛けられなかった

群馬県の場合

○県議会での質問○

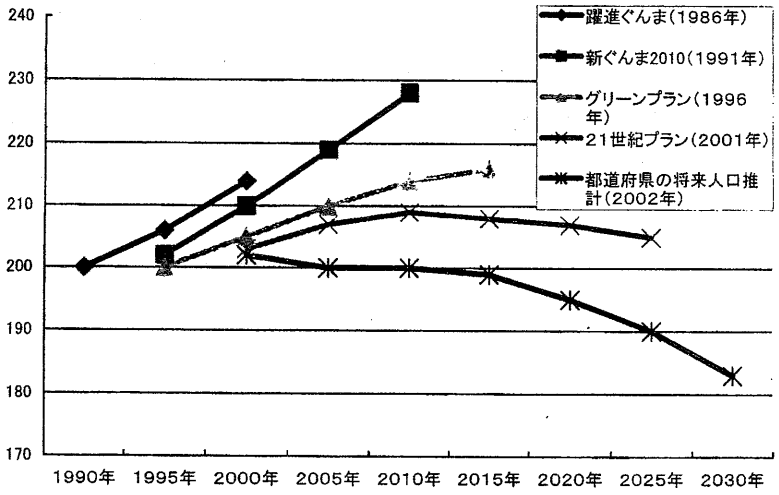
国交省との間に戸倉ダムの地元対策という懸案を抱えている群馬県は、八ッ場ダム関係一都五県の中で唯一増額案を受け入れていない。しかし群馬県でも八ッ場ダムに水利権を設定しており、東部水道（太田市、館林市、邑楽郡）、県央第２水道（前橋市、伊勢崎市、黒保根村、東をのぞく勢多郡と佐波郡）へ配水することになっている。３月議会では伊藤祐司県議（共産党）が県の水道事業のあり方に疑問を投げかけた。（以下は伊藤県議による質問の抜粋。）

Y.ITO.

◆見直すたびに低くなる人口予測◆

群馬県が５年ごとに立てている総合計画の人口予測をグラフに表すと（表 1)、右肩下がりになっているのは明らかだ。県の水道事業に対する取組みは、未だに人口が増え、景気も上昇する右肩上がりの時代に作られた計画に引っぱられている。しかし現実には、1998 年と 2000 年の上水道の供給実績は減少している。もっと科学性をもったしっかりとした見直しをするべきではないだろうか？

（表1）



◆群馬県平野部は地下水豊富な扇状地◆

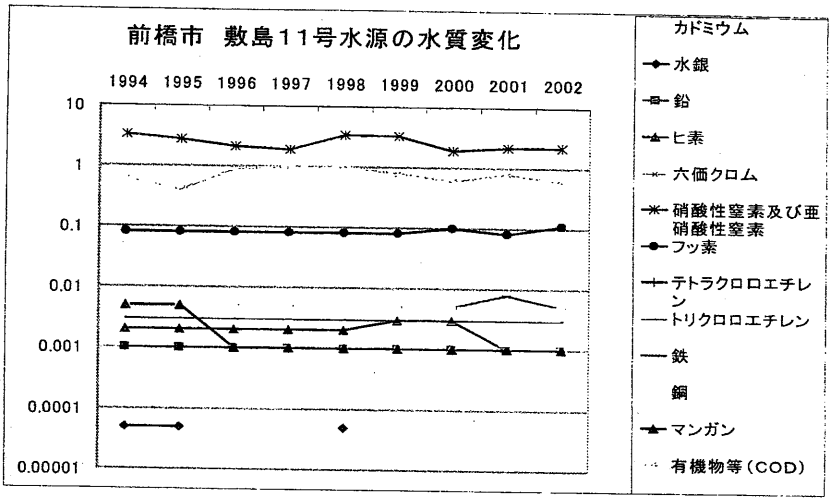
「八ッ場ダムの利水は、現在市町村が独自に持っている地下水源を表流水に切り替えることを前提として進められている。だが専門家によれば、前橋、伊勢崎などの扇状地は 200～300 メートルの砂礫層があり、地下水が極めて豊富だ。その貯水量はおよそ２０億トンといわれ、八ッ場ダム満水時の２０杯分になる。

かつては地盤沈下が表流水転化の最大の理由だったが、環境白書を見ると県内の地盤沈下はすでに沈静化して久しく、水源井戸の水位の低下も見られない。水質データを見ても 10 年単位でほとんど変化はなく（表 2：前橋市敷島 11 号水源の水質変化)、表流水に比べて水質が良い。適正量を使い続けることこそ地下水保全のために重要であると言われている。

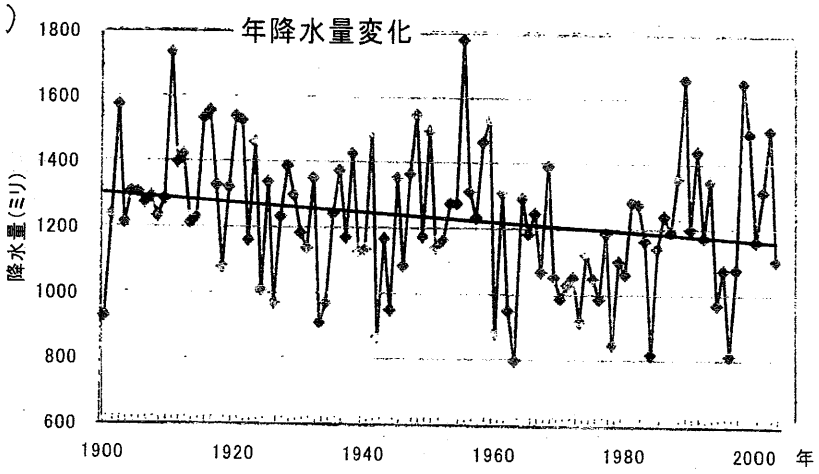
前橋地方気象台のデータを見ると（表 3)、関東地方は少雨傾向にあるといえる。このことからも表流水よりも安定した水源といえる地下水の保全と活用は、今後の水道事業にとって重要になるのではないだろうか？

群馬

（表2）



（表3）



前橋地方気象台のこの１００年の
年間降雨量の統計とその線形近似のグラフ

∞戸倉と八ッ場∞

地元の長野原町長が、最近自ら、大滝ダムの現地視察に出かけたそうです。

さる２月19日、「八ッ場ダムを考える会」事務局は群馬県庁の特定ダム対策課（特ダム課）を訪ねた。特ダム課が手がける２大事業の一つ、戸倉ダム（群馬県片品村）が建設半ばで中止となった今、八ッ場ダムについて特ダム課の対応や如何に？

特ダム課：「戸倉にしても八ッ場にしても国が進めた事業。ところが下流都県が必要としなくなったから中止すると。ダムによる地域振興というバラ色の夢を見てきた地元にすれば、どうしてくれるんだということになる。私達は東京や埼玉にとんでいって、何とかしてほしいと頼みましたよ。ところが、ダムの話がなくなったからもう関係ないという。今、国に地元対策を要請しているところです」

八ッ場の会：「八ッ場についても同じ事が起こるのでは？　それに予定地は地すべり多発地帯。奈良の大滝ダムのようにダムを造って周辺住民が住めなくなる可能性を考えたら、このまま国まかせでいいのかと県民は不安です」

特ダム課：「ダムができても特ダム課の事務所はそのまま現地におきます。地すべりが起きたら、その時は対策を立てていくらでも予算を当てるから心配ありません」

八ッ場の会「でも予算は私達の税金から出るのでは・・・？」

ルポ　第一小　裏手斜面を歩けば

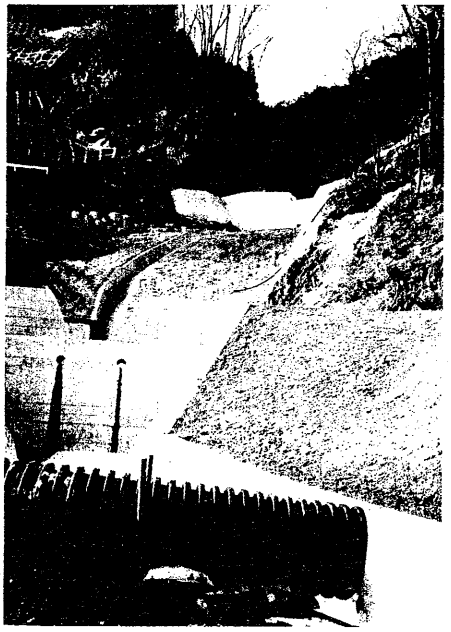
長野原第一小学校のある「林地区東原代替地造成工事」は１０億３５００万円にて、新井組が請負い、山中への進入路、周囲の山の傾斜面へのアンカー施工、盛土、砂防ダムなどの工事に二年間要した。０１年９月に造成が完了し、直後より校舎の新築工事が始まった。山を崩し平地にするだけでも計三年間かかった２万㎡の敷地である。

校舎裏手の急峻な防災工事は、次の三形態に大別される。①左側――アンカー設置　②中央部――防災ダム４基造成　③右側――「折の沢ビオトープ」計画にて開発されつくして、砂防ダムが大小併せ、およそ７基も設置されている。(※他に問題点も多く今回紹介しきれず、写真も含めて割愛)。

それぞれの頂き・沢筋をたどれば、山肌は極めてもろく、樹木はその岩に堆積した数㌢の土壌にしがみつくように生え、岩肌とは剥離していて、簡単に樹木ごとはがせそうな気配さえある。折の沢川筋の岩はパイ状に剥げ落ちてしまう。岩盤の上を無理やりシートで覆ったような急ごしらえの防災工事にしか、素人目にも見えない。

岩肌を縫うように巡らされた水抜きの大小の導水管は、あたかも手術後患者の身体に張り巡らされた管のように感じられてしまう、異様な光景である。

(撮影日はいずれも2004年2月29日　鈴木郁子記)

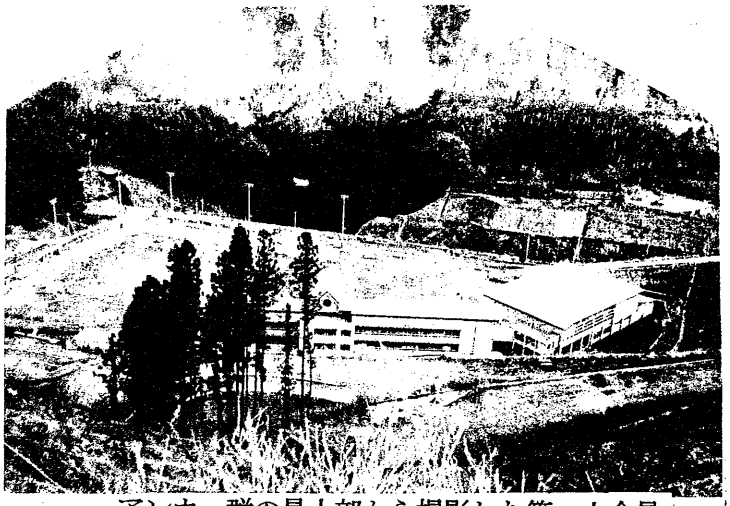


②中央部―わずかな間隔に防災ダムが４基連なるように造成(頂上の死角部分にもう一基ある)。手前は水の導水管。

①山肌を覆うアンカーの群れ

ノリ面一帯には、メーカーと工法の異なる数種類のアンカーが、迫るように施されていて、そら恐ろしい景観である。

杉木立の上方のアンカー内部の陥没部分



アンカー群の最上部から撮影した第一小全景

もし、大災害が起きれば、アンカーもろとも柔らかな土砂は崩れ落ち、もろに校舎を直撃するような危険地帯に素人には思えてならない……

※アンカーは、(メーカーにより異なるが)、土中にコンクリートミルクを流し込み通例は20㍍ほども食い込んでいるので安全性は高いとの由だが……。しかも1基流し込むのにおよそ20分ほど要し、費用も驚くほど高額とのこと(詳細は各社HP等で)

※お詫びと訂正――前号、「八ッ場のおかしな物語」第２回の表題にミスプリントがありました。正しくは、「これじゃ、生活再建できない代替地価格」です。

新たなダムバスター登場！

砂防ダム直下の小学校は危険

― civil engineering の立場から見た八ツ場ダムの問題点―

矢部　俊介

土木工学って英語では civil engineering って いうんですよね。 市民のために役立つ 工学って。 私は、そういう者に なりたいんです。

「私は一人の土木技術者として、少しでも多くの方にわが国の公共事業のシステムをわかってもらうために技術的な解析を行っています。

わが国の将来を考えたとき、ムダな公共事業のおかしなシステムを改善しなければ、日本は借金だらけで滅びると痛感しています。

八ツ場ダムに関しては、ダム問題が複雑化しているため、全体的にこうだと簡潔に言うことはできません。しかし、具外的にこれは明らかに問題だと思われることがありますので、述べたいと思います。」

長野原第一小学校

新しく建てられた長野原第一小学校は、近代的で児童が勉強するには良い施設だと考えられる。しかし小学校のすぐ上には建設されたばかりの砂防（防災）ダムが存在する。こんな場所は日本全国広しといえども他に探すのは難しいのではないだろうか？

砂防ダムがあるということは、そこが「危険」だと警告しているようなもので、児童達の安全や将来を考えたものとは到底考えられない。山岳地帯でやむを得ず、この場所しか小学校を移転することができなかったのであろう。砂防ダム付近は工事が終了しておらず、仮設のままの状態で放置してあり、雨が多いこれからの時期には非常に危険と言えよう。

小学校の背面は山を削り、強引に整地した跡が生々しく、山の削り面のほとんど全面に「のり面保護工」が施してある。「のり面保護」は削り面の崩落を防止するためのものだが、児童たちが遊びで登る危険性もあり、また維持管理を適切に行わなければ崩落することもある。町の教育委員会は、土石流や地すべりが発生する可能性がある場合は、児童を退避させる防災システムを構築していると考えられるが、それにしてもここまでしてダムを建設する意味があるのか、また現地再建を推進する意味があるのか甚だ疑問である。

事務局だより

≪署名運動　―　次の締め切りは5月15日≫

八ッ場ダムを考える会では12月半ばより署名運動を開始しました。第一次締め切りは2月15日と運動期間はわずか2ヶ月でしたが、集計の結果、「群馬県知事、議会宛」の署名が総計5362筆となりました。内訳は群馬県内2989筆、県外2373筆（東京884筆、千葉519筆、埼玉456筆、栃木174筆、茨城70筆、その他270筆）。

「何十年も東京の水政策に疑問をもってきました。これが最後のチャンスかもしれないと知り合いに頼んで」何百筆も送ってきた方、「沖縄旅行に行った時、珊瑚礁を守る運動をしている人達に説明して」集めてくださった方、「周りはわからないけれど、私たちは反対です」とご夫婦お二人の署名を送ってきた方などなど・・・。貴重な思いがこめられた署名を2月19日に群馬県知事、県議会各会派に提出しました。

第2次締め切りは6月議会前の5月15日とします。署名を集めてくださった方は、お手数ですが「八ッ場ダムを考える市民の会おおた」にお送りください。

なお「国土交通大臣宛」の署名運動も引き続き行っています。提出は少し先になる予定ですが、こちらも是非ご協力ください。2種類の署名用紙は、切り離してどちらか一方だけご利用くださってもかまいません。

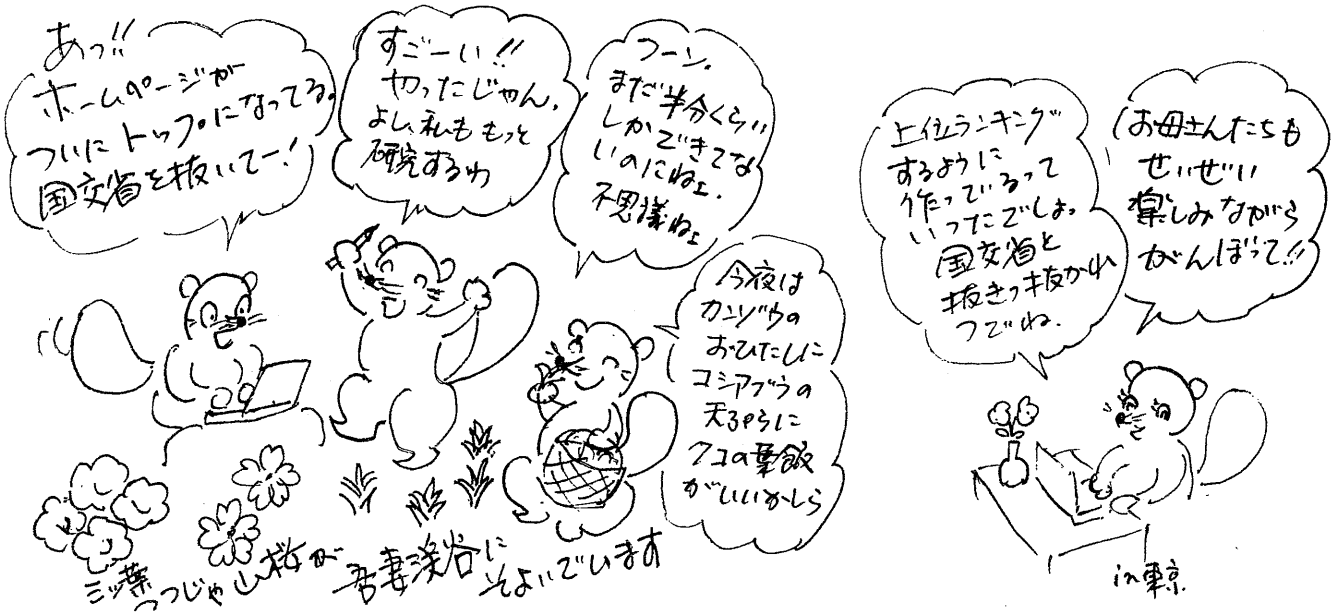
http://yamba.parfe.jp/

≪ホームページ開設のお知らせ≫

八ッ場ダムを考える会の新しいホームページ「八ッ場ダムを考える会―利根川水系脱ダム宣言」を開設しました。

八ッ場ダム問題を様々な視点から検証した資料、イベントなどの最新情報をアップしていきますので、アクセスしてみてください。

現在、「八ッ場ダム」をキーワードに検索すると、「八ッ場ダム工事事務所」がトップ、2番目に会のホームページが来ます。クリックする方が多ければ多いほど順位が上がり、順位が上がればそれだけ読む人が増えます。税金をふんだんに使った国交省のホームページを抜くのは容易ではありませんが、内容の充実度では負けないつもりです。八ッ場ダムの問題がより広く知られるように、どうぞいっぱいクリックしてください！



≪市民オンブズマン、立ち上がる≫

嶋津暉之さんが朝日新聞の「私の視点」に「八ッ場ダム 必要性の徹底検証を求める」を投稿したのがきっかけとなり、全国市民オンブズマンが八ッ場ダム問題に取り組むことになりました。

市民の立場に立って行政の“見張り番”役を担ってきたオンブズマンは、今までも談合、カラ出張などの問題に取り組んできました。この記事を読んだ弁護士らが「八ッ場ダム計画は大きな政策的な課題。なんとかしなければ」と、「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」などの市民団体に呼びかけました。3月21日に第一回の話し合いが行われ、「八ッ場ダム住民訴訟準備会」が発足しました。

八ッ場ダムに関係する首都圏一都五県がいっせいに住民監査請求と住民訴訟を起こすためには、各地の市民の幅広い支援が必要だということです。今後の動向については、その都度会報でお知らせしていく予定です。

≪会費の納入について≫

事務作業の都合もあり、会費をお支払いいただいた方にも郵便振替用紙が同封されています。どうかご了承ください。

アメリカから、ダム撤去の専門家を招いての会議が、名古屋(3/28)と長野(3/27)でありました。事務局も手分けして出掛けてきました。

ダム建設が中止になっても心配することはありません。ダム撤去という新事業がありますから。
という発言もありました

つんつんだ!
女代の時間だよ

我家の食堂の出窓のすぐ外。てっせんの中に野ばトが巣を作り、代わる代わる卵を暖めています
渡

● 首都圏各地に市民の拠点があります ●

＊首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

[redacted]

＊八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会（藤永）

[redacted]

＊ 八ッ場ダムを考える千葉の会（北澤）

[redacted]

＊ 八ッ場ダムを考える小平の会（田中）

[redacted]

＊ 八ッ場ダムを考える市民の会おおた（あべ）

[redacted]

みんなで八ッ場を歌って歩こう会

日時:　2004年5月22日(土)～23日(日)

場所:　吾妻渓谷周辺
最寄り駅:JR吾妻線「川原湯温泉駅」

日程:　1日目
川原湯温泉「敬業館みよしや」宿泊
夕食後、午後7時頃より大広間で
山西哲郎トーク「動楽―心も体もさわやか健康づくり」
笠木透"ミニコンサートの夕べ"

2日目
午前9時　川原湯温泉駅前集合
(高崎方面より来る方は、高崎駅7:25発、温泉駅8:42着)
「新緑の吾妻渓谷を歌って歩こう」
午後2時頃　旅館で解散

参加費:　両日参加の場合
12,000円(宿泊、2日目の昼食込み)

2日目のみ参加の場合
3,000円(昼食込み)

お申込み:　[redacted]
みんなで八ツ場を歌って歩こう会実行委員会事務局

締め切り:　5月10日(宿泊は先着100名までです)

お問合せ:　群馬大学教育学部 山西哲郎研究室
[redacted]

新緑の吾妻渓谷イベント情報

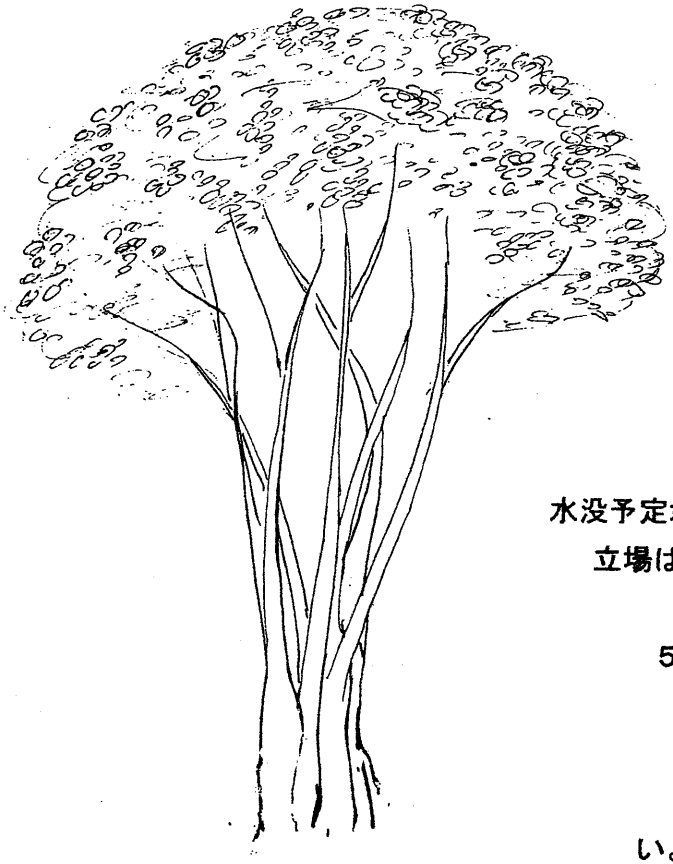
【会員年じゅう募集中】
年会費(秋の総会から次の総会まで)／個人2000円、学生1000円、団体3000円、
会員には年4回の会報をお届けします。
≪カンパしてもいいなという方は・・・≫　ぜひ下記にお願いします。
郵便振替口座番号00550－2－32681　(加入者名:八ッ場ダムを考える会)

発行:八ッ場ダムを考える会

吾妻渓谷
ハッ場ダム
2004. 7.　No. 8

地元が動いた・下流が動いた

利根川流域脱ダム宣言



長野原町と東京、
水没予定地と下流首都圏で二つのチラシが発行されました。
立場は違えど、国土交通省よ、いい加減にしてくれ、
という思いは同じです。
５２年の長い長いハッ場ダムの歴史の中で、
上流と下流が同時に
国に対して異議申し立てをしたのは
実は、初めてのこと。
いよいよ、全国のダム反対運動の集大成として
“ハッ場”が首都圏を揺るがすときがやってきました。

ハッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

多摩の豊かな地下水が八ッ場ダムで切られてしまう?!

東京

だけど、都の保有水源としては認めないって。すごく変なのよ!!

多摩地域の地下水、いつのまにか正規水源に

大河原雅子（東京都議会議員）

◆予備水源だった多摩の地下水◆

人口集中の著しい首都、東京にあって、私たちの生活にとってかけがえのない“水”の問題は、いつのまにか水道行政という形で、私たちの知らないところで管理されるようになっていました。

東京西部の多摩地域では、昭和30年頃から急速な都市化が進む中、２３区の水道事業との格差解消という名目で水道一元化計画が立てられました。ところがこの計画は、実は八ッ場ダムを初めとする水源開発を進めるために、水源を地下水から河川水（ダム開発水）に切り替えることが目的の計画だったのです。

多摩は元々、豊かで良質な地下水を抱え、住民が水の恩恵を受けてきた地域です。東京都は、水道一元化計画で多摩の水道地下水を統合後も、従来と変わらずに地下水を使いながら、水源としては認可を申請してきませんでした。地下水は災害時などに使う非常用の「予備水源」として位置づけるという説明は説得力を欠く、と多くの市民が疑問を抱いたのも当然です。

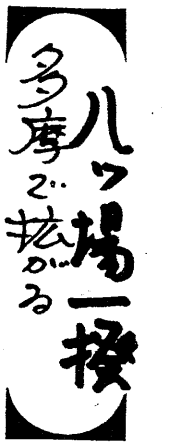
◆市民の知らないあいだに◆

長年、東京都に対して「多摩地域の水道地下水を正規の水源と位置づける」ことを求めて活動してきましたが、さる3月30日、都がすでに多摩の水道地下水を正規水源として申請し、認可を受けていたことがわかりました。これは国の指導によるものですが、ようやく市民の意見に行政側が歩み寄ったという形です。多摩では実際、毎日約40万トン、利根川水系の奈良俣ダムなら2基分にあたる地下水を汲み上げています。これを都が予備水源としてきたこと、汲み上げ実態を知りながら予備水源のまま認可を与えてきた国の姿勢は、共にダム開発を優先してきた国と都の馴れ合いの構図を示すものです。

◆八ッ場ダムと地下水◆

ダム開発の遅れから、都は「可能な限り地下水利用を図る」と公言するようになりましたが、汚染や水位低下で揚水できなくなる地下水井への対策はなおざりにされたままです。正規の水源となった以上、「都の保有水源に組み入れ、八ッ場ダムを是認した水需給計画を見直すべきではないか？」という疑問に、都は、「認可水源と保有水源は必ずしも一致しない」「地下水は将来的には不安定な水源という認識はこれまで同様、変っていない」というなんとも矛盾した見解を示しています。

地下水と八ッ場ダムは、東京の水を考える上で、互いに深い関わりをもつ重要な問題です。矛盾した都の地下水利用のあり方を問い直すことが、都の財政に無用な負担を強いる八ッ場ダム事業を見直す運動につながるのではないでしょうか？



「八ッ場ダムNO！」の声が首都圏各地の点から面へ、ジワジワと拡がりつつあります。昨年の千葉県佐倉、習志野、船橋、八街に続き、今年は東京西部、多摩地域の市議会で狼煙が上がり始めました。

口火を切ったのは、長年、市民が野川の再生、地域の地下水保全運動を熱心に進めてきた小金井市。小金井生活者ネットワークが議員提案して以来３年を経て、この三月議会において「小金井市地下水および湧水保全条例」が成立。同時に、「水あまりに逆行し、無駄な公共事業となる八ッ場ダム計画の廃止を求める意見書」を国に提出。

さらに小平市では、昨年１１月に産声を上げた「八ッ場ダムを考える小平の会」と市民ネットワークがスクラムを組んで脱ダム運動を展開。６月議会において下記の意見書を提出。これをもって「小平の会」は発展的に解消し、新たに「八ッ場ダムをストップさせる東京の会」が発足しました。隣の立川市でも、同様の意見書が継続審議中です。

八ッ場ダム建設見直しを求める意見書

国土交通省は、平成15年11月に八ッ場ダムの事業費を、約2,110億円から全国最大となる4,600億円に引き上げることで関係都県知事に意見照会を行いました。

利根川・荒川水系の八ッ場ダムは、東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、群馬県への都市用水の供給を主目的として約50年前に計画されたものです。

この半世紀間、社会的・経済的環境の極めて大きな変動があったにもかかわらず、ダム計画の見直しをしないまま事業費だけ増額するという公共事業のあり方は、到底納得できるものではありません。

これまで、多摩地域の住民は良質な地下水を水源として利用しており、地下水利用や雨水利用、また下水のリサイクル等を行い、地域の資源と水循環を重視してきました。ところが八ッ場ダム計画は、こうした多摩地域の市民と行政の努力にもかかわらず貴重な地下水の利用を危うくさせ、八ッ場ダム建設事業費倍増による大きな財政負担を生み出そうとしています。

ダム建設の主目的である首都圏への都市用水の供給についても、種々の予測によれば今後の人口漸減その他により水需要が減少する時代が到来するとされています。

国はこうした事情を考慮して、直ちに首都圏の水需要について再精査を行い、都民の財政負担の不必要な増加を中止し、国民の生活の安定と幸福を守るという行政本来の立場に戻るべきであると考えます。

よって小平市議会は、八ッ場ダム建設について人口、水需要などの社会・経済的変化や環境保全の原則を踏まえて、十分な見直しを行うことを求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

内閣総理大臣　国土交通大臣　あて

(2004年6月29日　6月定例会本会議最終日可決)

ヤンバとインバ

千葉県議会議員　大野博美

仕切りなおし

３月の県議会で、八ツ場ダム事業費の増額が自民党・公明党の「数の暴力」団によって可決されて以来、議会に関しては「仕切りなおし」しかありません。

６月議会は、私の１年に１回の質問の場です。色々質問事項が目白押し、それをわずか３０分でやらなくてはなりません。しかも、今回は地元の印旛沼に関わる質問が控えています。

ヤンバとインバ。その印旛沼は、「お水系」議員の私がかかえるもう一つの重要課題。

「ごめん、今回はインバなの。ヤンバはまたね」と、吾妻渓谷の方向に手を合わせ、心の中でシクシク泣いた佐倉の夜…

ところが質問の通告も迫ってきたある日、長年環境問題を一緒にやってきた友人が、「大野さん、これだけ集めたよ」と持ってきたのが、八ツ場ダム反対の署名用紙。随分前に渡してあったのを、いまだにシコシコ集めてくれていたのでした。とっくに締め切りは過ぎていたのだけれど、ひとりで２００筆も集めた彼女の思いに、胸が熱くなりました。

佐倉の水がまずくなる

佐倉では、八ツ場ダム反対に熱が入る理由があります。佐倉の水道水は、現在地下水と表流水の割合が、６５％対３５％。昔は100%、おいしい地下水でした。それが、地下水くみ上げは地盤沈下を進めるから、という県の条例のせいで、暫定水源としてしか認められず、表流水を押し付けられてきたのです。八ツ場ダムが完成すると、地下水と表流水の割合は、３０％対７０％と逆転してしまいます。

だから私たちさくら・市民ネットワークではあらゆる機会を通じて、「ヤンバができると、佐倉の水道は高くて、まずくて、危険な水になるよ」と、訴えつづけてきました。

できれば、佐倉市に「地下水保全条例」を私たちの手で作ろう、というのが数年来の野望です。そんな思いに共感してくれる市民が八ツ場ダム反対運動にも共感してくれているのです。

「そうだ、たくさんの市民の後押しがあるんだ」と、200筆の署名用紙を前に、私の闘志は再び頭をもたげました。

６月議会でも質問！

幸い、東京都議会の大河原議員から「コストに関する新しい連絡協議会なるものができたらしい」という情報が入ったので、急いで調べることにしました。

県に問い合わせたら、この会はコスト削減が主な目的で、構成メンバーは副知事以下、関係部署の部長が４人。八ツ場ダムにＧＯサインを出した「検討会」と全く同じメンツじゃありませんか。

こんなことでは、またもや国交省の言いなりになるじゃないの！と、私の「怒りのアフガン」に火がつきました。

しかし、何しろ盛りだくさん、テンコモリの質問事項。メインディッシュは他に譲って、ヤンバは最後のデザートにしました。

- 連絡協議会を、コスト削減に限らず、地すべり対策や環境保全なども含めた事業の見直しをする場にしてはどうか？
- 公平な目で検証するため、民間人や学者を入れた第三者機関の設置を、堂本知事が先頭に立って、他の都県に呼びかける考えはないか。
- 工期が延長された場合、財政難の千葉県はどうするのか。
- 誤った千葉県の水需要予測を、今一度見なおす気はないか。

以上４項目を質問しましたが、予想通り、県の答弁は木で鼻をくくり、節穴で目をふさぎ、真綿で首をしめるようなものでした。

今後は住民監査請求に向けて、○○○シを締め直し、鉢巻を巻きなおします。

今後とも、みなさんよろしく！！！

埼玉県に公開質問書 part 2

藤永知子（八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会事務局長）

「埼玉の会」では、さる５月２２～２３日、ダム現地を見学しました。参加者は特に長野原第一小の砂防ダムの巨大さや、これほど地質が脆弱な、条件の悪い場所に小学校があることに驚き、ダムが本体のみならず周辺に与える影響の深刻さを目の当たりにして、改めて八ッ場ダム見直しの必要性を痛感しました。

さて埼玉の会では、2月21日に公開質問書を埼玉県に提出。3月29日にその回答がありましたが、不明な点が多々あった為、5月7日に再度、公開質問書を提出しました。6月15日になってようやく回答がありましたが、残念ながら説得力のある内容とはいえませんでした。質問事項は治水、利水、財政負担など7項目にわたりましたが、ここでは、以下の2項目について、質問と回答の内容を紹介します

1　冬期水利権の不可解な負担率引き上げについて

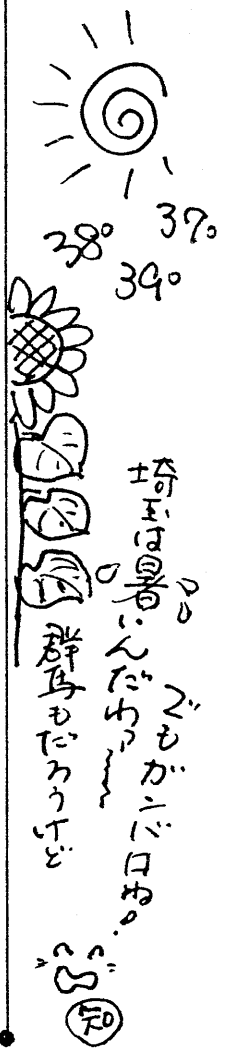
今回の基本計画変更に伴い、埼玉県水道の場合、冬期水利権（冬期のみ取水できる水利権）の毎秒1m3あたりの負担率が1.09%から1.61%へと、大幅に引き上げられています、他の都県の場合、冬期水利権の毎秒1m3あたりの負担率が1%程度であり、、なぜ埼玉県のみがその1.6倍の負担をしなければならないのか、理解できません。他の都県並みの負担率ならば、埼玉県水道の負担額は110億円（国庫補助金を除く）も減額されます。そこで、負担率1.61%の計算根拠を明らかにすることを求めました。

回答の主旨は、「今回の基本計画変更に伴い、埼玉県は冬期水利権を約2倍に増やしたので、増加分はダムの利水計画上は新規参入のような扱いになり、その結果、毎秒1m3あたりの負担率が割高になった。」というものでした。しかし、同じダム計画の中で、新規参入者として扱われるということの意味を理解できません。同じダム計画の中で同じ冬期水利権を使うのですから、立場は平等なはずです。埼玉県はなぜ公平な費用負担を求めないのでしょうか。

2　地下水と地盤沈下について

他の都県と同様に、埼玉県では地盤沈下が沈静化しているにもかかわらず、水道用地下水の削減が計画されています。その根拠となっている地下水採取目標量は10年以上前のデータで求めたもので、しかも、その算出の方法が非科学的なものなのです。そこで、その算出の方法にいかなる科学性があるのかを問いただすとともに、最新のデータで再度計算することを求めましたが、回答らしい回答ではありませんでした。

次回はこちらが最新データによる計算を行った結果を埼玉県に突きつけて、県の地下水採取目標量に科学的根拠がないことを追及していきたいと思います。



八ッ場のおかしな物語　その3

またも、裏切られた！

下流の補償額が、水没地より高いなんて…

「ダムに最適地」と一方的にメボシをつけられ、予定稿的に建設に向かって勝手に進められ続けて半世紀。苦悩の果てに、３４０世帯中、本年４月末までに約半数の１７３世帯が契約ずみ。家屋敷を整理し、故郷を去る準備をしている。所長印まで貰ってある「公簿面積問題」などが次々に反故にされ出した昨今、また一つ嘘をつかれたことが明るみに出た。

５月７日、国土交通省はダム提下の国道やＪＲ線の用地を持つ、下流の吾妻町岩島の地権者に対し、「利根川水系八ッ場ダム建設事業に伴う岩島地区補償基準（提示）」を示した。

ところが、比較してみると、肝心の長野原町よりもかなり高額の補償額なのである。

２００１年６月の補償基準に応じた際に、「水没地の長野原町より高いことは絶対に有り得ない」という言葉があったという。むしろ、吾妻町の当事者たちも「やむを得ぬこと」と自覚していたほどの事柄なのである。

田と畑の一等級は長野原町の約１、４６倍。坪当たり２万９３００円の差がつき、１㎡当たりで８，９００円の差額。１千㎡（１反歩＝３００坪）の差額は８７９万円にも上る。同じく田畑の２等級は１、２９倍。

宅地は、同じ国道沿いで比較すると、やはり５％ほど高い。

原野の区分(2—1)に至っては、なんと８、４３倍。１㎡で１万４００円の差。１千㎡（１町歩）では、１億８００万円もの差がつくことになる。

《2004年２月小雪降る中、解体作業》

国交省の弁明は①岩島地区は「線買収」で残地が出るから
②天恵物補償の１１９万２千円がないから

との説明だが、「線買収」は水没地にもあり、天恵物補償は水没世帯だけの適用である。

６月１１日には、長野原町議会ダム対策会議でも取り上げられた。が、国交省は今に至るまで回答をあいまいにして逃げている。その一方、２５日には「T議員の発言は間違い」と言って、釈明に委員長宅などに出向いた事実も伝わった。

どこまで愚弄するのか

黙っていられないのは、５２年間も苦しめられてきた長野原町の水没民たちである。

とりわけ、水没しない岩島地区の単価をいち早く知った「国交省に約束を守らせる会」のメンバーは激怒。怒りの源には、金額面の多少よりも、この間の詐術にも似た一連の経過への、抑えがたい義憤が強くある。協議を重ね、地域内に「急告」のチラシをまく予定である。

他方、最後の仕上げを無事に果たした野田徹所長は、６月末日をもって本省にめでたく栄転。

さて、これは全国のダムにおける常套手段で、この後は「不動産鑑定士の評価による」との言葉が続くそうである。となれば、奥地ほど補償基準は低くなることは自明の理。最初から判っていたことであろうに。

実際に長野原町でも繰り出され、「不動産鑑定士の意見を参考にして、提示した」との報告がなされた。確信犯的言葉に、かつて税金控除の詳細をあいまいにし続けてはぐらかされ、調印後、手痛い打撃を与えられたことと併せ、水没民は「参考にしたとはなおさら悪い。国家公務員の詐欺的行為だ。これで通るなんて考えたら、大間違いだ」と、怒り心頭の呈である。

なお６月末に、①既に移転②これから転居③代替地移転希望の三者に、個人的に電話にて意見を伺うと、①と②の方たちは「済んだこと」。③の方は目下、交渉中の代替地分譲価格の半額交渉への道が有利になるとのではとの見解だった。今後、どのように展開するか注目したい。　（すずき）

【用語説明】※線買収——必要な箇所の土地のみしか買い上げないこと。全部を買い上げるのが「面買収」。

※天恵物補償——水没地等で慣行的に採取してきた、わらび、ぜんまい、わさび等今までと同じように採集ができなくなったことに対する補償。従って、水没世帯だけの権利。

八ッ場ダム問題に関する国土交通省との意見交換会　ＰＡＲＴ２

2004年5月17日

（国土交通省の主な答弁者：関東地方整備局河川部　勢田広域水管理官）

■　事業費の縮減

佐藤謙一郎衆議院議員：都県の要請を受けて、国土交通省は事業費縮減に努めることを回答したと報道されているが、具体的にはどうなのか？

国土交通省：できるだけコスト縮減に努めるということであって、目標を示したものではない。本来ならば五千数百億円かかるところを4,600億円まで縮減してきた。引き続き、この姿勢を堅持していきたい。

■　完成年度の2010年度について

市民側：都県側は完成年度が遅れれば、水需要のピークが過ぎて八ッ場ダムが不要になってしまうかもしれないと言っている。八ッ場ダムを2010年度に完成させるためには、毎年450億円、5年間で2,250億円、6年間で2,700億円の予算が必要だ。しかし、実際にこれだけの金額の予算が配分されたダムは今まで無く、さらに全国のダム事業費が年々減少してきている状況において、そのように巨額の予算を八ッ場ダムに振り向けるのは至難のことだ。

国土交通省：八ッ場ダムは利水の安定供給のために必要であるから、予算額も必要なものを要求していく。2010年度完成は目標である。2010年度完成のため、理想的な工程を組んでいる。予算、技術、地元の意向を含めて2010年度完成に向けて努力する。

市民側：完成が延びれば、事業費の更なる増額があるのではないか？

国土交通省：工期が延びるとは言えないが、仮に延びることがあっても、工費縮減で増額がないようにする。

■　利水に

国土交通省：現在は利水安全度が低く、また長期的な少雨傾向にあって、渇水が頻発し、不安定な状態にあるから、その対策としてダムが必要だ。

市民側：国土交通省は不安定な状態を示すものとして利根川に暫定水利権が非常に多いことをあげるが、その中身をみると、本来は暫定水利権とすべきではないものがほとんどだ。たとえば、埼玉県水道の農業用水転用水利権は非かんがい期は権利がないということで暫定扱いになっている。しかし、実際は非かんがい期は農業用水の取水があまりないから、安定した取水が可能だ。不合理な水利権許可制度を改めれば、暫定水利権のほとんどが安定水利権となる。現在はむしろ各都県とも保有水源

に余裕のある状態だ。

国土交通省：河川から新たに取水する場合は応分の負担をすべきだ（ダムに参加すべき）。農業用水転用水利権はもともと夏期のみの水利権であるから、冬期も無償でとれるということにはならない。

市民側：埼玉の農業転用水利権は今まで冬期も取水が可能だった。

国土交通省：現実に取水が可能であったとしても、それは他のダムからの補給があったからだ。

市民側：渇水というが、最近は断水までいっていないから実害がない。

国土交通省：蛇口の状況では実感がなくても、渇水年には地下水の汲み上げで地盤沈下の問題が生じている。

市民側：関東平野の地盤沈下はすでに沈静化している。

佐藤議員：地下水と地盤沈下の問題は次回、データを互いに持ち寄って議論すべきだ。

■　治水

国土交通省：利根川の基本高水流量 22,000m3/秒（八斗島）はカスリーン台風の再来計算と総合確率法の二つの方法で求めた。カスリーン台風の実績は 17,000m3/秒だが、上流部での氾濫がなければ 22,000m3/秒になる。4400m3/秒を調節するための新規ダム群はこれから検討していく。八ッ場ダムの治水効果 600m3/秒（八斗島地点）はいろいろな洪水パターンを想定した場合の平均だ。

市民側：最近 50 年間、10,000m3/秒を超える洪水がでていない。カスリーン台風の 17,000m3/秒は戦時中の森林乱伐の影響によるもので、異常値だ。22,000m3/秒は架空の洪水流量であり、この 22,000m3/秒を達成しようとすれば、4,400m3/秒の調節を行うため、これから数多くのダムを建設しなければならず、そのことから見ても 22,000m3/秒は非現実的な数字。6,000m3/秒の洪水調節必要量のうち、既設 6 ダムと八ッ場ダムで 1,600m3/秒だから、新たに必要なダムは 20 基近くになる。

市民側：昨年、戸倉ダムを中止したように、利根川水系でこれから新しくダムをつくる話は現実性がない。

国土交通省：中止したのは水源開発を伴ったダム。治水だけのダムはこれから検討していく。また、既設ダムの再編成も行っている。

市民側：八ッ場ダムの治水効果 600m3/秒は 31 洪水についての計算によるものだが、その中身をみると、この計算は二つの点で意味が無い。①　ダムなしの計算結果が基本高水流量 22,000m3/秒を上回っている洪水が 8 洪水もあり、その最大値は 27,600m3/秒にもなっている。②建設省の河川砂防技術基準によれば、計画降雨量を過去の洪水にあてはめて引伸ばし計算を行う場合、2 倍以下の雨量引伸ばし率にとどめることになっているにもかかわらず、19 洪水は 2 倍を超えていて、その最大値は 3.1 倍にもなっている。

国土交通省：600m3/秒の治水効果は数字を示したもので、計画を定めたものではないから、河川砂防技術基準はあてはまらない。31洪水の中には、引伸ばし率が2倍以下で、八ッ場ダムの効果が大きい洪水もある。

市民側：国土交通省の計算でもカスリーン台風での八ッ場ダムの治水効果はゼロになっている。今日の国土交通省資料にも利根川氾濫マップがついているが、その計算根拠のデータをみると、八ッ場ダムと何の関係もないことがわかった。第一に、この氾濫は、八斗島地点の洪水ピーク流量16,500m3/秒(河川改修で対応する16,000m3/秒に近い)で計算したものだから、この氾濫のほとんどは河川改修の遅れによるもの。第二に、この計算は八ッ場ダムの治水効果がゼロであるカスリーン台風についての計算だから、八ッ場ダムがあっても同じ氾濫マップが描かれることになる。このように関係のない氾濫マップを八ッ場ダムの説明資料に入れて、八ッ場ダムができればその氾濫が軽減されるような印象を与えるのは欺瞞ではないか？

国土交通省：カスリーン台風だけが洪水パターンではない。

■　川原湯温泉街の移転再建

国土交通省：

① 上湯原代替地の造成時期：2007年度末～2009年度の移転開始に向けて土地買収を進める。今までＪＲ線や県道の付け替え、防災ダムの建設を集中的にやってきたので、遅れているようにみえているだけである。

② 代替地造成の見通し：第二次土地利用計画をたてている。３回の意向調査を行い、過不足のないように代替地の造成を行う。

③ 代替地の安全性：地すべりについては現地での実験で安全を確認してきている。小学校のすぐそばに防災ダムがあるが、これは小学校にかかわらず、所定の安全性を確保するためのものである。全国的に小学校のすぐそばに防災ダムがある事例がほかにあるかどうかはわからない。調査中である。

■　おわりに

佐藤議員：今日の議論を整理して、必要な資料の提供を国土交通省に求め、議論を進めるべきものは再度議論するようにしたい。

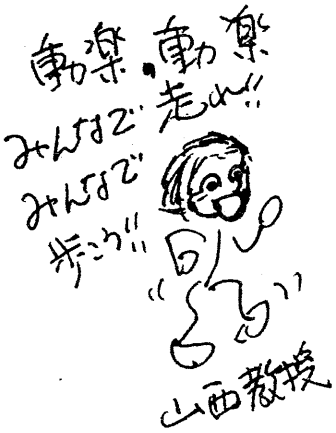
「歌って歩こう会」は、笑って健康会！？

—まるこの「八ッ場を歌って歩こう会」レポート—

吾妻渓谷が新緑に包まれた５月、群馬大学の山西哲郎教授（体育学）、フォークシンガーの笠木透さんのご協力により、「第一回　八ッ場を歌って歩こう会」が開催されました。参加者のべ70余名で、大いに盛り上がったイベントレポートをお届けします。

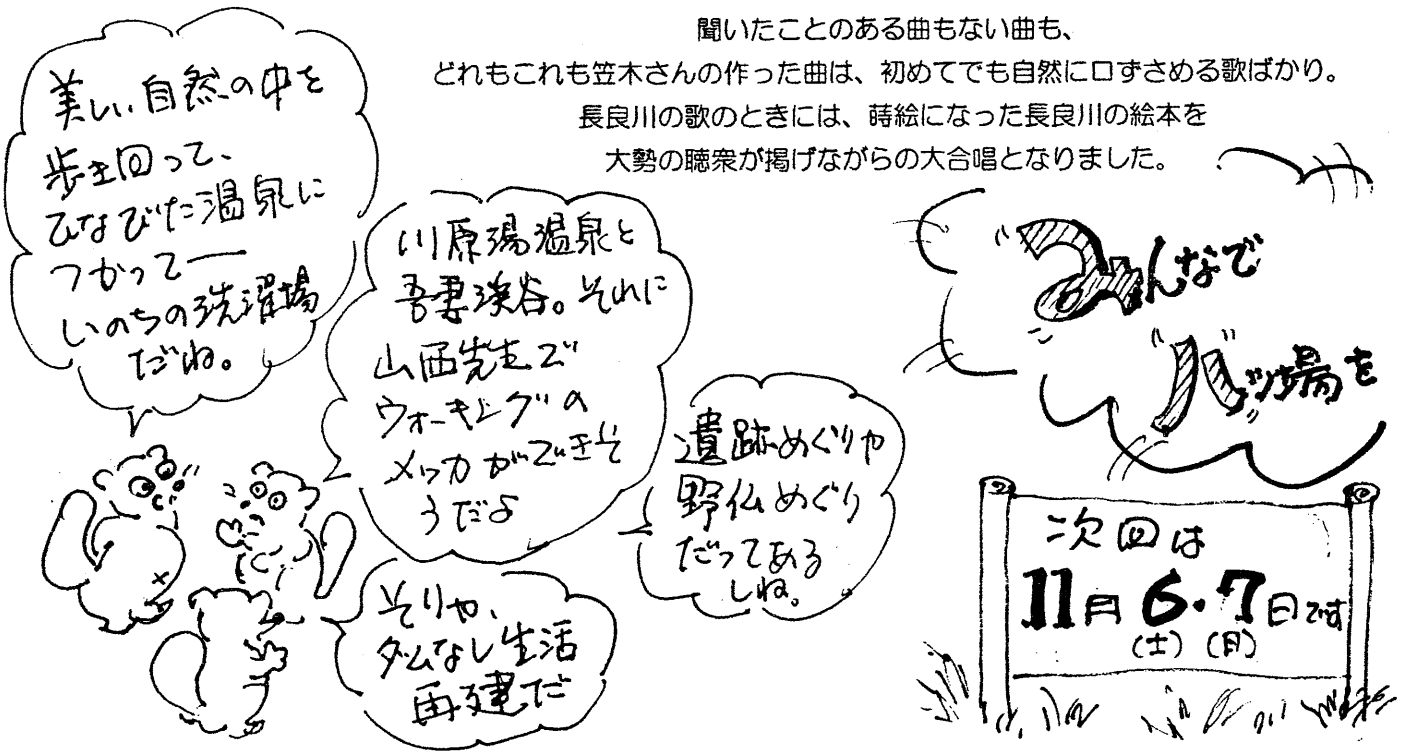
一年の中で、一番美しいのが新緑の季節！だそうです。
普段、運動不足気味の私は
楽しくハイキング～♪ぐらいに思って参加したのでした。

川原湯温泉に着いてびっくり！
まず、お宿が大きいので、迷子になりそうでした。
夕食をいただきながら
ご参加の皆さんとお話ししました。
関東のみならず、京都、三重、滋賀、長野・・・
いろんな所からおいでになっていることを聞いて、またまたびっくり！
そして皆さんの元気なこと！お歳を聞いてさらにびっくり！！

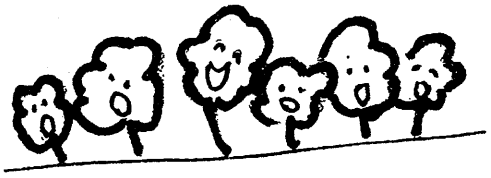


夕食が済んだところでいよいよ山西先生の講演。
「はい、こんなことしてみましょうかぁ～、これが出来ない人は運動不足ですよ～」
と、体を動かしながらの実演（？）講演。
会場からは、若そうな方も若くなさそうな方も
体力測定感覚で、「う～、きく～！」「いてぇ～」。
お話も半分落語みたいで、会場は笑いの渦に。
あっという間の一時間でした。

続いて、笠木透さんら、岐阜からおいでのバンドの皆さんの登場です。
聞いたことのある曲もない曲も、
どれもこれも笠木さんの作った曲は、初めてでも自然に口ずさめる歌ばかり。
長良川の歌のときには、蒔絵になった長良川の絵本を
大勢の聴衆が掲げながらの大合唱となりました。

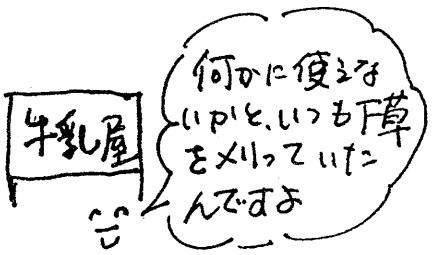


ここで、群馬大学の卒業生デュエット、ユキとチエさんの飛び入り参加となりました
年輪（？）を感じさせる笠木さんの野太い声とはまた違った
若い女性の天使の歌声―
りんご畑でアルバイトをしている時に作ったという曲に、
会場の皆さん、聞き惚れてしまいましたね～！

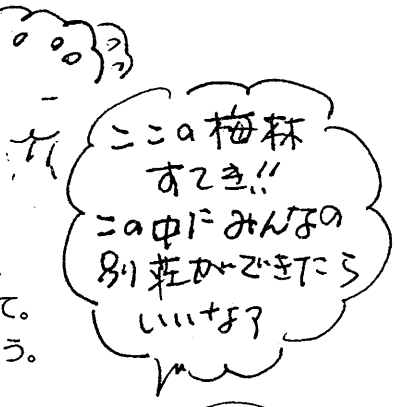


一夜明けて、目覚めると・・・
そこはすべてが緑の世界！
お部屋の中から、廊下から、お手洗いから、
どこにいても飛び込んでくるのは緑、緑、緑・・・
露天風呂とそこからの景色は圧巻。
お湯のすばらしさはいうまでもありません。

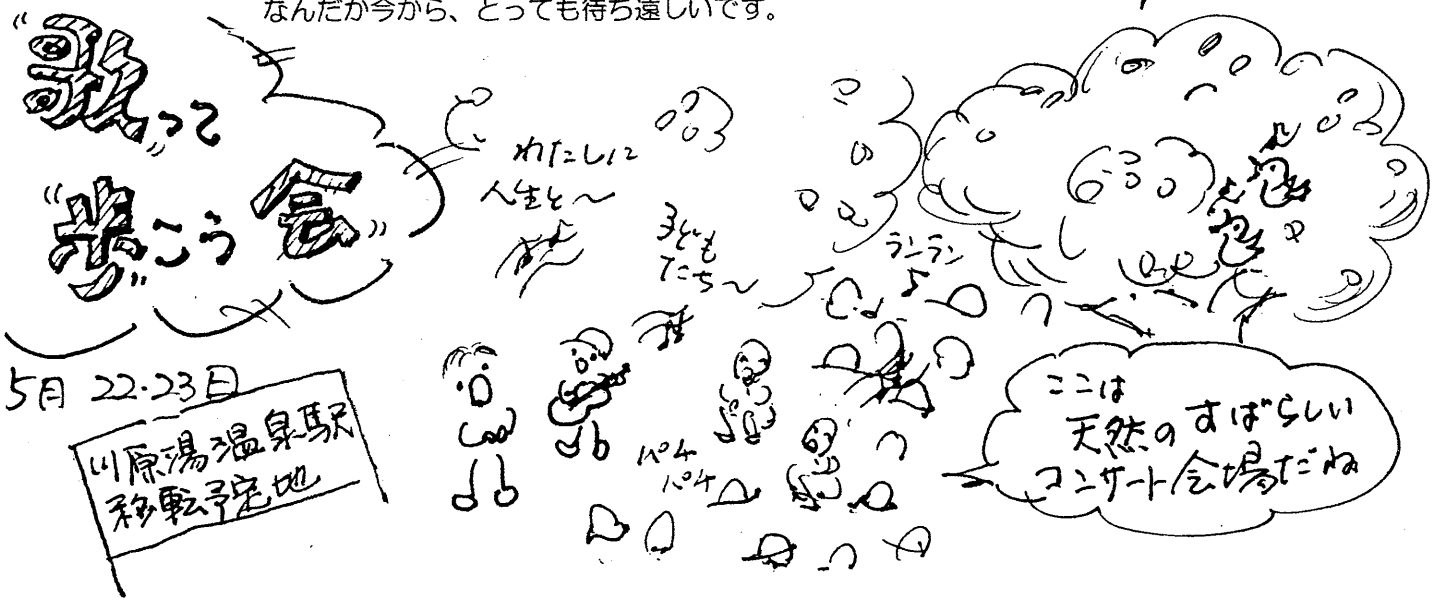
２３日はお天気もなんとかもってくれて
歩こう会にはちょうどよいくらいの曇り空。
お宿の中から見た緑の中へ、いざ！と
歩いて行きますと、こんどは緑の匂いがします！
吾妻渓谷の遊歩道、水源涵養林の中の沢を渡る小道、
ところどころで、歌をきいたり歌ったり、
なんだかとっても心が和んできて、
ずっと、ず～っと歩いていたい、そんな気持ちでした。



お昼の梅林に着いてしまったときには残念ですらありましたが、
この梅林でのお昼がまた、最後のお楽しみ！となりました。
緑の中でお昼を食べて歌って体操して・・・
こんなふうに、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまうのですね、
ぜひまた季節季節を歩いてみたい・・・



と思っていたら、なんと山西先生も笠木透さんも同じことを考えたらしく、
実行委員によれば、イベント翌日には、山西先生から電話があり、
「笠木さんが、岐阜へ帰る道々、自然の中で歌って本当に気持ちよかったなあ、
とバンド連中と話した、ていうんで、次回は１１月６～７日にしました」ですって。
紅葉の中での「歌って歩こう会」、きっと吾妻渓谷の別の魅力に浸れることでしょう。
なんだか今から、とっても待ち遠しいです。



土木技術面からみた八ッ場ダム問題の学習会

（6月26日、首都圏の会主催、於東京）

講師：矢部俊介（土木技術者）

1 国の地すべり対策で地すべりを防ぐことはできるのか？

① 国が地すべり対策を実施するのは、横壁、勝沼、二社平地区の 3 ヵ所だけであるが（横壁地区は完了）、他の地区は大丈夫なのか？

他の地区では地すべりが起きないということではなく、起きても人家への影響が少ないとか、地すべりの程度が3地区より小さいというだけの話である。実際には22ヵ所の地区について地すべりの評価を行って、重要度と精査の優先度が両方ともAの評価になった3ヵ所のみを対象としており、3ヵ所以外の地区でも地すべりが起きる可能性は十分にある。

② 林の地すべり地区などでは、現在、地すべり防止施設（集水井と横ボーリング）で地下水を排除することによって、地すべりを防いでいる。ダム完成後、それらの地区が水面下になれば、地下水の排除ができなくなり、地すべりの防止ができなくなるのではないか？

ダムの貯水が開始されて水面下になる所は、水圧や土中の残留間隙水圧などにより地すべりは安定すると考えられる。しかし、水面は一定ではなく、貯水位は大きく変動する。冬期と夏期だけでも 28mも変動し、渇水になればもっと大きく変動する。その場合は長期ではなく、短期であるけれども、集水井と横ボーリングは目詰まりを起こし、使用が困難になるから、地すべりが起きる危険性が生じる。

③ 地すべり地区において水面より上の地区は貯水によって地下水位が上昇するから、地すべりの危険性が高まるのではないか？

最も問題と考えられるのは、ダム水位より上にある、集水井や横ボーリングである。ダム貯水前までは、自然流下式に排水できたが、ダムで貯水されれば排水孔や排水管が水没してしまい、排水されるはずの地下水が土中に溜まることになる。これこそ地すべりの原因となる。水没しない集水井にポンプを設置し排水すると言うかもしれないが、しかし、これは当然のことながら豪雨時は付近に近づけないため遠隔捜査が基本となり、費用は割高となる。国や県は既設の地すべり防止施設の改修とダム湖周辺の地すべり対策をもう一度検討し、小規模な地すべり地域についても見直す必要があると考える。

④ 勝沼、二社平地区は大規模な地すべりを防ぐため、当初は沢数の鋼管杭を打つことになっていたのに、経費縮減のために、地すべり土塊の末端部に膨大な土砂を置く、押え盛土工法を採用することになった（勝沼 20 万m3、二社平 12 万m3）。この押え盛土工法はどこまで有効なのか？

ダム湖に水没する押え盛土工法の採用はあまり例がない。風化岩や岩盤等の地すべり対策であればアンカー工法を採用するが、崩積土地すべりや粘質土地すべりであれば押え盛土工法を採用する。鋼管杭は正式には杭工の分類になり、風化岩や岩盤、崩積土、粘質土地すべり等に幅広く対応できる工法。

押え盛土は貯水開始後水没するので、河川堤防に準じた材料を使用した方がよいと考える。河川堤防の材料として望ましい評価基準は①粒度分布の良い土、細粒分（0.075mm 以下の粒子）が材料全体で15％以上占めるなどであるが、実際には現地工事の建設発生土（応桑岩屑流堆積物等）が用いられる可能性があるため、林地区などから発生する材料は評価基準を満たさないことが考えられる。河川堤防に準じた材料を採用できないのであれば、盛土材料にセメント系固化材を混合し固めるのも一つの方法。

⑤ **上記の押え盛土は水没後に変形して有効に機能しない可能性はないのか？**

押え盛土は本来はプレロードなどで圧密を促進し、十分に締め固めておくべきだが、それを行う時間的な余裕はないであろうから、押え盛土が大きく変形することは避けらず、その効果に疑問符がつく。

2 八ッ場ダムの完成までどのような工事があって、どの程度の期間がかかるのか？

① **仮排水トンネル（転流工）はどうなっているのか？**

ダム本体工事を行う前に、川のバイパス（仮排水トンネル）をつくる必要がある。仮排水トンネルの工期は1年間となっていて、これは現実に可能であろうが、国土交通省の資料をみても、この仮排水トンネルをどこに掘るのかが書いていない。左岸側ならば、既設のJR線と国道のトンネルがあるので、それらの付け替え工事が終わって既設のものが用済みにならないと、仮排水トンネルの工事を始めることができない。右岸側については、新しいJR線のトンネル、新しい国道のトンネルがあるので、仮排水トンネルからの漏水を考えると、むずかしいように思う。

仮排水トンネルができないと、本体工事に入れないし、JR線と国道の付け替え工事が終わらないと、仮排水トンネル工事に入ることができないから、その面でも工期が延びることは避けられらない。

② **ダムの堤体掘削はどれくらいの期間がかかるのか？**

ダムの堤体掘削は14ヵ月間見込まれている。1ヵ月の作業日数を25日に設定した場合、14ヵ月で350日の作業日数を確保できる。作業日数を350日とした場合、掘削土量は右岸・左岸の同時作業として、1日当り4,542m3となる。これは数字だけを考えれば可能である。しかし冬期の凍結など、遅延させる要因はいくつもある。

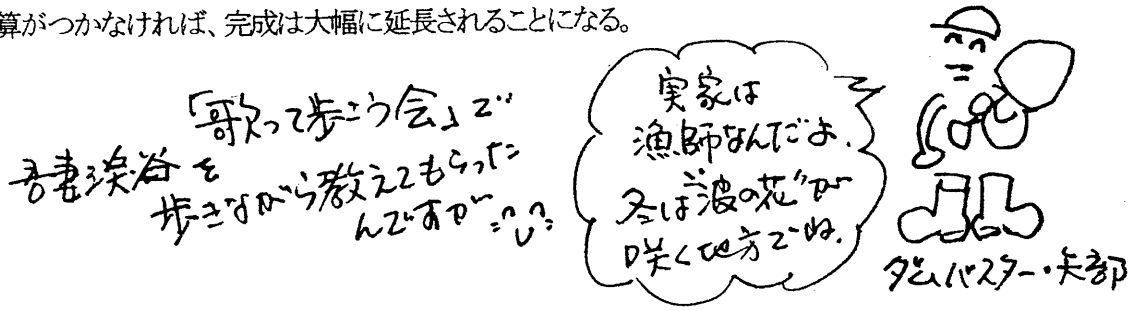
③ **ダム本体のコンクリート打設はどれくらいの期間がかかるのか？**

ダム本体のコンクリート打設は24ヵ月の工期が確保されている。コンクリートの打設方法はRCD工法を採用し、休日を設けないで施工することになっている。730日間の作業日数を確保した場合、1日当り2,257 m3のコンクリートを打設することになる。この数字はかなり厳しい。コンクリートの打設で重要なのが天候と気温である。八ッ場ダム周辺は山岳であるため、特に冬季は風雪があり気象条件が厳しいであろう。冬季（12月～2月）のコンクリート打設はコンクリートが凍結する可能性がある。

④ **ダム本体が完成するまでに必要な期間はどうなのか？**

計画通りに工程を組むことができ、理想的に工事が進んでも、結論からいうと約1年間の工期が延長され、完成は2011年（平成23年）と判断した方がよい。実際の工事については、堤体コンクリート工のように昼夜で作業する可能性もあるが、諸条件を考慮してもかなり厳しい環境となると予想される。さらに、JR線や国道の付け替え工事が遅れれば、仮排水トンネル工事が遅れ、完成がもっと先になる。

以上の見通しはあくまで予算が計画どおりに付いた場合のことであって、毎年400億円以上という超巨額の予算がつかなければ、完成は大幅に延長されることになる。



事務局だより

暑中お見舞
申し上げます
八ッ場には避暑に
お出かけ下さい

事業費増額にゴーサイン

昨年１１月、八ッ場ダムの事業費が全国トップに値上げされるとのニュースは、巨大公共事業に対する厳しい世論という、ダム建設への逆風の中で発表されました。マスコミが動き出し、忘れられていた半世紀前のダム計画が注目を浴びる中、１２月の東京都議会を皮切りに関係都県での審議が始まりました。

この間、八ッ場ダムを考える会（以下、略して「八ッ場の会」）は、「ダム計画の見直し」と「地元住民に対する充分な補償」を訴えて署名運動を行ってきました。半年間に集まった署名総数は 7620 筆。他都県が次々と増額に同意する中、群馬県議会に全国から寄せられた署名と「現地生活再建への万全な対処」を求めて請願を提出。

６月１１日に閉会した群馬県議会において、事業費増額を求める計画変更案は可決・承認され、同時に「八ッ場の会」提出の請願が全会派賛成による趣旨採択となりました。

「バラ色の現地再建プラン」によって水没予定地住民を翻弄し、長年苦痛を強いてきた群馬県は、今後さらにその責任を問われることになります。議会終了後、「八ッ場の会」は「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」と連名で要望書を提出。増額案に県が同意したことは遺憾であるとして、地元を抱える群馬県が、地質の検討委員会を設けるなど、具体的な施策によって責務を果たすよう要請しました。

全国のダム反対運動の集大成として

議会内では、与党の数によって押さえ込まれた「八ッ場ダム NO!」の声。しかし首都圏各地で産声を上げたばかりの市民団体は、この半年あまり、まさに八面六臂の活躍ぶりでした。各地での講演会、街頭署名、地方議会での「八ッ場ダム見直し」の意見書採択・・・国土交通省の増額のひと声が、小さな種火に油を注ぎ、首都圏全域に脱ダム運動をまき散らすという予想外の展開です。

八ッ場ダムは、全国トップの事業費、関係住民の人口の多さ、計画以来の歴史の長さ―どれをとっても我が国のダム問題の中で象徴的な存在です。その八ッ場ダムの反対運動が、いよいよ全国の運動の集大成として、首都圏で新たな段階に入ろうとしています。

止まらない公共事業にストップを

この７月、関係各都県では「ストップさせる会」が次々に発足。巨額な費用負担を強いられるとして、各知事らに負担金を支出しないよう求め、９月にいっせいに住民監査請求をする準備を進めています（各「ストップさせる会」では今後の行政訴訟を視野に入れ、カンパを募集中。連絡先は右ページを参照下さい）。

「八ッ場の会」はこれら首都圏各地の市民団体と連携し、地元を抱える群馬に拠点のある会の特性を生かし、「八ッ場ダム計画の早期見直し」実現に向け、今後もあらゆる角度から活動を進めてまいります。

【各地の連絡先】

●「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」

[redacted]

●「八ッ場ダムをストップさせる東京の会」

[redacted]

●「八ッ場ダムをストップさせる千葉の会」

[redacted]

●「八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会」

[redacted]

●「八ッ場ダムをストップさせる群馬の会」

[redacted]

●「八ッ場ダムをストップさせる茨城の会」

[redacted]

●栃木県連絡先

[redacted]

●「八ッ場ダムを考える千葉の会」

[redacted]

●「八ッ場ダムを考える市民の会おおた」

[redacted]

関東地方で記録的な猛暑が続いているさなか、

山の向こうの日本海側で大水害が発生しました。

地元の新潟日報は７月２１日、水害発生の原因を問う記事を掲載。

行政と河川工学者の意見の食い違いを指摘しています。

わが国は輸入品の近代的土木技術に依存するあまり、

本来、“治水”にとって最も大切な、

自然ときちんと向き合い、捉えようとする科学的な態度を

なおざりにしてこなかったでしょうか？

次号会報では、現地で水害調査の陣頭指揮を執る

大熊孝教授（新潟大学）による調査報告を掲載する予定です。

また、11 月 21 日（日）、高崎において

利根川治水の第一人者でもある大熊教授による講演会を企画準備中です。

乞うご期待！！

八ッ場ダムは現在の計画では、平成 22 年に完成の予定です。
けれども本体工事はまだ始まっていません。
次の時代の命のために、八ッ場ダムをストップさせましょう。

会員年中募集中！

年会費（秋の総会から次の総会まで）/個人会費 2000 円、団体会費 3000 円

≪カンパしてもいいなという方は…≫

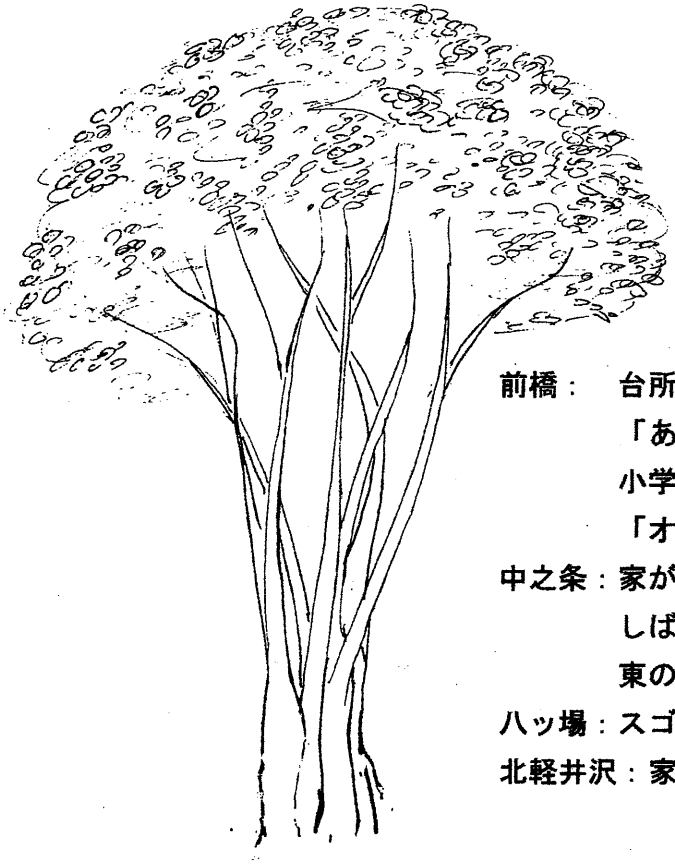
郵便振替口座番号 00550-2-32681（加入者名：八ッ場ダムを考える会）

八ッ場ダムを考える会

吾妻渓谷
八ッ場ダム
20004.10　No.9

浅間山のそばにダムを造っていいのかな？

利根川流域脱ダム宣言



前橋：　台所の窓のそばで料理中の母ー
「あら、この振動は・・・なに？」
小学４年の息子、窓越しに外の暗闇を見つめながらー
「オバケだよ、きっと」。

中之条：家が暴れるようにガタガタ鳴った。
しばらくして灰が降り出し、
東の空に青白い閃光が数回横に走った。

八ッ場：スゴイ衝撃で、裏山が崩れてきたのかと思った。

北軽井沢：家が壊れるかと思い、とっさに
梁のない所に身をよけた。

９月１日、夜８時すぎ、浅間山が中規模噴火を始めた。

八ッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

住民監査請求、そしていよいよ訴訟へ

(2004.10.20)

去る9月10日、東京、千葉、埼玉、群馬、茨城、栃木の市民団体は、八ッ場ダム事業への公金支出は違法だとして、一斉に住民監査請求を行いました。請求人の総数は5391名。これほど大規模な住民監査請求は前代未聞です。各都県別の最終人数は、東京2100人、千葉1337人、埼玉893人、群馬523人、茨城401人、栃木137人となりました。

【住民監査請求とは―】～～～

ントのビジュアル効果は絶大で、この種の機会には必須のツールであると感じました」と。

意見陳述の冒頭、テープ録音をめぐって監査委員と住民が激しいジャブの応酬をするという一幕も。千葉では02年にも住民監査請求が行われています。住民側は当時の意見陳述で認められたテープ録音を求めましたが、監査委員は「ダメ！」の一点ばり。

意見陳述の後、吉川ひろし県議は02年のテープを提出。「開かれた監査のためにも徹底した改善を求めてゆくべき」として、9月議会で質問。しかし県の答弁は、「原則としてテープもカメラも禁止となっております」という味もそっけもないものでした。

○ 延期のあげく、キャンセル→却下　～*茨城篇*～

当初、「意見陳述は9月27日」と予定されていた茨城ですが、その後、「延期」との連絡があり、それもキャンセルされ、結局、10月4日に「却下」となりました。理由は、「請求で示されたのは統計で示された理論上の一見解にすぎない」というものでした。「ストップさせる茨城の会」では直ちに住民訴訟を起こすとの声明を発表しました。

「・・・かつて、10年前の住民からの監査請求には、財務監査にとどまらず、不十分ではあったが、県の事業に対する一定の評価を行っていた。現在、その片鱗もない。…（略）…私たちは、今回の監査結果への抗議と、八ッ場ダム事業の違法性を問うために、住民訴訟を行う意志を表明するものである。」（八ッ場ダムをストップさせる茨城の会）

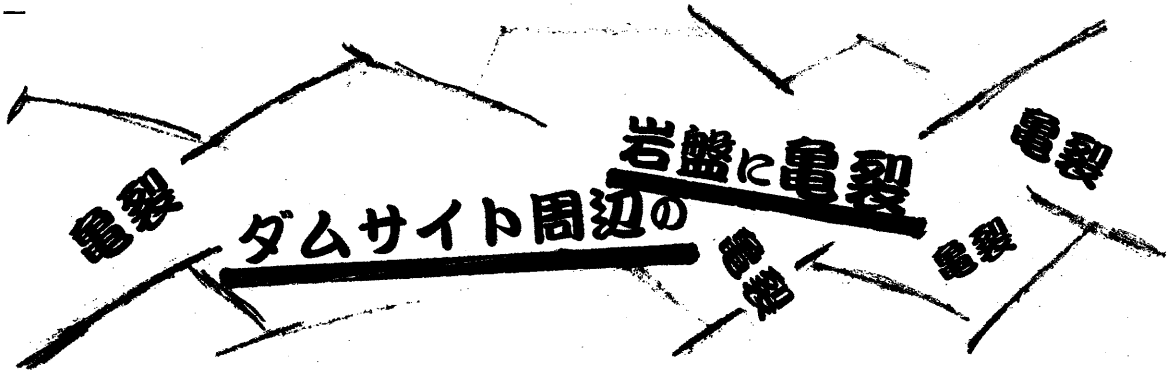
○ 住民監査請求のシステムそのものがムダ？　～*埼玉篇*～

10月8日、埼玉が、12日には栃木も却下となりました。ある埼玉県民は、「結果通知に“重大かつ明白な違法性を提示したものとは認められない”と書いてある。審理なしでこれが却下の理由というのが、よくわからない」と首をかしげます。「ストップさせる埼玉の会」は、「必要性が失われ、さまざまな災いをもたらす事業に埼玉が参加することを、何としてもストップさせなければという900名近い県民の思いに対し、門前払いともいえる却下という形で踏みにじった監査委員は、その責務を放棄したと言わざるをえない」と抗議し、ただちに住民訴訟の準備を始めました。

今回の住民監査請求について、ジャーナリストの政野淳子氏はこう言います。「一都五県の近年の住民監査請求結果をみると、殆どが却下か棄却で、制度がまともに機能せず、住民訴訟の一通過点になってしまっていることがわかる。監査委員は識見者二名、県会議員二名だが、いわば被告である知事が選ぶことになっている。議員二人は議会で、一度予算に賛否を示した立場であり、内輪でかばい合っている構図にしか見えない。ところが、例えば茨城の場合、代表監査委員は月６６万円、議員ですら給与とは別に13万３千円報酬をもらっている。ムダを省く仕事をしてもらわねば、それ自体がムダになる」

（「ダム日記２」http://www.viva.ne.jp/blog/wonwonatsuko/archives/000366.html より）

注目の東京・群馬の結果やいかに！



吾妻線のＪＲ「川原湯温泉駅」から国道145号線沿いに、下流に向かってトコトコ歩いて10分あまり。カラーペンキの大きな看板が目に飛び込んでくる。吾妻川に八ッ場ダムができたらどうなるか、という国土交通省の予想図だ。

ここがダムサイト予定地になる。紅葉、新緑のシーズンには、渓谷美を楽しもうと、遊歩道を散策する人々が行きかう場所でもある。

ダムサイト予定地は、なぜ移動した？

ダムサイトは、当初はこれより６００メートル下流の、吾妻渓谷のど真ん中にできるはずだった。現在地へと変更されたのは1975年。当時の文化庁が建設省に対して、「名勝・吾妻峡の本質に影響が及ぶダム建設は、文化財保護の観点から同意できない」と文句をつけたから、ということになっている。

だが実際には、予定地変更はそれほどすんなりと決まったわけではない。1970年、第63回国会の議事録を見ると、建設省が変更に難色を示したことがわかる。

当時、衆院議員だった地元選出の山口鶴男氏（社会党）の質問に、文化庁文化財保護部長は、建設省から受けた説明として、現在のダムサイト予定地について、こう述べている。

「・・・総じまして この上流サイトに実地調査をいたしました結果については、この種のダムを建設する場所としては非常に不安な地形であるということがわかったということでございまして・・・」

ボーリング調査の結果、川原湯温泉から続く「熱変質帯」がずっと続いている、一番ダムの力がかかる付近の河床に３メートル幅の断層がある、全体として岩盤に節理（規則的な割れ目）が多い、などなど。このようにダム建設に不向きだとわかっていた場所が、5年後にはダムサイト予定地と決定される。

弱い岩盤に重いダム

建設省あらため国土交通省は、いまだにダムサイトの不安を払拭できていない。

今年（2004年）７月、市民オンブズマンの高橋利明弁護士（東京弁護士会）の情報公開請求によって、新たな事実が次々と明らかにされた。

国土交通省からダムサイトの地質解析を依頼された応用地質株式会社は、2003年３月、報告書を提出している。この報告書によれば、当初のダムサイトは下流（吾妻渓谷ど真ん中）案として、重力式コンクリートダムが計画されたが、アーチ式ダムの建設も可能と判断されたという。アーチ式ダムは、アーチ構造を利用してダムの重さを左右両岸の岩盤に

分散し、堤体そのものを薄くできるため、工費を削減できるメリットがある。だが、かなりの力が両岸にかかるので、しっかりした岩盤でなければ支えられない。

その後、前述の国会答弁にもあるように、文化庁の要請により上流（現ダムサイト）案で調査が進められることになる。ダムの堤体には、ダム自体のコンクリート重量、貯水池に溜める水の重さなど巨大な力がかかる。脆弱な岩盤はその重みに耐えられるだろうか？

税金のブラックホール

上記の報告書は、八ッ場ダムの場合、ダム堤体の取りつけ部分に透水性の高い弱い地盤が１０メートル幅であり、亀裂も複数存在すると記している。現在の進んだ土木技術をもってすれば、セメントミルクを流し込むこともできるし、ダムに不適な部分はごっそり掘り込んで、「コンクリートによって置き換え、これを人口の岩盤とみなして、その上にダムを構築する」ことも可能だという。しかしこのままではダムは造れない。これからさらに調査をして、詳細な設計をする必要があると報告書は述べている。

報告書が提出されたのと同じ年、昨年１１月に発表された事業費増額案に、そのための予算が盛り込まれた形跡はない。今後、事業費のさらなるアップはないと、国交省は断言できるのだろうか？

川原に下りたら、天然のダムが目の前に

現在、ダムサイト予定地は吾妻渓谷の上流から四分の一の地点にある。

「渓谷の四分の三は、現状のまま保全されます」と看板に書いてあるので、観光客の中には「自然破壊の心配はないんだ」と安心してその場を通り過ぎていく者もいる。

だが最近、八ッ場ダムへの関心が高まってきたこともあってか、看板脇の小道を川原まで下りてゆく人も目につく。まるでけもの道のような急な坂道を川原まで下りると、景色が一変する。そこは切り立ったＶ字谷の底で、緑白色の吾妻川が流れている。

大小の岩がゴロゴロする狭い川原を下流に50メートルほど行くと、正面に「小蓬莱（ほうらい）」と呼ばれる巨大な岩がそそり立っている。侵食に耐えて残った小蓬莱にぶつかり、川は「くの字」に屈曲する。長年の侵食で両岸の岩の足元は深くえぐられ、川の水は流速を落として奇岩怪岩の立ち並ぶ狭い渓谷へと流れ込んでゆく。上流に大雨が降り、水量が多いときには岩にさえぎられて水が逆巻くのだろう。この地点で、過去幾度かの浅間山噴火の際、泥流がせき止められ、ダムアップして逆流したというのも納得がいく。

吾妻渓谷は自然のダムサイトだったのだ。半永久的に使用できる自然のダムサイトのすぐ上流に、なぜ数十年しかもたない人工のダムを造ろうとしているのだろうか？

世界常識から取り残された八ッ場の生活補償

八ッ場ダムは自然破壊と共に、３４０戸にものぼる水没予定地の人々の生活破壊が深刻な問題です。欧米では遥か以前から、水没地住民は行政の対応によって、「今より生活がよくなる」ことを当人が納得した場合のみ事業にゴーサインが出ることが常識でした。

欧米の基準は、やがて開発途上国のダム建設に融資や技術援助をする場合でも適用されるようになります。この流れは、1998年に「世界ダム委員会」が、社会的な影響への配慮を勧告したことで決定的な流れになります。わが国は、開発援助における人権無視で最後まで“劣等生”といわれてきました（例：インドネシアのコトバンジャム・ダム）。しかし、ようやく2002年に国際協力銀行が融資において、2004年にJICA（ジャイカ）が技術援助においてガイドラインを作成します

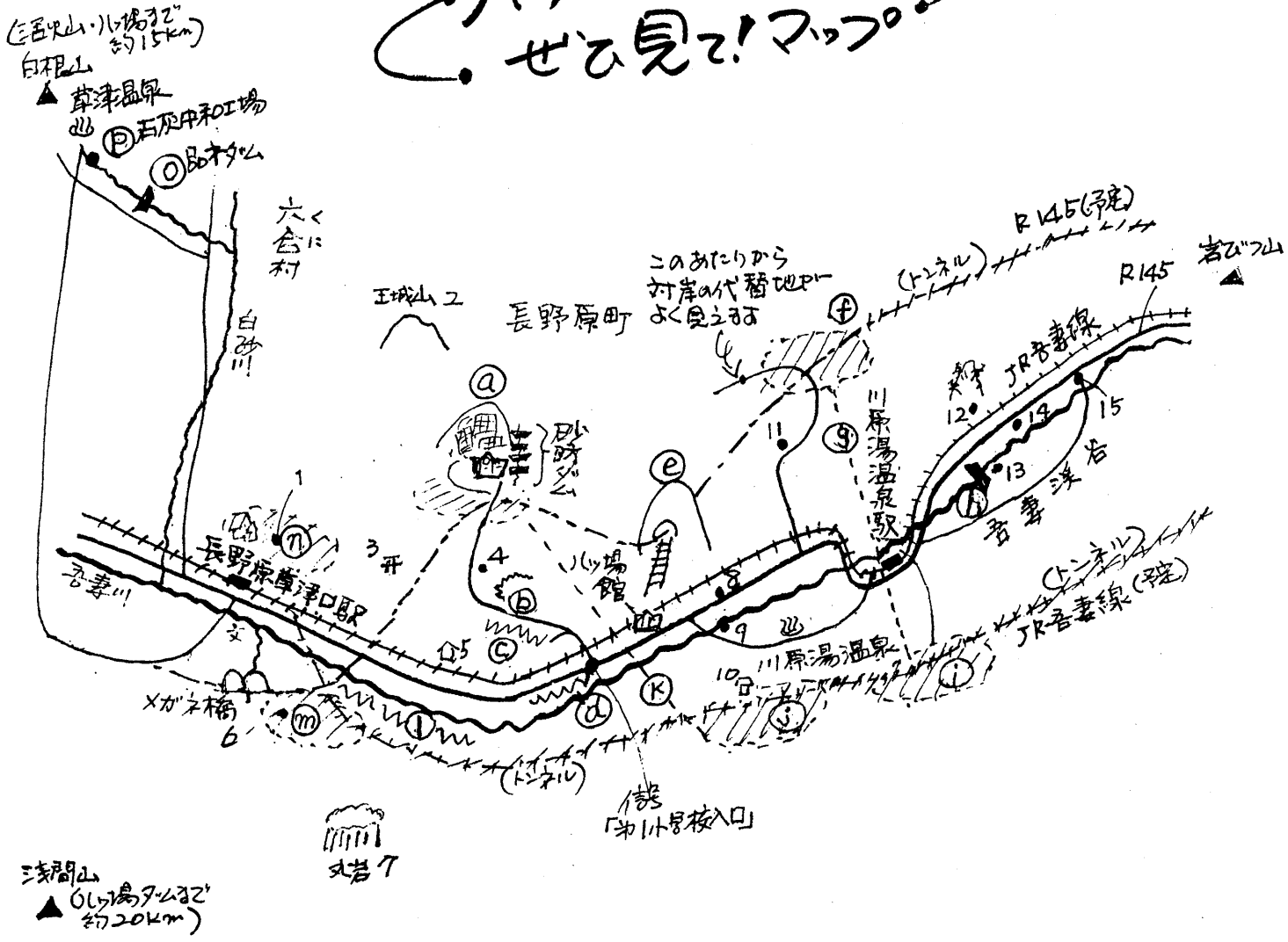
（以上、政野淳子さん、「ダム日記２」参照）。

八ッ場ダムの水没予定地の人々は、半世紀前からの反対闘争に疲れ果て、やむなくダム計画を受け入れました。しかし、今だに「代替地の価格」や「補償基準」等で、住民が納得しているとはとてもいえない状況です。現地住民は、下流のダム反対運動の人々に対して、「来るのが20年遅かった。つらい闘いをしている時に、どうして目を向けてくれなかったのか？」といいます。国が情報を遮断し、ダム事業の実態を知ることが難しかったとはいえ、「無知な下流都市住民」は確かに八ッ場の人々にとって、長年「加害者」であったのです。

50年以上も現地住民を翻弄し続けた八ッ場ダムの場合、ダム事業が中止になろうとも、現地住民への生活補償は極めて重要な課題です。「八ッ場ダムを考える会」、「首都圏のダム問題を考える市民と議員の会」は、日本が開発途上国で行っている「生活補償」を逆輸入して八ッ場に適用するよう、国と関係自治体、政党に訴え動いています。

現地の人々の生活補償問題をきちんと解決した上で、ダムの本体工事を中止するというのが、まさに“人権と環境の世紀”といわれる21世紀にふさわしい、八ッ場ダム問題の最良の解決法ではないでしょうか。

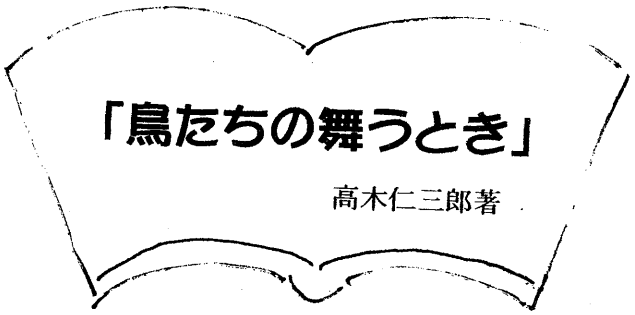
ハッ場 ぜひ見て！マップ

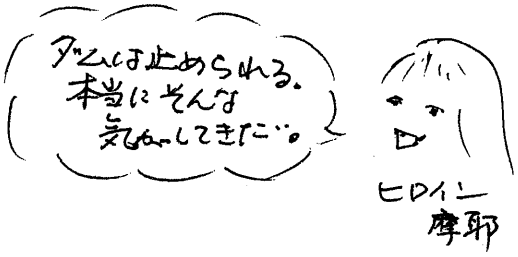


a. 長野原第一小学校
b. 馬蹄型地すべり跡
c. 地すべり防止水抜き井戸
d. 国道下地すべりアンカーボルト列
e. 久森トンネル工事
f. 川原畑代替地
g. 600m大橋(予定)
h. ダムサイト予定地
i. 打越代替地
j. 上湯原代替地(予定)
k. 大橋(予定)
l. 横壁地すべり防止工事
m. 横壁代替地
n. 長野原代替地モデルハウス
o. 品木ダム
p. 草津中和工場

1. 長野原一本松遺跡
2. 王城山
3. 王城山神社
4. 御塚石仏群
5. 農産物直売所
6. 横壁遺跡
7. 丸岩
8. 昇龍山
9. 臥龍山
10. 豊田乳業
11. 三ツ堂石仏群
12. 大蓬莱
13. 小蓬莱
14. 紅葉台
15. 鹿飛橋

◆八ッ場をモデルにした小説が





今年の夏の盛り、「八ッ場ダムを考える会」に一通のメールが届きました。工作舎の編集長、十川治江さんからのお便りでした。

「・・・高木仁三郎著『鳥たちの舞うとき』という本を2000年末に刊行しました。ガンで余命数ヶ月と宣告された高木さんが、長年温めていた小説を書きたいと最後の力をふりしぼって書かれた、ダム反対運動を鳥たちの協力により展開する作品です。今年になってパートナーの高木久仁子さんが、八ッ場ダム反対などの新聞記事をご覧になり、小説のモデルになったと思われる、と明かしてくださいました。・・・」

＊市民科学者、高木仁三郎さん＊

高木仁三郎さんは、脱原子力社会の実現に尽くした市民科学者として、世界的に著名な方です。1938年、群馬県前橋市生まれ。前橋高校、東大理学部とエリートコースを歩み、当時スタートしたばかりのわが国の原子力事業に夢を抱き、核化学を専攻。東大原子核研究所、都立大助教授と華々しいキャリアを重ねた高木さんは、けれども後半生を脱原発運動に捧げ、『核の世紀』といわれる20世紀末、東奔西走の日々を送ることになります。

＊「いのちの危機」でつながる脱ダムと脱原発＊

「上州前橋といえば空っ風。赤城野を北からまっすぐに前橋に向けて吹き下ろしてくる空っ風の厳しさは、峻烈である。」（「市民科学者として生きる」高木仁三郎著、岩波新書）

年をとるにつれてふるさとへの愛着が深まっていった高木さんが、絶筆『鳥たちの舞うとき』の舞台に八ッ場を連想させる“G県天楽谷”を選んだのは、決して偶然ではありません。群馬の人々にとって八ッ場ダム問題こそは、戦後一貫して進められた中央の政治の象徴であったからです。「いのち」を生かすのではなく滅ぼす方向に向かっているという意味で、ダム建設も原発も、もとは同じ根っこから生まれた問題です。

「12月初め、県庁所在地M市の地方裁判所において裁判が始まった。よく晴れた空っ風の強い日であった」と小説で描かれている裁判が、いよいよ始まろうとしています。

「〈しかたない〉や〈あきらめ〉からはなにもうまれてこない。あきらめずにやってみなきゃ。人々の心のなかに希望の種をまき、いっしょに助け合いながら育てていこう」（『鳥たちの舞うとき』あとがきより）― 高木仁三郎さんが寓話的な小説という形で21世紀に託したメッセージが、いのちの危機を察知した人々の心に届き、現実を動かす力となりつつあります。

あった!!

8月のお盆明け、会報編集メンバーが、高木久仁子さんを、今の八ッ場にご案内しました。

鳥たちの舞うとき」の出版社、『工作舎』ホームページから転載

高木久仁子

仁さんと川原湯温泉を訪ねたのは、1995年10月でした。今は亡き萩原好夫さん（老舗旅館「養寿館」当主）に招かれて一泊しましたが、養寿館は既に立ち退いて無くなっておりました。山の高い所を削って造成工事が行われ、家が立ち退いた跡がぽつぽつと更地になっていました。

お昼に川原湯温泉に着き、案内されたのが共同浴場「王湯」の下にある蕎麦屋で、入ると奥のテーブルの上にヒマワリの種が点々と置いてあります。何かといぶかしく思っていると、外からヤマガラが入って来て、ちょんちょんとつつき良さそうな種を選んで飛んでいくのです。エガラ、ヒガラなども来るとのこと。思わず楽しくなってしまいました。そういえば前にはこの辺でムササビを見たっけ。

実際にダム反対のコンサートを開いた梅林を見てと案内された所が、なんと見覚えのある場所だったのです。仁さんと二人で散歩中にアイスクリームを食べ、ベンチで休憩したのが豊田乳業という所で、その経営者はダム反対の方とのこと。当時はそうとは存じませんでしたが、今回は会ってお話を聞くことができました。

宿泊した民宿の方に温泉のはずれにある不動の滝まで案内していただきました。この滝も確かにあの時、仁さんと二人で見た景色でした。10 年近い年月が流れているのに昨日のことのようです。

一泊して翌日は一人でダム建設予定地や吾妻渓谷の遊歩道を歩いたのですが、前日の雨に、林の中には白や茶色のキノコが出ていたり、珍しい花が咲いていたりで、「ほら、仁さん、あれを見て！」と思わず口に出て、二人で歩いているような気分でした。

「実情がそう簡単でないことは、お見通しでしょうが、私たちの力だけでも、絶対にダムは止めます。」という摩耶（小説のヒロイン）のような先を見通す目をもった人たちが次から次へと現れ、八ッ場ダムを一日も早くストップさせたいものです。

『鳥たちの舞うとき』が八ッ場ダム反対運動に少しでも役立てば幸いです。

（2004年8月17日）

工作舎HP →http://www.kousakusha.co.jp/DTL/tori_yamba.html

【「鳥たちの舞うとき」の購入を希望される方に・・・】

「八ッ場ダムを考える会」では、『鳥たちの舞うとき』を送料込み1800円（定価1600円）で取り扱っております。購入を希望される方は、同封の郵便振替用紙の通信欄にご記入の上、郵便局にてお振込みをお願いします。

利根川治水と八ッ場ダム

利根川の治水計画にダム建設が登場したのは、大洪水をもたらしたカスリン台風から2年後、1947 年のことです。建設省では、前年から利根川上流でダム候補地の検討を始めていましたが、1947 年の計画では具体的な実名は公表されませんでした。その後、矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、薗原、下久保、八ッ場の7つのダムが計画され、八ッ場ダムをのぞく6つのダムは順次完成していきます。

「八ッ場ダムを考える会」では、11 月の総会記念講演を利根川治水の第一人者、大熊孝さんにお願いすることになりました。大熊先生は「利根川治水の変遷と水害」（東京大学出版会）の中で、「要は、利根川改修改訂計画における洪水調節ダム計画に、将来を見通した基本方針がなかったことが、今日の事態をまねいたのではないかと考えられる」と記しています。この著作は、大熊先生が 1970 年代にまとめた博士論文に加筆修正をして 1981 年に刊行されたものです。　当時指摘された「今日の事態」は、20 年以上たった今、ますます混迷の度を深めるばかりです。

博士論文を完成直後、大熊先生は新潟大学に赴任します。新潟での川との出会いが、河川工学者、大熊先生の考えを根底から変えることになります。

「私は若い頃、高度経済成長の最中に、それを担う社会基盤施設をつくるエリートとして東京大学工学部土木学科で学んだ。
その頃はダムが最も盛んにつくられ始めた時代でもある。
私達は洪水は害であり水資源的には無駄に流れているのだから、これをダムに溜めてしまえば一石二鳥であると、すなわちダムづくりは「善」であると教えられた。
私自身の修士論文のテーマも利根川上流のダム群を統合管理しようというものであり、ダムの効用を疑うことはなかったのである。
　しかし、博士課程に入って利根川の現地を歩き、つぶさに川を見ていく中で、ダムの洪水調節効果には限界があることを知った。
当時はまだダムの生態系への影響までは思いが至らなかったが、その後新潟大学に赴任して信濃川にのぼるサケやアユが激減している状況を見て、ダムの弊害を痛感するようになったのである。」

（『技術にも自治がある』農文協より、2004 年 2 月刊行）

【八ッ場ダムを考える会総会】

日時：11月21日（日）　１３：００～１６：３０
場所：群馬県女性会館２Ｆホール
　　前橋市大手町３丁目13番５号　ＴＥＬ／０２７－２３１－３０２０
　　ＪＲ前橋駅からバス６分。
総会：１３：００～１３：５０
記念シンポジウム：１４：００～１６：３０
　　「八ッ場ダムは利根川治水にとって必要か？」
　　大熊　孝（新潟大学工学部教授）
　　「アユと利根川」
　　野嶋玉造（日本一のアユ釣り師）
　　「八ッ場ダムについての最新情報」
　　嶋津暉之（八ッ場ダム問題の第一人者）
　　矢部俊介（土木技術者）
　　「住民監査請求の報告」
　　庸（八ッ場ダムをストップさせる群馬の会）

＊　八ッ場ダムの集会で初めてご登壇くださるアユ釣り師、野嶋玉造さん（群馬県子持（こもち）村）は、全国にファンのいるアユ釣り師です。熊本県球磨村の平野みきさんも大ファンの一人。球磨川中流の川岸の釣り宿として、日本中から太公望が訪れる川口商店の“みきちゃん”からいただいた情報です(^-^)/。

「野嶋玉造さんは、ホントにすごい人。正真正銘、日本一のアユ釣り師です。球磨川で友釣りの日本記録を持っています。２００２年9月１３日に３３．５センチ、５００グラムのメス鮎を釣りました。球磨川での鮎釣りを一回見せてあげたい！

お弟子さんが日本中にいて、それにおばあちゃんのファンもいるくらい魅力的な方なんです。今、群馬で『日本一のアユを取り戻す会』や、利根川を再生させるための署名とか、色々な活動に携わっていらっしゃいます。川をよくするには山が大事なんだって仰って、この時期は山にこもってキノコ狩りをしているみたい。

色んな意味で、色んな人を巻き込んで活動していらっしゃっるから、お話を聞くだけで面白い。私も見習いたいことばかりです。一回話を聞くだけでも勉強になると思いますヨ。川辺川に野嶋さんみたいな方がいらっしゃったら、ぜひ講演していただきたいんですけど・・・。」

事務局ニュース

「考える会」と「ストップさせる会」

「八ッ場ダムをストップさせる群馬の会」は、「八ッ場ダムを考える会」の中で訴訟を担いたいという有志と市民オンブズマン群馬が、今年7月に立ち上げました。首都圏各地の「ストップさせる会」と共に、「八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会」の一員でもあります。「八ッ場ダムを考える会」は、八ッ場ダムを中止させるためには訴訟も有効な手段だとの認識から、「ストップさせる群馬の会」と集会等を共催し、連携して活動しています。

「八ッ場ダムを考える会」は1999年、群馬県に発足して以来、

1. 八ッ場ダムの本体工事中止
2. 現地住民に対する生活補償の実現

を目的に、様々な活動を行ってきました。八ッ場問題の実態を広く知らせ、賛同者の輪を拡げる活動、学識者らによる講演会、現地イベント、エコツアー、マスコミへの対応、院内学習会、それにこの首都圏共通会報の発行も活動の一環です。9月末現在、会員数は３００名を超えました。首都圏各地の「ストップさせる会」を担う市民の多くが「八ッ場ダムを考える会」の会員です。一方、住民監査請求には加わらず、別の側面から八ッ場ダム問題に関わりたいという会員も大勢います。

署名ご協力のお願い

「日本一のアユを取り戻す会」（群馬県）は、利根川を再生させるための署名活動を行っています。９０億といわれるアユの稚魚や、子供達が育て放流するサケの子供は、ほとんどが利根大堰の用水路に入ってしまいます。利根川を下って海へは戻れません。

同封の署名用紙は国土交通省、独立行政法人水資源機構に提出されます。

発起人の欄にお名前を記入し、

周囲の方に署名をお願いしてください。

〔署名用紙の送付は下記へ〕

「日本一のアユを取り戻す会」

事務局　〒370-0075　群馬県高崎市緑町 1-14-4

「八ッ場ダムを考える会」でも継続してこれまでの署名活動を行っています。

署名用紙はホームページからダウンロード、または太田の会（TEL/0276-22-1181）にお問い合わせを。

「歌って歩こう会」
へのご参加
お待ちしてます。

「八ッ場ダムを考える会」の会計年度は

秋の総会（11/21）からまた新しい一年がスタートします。来年度の会費をまだ納入していない方は、お手数ですが同封の振込用紙にて、郵便局で振込みをお願いいたします。

＊　前回の会報発送の後、多くの皆様からお振込みをいただき、ありがとうございました。

＊　通信欄が未記入で2000円を振込んでいただいた方につきましては、来年度会費として取り扱わせていただきました。

＊　また、たくさんのカンパをいただき、本当にありがとうございました。

会の活動は会費とカンパで賄っております。会報の発送、通信費、交通費などがかさみ、会計はカンパによって支えられているのが実情です。
どうか引き続き、活動へのご支援をお願いします。

～～～

イベントのお知らせ

☆「紅葉のハッ場をみんなで歌って歩こう会」

11月6(土)～7日(日)

川原湯温泉に宿泊し、ミニコンサート、トーク、ウオーキングと

紅葉の吾妻渓谷をみんなで満喫しましょう。(同封のチラシ参照)

☆「ハッ場ダムを考える会総会」

11月21日(日)

総会　13:00～13:50

記念シンポジウム　14:00～16:30

「ハッ場ダムは利根川治水に役立つか？」･･･大熊孝新潟大学教授

於:群馬県女性会館　　(同封のチラシ参照)

☆「STOP！　ハッ場ダム～住民訴訟スタート集会～」

12月5日(日)　13:20～16:30

於:フォーラム8　6F　ホール・オリオン　(渋谷駅ハチ公口より徒歩7分)

東京都渋谷区道玄坂2－10－7　TEL／03－3780－0008

主催:ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会

問合せ先:谷合周三法律事務所[redacted]

ハッ場ダムは現在の計画では、平成22年に完成の予定です。

けれども本体工事はまだ始まっていません。

次の時代の命のために、ハッ場ダムをストップさせましょう。

会員年中募集中！

年会費（秋の総会から次の総会まで）/個人会費2000円、団体会費3000円

≪カンパしてもいいなという方は…≫

郵便振替口座番号00550-2-32681（加入者名：ハッ場ダムを考える会）

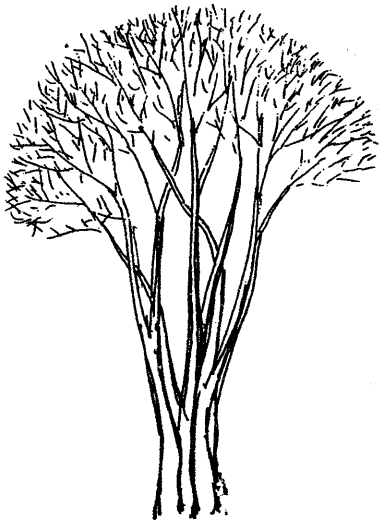
ハッ場ダムを考える会

吾妻渓谷
ハッ場ダム
2005.2　No.10

国交省よ、草の根の声を聞け

利根川流域脱ダム宣言

大寒を過ぎた北関東で火蓋を切ったハッ場ダム住民訴訟―
茨城の水戸地裁を皮切りに、宇都宮、前橋と口頭弁論が続きました。
東京、千葉、埼玉でも、2月から裁判が始まります。
群馬県・前橋で第一回裁判が開かれた1月28日、
水没予定地では、住民が国交省に、代替地交渉について回答書を提出。
「このまま代替地の地価を下げなければ、国交省の要望を受け入れられない」
という意思表明です。
半世紀以上、ダム計画を押しつけられてきた地元の人々、
高い税金で汚い水を押しつけられようとしている下流の人々、
一都五県、わが国の人口の四分の一が
みな、ハッ場ダム事業の被害者です



八ッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

ひなぎのぼりの予算案

―― 来年度は２８０億円 ――

火曜日　夏月

05年度予算
財務省原案

「八ツ場」、280億円

県「要求減額やむを得ぬ」

国の05年度予算の財務省原案が20日、内示され円少ない280億円。県は「工事の進行状況に併けるこのうちいくらが振り分

2004年(平成16年)12月21

新年度 政府予算 財務省原案

八ッ場ダムに42.5%増280億

戸倉、倉渕ダムは大幅減額

額が絞られた形だ。内示額のうち、国費は一億7300万円で、残りは利水割合などこれ

り、「遅れた期間に多額の金を投入しないと、最終的に工期が延びてしまう」

万円。建設が凍結されている県施工の倉渕ダム（倉渕村）は、62・5%減の3000万円。一時休止となっているが、新年度も烏川の流量調査などに充てる。調査

設備の県施工の増田川ダム（松井田町）には、1・0%減

昨年暮れに内示された政府案によれば、来年度の八ッ場ダム事業費は 280 億円。台所事情のきびしい財務省としては、満額回答をわずかに下回っただけの大盤ぶるまいとなった。ちなみに今年度の予算額は 196 億円。

しかし・・・

「この予算が毎年続いたとしても、完成までには 10 年かかり、2010 年完成の話はご破算となりました。事業費の再度の増額もあるでしょうから、順調にいっても完成は 2020 年に近い頃ではないでしょうか」　（嶋津暉之氏談）

～～《 国交省が2010年に完成するという裏側の理由 》～～～

● 戦後政治に翻弄されたハッ場ダムの歴史●

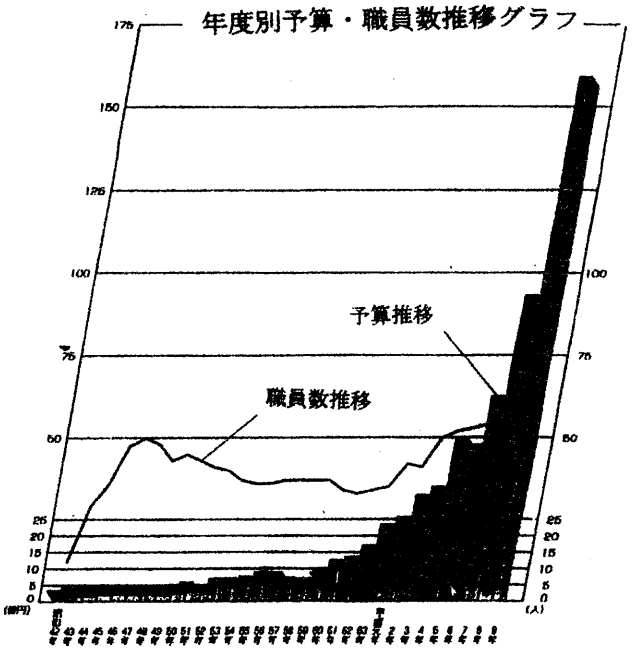
事業費スタートは1967（昭42）年にさかのぼる（右ページのグラフ）。

昭和40年、ダム予定地、旧群馬三区選出の福田赳夫蔵相が現地を訪問し、「ダムは42年ごろに着工、44年ごろには完成させたいので、地元の皆さんの協力をお願いしたい」と語っている。上州戦争の一方の雄、中曾根康弘氏は、「反対多数の住民の意向を無視して造ることはできない。中央の方は自分が引き受けるから、県議会の自民党にもっと働きかけを強めた方がいい」と住民らの歓心を買う。しかし肝心の県議会は、山本富雄氏（後に参院議員。山本一太現参院議員の父）ら福田系若手グループの攻勢により、4年間の継続審議の末、1969年、建設促進決議案を採択してしまう。

両巨頭の“ビルの谷間のラーメン屋”、小渕恵三氏は、窮地に立った反対派住民を田中角栄幹事長の目白邸に案内する。佐藤政権末期、後継を争う「角福戦争」真っ只中の時代である。建設省に隠然たる影響力をもつ角栄氏も強行一本槍の建設省を牽制した。

政治の思惑に翻弄されたダム計画は、中曾根政権下の1986年、基本計画が告示される。当時の完成予定年度は2000年。予算額は平成に入ってから“うなぎのぼり”に増えてゆく。莫大な税金を投入して山河を荒らし、それでも本体着工のメドは立たない。

（参考資料：朝日新聞1977年連載記事）



（八ッ場ダム30年の歩み・建設省）

【八ッ場ダム計画とは・・・】

＊位置・・・利根川の支流、吾妻川中流。吾妻渓谷上流部の字名（あざな）がダムの名称。

＊目的・・・首都圏一都五県（東京、埼玉、千葉、群馬、茨城、栃木）の治水・利水。

＊事業費・・・2003年、国交省の計画変更案により、2110億円→4600億円に増額。ダム事業費日本一に。基金事業、起債などを含めると総額9000億円にせまる。

＊水没予定地・・・群馬県吾妻郡長野原町。温泉を含む川原湯、川原畑地区は全水没。林、横壁、長野原の各地区も部分水没。

＊工事進捗状況・・・工事現場の縄文遺跡などの発掘調査、ＪＲ線、国道、県道などの付け替え工事、吾妻川に注ぐ大小数十の沢に防災ダムを建設中。

＊問題点・・・1．治水・利水の目的が破綻。下流における地下水の切捨て。
2．予定地住民の生活を長年にわたって破壊。
3．生態系が保全されている貴重な自然を破壊する。
4．ダム湖貯水による水質悪化。
5．地質問題、災害危険性の増大。
6．国、関係自治体の財政負担。

住民訴訟スタートにあたって

昨年11月4日から29日にかけて、茨城、埼玉、栃木、東京、千葉、群馬の住民が各都県を相手として、八ッ場ダムへの費用支出は違法であるとする住民訴訟を各地裁に起こしました。

〈形骸化した監査制度〉

去る9月10日、一都五県で総勢5,400名の一斉住民監査請求を行いましたが、それに対し、各都県の監査委員が却下または棄却の結果を出したことを受けて、訴訟に踏み切ったものです。監査そのものは、ひどく空疎なもので、ほとんどが審議らしい審議を行うこともなく、門前払いともいうべき結果でした。千葉を除くと、監査委員は住民に意見陳述の場さえ与えず、2回程度の会議を開いただけで、監査事務局が作った案をそのまま監査結果にしてしまうというものでした。埼玉の監査委員会議の議事録をみると、監査委員が監査事務局に「これは却下ということになるのか？」と質問し、監査事務局が「要件を満たしていないと思われます」と答えており、主客が転倒している有様でした。高額の報酬を受けながら、責務を何ら果そうとしない監査委員に対して私たちは心底からの怒りを覚えるとともに、事務局、つまり官僚機構がすべてを取り仕切る現代社会に対して強い危機感を抱かざるを得ません。住民監査請求制度が全く機能しない現状において、一都五県の住民は次の手段として住民訴訟を提起しました。

〈裁判の意味するもの〉

この住民訴訟は、有害無益な八ッ場ダム事業への費用支出は違法であるので、各都県が今後、八ッ場ダムに対して費用を支出することを止める事、過去1年間に八ッ場ダムに対して支出した費用を返還する事（知事や水道事業管理者が各都県に返還）を求めています。要するに、各都県が八ッ場ダム事業から撤退することを求めているわけですが、この裁判で住民の要求が通れば（仮に勝訴が一つであっても）、八ッ場ダムの計画は振り出しに戻ることになります。

この住民訴訟の相手は一都五県ですが、八ッ場ダム計画の是非の審議になれば、ダム事業者である国土交通省の参加を求めることができます。法廷の場で、各都県と国土交通省に対して、八ッ場ダムの不要性と有害性を徹底して追及していきたいと考えています。

これからの裁判の見通しは当然のことながら、容易なものではありません。裁判の最初は各都県側が、訴えが不適法であるとして門前払いを求めてくることは必至ですから、まず、この入口論争を突破しなければなりません。それを突破したら、次に八ッ場ダム計画の是非をめぐって、実体審理に入ります。

〈住民の怒りで裁判所を取り囲もう〉

裁判のこれからの行方は裁判の審理だけできまるものではありません。「こんなにひどいダム計画をなぜ進めるのだ！」という住民の怒りの声が裁判所を取り巻く状況をつくっていかなければなりません。裁判の傍聴に大勢の方が参加して、大勢の住民がいつも見守っているのだという姿勢を裁判官に示し続けるとともに、八ッ場ダムの反対運動をもっともっと拡げて、八ッ場ダム問題が大きな社会問題であることを裁判官に認識させる必要があります。そのような状況になってこそ、まっとうな訴訟指揮と判決が期待されると思います。

そして、この裁判を進めるにあたり、常に私たちの心底にあるのは、地元の人たちのこれからの生活です。水没予定地に指定されたがゆえに、長年の間、経済的にも精神的にも苦難の生活を強いられてきた地元の人たちが未来のある生活を取り戻すことができる道を何とかつくっていかなければと思います。

嶋津 暉之（八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会代表）

脱ダム運動の集大成、八ッ場ダム住民訴訟がいよいよ始まります。裁判所の敷居をまたいだことのない方も、ぜひこの機会に覗いてみてください。“八ッ場の学校”は私たちに、三権分立の一角である「司法」の場が、意外に身近な民主主義の実験場であることを教えてくれます。

★ 八ッ場ダム住民訴訟スケジュール★

第一回裁判（口頭弁論）

茨城	１月２５日	終了	
栃木	１月２７日	終了	
群馬	１月２８日	終了	
東京	２月１６日（水）	午前１０時～	東京地裁
埼玉	２月２３日（水）	午後１時１５分～	さいたま地裁
千葉	３月 11 日（金）	午前１０時３０分～	千葉地裁

第二回裁判

茨城	３月２９日（火）	午後１時３０分	水戸地裁
栃木	４月１４日（月）	午前１０時～	宇都宮地裁
群馬	４月１５日（火）	午後１時～	前橋地裁

【各地の連絡先】

☆八ッ場ダムを考える会

[redacted]

☆首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

[redacted]

☆八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会

[redacted]

☆八ッ場ダムをストップさせる東京の会 [redacted]

☆八ッ場ダムをストップさせる千葉の会

☆八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会

☆八ッ場ダムをストップさせる群馬の会

☆八ッ場ダムをストップさせる茨城の会

☆ムダなダムをストップさせる栃木の会

☆八ッ場ダムを考える千葉の会 [redacted]

☆八ッ場ダムを考える市民の会おおた [redacted]

最新ニュース！ ハツ場ダム住民訴訟

茨城の陣 —パワーポイント陳述、目を見はる効果—

去る１月25日、水戸地方裁判所において「ハツ場ダム住民訴訟」第１回公判が開かれました。松本裁判官、左右の判事のもと、原告側は谷萩陽一、坂本博之、五来則男の３弁護士、柏村忠志、濱田篤信の原告団長をはじめとする9人の原告が並びました。被告県側は伴義聖以下5人の弁護士、県職員の被告3人。緊迫した空気のなか開廷しました。

報道関係12人が見守るなか、取手市の塚越恵子さんが静かに語りはじめました。テーマは「既に必要性のない利水・治水」「総額 8800 億円、茨城県の負担 390 億円という税金の無駄遣い」「50年余にわたる地元住民の苦しみと補償」。パワーポイントの図表と語りが一体となり、法廷をぐいぐいとハツ場問題へ引き込んでいきました。

2番手は霞ヶ浦の水質保全に携わる農学博士の濱田篤信さん。テーマは「危険な岩盤と質」。危険極まりない所にダム建設を強行する行政の無責任が、穏やかな濱田さんに怒りの火をつけました。スクリーンの横に立ち、パワーポイントの図を指す濱田さんの怒りを秘めた陳述は感動的でした。

最後は霞ヶ浦導水事業裁判のリベンジを期す柏村忠志さん、茨城の水問題をライフワークとする専門の立場から、膨大な水余りをデータを駆使して陳述。被告はもちろん、導水裁判を棄却した伴弁護士、松本裁判官を追い込んでいきました。しかし、とどめを刺すべく「導水事業の実態を審理することなく棄却した判決は、その後の包括外部監査が指摘する水余りをいかに受けとめるのか」の段に入る直前、松本裁判官より時間切れの制止があり、無念の陳述となりました。後になって、坂本弁護士より、「あらかじめ陳述内容を知っていた裁判官が意識的に止めたのではないか」との解説に、無念ではあるが、それだけ追い詰めたと納得。

被告側は後日検討のうえ反論の陳述をする旨の発言。伴弁護士は薄笑いを浮かべながら「ダムの必要性は原告と全く見解を異にする。機会があれば反論するが、それよりもこの訴訟が裁判に馴染まぬもの故、その点を陳述する」と語り、原告側と調整の結果、次回裁判の日程が決められました。

（ハツ場ダムをストップさせる茨城の会　神原禮二）

群馬の陣

茨城の裁判と比較した田中さんによれば、
「裁判官の印象は群馬の方がはるかにソフト」だったそうです(^.^)。

意見陳述トップバッターの斉田朋男さんは、おそらく六都県の原告の中で最高齢ではないでしょうか。ハツ場ダムの長い歴史を見つめてきた群馬県民の代表にふさわしい、含蓄のある陳述でした。

代わって真下淑恵さん。ダムの不要性を訴える凛とした声、知性あふれる姿は、被告席の灰色集団、県のお役人たちと、まさに好対照でした。

最後にライターの鈴木育子さん（ご本名）。
「ダムと対決、命足らざる」というタイトルは、かつてハツ場の闘争を闘った豊田嘉雄さんの句の一節。
裁判官に切々と訴えるさまは、沈黙を強いられている現地の人々の怨念が、まるで鈴木さんの小柄な体にのりうつったかのようでした。
（80代半ばになる、現地の元闘士の方たちに見ていただけなかったのが残念！）

Yoko メッセージより

前橋地方裁判所御中

意見陳述

平成17年1月28日

前橋地方裁判所　御中

原告　鈴木育子

ダムと対決、命たらざる

水没地の山も野も哭き、人々の心は凍りつつあります。が、50年間傷め続けられても、八ッ場の地はときめきを放つ心のふるさとです。

“最初にダムありき”の一方的な政策で推し進められた「八ッ場ダム」は、“人間の響き”を伴わない非道の半世紀であったと言っても、過言ではなく、逐一事例を述べられませんが、約束事が次々と反故にされています。

それでも、暮らしてこなければならなかった生身の人間の歴史があり、もはや、人権問題そのものとなりつつあります。

かつて、ふるさとを守るための、熾烈なダム反対闘争がありました。

雪の降りしきる１９６７(昭和４２)年１２月１５日、雲林寺で開かれたムシロ旗を掲げての「八ッ場ダム総決起集会」の頃が最も盛んでした。483名も参加しています。

その後は、権力のなりふり構わぬ強引な懐柔政策によって切り崩され、ついに八ッ場ダム特有の「現地再建のズリ上がり方式」「犠牲者の出ないダムづくり」なる甘い言葉を信じこまされ、余儀なく推進に追いこまれてきたわけです。

かけがえのない故郷を捨てて、異郷の地や地区外に出て行かなければならない人々は、昨年末日現在、340世帯中、194世帯。町外転出は164件。10月末までは、173世帯でした。

今回の増加は、2001年6月14日の補償基準調印直後の数値とは質的に異なります。この時は、俗にダム屋と呼ばれる“補償金目当て”の人々をも含む、調印を待ちかねていた転出希望者たちが大半でした。

原因の一つとして、代替地問題が挙げられます。

心情的には、せめて先祖伝来の地域に残って、一村こぞって住みたいのが当たり前。けれど、肝心の代替地は、遅々として進まず、ようやく一昨年12月15日、発表された分譲価格は、なんと売却価格よりも高いか、ほぼ同額。その結果やむなしの選択なのです。ちなみに広島県の灰塚ダムでは売却価格のほぼ半額でした。

国土交通省は現在、第三回目の代替地分譲価格説明会を開催。これを最終回答として妥結に持ち込もうとしています。

示された宅地の価格は五段階あり、１１万７４００円～１３万４９００円まで。温泉街で旅館を建てれば３０％増し、最高は１７万５３７０円にも達します。農地は二段階あり、いずれも坪５万以上。県道や町道に面した場所は坪５万６４００円。

この価格では天恵物は無くなり、新天地で水一滴から買うことなる全水没地の住民には到底、買いきれません。

本音は「出て行けば、造成しなくてもすむ」と憶測されてきた、流言を裏付けるものだと関係者は言い切っています。

まさに袋の一方の口しかあけられず、退路を絶たれたに等しく、移転していかざるを得ない状況にさらされているのです。

① 現地においては一反 300 坪で 150 万円。つまり坪 5 千円でも買える農地もあるのです。坪 5 万以上もの価格は昨今は高崎・前橋市周辺でも珍しく、坪一万円まで下がった田の例もある程。

② また、一坪あたり 5 千円の収益のあがる作物は皆無で 1 千円でもきつく、時には肥料代にならないこともあるのが現実。

③ さらに、代替地でも農業運営して行こうと考えても、自分で所有し耕作している面積の一割しか分譲してもらえず、最高が二反歩なのです。

④ これが最終回答。さらに「造成地の工事費が高くて、そんなに造成できない」との国交省の説明に、「百姓に死ねということか」と怒って、「それなら最初から、ダムなんかよせばいい」と声を荒げた農業従事者もいたそうです。

④ そもそもは、「傾斜地を平らにして、皆さんに良い農地を渡せるから、生活再建できる」ということが前提となっていたはずです。

去る 1／16 日 15 時から、部分水没する横壁の中村集会所でも、説明会がありました。ここでは砂防ダム工事によって、清流にしか棲まないイワナや小さなサンショウウオもみな死に絶えてしまってます。

この日、田村長野原町町長も三年ぶりに出席。相も変らぬ国の言いなりの挨拶に、続く新年会の席では、住民から「いま時分、出てきて!」との声も出たそうです。川原湯地区では質疑の時間もなかった由。

「こんな条件では俺ん家は、もう用地交渉には応じない。建設省は出入り禁止だ」とある地権者は怒り、「先祖から 350 年も住んできた。この気持ちは部外者にはわからないだろうけれど、言葉では表せない」と語ります。

代替地問題一つをとっても、生きる権利無視の態度が明らかではないでしょうか。これでは、100 年前の谷中村の悲劇と構造・骨格を同じくする村落の解体ではありませんか。

なお、造成地の単価が高いのは、

① 本来、人間の住む土地ではない急峻、地すべりの危険地帯――必然的に工事価格は高くなるのは当たり前。何百年もかかって、この地のご先祖たちは最も安全な居住地を選んだのですから。

② ゼネコンへの特別の工事価格などもあります。

ともかく経済が破綻した今日、ダムを即刻、中止すれば、いつ危険にさらされるしか判らない代替地も要らず、ムダ使いもなく解決の糸口があるはずです。

家屋敷を湖底に沈めて出ていかざるを得ない辛さに、思いをはせてみて下さい。

前橋地方裁判所御中

子供のときから慣れ親しんだ庭木や周辺の景色、ひとしおの愛着と思い入れがあります。雑草一つでもいとおしいものです。

家を増築せねばとか、孫に果樹の木を記念に植えといてやろうかなどと心づもりした矢先、「そうだ、ダムに沈むんだったっけ」と思い至らざるを得ない時の暗い気持ち。

明日の設備投資も生活設計が描けぬ、生きつ戻りつのまさしく蛇の生殺し状態。

ご自分のこととしてお考えください。

訪れるたびに面積の増す、生活の匂いの消えてしまった空き地や廃墟に立つと、かつての密集した家並みが思い出され、胸元まで突き上げてくるか哀しみと憤りを覚えてなりません。

“去るも残るも地獄”を味わわされている水没民は、「補償基準を早まった」「こんなみじめなダムはない」、そして「はめられた」とぐちられます。

事実、そのような事実経過がありました。どうぞ、現地に渦まくこの闇の部分をつぶさにご検証くださいますよう。

その一方、かつての闘士もご高齢になられ、諦めの中で所在なく、「はあ、仕方ねえ。ここまでくれば」とため息交じりに吐く弱音に、こちらも切なくなってしまいます。

ここまで追い詰めたのは誰なのでしょうか。何なのでしょうか。

なぜ、こんなに人間の生きる権利を、蝕むのでしょうか。

今、人々は身も心も凍る、まさに冬の時代を迎えようとしています。

84歳になられた豊田嘉雄さんは、全国に鳴り響いたダム反対派として、つとに知られている方ですが、「いつかきっと、やまたのよっちゃんは正しかったと、認められる日がくる」と信じている方で、こんな短歌も詠まれています。

「青春は兵役に埋没　後半生ダムと対決　命たらざる」と。

従って、今般の題を「ダムと対決　命たらざる」とさせて頂いた次第です。

どうぞ、この方たちがお元気なうちに、速やかに「ダム中止」の朗報を与えてください。本当に“命たらざる”なのです。ダムに翻弄された反対運動の皆さんに、どうぞ、「建設省の言うことはウソだらけだったが、この国の司法は、公明正大だった」とご存命のうちに知らせてあげて欲しいのです。

ダムが本当に必要ならば、人々のためという大義名分もなりたち、水没民の皆さまも耐えられるでしょう。しかし、いまや、無駄もムダであることは明々白々の事実。なのに、本年度予算はほぼ満額の280億円も……。

人間が考え、計画したものを、なぜ、人間の英知をもってして是正できぬものなのでしょうか。

金は一時。自然は永久です。破壊すれば、再生はかないません。

司法に連なる皆様、ご自分の足で目で、あの八ッ場の素朴な自然界に触れてみて下さい。そして、切り刻まれ、刻々と様相が変わり行く、八ッ場の地底からの叫びにどうぞ、耳を傾けてください。工事現場の中でも、草花は、時を違えず芽吹くのが健気でいじらしい限りです。

環境と人権の世紀の幕開けにふさわしいご英断を、ひたすらお願いいたすものでございます。

以上

現地は、今…

川原湯では湯かけ祭りが終わった大寒の晩から翌日にかけて、たっぷりと雪が降り積もった。春秋のシーズン、観光客で賑わう吾妻渓谷も、いま時分はひっそりと静まりかえっている。

雪化粧をまとった渓谷の美しさをよそに、水没予定地では暗礁に乗り上げた生活再建計画が人々の心に重くのしかかっている。予定では、2005年度から代替地への移転が始まることになっている。確かに計画通り2007年度にダム本体の着工にとりかかるためには、そろそろ移転を開始しなければならない時期だ。

ところが代替地そのものは未だに完成していない。八ッ場ダム事業の“影”の部分ともいえる現地再建計画はどうなっているのだろう？

▶移転する土地がない

ダム予定地は吾妻渓谷の手前、両岸の谷が徐々に狭まっていく場所にある。周辺に適当な代替地がなく、犠牲があまりに大きいというのが、住民らが長年ダムに反対した大きな理由だった。

ダム反対闘争当時、水没予定地の農婦が訴えた言葉から―

「私達の所は、すぐ後ろから切り立ったような山ばかりで、引き上がって農業を営むことはできません。かといって遠い昔から続いてまいりました、この静かで清らかな郷土と、そして一軒の家のようにまとまって何代も仲良く助け合って暮らしてきた隣近所の人たちとも別れ別れてどこかへ転住の地を求めてちりぢりに出て行く等ということは、何よりつらいことでございます。」

（1967年、八ッ場ダム建設絶対反対総決起大会記録より）

1985（昭60）年、長野原町は群馬県と生活再建案についての覚書を締結する。建設省への反発が強かった地元だが、国の意向を代行して硬軟とりまぜての切り崩しをはかった群馬県、そして背後に隠然と控える国に抵抗するのも、もはや限界だった。「現地再建計画」は事実上、この時からスタートする。

【現地再建計画の経過】

1980年　群馬県が長野原町に生活再建案を提示。

1985年　町長と群馬県知事が生活再建案についての覚書を締結。

1990年　建設省と群馬県は、地元に「地域居住計画」を配布。

1995年　建設省、代替地の計画案（第二次土地利用計画）を配布。

▶「現地再建ずり上がり方式」の破綻

水没予定地の世帯数は1980年当時340戸、人口は1170人だった。県の作成した再建案は、水没地のコミュニティーをそれぞれ山の中腹に引き上げるというもの。「現地再建ずり上がり方式」と呼ばれるこの計画を、国も県も全国初の画期的プランと自画自賛した。県作成の資料には、バブル前の時代を反映し、夜間照明つき運動場、こどもの国事業、企業誘致・・・と“バラ色の夢”が綴られている。具体的な青写真が示されたのは「まちづくり」といわれる1995年の第二次土地利用計画から。住民に配布されたパンフレットには、“ロマンチックリゾート YAMBA”など観光パンフなみのキャッチフレーズが踊る。バブルが崩壊しても、パンフの中の“計画”は変わらなかった。

生活再建の覚書が締結されてから20年。すでに半数以上の住民が他所の土地に転出してしまっている。ことに2003年12月、国交省が提示した代替地の分譲価格が「予想よりずっと高かった」(現地住民)ことが、流出に拍車をかけた。現実に再建が可能になるよう、最初の半額程度、せめて坪当たり10万円以下に引き下げてほしいと住民側は要望してきた。けれども一年経っての通告は、わずか3～4%下げ止まりで、下流の地価の方が遥かに安い。国交省は「造成にコストがかかる」と説明しているが、これでは多くの住民が計画を見限るのも無理はない。

[1] 原湯温泉の場合

川原湯は、水没予定地の中でも温泉街のある最大の集落。当初201戸あった世帯数は90戸足らず、約350人にまで減少した。この地区の代替地は「打越」と「上湯原」とよばれる土地だ。

上湯原は現温泉街の坂を上った先の地名で、JR川原湯温泉駅が移転することになっている。温泉源からも比較的近く、水没予定の農家からも遠くない。だが今のところ造成そのものが手つかずの状態だ。この地域は民有地が入り組んでいる。地権者の中には、長年の経緯から国に不信感を抱き、協力する気持ちになれない人もいるという。地質に問題があるから、国は乗り気でないという話もある。

「もともと行くとしたら打越しかなかった」と住民が言う場所は、ダムサイト予定地近くの山の中腹にある。国有林であっただけに土地売買の問題も発生せず、比較的順調に工事が進んでいる。代替地を貫く沢は幾重もの防災ダムで堰き止められ、盛り土を数十メートルの厚さで踏み固め、さらに吾妻川の手前にロックフィルダムを設けて造成中だ。急傾斜地の前後を防災ダムで守り、国の威信をかけて万全の対策をとっているから、災害の心配はあまりないと住民は言う。だが観光客にとって、防災ダムやコンクリートの建造物に囲まれた要塞のような新温泉はどんな印象を与えるだろう？　電気、水などライフラインの整備もまだ手つかずで、肝心の温泉もない。道路も水道もこれから整備し、温泉は源泉をポンプアップして1キロ以上パイプで通すというが、温泉街13軒のうち移転する旅館はせいぜい3，4軒ともいう。北向きの標高の高い代替地は、高齢者、農家にとってあまりに条件が悪い。

東京の人たちが吾妻渓谷の遊歩道からロックフィルダムを見上げて驚きの声をあげた。「お金を出してもらっても住みたくない。こんな場所が代替地とは・・・」。

代替地縮少でコストが下がる

現地では、これから何度目かの住民への意向調査を行うという。調査結果で「代替地移転」希望者が減れば、代替地計画を縮小することになる。八ッ場ダムの財政負担にあえぐ下流自治体にとっては、ありがたい話かもしれない。昨年、情報公開された国交省の資料によれば、ダムサイト予定地の岩盤亀裂、周辺の地すべり対策は更なる事業費アップの可能性を示唆するものだけに、事業主にすれば、コストは切り詰められるだけ切り詰めたいのが本音であろう。バラ色の夢をふりまいた「現地再建計画」は、今やダム建設に邪魔な住民を切り捨てる「住民追い出し計画」に様変わりしている。

1993年、長野原町にある建設省の工事事務所が配布した「代替地計画のあらまし」によれば、代替地は1999年には完成することになっていた。ダムも代替地も、計画はすべて覆され続け、そのたびに住民は煮え湯を飲まされてきた。「ダム事業は期限がないことが一番つらい」という住民の言葉を、下流の私たちはどう受け止めたらいいのだろう。

▶沈黙する水没予定地の人々

下流では八ッ場ダムの裁判が始まり、マスコミは「ムダなダム」として八ッ場ダムを取り上げることも多くなってきた。けれども現地の人々の反応は複雑だ。温泉街の「川原湯館」旅館主、竹田博栄さんは、八ッ場ダム問題に関心をもつ下流の人々に、地元の現実を知ってほしいという。

「すべては最初のボタンの掛け違いが、問題をここまで長引かせてしまった原因。でも私たちは、もうダムのことは考えたくもないというのが本音です。多くの住民がこんなにも長い間、ダムに翻弄され、人生を台無しにされてきた。その挙句、今また路頭に迷うのではないかという不安に苛まれている。八ッ場ダムの事業費の中には地元の生活再建も含まれる。税金のムダというだけで割り切られてはたまらないという気持ちです」

沈黙する水没予定地の住民の声

すべて匿名希望

補償基準に調印したとたん、国交省は冷淡になった。でも、ダム事業が中止になれば、生活再建にも税金をかけてはもらえないから、止まったら困ります。

皆さんが私達のことを心配してくれるのはありがたいが、水没地の者の気持ちは、本当にはわかってもらえないでしょう。代替地に住みたいとは思っていません。でも、この歳になって新しい土地になじめるとは思えない。今の所は、(ダムができるから)住み続けることができないんです。

老人はこの土地に愛着をもっているが、子供たちの世代になると・・・。過疎地には魅力がないと若い人が出て行くのは止められない。金がすべての世の中になってしまって寂しいね。

みんなが選挙で今の体制を支持している。民主主義だから仕方ないんだろうな。

皆で頑張ってきましたが、残念なことに、巧妙な切り崩しには抵抗し切れませんでした。だから、どうか当時の熱気を、下流の皆さんが引き継いでください。お願いします。

やれるだけのことはやった。昔はダム予定地の住民は、金銭補償だけで生活補償という考えもなかった。八ッ場のために水特法もできた。でも、現状を見れば、すべてが水泡に帰したんだなァ。

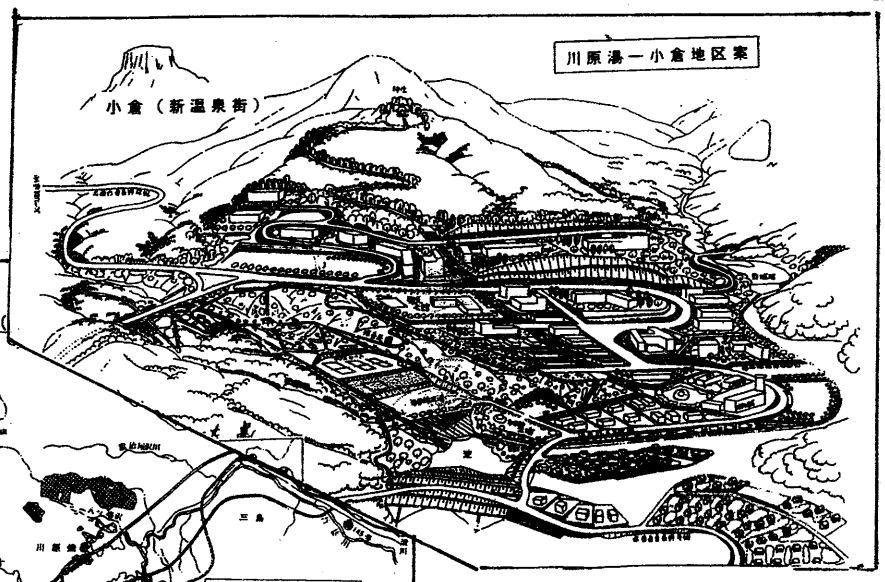
もともとダムができていいなんて思ってる人はいなかった。でも、長年の闘争でイヤというほど国力を思い知らされた。もう、ここには抵抗するだけの気力もエネルギーも残っていないです。

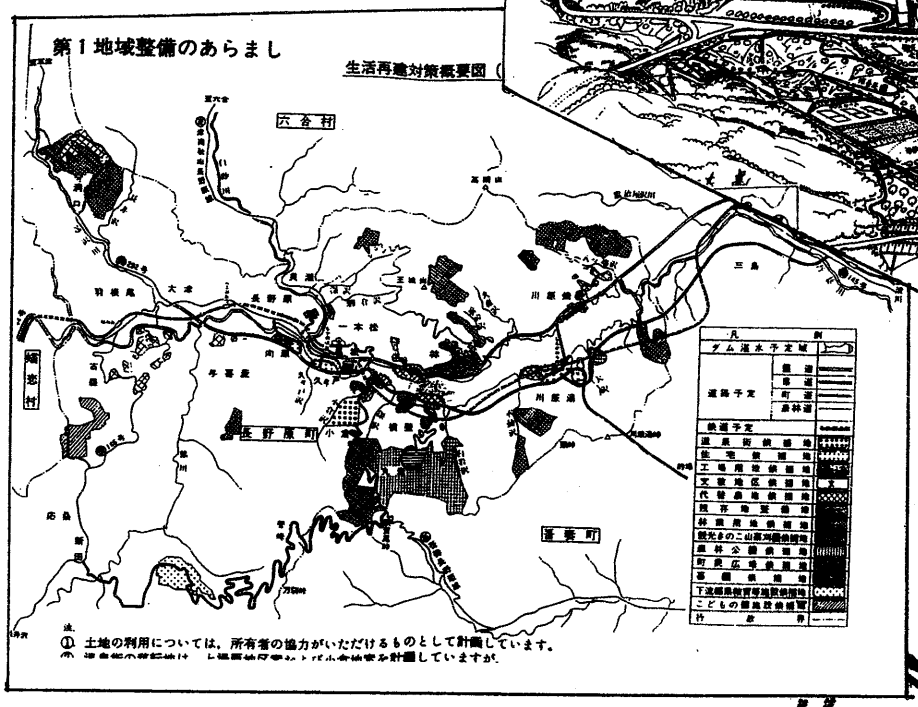
代替地に移ることに不安を感じている人は案外多いと思う。まだ完成もしていないし、安全かどうかもわからない。他のダムでは、完成してから地すべりが起きて住民が犠牲になったという話も聞く。このまま国の言うとおり、移転を考えてもこの先どうなるか・・

こんな汚い水を飲まなければならないなんて、下流の人たちが可哀相ね。どうして東京じゃ、水のことが話題にならないのかしら？

長野原町の一主婦

20年前に見せられた バラ色の夢





2005年の現実

八ッ場ダム 移転代替地

分譲価格引き下げを

住民が国交省に回答書

長野原町での八ッ場ダム建設を巡り、水没五地区の住民でつくる「八ッ場ダム分譲基準連合交渉委員会」は二十八日、国土交通省が新たに見直した同町の四十箇所の分譲基準の対象は、同町川原湯、川原畑、長野原、三島、応桑、横壁、林の六地区。

水没する川原湯、川原畑両地区側から、依然として要望と坪当たり2～3万円の開きがあり、さらに引き下げを求めた。

これを受け、同委員会は、全戸がう同省側に求めた。

（吉田明生）

原告側は意見陳述で、「建設計画から五十年あまりたって環境も変わり、もはや必要性は全くない。住民の生活圏を破壊し、吾妻渓谷など豊かな観光資源を水没させるダム計画は、直ちにやめるべきだ」と、川原湯温泉では「八ッ場」の二十軒あった旅館のうち七軒が廃業。若女将の「初恋」を「温泉町そのものが生き分離する」と嘆く。

代替地の分譲問題による住民の不満は噴出している。二〇〇三年十二月の最初の説示は、整備費とかけ離れていたといい、今も交渉が続く。川原畑地区から転出した旅の宿「初恋」の女将、吉田明生さん（69）は「地価は三十四年も遅れたのに、同じ額を出せとは無いもの。所が変わる。整備は当然」と。

国交省は二〇〇〇年の説明会で、自宅の整備費を自腹で負担し、当面、造成費をポーク費などを負担するよう二度にわたって要望。国側は交渉の中で、「国側は交渉の中で、「国側は交渉の中で、「

事務局ニュース

♪ホームページのリニューアル♪

ホームページのリニューアル作業が進んでいます。2月初旬にはスタート予定。ナチュラルな色調が、八ッ場の土と緑を連想させます。合わせて、会のメールアドレスも変更になります。

新ホームページアドレス
http://www.yamba-net.org/

新メールアドレス　info@yamba-net.org

＊会員の鈴木さんが本を出版しました＊

会員さんの鈴木郁子さんが、「八ッ場ダム－足で歩いた現地ルポ」（明石書店/2,415円）を出版。生粋の上州女、鈴木さんが現地に通い続けて書いた力作です。詳細は明石書店のＨＰでご覧ください。

http://www.akashi.co.jp

&『鳥たちの舞うとき』まだあります&

高木仁三郎さん著による、八ッ場の物語、『鳥たちの舞うとき』。八ッ場の大空をモーツアルトの交響曲をバックに鳥たちが舞うクライマックスは圧巻です。出版社、工作舎のご好意により、「八ッ場ダムを考える会」よりお買い上げいただきますと、半額が会へのカンパとなります。送料込み1800円。
ご希望の方は同封の振込用紙をご利用下さい。

！八ッ場ダムを考える会　総会終わる！

２００４年１１月２１日、前橋市の女性会館において総会が開催されました。当日資料・議事録などご希望の会員さんは、事務局へお申し込みください。

・　会計報告

前年度繰越金 351,706円　会費収入 548,000円
カンパ　643,001円　　収入計 1,542,707円
支出　紙代・印刷費 257,768　送料・通信費 321,188　交通費 342,535　謝礼 67,780　広報費 93,020　会議費 20,600　他集会への 123,249　その他雑費 22,352
支出計 1,291,492円
総計　251,215円（次年度へ繰越）

・　役員

代表　樽谷 修
副代表については設置を見合わせる。
新たにに顧問を設置。
嶋津暉之さん（水問題、八ッ場ダム問題の第一人者）、大熊孝さん（河川工学者、新潟大学教授）、矢部俊介さん（土木技術者）にお願いし了解を得た。

@－@会費のお願い

今年度の会費を受け付けております。すでに多数の方からご入金いただきました。経費節減のため領収書をお送りできませんが、この場を借りて御礼申し上げます。会費未納の方は、お手数ですが同封の振込用紙にてお振込み下さい。カンパも同時に受け付けておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

振込用紙の通信欄に「会費」「カンパ」の別を書き込んでいただきますと、事務作業がだいぶ軽減されます。ご協力をお願いします！

** 横壁の丸岩と林の王城山 **********

やんばの昔話

あるとき、丸岩と王城山が戦いをして、林のもんは丸岩は王城山に片耳取られちゃったっていうし、横壁のもんは王城山はとうとう往生しちゃったなんていってるねえ。

丸岩は王城山の神様と戦争をして負けた。耳をもがれたという。それで、丸岩には、片方の耳（吾妻川の側）　がないという。

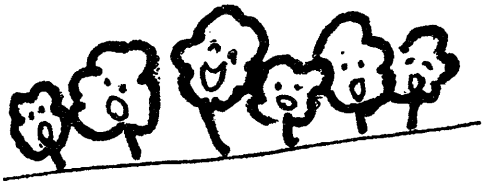
事務局ニュース

★新緑の現地イベントにご参加を！★

昨年春、秋と好評だった現地イベント、
「八ッ場を歌って歩こう会」
を今年も開催します。

日程：5月7日(土)～8日(日)　川原湯温泉泊

一日目はダム予定地を見学。二日目は渓谷の新緑の中を山西哲郎さん（群馬大学体育科教授）らと共に歩き、梅林で恒例のコンサート開催。部分参加もＯＫ。詳細スケジュールは次号会報でお知らせしますが、早めに予定を立てたい方は、事務局にお問い合わせを。
ホームページでもお知らせします。



「八ッ場の地質」学習会

日時：　3月20日(日)13:30(？)時より
場所：　群馬県中之条町　吾妻ツインプラザ
講師：　嶋津暉之、　矢部俊介
主催：　八ッ場ダムを考える会

ダム直下の町、中之条で八ッ場ダムの地質について考えます。予定地周辺の地すべり地帯はどうなる？　代替地は安全か？　ダム決壊の可能性は？　科学的な検証によって、八ッ場ダム計画の実態に迫ります。

各地の学習会お知らせ

首都圏各地の市体民団では、八ッ場ダムの学習会を随時行っています。
ミニ出前講座も受け付けております。お問い合わせは各地の団体へ直接お願いします。

「ストップ！八ッ場ダム学習会」
日時：２月２７日(日)　13：30～15：30
場所：調布たづくり
　　1002学習室(TEL/0424-87-3087)
　　京王線調布駅南口　徒歩２分
　　(駅南口を出て右手の方へ)
講師：高橋利明（東京弁護団団長）
資料代：３００円
主催：八ッ場ダムをストップさせる
　　東京の会

「八ッ場ダム学習会」（仮題）
日時：３月１３日(日)　13：30～16：00
場所：取手市井野公民館
講師：嶋津暉之
主催：利根川の水と緑を守る会、
　　八ッ場ダムをストップさせる
　　茨城の会

** 横壁と林のこどもたち **********

むかしはね、子ども同士でも、朝げは、「おはよう」なんていって、一日中仲良く遊ぶだんべい。そいで、夕げ帰る時になると、横壁の連中は、「あばよ」っていった後、
「林のやつら、バカやつら、鍋んなか屁クソたれて、柄杓でけつをのごった」って、でっかい声でいうんだよ。そうすると林の方も負けねえで、「あばよ」っていってねえ、
「横壁やなとこ、まるやした、横から見ればひえ団子、上から見ればアワ団子」なんてねえ、小学校5，6年生の頃まで、そんなことを言ってたねえ」

（長野原の昔ばなし－長野原町刊行）

やんばの昔話

八ッ場ダム、いよいよ岩波ブックレットに登場！

八ッ場ダムを考える会編集のブックレットが、2月4日、岩波書店より刊行されます。わが国脱ダム運動の理論的支柱、嶋津暉之さんが、その原点、八ッ場ダムについて語った講演録を柱に、気鋭のジャーナリストによる書き下ろしを加えました。脱ダムの集大成、八ッ場ダム問題への“道案内”としてご活用ください。

「八ッ場ダムは止まるか―首都圏最後の巨大ダム計画」

八ッ場ダムを考える会編

目次　第一章　八ッ場ダム　現地の〈いま〉　隈 大二郎

第二章　八ッ場ダムは本当に必要か　嶋津暉之

第三章　ダムが破壊する自然と人々の暮らし　嶋津暉之

第四章　浅間山の下流にダムを造るとどうなるか　まさのあつこ

岩波書店　店頭販売価格 504 円（定価 480 円＋税）

八ッ場ダムを考える会に注文されますと、定価の２割が会へのカンパとなります。同封の振込用紙をご利用下さい（送料込み６００円）。10 冊以上まとめて購入の場合、会員特典として送料無料、一冊あたり 410 円。学習会、集会などで販売し、残部は返本という方法も可。

お問い合わせ：[redacted]

八ッ場ダムは現在の計画では、2010 年完成の予定です。

けれども本体工事はまだ始まっていません。

次の世代の“いのち”のために、八ッ場ダム計画を見直しましょう。

会員募集中！

年会費（秋の総会～次の総会）/個人会員 2000 円、団体会員 3000 円、学生会員 1000 円

《カンパしてもいいな、という方は・・・》

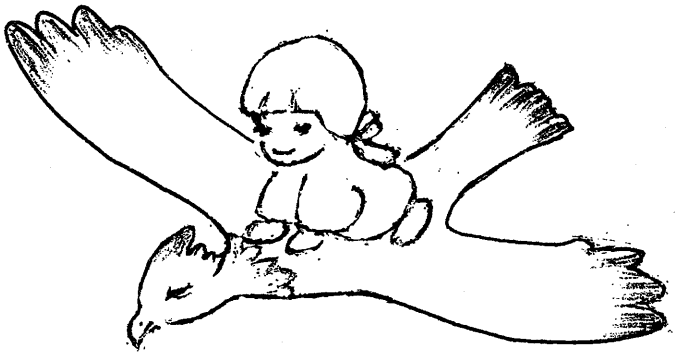
郵便振替口座番号００５５０－２－３２６８１（加入者名：八ッ場ダムを考える会）

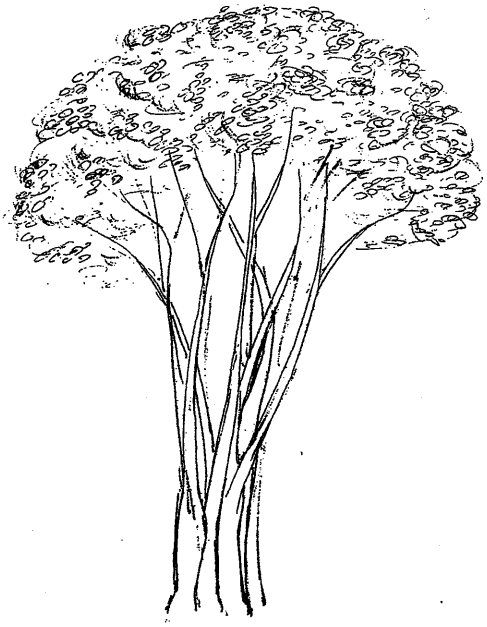
八ッ場ダムを考える会

吾妻渓谷
八ッ場ダム
2005. 4 No. 11

現地の生活再建・待ったなし！

利根川流域脱ダム宣言





八ッ場現地では、代替地交渉が大詰めを迎えています。
長年、ダム計画に翻弄されてきた住民への補償も含め、
疲弊しきった地域再生に税金を投入する政治判断が
今、まさに求められています。

八ッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

現地は、今…

長野の県境にある現地では、梅と桜がいちどきに咲く北国の春が始まった。ゴールデンウィーク中、新緑が見ごろの吾妻渓谷では、ムラサキツツジの赤紫色が点々と谷を染める。

水没予定地は、代替地分譲基準の交渉をめぐって揺れてきた。

▶事業進捗率を高める住民流出。

ダム事業を進めるためには、水没予定地住民の移転が不可欠だ。建設省は国に抵抗することをあきらめた現地に対して、1990年、「地域居住計画」を発表した。国の代替地計画がこの時、スタートした。住民もコミュニテイー全体で移住することを望んでいた。

だが、現実はどうだろう？

以下の表は、国土交通省が事業進捗率と説明して公表している資料である。周辺に計画された代替地は造成が遅れ、住民が望んでも移転は不可能だった。地区外流出の戸数を指す「契約済」の数字が、代替地計画が実質的に破綻していることを物語っている。

（平成17年2月末現在）

長野原町							
地区		川原畑	川原湯	横壁	林	長野原	計
世帯数	契約済	58	126	11	23	13	231
	うち移転済	53	114	7	17	7	198

▶代替地交渉

代替地分譲基準の交渉が始まったのは、一昨年末。補償基準が合意に至ってから、2年以上が経過していた。本来であれば、ダム計画の最初になければならない代替地交渉が、最後になってやってきた。

2001年6月　現地住民代表よりなる委員会が補償基準に合意。
2003年12月　国交省、代替地分譲基準を提示。現地は分譲価格が高すぎると猛反発。
2004年12月　国交省、分譲価格を３～４％下げる三度目の基準を提示。
2005年1月末　全戸水没の川原湯、川原畑、再度の値下げ要望。
2月末　国交省、四度目の基準提示。「代替地価格“前進”なし」（讀賣群馬版）
3月末　現地住民代表、同省に価格引下げの要望書を再提出
4月13日　国交省、再度ゼロ回答。提示価格を変える意思がないことを正式に表明。

計画当初、３４０戸あった戸数は、１００戸余りにまで減少した。地区別内訳は、川原畑２１戸、川原湯７５戸、横壁４戸、林３戸、長野原１２戸。

水没世帯が少ない地区では、1月時点で合意の方針が打ち出されたが、全水没予定の川原湯、川原畑では交渉が難航した。国交省が値下げの要望に応じないことが明らかとなった3月、川原畑地区は分譲基準に合意すると公表した。これ以上交渉をしても、かえって代替地の造成が遅れるという住民の不安が背景にあったといわれる。

13版 群馬

八ッ場ダム移転代替地

1/29

分譲価格引き下げを

住民が国交省に回答書

2005.3.1 読売新聞群馬版

（第三種郵便物認可）

3/1

代替地価格"前進"なし

長野原の水没地区

国交省、4度目提示

長野原町の八ッ場ダム建設で、国土交通省は28日、水没5地区の住民代表でつくる分譲基準連合交渉委員会に対し、2003年12月の最初の提示から4度目となる移転代替地の分譲基準を提示した。住民側は今後、地区ごとに説明会を開いて意見を取りまとめた上で、3月中にも同省に受け入れの可否を回答する。

関係者によると、今回の提示は、坪単価の100円単位の端数切り捨てなどを除けば、昨年12月の前回提示から価格引き下げなどの「前進」はなかった。

全戸が水没する川原湯、川原畑地区側からは「実質ゼロ回答だ」「ダムによる

3/1 読売新聞

移転代替地分譲基準

「川原湯」受け入れず

水没5地区で唯一

長野原町の八ッ場ダム建設に伴い、水没5地区の住民と国土交通省が移転代替地の分譲基準を巡って続けていた交渉で、同町川原湯地区の対策委員会は17日、

として価格が高いなどの不満が出された。

同地区の役員は、「国交省側は『もうこれ以上価格を下げられない』とはっきり言っている。ごねず、譲歩

れ意見が強まっていた。

川原湯地区と同様に、分譲基準に難色を示してきた川原畑地区の対策委も受け入れ方針に転じていた。

（以上 読売新聞群馬版より）

▶川原湯地区の孤立

最後まで同意しないのは、水没予定戸数の3/4近くを占める川原湯地区。温泉旅館には後継者もいる。観光という生活の糧が現地にあるだけに、現実的に生活再建が不可能な条件では無理だと、これまで合意に応じなかった。

「地域居住計画」が発表された二年後の1992年、川原湯では、温泉の若手旅館経営者らを中心に「川原湯青年フォーラム」が発足した。昨年4月、フォーラムのメンバーらを中心に、ダム対策委員会の専門部として「川原湯地区まちづくり検討会」が組織され、今年2月、「新川原湯（打越地区）まちづくりプラン」が地区でも承認されている。

水没予定地の中で、最も現地再建に意欲を燃やしてきた温泉街の代替地価格が、他地区から突出して高い現状を、国交省の「川原湯つぶし」と見る人もいる。宅地の分譲価格は坪単価が最低でも11万円を超える。最高額の温泉旅館用地ともなると、坪17万円以上という、山間地としてはべらぼうな価格にはね上がる。これでは代替地を取得するのに、補償金のかなりの部分が奪われてしまう。補償金をあまり期待できない借地・借家層は、金融機関から資金を借り入れなければ生活再建ができない。

過去の交渉でも、常に川原湯が合意するのは最後だった。マスコミを通じて流される国交省の意向、他地区からの無言の圧力―それら全てが、川原湯に合意を迫っている。

全国のダム建設地では、補償金で「ダム御殿」が建った例もある。熊本県の川辺川ダム計画では、最大規模の頭地代替地の坪単価が約4万6000円。但し、五木村の助成で１００坪までは坪一万円で購入できる*。しかし財政事情の厳しい折から、こと八ッ場に関して財務省の財布の紐は固い。

＊『巨大ダムに揺れる子守唄の村―川辺川と五木の人々』熊本日日新聞社、新風舎文庫

▶代替地造成費用はダム事業費に含まれない。

国土交通省は、マスコミを通じて代替地分譲を今年度中に始めると発表した。ダムの完成予定は2010年度。もともと、代替地への移転は今年度中に始める予定になっていた。

けれども代替地の現状が、まだライフラインも未整備で、居住可能な状態から程遠いことを考えれば、過去、幾度もそうであったように、川原湯が合意に至ったとしても、代替地計画が予定通り進むとは考えにくい。

現地が後退を余儀なくされ、生活再建案を呑んだとき（1985年）、用地補償調査に応じたとき（1992年）、これほど八ッ場ダム事業が遅れると、誰が予想しただろう？

国交省の対応について、嶋津暉之氏は次のように指摘する。

― 国土交通省は分譲価格の決定→希望者の確定→代替地の面積の確定→分譲地の造成という手順を考えていて、その点から分譲価格の受け入れを地元に迫っています。**代替地の造成費用そのものは基本的にはダム建設事業費には入っておらず、一般の宅地分譲と同様に、分譲の収益で造成費用を出すことになっているので(だから、分譲価格の値下げがされない)**、希望者の確定→代替地の面積の確定を急いでいるわけです。―

地すべり対策、トンネル、道路、防災ダム ― 国交省にすれば、八ッ場は調べれば調べるほどダム建設の不適地で、 限られた予算で、やらなければならないことが多すぎるということだろうか？　税金が湯水のごとく投入されながら、犠牲になる住民のわずかな造成費用さえ税金を当てようとしない。こんなおかしなダム計画が“公共”事業とよべるだろうか？？？

▶下流の立場でできること。

八ッ場ダム事業は、科学的に不要で有害であるばかりではない。国交省の住民への対応を見れば、基本的な人権を無視した時代遅れの事業だということがわかるだろう。

「水没地の住民は一日も早くダムができるのを待っている」－地元の方からこんな声を聞くと、外部の者は、「ダムの犠牲者なのに、なぜ？」といぶかしく思う。代替地計画にしても、もっと権利を主張できたのではないか、と思う人もいるだろう。

だが補償金にしても、代替地での生活再建にしても、すべてがダム事業の一環であるならば、八ッ場ダムによって手かせ足かせをはめられている住民が生活再建をするためには、今のところダムに頼るより他、手立てがないと考えてもおかしくはない。

川原湯温泉は観光地であり、よそ者が観光客として始終出入りするという特殊な環境におかれている。「ダムに沈む温泉」はマスコミの格好の取材対照、被写体となり、住民のプライバシーに踏み込んだ取り上げ方さえ、される場合もある。

納税者としてダム事業に向かい合っている下流の住民と、生活の隅々までダム事業が溶け込んでしまっている現地の人々とでは、おのずから立場がちがう。立場の違いを認めることから、水没予定地の人々の犠牲の大きさを知り、下流の私達が何をすべきかを考える視点も生まれてくるだろう。

現地の事情を考えれば、八ッ場ダム問題は、解決を先に延ばせば延ばすほど、住民の犠牲を大きくしていく。八ッ場ダムを考える会は、ダム事業の見直しとともに、長年の地元住民の苦痛に対して、国、および下流都県が地域に十分な補償をすることを求めている。水没予定地への補償は、私達が納税者の立場で、今こそ真剣に考えなければならない時ではないだろうか。

＊「水没予定地では、皆どうやって生活再建を図ろうかと暗中模索している。下流の運動をしている人たちの話を聞くと、呑気なことを言っているなと距離を感じる。地元の立場を察してほしいと思うけれど、やっぱり当事者じゃないから無理なんだね。」

＊「ダムについては、町も県も何の責任もとってくれない。すべて国交省まかせ。行政がもう少し住民の立場に立ってくれたなら・・・」

＊「国の権力をイヤというほど思い知らされている。下流の反対運動をやっている人たちでは、とても太刀打ちできないと思う。」

＊「代替地はもともと用意するはずだった。それが今では、こちらからお願いしなければつくってもらえない。国交省は代替地のことを“残土捨て場”と呼んでいる」

＊「代替地の造成を本気でやろうと思っているのかどうか、わからない。業者もあまり急かされていないようだし・・・」

＊「仲のよかった隣人同士が、互いに信じられなくなり、問題を抱えながら、互いに相談することもできない。そのことが何より辛い」

＊「観光客にダムのことを聞かれても、話をする気にもならない。心の奥のことまで知られたくないし、第一、何も知らない人に最初から話すなんて面倒」

＊「農村地帯では、跡継ぎが都会に出て行ってしまって、高齢者ばかり。地すべりの危険があると言われても、ダムが完成するまで生きているかもわからない。それより、固定資産税ばかりかかる荒地を国が買い上げてくれれば、現金が手に入って、こんなにありがたい話はないと思う人もいる。今の農業じゃ、専業ではやっていかれないから」

沈黙する
水没予定地の
住民の声
すがる希望

★ 川原湯温泉観光協会では、以下のサイトを運営しています。
観光情報、現地の方々の意見を知るご参考に、
どうぞご覧下さい。

http://www.kawarayu.jp/

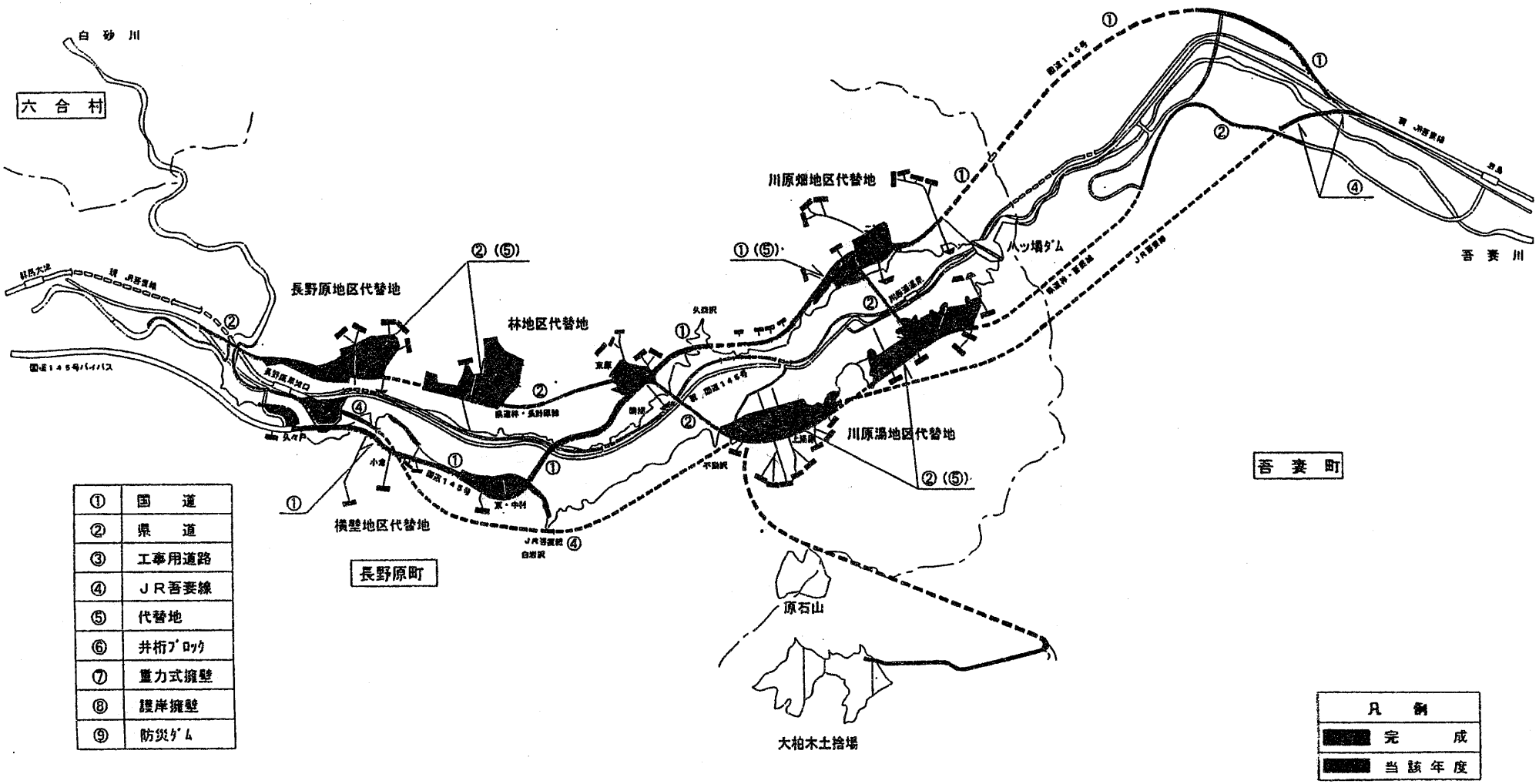
八ッ場ダム事業費変更の対照表　（単位:億円）

	工種	細別	変更前	変更後	増減額	変更内容
工事費	ダム費	転流工	11	11	0	
		本体掘削	145	126	−19	掘削発生材の有効活用よる施工単価減
		グラウト	13	24	11	透水ゾーンの確認による数量増
		堤体工	263	236	−27	合理化施工による施工単価減
		閉塞工	3	3	0	
		付属設備	1	1	0	
		放流設備	40	55	15	選択取水設備の充実による増
		貯水池護岸	66	254	188	代替地確定による必要範囲の増
		耐酸性塗装	3	0	−3	水質確認による減
		原石山処理	12	7	−5	合理化施工による施工単価減
		本体法面	4	2	−2	合理化施工による施工単価減
		地滑対策	11	18	7	地質精査による必要箇所の増
		小計	572	737	165	
	管理設備費		14	14	0	
	仮設備	ダム用仮設備	26	26	0	
		現道拡幅	26	28	2	地質精査による施工単価増
		工事用道路	113	71	−42	現国道の拡幅利用による施工単価減
		小計	165	125	−40	
	工事用動力費		8	8	0	
測量及び試験費			286	432	146	調査・設計数量の増、環境調査等の増、埋蔵文化財調査の新規増
用地費及び補償	用地費及び補償	一般補償	285	964	679	補償基準確定による増
		公共補償	25	55	30	代替地確定による簡易水道等の増
		特殊補償	37	217	180	代替地確定による発電導水管対策の増
		小計	347	1,236	889	
	補償工事費	付替鉄道	159	252	93	地質精査による施工単価増
		付替国道	192	330	138	ルート確定による延長の増、地質精査による施工単価増
		付替県道	127	285	158	
		付替町道	41	71	30	
		小計	519	938	419	
	生活再建対策費		5	13	8	地元交渉の難航による増
船舶及び機械器具			31	43	12	機械設備等の増
営繕費			8	8	0	
宿舎費			11	11	0	
工事諸費			144	300	156	業務内容の増大による増
物価の変化による変更				607	607	
消費税の導入による変更				128	128	
合計			2,110	4,600	2,490	

（嶋津暉之氏作成）

八ッ場ダム建設計画概要図

（平成１８年度）



①	国　道
②	県　道
③	工事用道路
④	ＪＲ吾妻線
⑤	代替地
⑥	井桁ﾌﾞﾛｯｸ
⑦	重力式擁壁
⑧	護岸擁壁
⑨	防災ﾀﾞﾑ

国土交通省の計画（2003年度の資料）

水没予定地の慟哭の声が詩集に

上毛新聞社より詩集『ダムに沈む村』が刊行されました。

八ッ場ダムによって“水没予定地住民”と運命づけられた著者は、民宿を営みながら、地元紙に豊田こけしのペンネームで詩を発表してこられました。反対期成同盟の中心にあった親族は闘いに破れ、「ダムは水没住民の犠牲の上に、自然破壊、人間不信の国策によって造られる」（あとがき）としながらも、憤りを超えた心境から紡ぎだされたのは、すべての生あるものを慈しむ祈りの詩でした。

「・・・豊田政子さんがこれらの詩を発表したことはどれほど大事だったか。ダムに沈む村の人々の、一人の声が、永久に残るということは確かなことだから」

— 岸田衿子（詩人・童話作家）さんのまえがきより —

春だというのに

春の雑木林は
灰色だった樹々が　一斉に
緑の絵の具を塗っていくように
一日　一日　濃くなってゆく
小鳥は飛び交い　鶯は囀り
私の好きな春が　本当に来た

春の山は　山吹の花が揺れ
断崖には紫ツツジが咲きかい
窪地には白花エンレイ草も見える
春蘭の薄緑の花も　夕陽を受けて
ひっそりと　咲いている

春の畑は　綺麗に耕されて
馬鈴薯を植える
土の上に立つ時
この畑がダムの湖底に沈むのだと思うと
私は　たまらなく淋しい
春だというのに

春の　吾妻渓谷は
山桜　桐の花　朴の花　藤の花と咲き
曲がりくねった道沿いは　眩い

けれど　もう今では櫓が組まれ
青いテントが点々と見え
ダムの調査は進められている

故郷が
ダムの湖底に沈むということは
こんなに　辛く　苦しく
悲しいものなのか
春だというのに

現実

冷たい朝
秋草の上を
真っ白な霜が　一面に覆って
朝の陽に　光り輝いている

川向こうの段々畑は
桑の木がグロテスクに立ち並び
ミョウガ畑は　枯れて茶色に重なり
その下を国道１４５号線は車が
途絶えることなく続く

雑木林は　葉が完全に落ち
小鳥が　飛び交い
背をかがめて　よく見ると
カエデの葉　クリの葉　クヌギの葉
その中に　ひときわ大きい朴の葉も
落葉は　必ず土に還る

この季節には
吾妻川の
青く澄んだ流れと
白い飛沫を
樹々の間から
はっきりと　見ることができる

急な坂を登って　橋を渡り
賑やかな温泉街を通り抜けると
地質ボーリングする音
ダム造りが歩み始めた
初めてその音を聞いたとき
私の体に　メスを入れられたような
痛く　重く苦しい気持ちになった

仏法僧が鳴き
ムササビの棲むこの村
今
ダムで湖底に　沈められようとしている
この現実

『ダムに沈む村』は書店でお求めになれます。
本体価格１２００円

八ッ場ダム問題の今後の課題

（水源開発問題全国連絡会共同代表）
八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会代表　嶋津 暉之

■ダム計画中止後の生活再建・地域振興を進める制度の実現を！■

ダム計画が中止になった場合、長年の間、ダム絡みの生活を強いられてきた水没予定地の人たちが、そのまま放置されてしまうというようなことは、あってはなりません。生活を再建し、地域振興を進める施策が進められるべきです。実際に最近、ダム計画が中止になったところでは、生活再建・地域振興対策がそれなりに進められ、検討が行われてきています。

その模範例とされているのは、鳥取県の中部ダム（県営）です。鳥取県は片山知事の方針により、地元住民と話し合い、住民と共同の現地調査等を繰り返しながら、旧ダム予定地の振興計画を策定し、その事業を実施してきています。また、八ッ場ダムと同じ国営ダムであった清津川ダム（新潟県）の場合は、旧ダム予定地（湯沢町三俣地区）について、国、県、町、地元の4者で、現在、地元の要望のとりまとめを行い、地域振興策の検討を進めています。

しかし、現行制度の範囲では、実施することにどうしても限界があります。水没予定地の人たちがダム中止後も安心して今後の生活を送れるようにするためには、それを可能にする法制度が新たにつくられなければなりません。そのことを前提として、八ッ場ダム問題を考えていきたいと思います。

■裁判は第二ラウンドへ■

各都県とも、第一回の裁判が終わり、3月29日の水戸地裁を皮切りに、第二回の裁判が順次進められています。第二回ともなると、都県によって日程の違いが大きくなり、第二回の終わりは5月27日の千葉地裁です。そして、6月14日には水戸地裁の第三回裁判が開かれます。

第一回裁判は、各都県とも原告の意見陳述が行われ、八ッ場ダム事業の不当性、提訴に踏み切った原告の思いをそれぞれの方が切実に語り、十分に成果を上げることができました。傍聴にもそれぞれ大勢の方が参加し、裁判の成り行きを見守っているのだという住民の意思を強く示しましたので、裁判官もこの裁判を慎重に運ぶ必要があることを認識したのではないかと思います。

各都県、被告側の反論はまだ一部ですが、少しずつ出てきています。その内容は二つあって、一つは、この裁判は住民訴訟にそぐわないということで却下（門前払い）を求めるもの。もう一つは、八ッ場ダム計画の不当性に関する反論です。裁判所は、前者と後者の審理を並行して進める様子ですので、原告側の弁護団は両者について論理を構築する準備を進めています。

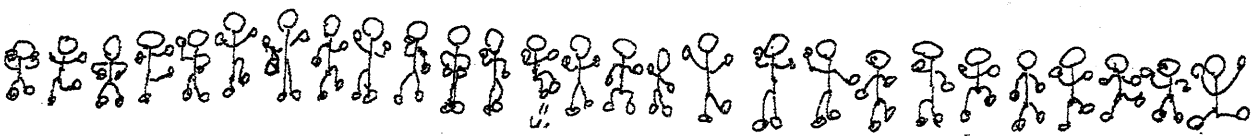
第二回以降の裁判は当分の間（証人尋問が始まるまでは）、原告・被告それぞれの主張を書いた準備書面を提出することが中心になりますが、できるだけ傍聴に参加して下さるよう、お願いします。裁判官に対して私たち住民の意思を示し続けることが、今後の裁判の成り行きを決める重要な要素なのです。

裁判終了後の集会では、当日の裁判についての解説と質疑応答があります。その集会で八ッ場ダム関連の映像の上映を計画しているところもありますので、八ッ場ダム問題をより深く知るために、是非この機会をご活用ください。

【　訴訟スケジュール　5月～7月　】

第二回
5月11日（水）　午後3時30分　　埼玉地裁
5月27日（金）　午前10時　　千葉地裁

第三回
6月3日　（金）　午後1時15分　　東京地裁
6月14日（火）　午後1時30分　　水戸地裁
6月16日（木）　午前10時　　宇都宮地裁
7月15日（金）　午後1時　　前橋地裁



【各地の連絡先】

★八ッ場ダムを考える会
[redacted]
★首都圏のダム問題を考える市民と議員の会
[redacted]
★八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会
[redacted]
★八ッ場ダムをストップさせる東京の会
★八ッ場ダムをストップさせる千葉の会
★八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会
★八ッ場ダムをストップさせる群馬の会
[redacted]
★八ッ場ダムをストップさせる茨城の会
[redacted]
★ムダなダムをストップさせる栃木の会
[redacted]
★八ッ場ダムを考える千葉の会 [redacted]
★八ッ場ダムを考える市民の会おおた
[redacted]

新緑の八ッ場ツアー参加者募集中

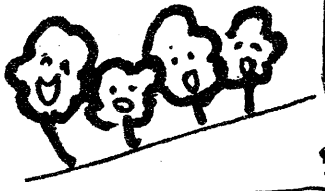
急

5月7(土)、8(日)

恒例の新緑シーズンの現地イベントがもうすぐです。川辺を歩き、森を散策し、水没予定地の温泉に泊まって、八ッ場ダムのことを考えましょう。７日は草津まで足をのばし、水問題の専門家、嶋津暉之先生に水源地の実態を解説していただきます。８日はダムサイト予定地の川原に下りて、土木技術者、矢部俊介氏に今後の工事の見通しをお話しいただきます。最後は、野外でパンフルートによるミニコンサートという盛り沢山なプログラム。部分参加もＯＫです。

ご希望の方は、[redacted]にファックスで参加者名（性別）、電話番号をお伝えください（各地の事務局にお申し込みの方は、ご連絡いただく必要はありません）。バス利用（乗車駅）、宿泊、８日のお弁当などご希望の場合は、その旨お書き添えください。バス、宿の予約数残りわずかですので、申し込みはお早めに！

問い合わせ：[redacted]



～～《 ホームページで最新情報をお伝えします 》～～～～～～～～～～～～～～～～～～

八ッ場現地の状況は刻々と変化しています。今回の会報は、2005年4月25日時点での「現地の今」をお伝えしていますが、代替地分譲基準の交渉が4月末に大詰めを迎える中、会報がお手元に届く頃には、新たな展開がある可能性も十分に考えられます。

八ッ場ダムを考える会ホームページでは、新聞の群馬県版を“八ッ場ニュース”としてお伝えしています。是非、下記サイトをご利用下さい。

ＵＲＬ：http://www.yamba-net.org/

～～《メールアドレスを教えてください》～～～～～～～～～～～～～～～～～～

イベントのお知らせなど、メールでお伝えできれば送料がかかりません。
メールをご利用の方は、できれば下記にアドレスをご連絡下さい。
個別のお問い合わせにも応じております。

E-mail:info@yamba-net.org

学習会のお知らせ

＊「八ッ場ダム学習会」 in 東京

「様々な災いをもたらす首都圏最後の巨大ダム計画
ー東京都民にとって八ッ場ダムとは？ー」

日時：　２００５年5月２８日（土）　午後２時～４時
場所：　江戸川グリーンパレス　芙蓉の間（２階）
（新小岩、小岩、船堀からバス。江戸川区役所前下車徒歩５分）
講師：　嶋津暉之（水源開発問題全国連絡会）　　資料代：　３００円
主催：　八ッ場ダムをストップさせる東京の会
共催：　中土手に自然を戻す市民の会　　江戸川・生活者ネットワーク
　　水元の自然と金魚の会　　利根川・江戸川流域ネットワーク
　　金町浄水場の水をおいしくする会
問い合わせ：[redacted]

＊「八ッ場ダムを考える学習会」in 千葉

日時：　５月 13 日　午後１時 30 分～４時半
場所：　アミュゼ・柏１階プラザ（ＪＲ東武野田線柏駅 東口徒歩７分）
講師：　藤原 信（宇都宮大学名誉教授）
　　村越啓雄（八ッ場ダムをストップさせる千葉の会共同代表）
資料代：５００円
問い合わせ先：まつど雨水の会 [redacted]

出掛けてみませんか。

＊ やま・かわ・うみ・そらフェスティバル
ー自然と連鎖する未来への地図をさがして・・・ー

高尾山、川辺川、有明海など、巨大公共事業に揺れる全国各地から、環境ＮＧＯが東京・立川に集合します。当代人気ミュージシャン競演も楽しみなビッグイベントに、八ッ場ダムの運動も初参加。八ッ場ダムを考える会では、“いのちの基地”群馬より、春の香りあふれる健康草クッキー、桑の葉、シルクうどん、雑穀などをブースに出展予定。売り上げの一部は運動の活動資金となります。

＊日時 ５ 月２１ 日（土） 雨天決行
＊場所 国営昭和記念公園（立川） みんなの原っぱ
【第一部 】 10 時 ～16 時 参加無料（公園入園料 400 円）
環境ＮＧＯによるオーガニックフード・エコグッズなどのブース多数出展。音楽演奏つき。
【第二部 】ART LIVE TIME （昭和記念公園立川口前 特設会場）16 時半 ～20 時半
チケット 前売り３０００円、当日3,５００ 円（入園料込）
参加アーティスト： ソウルフラワーもののけサミット、渋さ知らズオーケストラ、GOCOO 、KING 、シーサーズ、神鬼廊、CHINA CATS TRIPS BAND 他
主催：やま かわ うみ そらフェスティバル実行委員会
お問い合わせ：[redacted]
ＵＲＬ：http://www.yamakawaumisora.net/

新緑の八ッ場ツアー、間もなく開催！

＊新緑の八ッ場、大自然と温泉と音楽、
そして出会いが、あなたを待ってます。

５月７日（土）

集合：ＪＲ高崎駅東口交番前　７日午前１１時　バス出発

長野原・草津口１２時３０分着予定　ここから乗車も可

見学：１２：５０～１６：１５

品木ダム、草津中和工場、長野原第一小など

（バス乗車費用：２８００円）　宿泊：川原湯温泉

※日帰りご希望の方は、高崎駅までバスで戻れます。

５月８日（日）

散策：午前９時５０分　ＪＲ川原湯温泉駅出発　吾妻渓谷へ

昼食：１２：１５～　川原湯温泉の坂上、上湯原の梅林　（お弁当代：８００円）

パンフルートのミニコンサート（ハイキング、コンサート参加費：１５００円）

申し込み方法は、事務局ニュースをご覧下さい。

八ッ場ダムは現在の計画では、2010年完成の予定です。
けれども本体工事はまだ始まっていません。
次の世代の“いのち”のために、八ッ場ダム計画を見直しましょう。

会員募集中！

年会費（秋の総会～次の総会）/個人会員2000円、団体会員3000円、学生会員1000円

《カンパしてもいいな、という方は・・・》

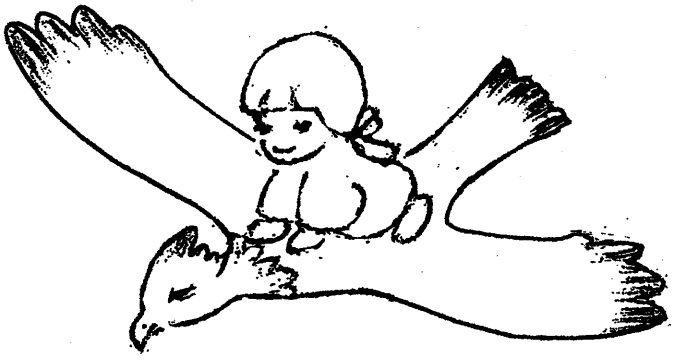
郵便振替口座番号００５５０－２－３２６８１（加入者名：八ッ場ダムを考える会）

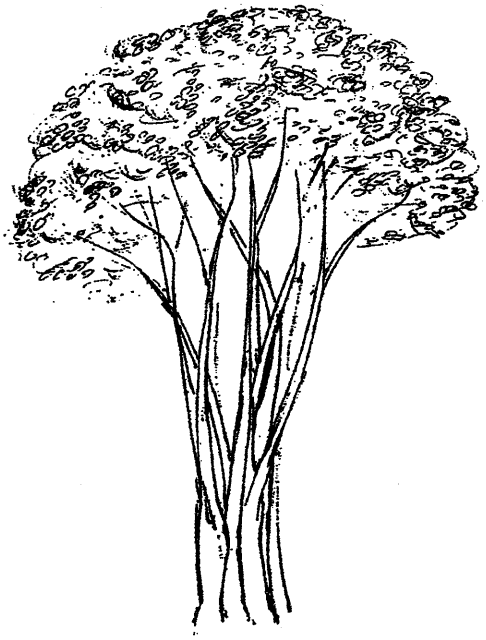
八ッ場ダムを考える会

吾妻渓谷
八ッ場(やんば)ダム
2005. 7 No. 12

現地の生活再建・さらに待ったなし！

利根川流域脱ダム宣言





…中略…

この半世紀、ダム計画は川原湯など予定地に住む人たちの発展を奪ってきた。そんな、精神的にも経済的にも過酷な暮らしを強いてきたことに対する補償は、なによりも先に、かつ充分にしなくてはならない。

そして、新しい川原湯の歴史を、可能なかぎり手助けする。それが群馬県と国の、これからの仕事である。

川は流れているからこそ生きている。山は緑で覆われていてこそ意味がある。いまの八ッ場ダムの工事現場を、私たちがその大切さを知り、自然をこれ以上、破壊することを中止した、記念碑としたい。■

「暮しの手帖」17. 2005夏号より

八ッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

現地は今…その3

2005.7.30

全水没地区

八ッ場の水没五地区という。川原湯、川原畑、林、横壁、長野原。このうち、全水没を宣告されているのが、温泉街のある川原湯と対岸の川原畑である。

かつては補償金目当ての人もいたし、故郷を捨てて第二の人生を目指す心積もりの人もいた。けれども、補償基準調印後、もう４年もたっている。今、全水没地区に住んでいるのは、この土地に残りたいと思っている人がほとんどだ。それだけに、川原湯の約７０世帯、対岸の川原畑と合わせて約１００世帯の住民にとって、代替地の交渉は切実だった。

交渉の経過

国の代替地分譲プランを地元が最初に知らされたのは、八ッ場ダムの増額案が下流都県に提示された直後の２００３年末のこと。久米宏がキャスターを務めていたニュースステーションは、住民が高額な代替地の価格に怒りをあらわにする光景を映し出した。

それから約１年半。難航した価格交渉は、さる４月３０日に終了し、ＮＨＫはじめ各マスコミは、いっせいに交渉終了のニュースを流した。これで八ッ場ダム事業が一歩進むと感じた人も多かったろう。

けれども分譲基準には、実は価格だけでなく、住民の将来の生活に関わるさまざまな問題が含まれている。造成スケジュールはどうなるのか？　土地取得の条件は？　防災ダムに囲まれた代替地で、果たして安全に暮らせるのか？

６月中旬、墓地通路を巡って協議はいったん中断。代替地の墓地は個人で買うのは仕方ないとしても、通路は一体誰が国から買うのか・・・？　墓地以外にも、石垣、神社の石段など、村人が共有してきた大切な場所はいくつもあるが、「墓地の通路さえもお金がからむ」ことがクローズアップされ、交渉は暗礁に乗り上げた。

７月４日、国は、代替墓地の通路は国が町に無償貸与し、町有地とするという妥協案を出してきた。これだけで住民の将来不安が消えるわけはないのだが、墓地の通路以外、起業者の譲歩がないまま、交渉は大詰めを迎えた。

採決ナシ

７月１７日の晩、急遽、川原湯の総会が開かれることになった。出席者は全世帯の半分に満たなかったという。その日は連休中日（なかび）だったから、観光客相手の温泉街で参加者が少ないことは、最初からわかっていたはずだ。「執行部は今晩、分譲基準受け入れの意向」という噂は事前に流れていた。

「いつまでも交渉を続けても進展はない」と地区のダム対策委員長が言い、「価格が決まったからといって、すべて国まかせで町の再生ができるのか？」と反発の声が上がったものの、結局はなし崩し的に国の意向を受け入れることが決まった。

川原湯に続いて、２０日には川原畑で交渉が終了した。どちらの地区でも、議論を尽くしたり、採決をとったりしたという話は聞かない。

▶代替地は法律で守られていない

交渉が終了すれば、調印式、住民への意向調査、申し込み手続き、そして来春には分譲開始式典開催、というのが、国が描く今後の予定である。

代替地はまだ完成していない。土地を買うときは、ふつう、周辺環境、利便性などを確かめるものだが、代替地計画では、できあがってから考える、というわけにいかない。意向調査とは、図面の上で、番号がふられた架空の土地を買う決断を迫られることなのだ。高額の土地売買がカタログ販売なみのお手軽さだが、完成した土地を見て、とても住む気になれない、と移転をためらう時は、キャンセル料はかからないのだろうか？

急峻な渓谷の中腹に無理をおして造る代替地は、地滑り不安と隣り合わせだ。川原湯温泉の場合、代替地に移転しても、ダムがなかなか完成しなければ、観光業は土木工事によって大きな損害を蒙ることになる。

土木技術者として公共事業の現場に携わってきた矢部俊介氏によれば、

「〈公共用地の取得に伴う損失補償基準要綱〉は、土地の権利を消滅させる上での補償だけを規定している。水没予定地の住民は、代替地を買わなければならないが、代替地の補償までの規定がないのは、法律的な欠陥」という。

最後の犠牲者を出さないために

1995年、地元は建設省に対して、一通の陳情書を提出している。

要旨　**「公共用地の取得に伴う損失補償基準要綱に精神補償を組み入れ、改正されたい」**

陳情書の回答（回答者：藤井建設省関東地方建設局長）より抜粋

「… 公共事業に伴います損失補償につきましては、当委員会におきましても、財産権の損失補償基準を行うこと等を中心として、よりその改善を計っていくことを基本としていることで、**精神補償を補償項目とすることにつきましては、非常に困難な状況でございます。**」

長年、希望を打ち砕かれ、人間の尊厳を傷つけられた結果、水没予定地の人々は、無気力になり、外部に屈折した感情を抱くようになってしまった。53年前、国の一方的な通達で始まったダム計画は、最後の交渉でも、国が住民との合意形成に努めた形跡はない。

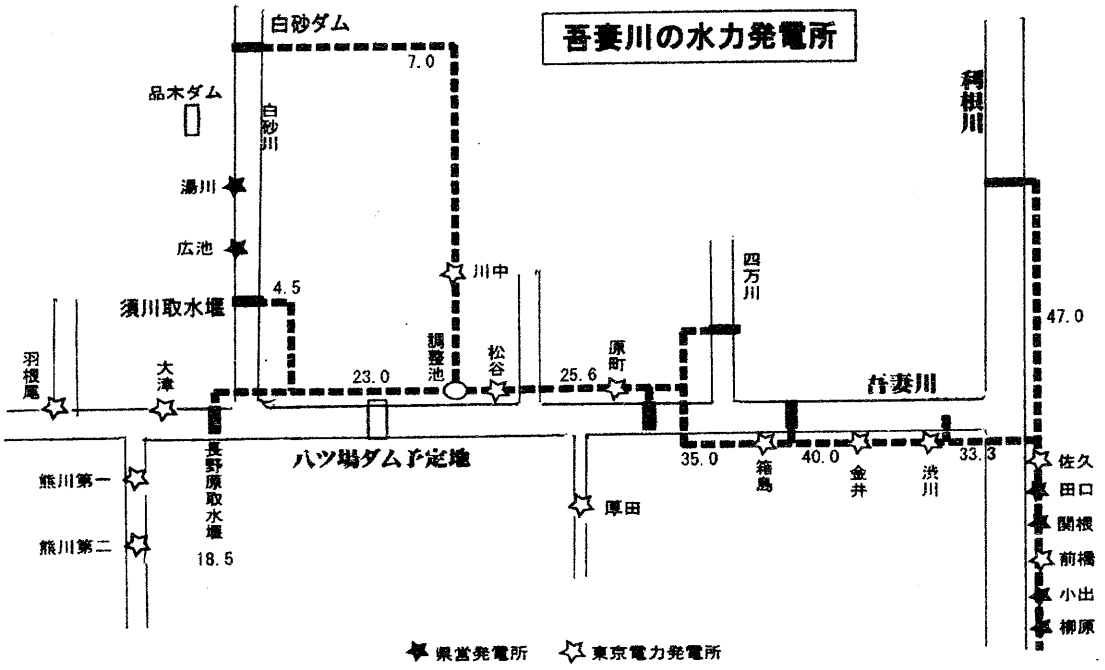
かつて八ッ場とともに、地元民のダム闘争が並び称された川辺川ダム（熊本県）は、下流の市民を中心とした反対運動が今、全国の注目を集めている。水没予定地の五木村では、住民がほとんど移転し、残った世帯の強制収用が焦点となっている。たとえダムが中止になったとしても、破壊された人々の生活は元には戻らない。八ッ場は遅きに逸したとはいえ、まだ何百人もの住民の生活の場がある。これ以上の犠牲を出さないために、ダム事業の見直しは早ければ早いほどよい。今ならギリギリ、まだ間に合う。（文責：清沢洋子）

東京電力・水力発電所への

吾妻川は大雨が降らない限り、いつも流量が乏しい川です。吾妻川の流量が少ない理由は水力発電所にあります。吾妻川には上流から下流まで、多くの水力発電所が張りつき、川に流れる水の大半が発電所への送水トンネルの中を流れます。発電に使った水は吾妻川にほとんど戻ることなく、下流側の発電所に順繰りに送水管で送られていきます。

八ッ場ダムに水を貯めるためには、この発電所への送水量を大幅に制限しなければなりません。しかし、水利権は先行のものが優先されますので、送水量を制限するためには、東京電力㈱に対して発電量の減少分について補償金を支払わなければなりません。八ッ場ダムの貯水による影響はダム湖周辺の発電所から利根川合流点の発電所まで及びますから、この減電補償の金額は非常に大きなものになります。

今回、宮ケ瀬ダムの減電補償の例を参考にして、八ッ場ダムの貯水に伴う減電補償額を試算してみました。流量等のデータは国土交通省の情報開示資料を使いました。



(7) 計算結果

計算結果は別表（右頁）のとおりで、6発電所に対する減電補償額の合計は次の値になりました。

1945～54年の流量データを使うと	238億円
1955～64年の流量データを使うと	250億円
1965～74年の流量データを使うと	271億円
上記30年間の流量データを使うと	252億円

減電補償の試算

（八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会代表）

このように、河川の流況によって、減電補償額に多少の差が生じます。実際にはダム完成前の過去 10 年間の流量データを使って減電額を計算することになっていますので、上記の数字とは異なりますが、250 億円前後の金額になることは確実と考えられます。

八ッ場ダム建設による東京電力㈱水力発電所への減電補償額の試算

発電所名	認可最大出力 (kW)	最大使用水量 (m3/秒)	1955-1964年	1965-1974年	1975-1984年	1955-1984年
			減電量 万kWH/年	減電量 万kWH/年	減電量 万kWH/年	減電量 万kWH/年
川中	14,600	7	439	982	1,393	938
松谷	25,400	26	8,324	8,499	8,703	8,509
原町	27,400	26	8,821	9,007	9,222	9,017
箱島	24,000	34	1,955	2,108	2,709	2,258
金井	14,200	40	983	1,060	1,362	1,135
渋川	6,800	40	471	508	652	544
計	112,400	——	20,993	22,165	24,042	22,400

計算の条件

① 国土交通省が八ッ場ダム貯水池運用計算に用いた流量データおよび水力発電所への送水量データを使用（半旬別データ）。

② 発電所の残存耐用年数は、宮ケ瀬ダムの場合の県営発電所と同じ19年、報酬率は0.032（東電の最新値）、売電単価は8円/kWHとする。

③ 各発電所の減電量を次のように計算する。

★松谷、原町発電所：国土交通省が想定した水力発電所への送水量に基づいて計算。

★川口発電所：国土交通省が想定した水力発電所への送水量の範囲で減電量が最も小さくなる条件で計算。

★箱島、金井、渋川発電所：松谷・原町発電所からの送水量減少というマイナス分と、八ッ場ダムからの放流水を取水堰で取水することによるプラス分の両方を考慮して計算。

(2) 今回の計算結果が意味すること

減電補償額の約250億円は非常に大きな金額です。現在の八ッ場ダム建設費予算の約１年分に相当します（2005年度の予算は280億円）。

この補償額は、ダム建設事業費4600億円には含まれていません。東電に対しては、代替地造成に伴って送水トンネル等の補強工事が必要として、合計約190億円の補償金がすでに支払われてきていますが、これは補強工事と工事中の減電補償のための費用です。

上記計算の約250億円は、ダム完成後の減電に対する補償ですから、全く別物です。新たな計上が必要になりますから、ダム事業費を再増額しなければならず、国民の負担額がさらに増えることになります。この再増額によって、ダム完成までの年数は少なくとも1年間延びることは確実になりました。

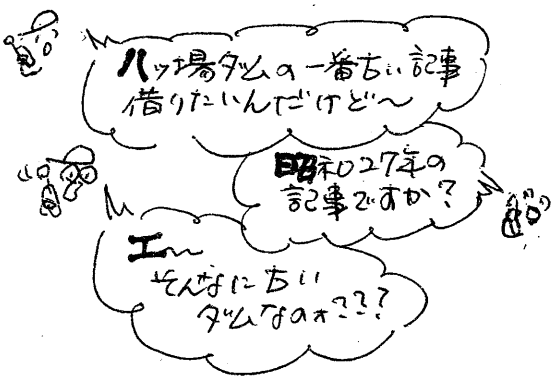
国や都県はコスト縮減を進めると言っていますが、その縮減額は2004年度の実績で8500万円に過ぎず、減電補償のための増額分、約250億円と比べれば微々たるものです。

この減電補償は宮ケ瀬ダムの例をみると、ダム完成直前に行われます。それまで、巨額の減電補償が必要だという事実を隠したまま、事業が進められることが予想されます。

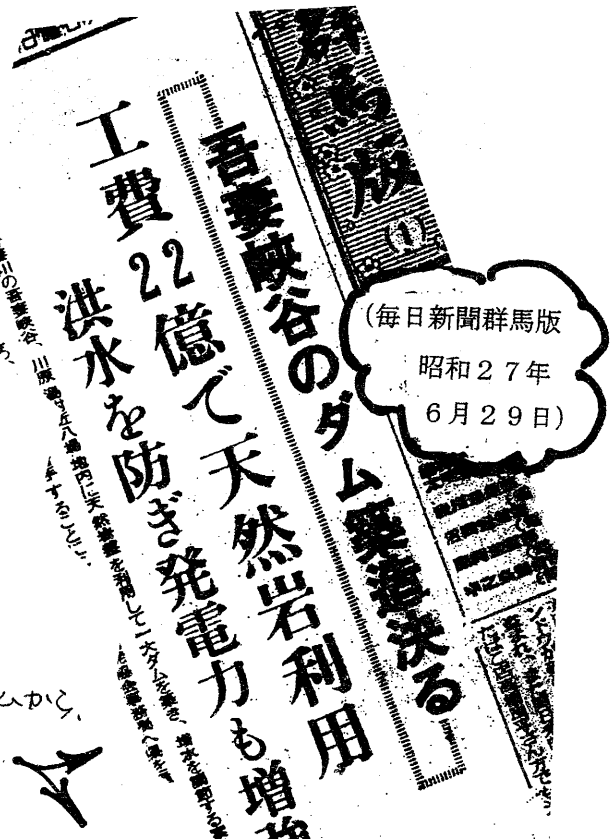
ハッ場ダム計画の第一報

新聞に見るハッ場ダムの歴史①

7月はじめ、フジTVの
バラエティ番組「まごまご崇」で
川原湯温泉が取り上げられ、
その取材中、スタッフから問合せが…



…というわけで、
群馬県立図書館のマイクロフィルムから、
昔の記事をコピーしてみました。



（毎日新聞群馬版
昭和２７年
６月２９日）

「吾妻渓谷のダム築造決る―工費２２億で天然岩利用
洪水を防ぎ発電力も増強」

利根川の支流吾妻川の吾妻渓谷　川原湯附近八場地内に天然岩盤を利用して一大ダムを築き、増水を調節する案は、建設省で調査中のところ、来年度予算で着手することに２７日総合開発協会事務局へ県を通じて内示があった。

これによると候補地にあげられた沢田村山田地先の山田川、長野原町広池地先須川は地質調査の結果、川原湯附近吾妻渓谷の岩盤は最も固く、川幅もわずかに５㍍から１０㍍で、天然岩盤がそのまま利用でき、水圧も耐え得て九百立方㍍の水をたたえることが可能となった。

総工費は２２億円で、このダムが果たす役割は洪水をいったんここで食止め、下流五県の水害を防ぎ、湛水は冬季渇水期に徐々に放出して下流発電所の出力を増加させることにある。また公共事業の実施で地方失業者も救われ、観光方面からも名勝地がふえ、ボートを浮べたり、観光ホテルも建ち、国立公園地帯に強みを加えるなどが数えられ、地元では早急に実現を期待している。

清水地方事務所長談　吾妻川は川底が深いからダムのために沈む耕地とか部落というものはないと思う。総合開発協会としても極力協力したい。地元の負担もあるでしょうが下流五県の協力もあるはずです。

この年４月末、日本はサンフランシスコにおいて連合国と講和条約を結び、ようやく主権を回復しています。群馬版のお正月記事には、「発電群馬へ一大飛躍」のタイトルで、「利根水系の源泉を抱く群馬の山々の迎春賦は夥しい水力タービンの震動で明けて行く」の文も。「国破れて山河あり」と、国民あげて敗戦国から立ち直ろうと必死だった様子が、記事の行間から伝わってくるようです。

当初、建設目的の目玉だった「発電」は姿を消し、半世紀の間に、総工費、ダムサイト予定地、貯水容量は変更されてゆきます。地元では、千人以上の水没住民を想定したダム計画であることが明らかとなり、最初の反対運動が始まります。（つづく）

まさのあつこの ハツ場ダム早わかりノート

2005. T.

（ジャーナリスト）

1. ダラダラといつの間にか始まるダム計画ー住民との合意形成なし

1947年（昭和２２年）カスリン台風

1949年 利根川上流ダム群計画

1952年 ダム調査通知が群馬県長野原町に。以後1992年まで半世紀にわたるダム闘争

2005年 （事業進捗４割）完成予定は2010年→2020年に？（首都圏人口は2015年から減少）

2. 治水計画 1/200年 ー破綻

基本高水（ダムなどがない場合に流れる洪水の流量）22,000トン想定（1947年）

治水計画（16,000トンを河川改修・利根川放水路） ＋ （6,000トンを上流ダム群）

しかし

— 戦前からの「利根川放水路」＝計画は影も形もなし（＝土地利用上不可能）

— 計画6,000トン ー 1600トン（既設6ダムと八ツ場ダム） ＝あと4,400トンは？

・・・・単純計算であと12の上流ダム群が必要＝不可能、非現実的

実は

— 過大すぎる想定 『八ツ場ダムは止まるか』P.32グラフ★ 必見

— 既往最大は17000トンなので「何もしない」選択肢がありえるが、議論されない

・・・・・河川法に基づく河川整備基本方針の欠点、常識論の入り込む余地なし

・・・・・国交省と社会資本整備審議会の密室で決まる

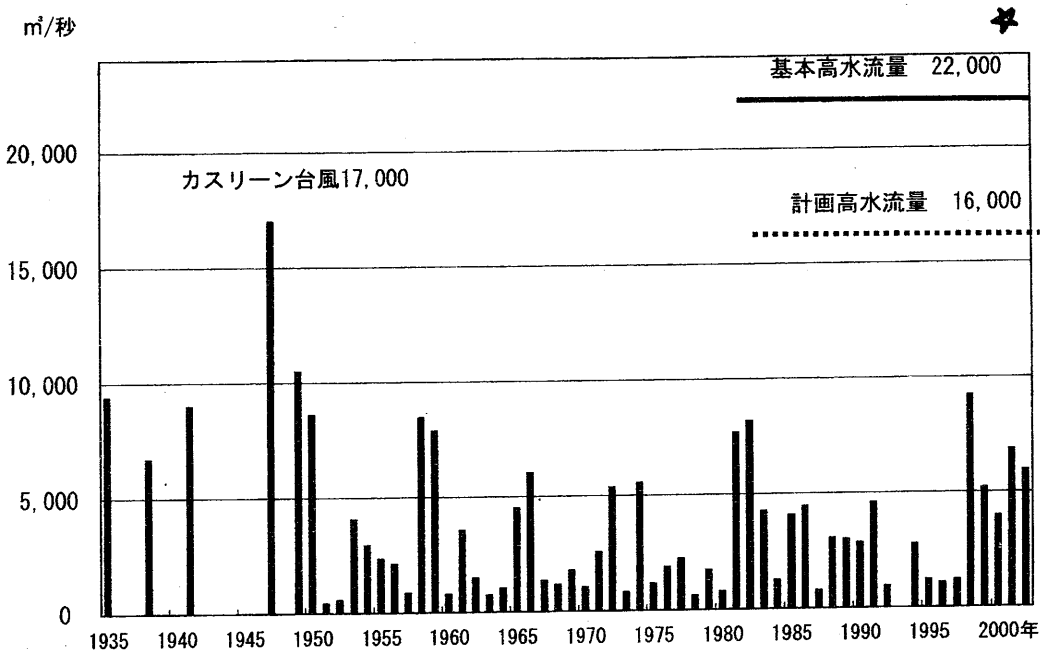


図９ 利根川・八斗島地点の年最大流量の推移

3. 利水計画 ― ムダに

背景：水資源開発促進法（昭和36年：「産業の開発又は発展及び都市人口の増加に伴い用水を必要とする地域に対する水の供給を確保」が目的）に基づき、7水系（利根川、荒川、豊川、木曽川、淀川、吉野川、筑後川）に水資源開発計画(フルプラン)＝右肩上がりの経済成長が前提

しかし

現実：東京は75年、6都県は90年に水需要頭打ち、減少『八ツ場ダムは止まるか』P.25グラフ

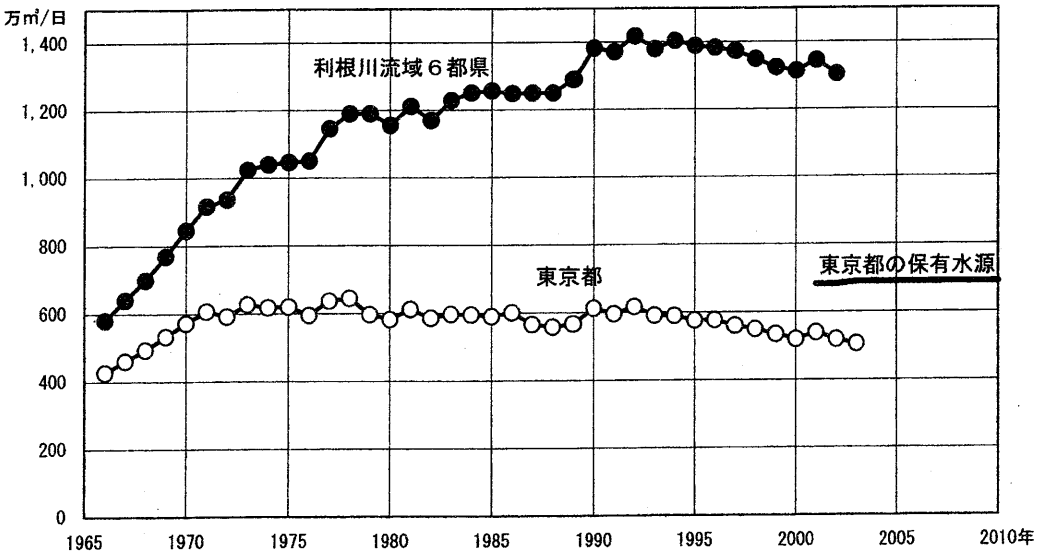


図４　上水道の一日最大給水量の推移

4. 環境 ― 河川法改正(97年、治水、利水に環境加わる)、環境影響評価法制定(97年)以前の計画

5. 一日60トンの石灰を必要とするダム ― 尋常ではない

上流に草津温泉（強酸性ph２～３）

中和工場で毎日石灰60トンを溶かし込み、品木ダムに沈殿させて、phを5.5に

未来永劫、ダムがある限り続けなければ、ダムのコンクリート壁は融けてしまう。

6. その他のリスク

地すべり―　貯水によって誘発される　もともと地すべり多発地帯

ダムサイト―　熱水変質、断層、岩盤に節理「ダムの基礎地盤としてきわめて不安定」

（1970年 国会答弁）

浅間山、草津白根山（24時間監視体制）噴火の危険　―　満水時、決壊の可能性

7. 政治背景 ― なぜ、無理して計画が進められたか？

ダム闘争期：福田派ＶＳ中曽根の“上州戦争”（旧群馬３区）、首相を３人輩出

福田赳夫（推進）、中曽根康弘（様子見→推進）、小渕恵三（ビルの谷間のラーメン屋）

96年小選挙区で、福田康夫（群馬４区）と小渕優子（群馬５区）の選挙区へ

8. 事業費 ― 総額 2110 億円→4600 億円に(04 年度増額)

関連事業も含めると、5,850 億円。起債の利息も入れると、国民負担は 8800 億円

各都県別負担(『八ツ場ダムは止まるか』P.20)

表2 八ッ場ダム建設事業及び関連事業の負担額のまとめ

	八ッ場ダム建設事業(億円)	水源地域対策特別措置法の事業(億円)	水源地域対策基金事業(億円)	3事業の合計負担額(億円)	起債の利息を含めた合計負担額(億円)	人口(万人)	一人当たり負担額(万円)
群馬県	176	42	18	236	354	203	1.7
埼玉県	569	143	92	803	1,205	694	1.7
東京都	634	131	84	848	1,272	1,206	1.1
千葉県	404	61	39	505	757	593	1.3
茨城県	219	26	17	263	394	299	1.3
栃木県	9			9	14	201	0.1
国費	2,589	504		3,093	4,640		
地元および受益者負担金		90		90	135		
合計	4,600	997	249	5,846	8,769		

7. 住民訴訟 ― 現在、第3～第4ラウンド

04 年 9 月 10 日 1 都 5 県(千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬)に住民監査請求(5391 人)

→却下、棄却 11 月に各地裁に一斉提訴。違法支出だとして返還を求める訴訟

1)水道事業管理者(水道局や企業庁長)の利水負担金

2)知事の負担金:治水負担金と水道事業特別会計への繰出金

3)知事と水道事業管理者は過去 1 年分の違法支出

4)水道事業管理者は八ッ場ダムの使用権設定申請を取下げて八ッ場ダム事業から撤退

＊司法による行政チェックの問題点

計画段階での提訴が不可能、提訴しても事業は止まらない、自治体は住民監査請求・住民訴訟を起こせるが国に対してはできないなど、事実上不可能 ― 行政手続法、行政事件訴訟法の改正が必要

9. 八ツ場ダムと日本のダム事業

水源地域対策特別措置法 73 年成立

―群馬県知事が八ッ場ダムの地元対策として提案

―水源地域整備計画、生活再建のための措置を定める

中止ダム事業の数 2004 年までに 94 事業が中止

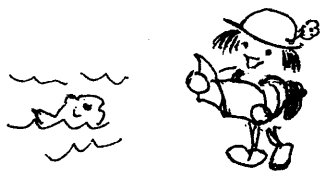
―1997 年 3 事業、1999 年 4 事業、2001 年 3 2 事業、2002 年 3 事業、2003 年 1 2 事業、2004 年 6 事業(計 6 4 事業)＋ 生活貯水池(総貯水容量 100 万 m3 未満)

今なにが必要か?

―ダムが止まった場合のルール作り 水没予定地の地域再建

ダム計画で破壊された予定地住民の生活再建

10. 半世紀経過した「八ツ場ダム」事業は即刻中止すべき



神田・駿河台　文化学院で出前講座

「もしもし、文化学院の教師をしている菊池ですが」

今年1月、八ッ場ダムを考える会事務局に、見知らぬ方からお電話が・・・。東京の文化学院で、八ッ場ダム問題をテーマに90分授業を、という依頼でした。

文化学院は、川原湯温泉ゆかりの与謝野鉄幹・晶子夫妻が、1921年、大正デモクラシーの風を受けて創立に関わった、ユニークな学園です。戦争中、校長が不敬罪で拘束され、自由の園は強制閉鎖、校舎は陸軍に接収の憂き目を見ます。しかし、アメリカ人捕虜が収用され、米軍向けのラジオ局が設置されたことで空襲を回避。蔦のからまる校舎は、ビルが立ち並ぶ神田・駿河台にあって、戦後60年経た今も、往時の気品を漂わせ、映画『学校』(山田洋二監督)のモデルともなりました、

2月、菊池先生と第一回の打ち合わせ。3月の授業を予定しましたが、校舎のボヤ騒ぎで延期。生徒に相反する意見を聞き比べてもらいたい、という先生の考えで、国交省河川課による授業が行われた後、5月23日、視聴覚教材を駆使した第一回の出前講座を行いました。

講師:渡辺誠さん(デザイナー)、深澤さん(東京の会)、渡辺(事務局)。

授業後のアンケート結果

【八ッ場ダムという言葉を知っていましたか?】

知っていた・・・5人　　知らなかった・・・33人

【脱ダムについて、聞いたことがありますか?】

聞いたことがある・・・22人　　聞いたことがない・・・16人

【八ッ場ダムの建設は必要だと思いましたか?】

必要・・・4人　必要でない・・・15人　わからない・・・19人

【家では、飲み水として水道水を使っていますか?】

水道水そのまま・・・7人　浄水器・・・14人　ペットボトル水など・・・11人

浄水器、ペットボトル併用・・・4人　その他・・・2人

授業の感想　(抜粋)

▲必要と答えた人▲

- (国交省が) カスリーン台風のような大きな災害も想定して造ると言っていたので、防げると信じて書きました。しかし、僕の祖父母が赤城に住んでいるのですが、近所の人たちとのつながりがとても強いので、地元の人の気持ちになると複雑に思いました。

▲わからないと答えた人▲

- もう何年も計画されたまま造られていないのなら、必要ないともいえる。けれど、「備えあれば、憂いなし」という言葉も。だから、とても難しい。でも、東京にいて、幸せに住んでいる私達にとってはとても遠い話。水に困ったこともないし、家が沈むなんて考えたこともない。だから、やっぱりよくわからないんだと思う。でも、みんな自分の考えだ

け頑固にとらわれないで、ガキンとかせずに、しっかり話し合って、本当にどうすることが皆の為になるのか考えることができたらよいと思う。

- ダムの話は初めてだったので一概には言えないけれど、税金、労力のムダづかいは色々なところにあると思った。ヘルシーで循環のよい世の中となる日が来ることを願っている。

- ダムが必要か必要でないのか、よく知らなかったけれど、この授業で少しわかった。ダムがないと、私たちは生きてゆけないのかもと思うところがあったけれど、水が今あるのだとすれば、ダム計画は本当にムダなことだと思う。人が快適に住んでいる所をワザワザ人工的に壊すなんて・・・自然のままでよいと思わないのかと思った。

▲必要ないと答えた人▲

- ハッ場ダムのことを知り、今さら建設することはないのではないかと思った。今と１９５２年とは状況がちがっている。それなのに、「今さら」という感じだ。

  - どういう理由があっても、あの美しい景色をつぶし、住民を犠牲にすることは哀しい。

- 文章と写真がとても充実していて、一文ごと、一枚ごとの説明もわかり易く頭の中に入ってきた。授業を聞いて、私はダムは必要ないと思った。ダムのデメリットの方が多いと感じたからである。メリットの方は、聞いていて結構難しい話が多く、デメリットの方は水没地域を生んでしまうなど、とても身近に感じる。私もこれからダムについて調べたい。

  - きれいな風景を壊してまでダムを造らなければならない国に、大人の汚さを感じた。みんな自分のことばかり感じているようで、悲しくなった。

- 今まで、名前だけでよくわかっていませんでした。色々なダムに関する情報を知ることができました。遠くのことだと思ってばかりだった今までの見方が変わりました。

  - 一体、誰の為、何の為にダムが造られるのか・・・。一つのダムで、多くの人が住居を失う。懐かしい思い出も水の底。私が実感しないのは、ダムを造る人が深く考えていないからだと思った。悲しいだけで終わってしまうのであれば、ダムはいらない。

- 豊かな自然と美しい風が印象的だった。

  - ダムが無駄なんだろうなというのは、ニュースなどでほんの少し知っていました。でも、本当に市民には利益がないという事が今回の話で実感できました。この活動をずっと続けて下さい。言葉も、政治家のようにむずかしくなく伝えようという意思があってわかりやすかったです。それは、人を動かしていく活動ではとても重要な事だと思います。ＴＶなどではつまらなくてチャンネルをかえてしまう話題かもしれません。ですが、同じ島に住んでいる人が困っているという視点からみれば、途端に関心がもてる話になると思います。吾妻渓谷が水没してしまうのは、日本の国土や季節や歴史の証拠を失うことになります。とても勿体ないです。

お薦め図書 ― 『犬 と 鬼』

【海外から初メール♪】

ニュージーランドのジャーナリストから「八ッ場ダムを考える会のホームページを見ました！」というメールが届きました。

「・・・今はニュージーランドに住んでいますが、２３年間日本に住んだ経験があります。ちょうど今、書き終わらせようとしている本のため、インターネットで日本のダムのことを調べたところ、八ッ場ダムを考える会のウエブサイトをみつけて、非常に深い印象を受けました。情報提供と、それに全体的なプレゼンテーションの面で、すばらしいウエブサイトだと思います。ブルース・ロスコー」（注:原文はローマ字。）

【ダムは鬼?! 】

ロスコーさんが、「八ッ場ダム問題に関心をもつ皆さんに是非、読んでほしい」と薦めてくれたのが、米国のアレックス・カーが日本の土木事業の実態を正面から取り上げた書として話題の『犬と鬼』（講談社・２００２年刊）。脱工業化社会へ向けて、直面する諸問題の基本的な解決は、地味な作業（犬）だけに難しい。ところが派手なモニュメント（鬼）にお金をつぎ込むのは簡単―タイトルは中国の故事に由来するそうです。

「６０年代に発する建設マネーの大波は山村をも呑み込み、他の産業はあとかたもなく押し流された。今では、山村の人々はそろって建設作業員になっている」

１９６０年代の思考回路のまま、ターミネーターロボットよろしく、ブレーキの利かない官僚システムが推進する八ッ場ダム事業は、まさに筆者が批判する“派手なモニュメント”そのものです。

【問題の根っこは心の中に】

産業構造の転換がうまくいかない理由を、筆者は洋才（＝近代科学技術）と和魂（日本人の民族性）との結びつきに求めます。完璧主義（欧米人には当然と思えるラフ感覚の欠如）、平穏を好む気風（ゆでガエル症候群）、全体より部分に関心が向く性癖（“木を見て森を見ず”）などが災いしているというのです。

敵が外ではなく内に潜んでいるのだとすれば、それを克服する途は、学校教育によって矯正された「和魂」に押さえ込まれた当たり前の人間らしさを取り戻すことから始めるしかないのかもしれません。故郷の山河を鉄とコンクリートで埋め立て、文化衰亡の元凶を作りながら、一方で、戦前の教育を復活させれば国の衰退は防げると説く、そんな政治家が大手をふっている限り、過去の亡霊のようなダム事業は、のた打ち回りつつ生き延びるでしょう。外国人の視点を提供してもらうことで、意外な盲点が見えてくる、そんな意味で、お薦めの一冊です。（清沢）

ロスコーさんにほめていただいたホームページ、じつはプロの若い女性 が、ボランティアでつくってくれたものなのです。

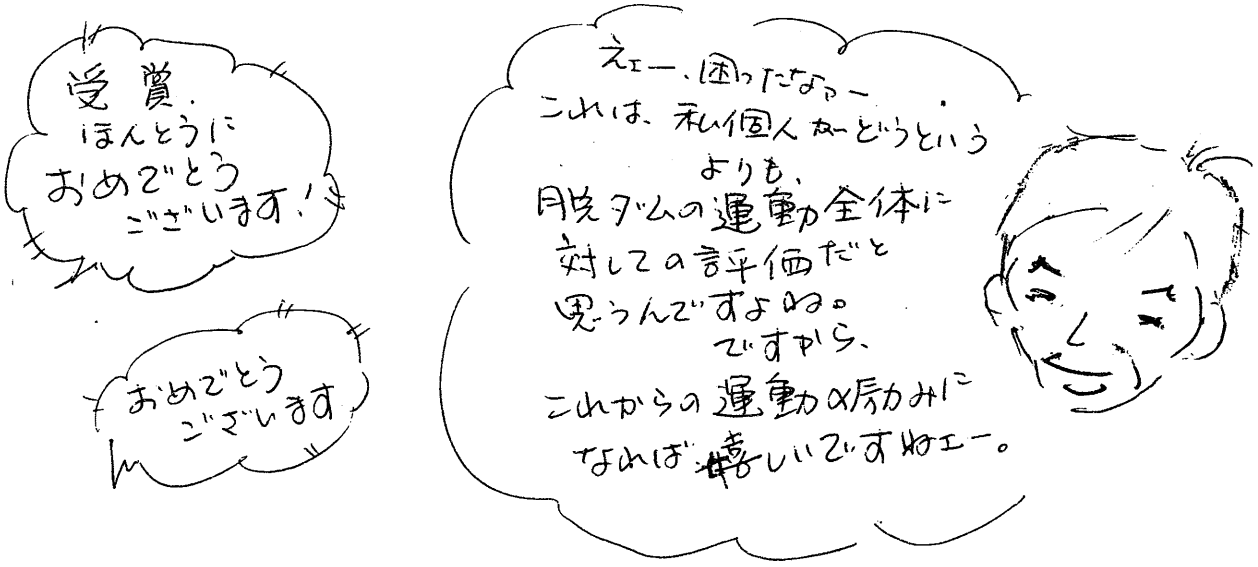
謝々。

嶋津暉之さん、田尻賞受賞！

７月１０日、”公害Ｇメン”として活躍した故田尻宗昭さんを記念して設立された田尻賞の授賞式が東京、四谷・主婦会館で開催され、嶋津暉之さんが、第１４回受賞者として表彰されました。

嶋津さんと八ッ場ダム計画との出会いは、１９６０年代後半。水没予定地住民の苦悩を目の当たりにし、山村を犠牲にするダム計画に疑問を抱いたことがきっかけでした。その後、東京都に就職し、工業用水の節水技術を指導。１９７３年から８１年にかけて、工業用水の大幅カットに成功します。それでも止まらないダム計画の現実から、行政の水需要予測が、ダム計画のために作られる欺瞞に満ちたものであることに気づきます。研究業績を提供することで市民運動を支援する嶋津さんの半生が、ここからスタートしました。

授賞式では、かつて東京大学で嶋津さんの恩師であった宇井純氏が、「どれだけ水源開発をしても、あればあるだけ使ってしまう都市用水の実態を証明した嶋津さんのマスター論文を見て、研究室で二人で頭を抱えたのが昨日のことのよう」と思い出話を披露。「水俣病発生から５０年。原爆の被害者救済からはじまり、戦後この国は、被害者の救済問題を解決できずに今に至っている。その中で、嶋津さんの研究は、マスター論文であっても、社会の方向を変える可能性があることを示唆しており、大いに私達を勇気づける」と語りました。



★地下水学習会 in 群馬県(庁舎)★

首都圏の水源県として、豊かな水資源を誇ってきた群馬県。平野部の前橋、伊勢崎、玉村などは、利根川の扇状地にあって、地下水に恵まれた都市として発展してきました。これらの都市の水道用水は、今、地下水枯渇、地下水汚染や地盤沈下などを理由に、地下水から表流水への転換をなし崩し的に進められつつあります。前橋や高崎の地下水データを基に、地下水の現況を専門家に検証していただき、身近な自己水源、地下水の保全と利用の重要性を考えます。

＊学習会「地下水こそ生活用水源に！－前橋・高崎の地下水－」
日時：２００５年９月１９日（敬老の日）　午後１時半～
場所：群馬県昭和庁舎２Ｆ　２６号室
講師：和田信彦（地質環境コンサルタント、技術士）
八ッ場ダムを考える会、八ッ場ダムをストップさせる群馬の会共催

★総会記念講演会★

八ッ場ダムを考える会の秋の総会は、１１月２３日（祝）に開催します。今回は記念講演の講師に川村晃生さん（慶応大学文学部教授）をお招きします。環境人文学という新しい学問分野を構想中の川村先生は、もともと和歌を中心に研究してこられた国文学者。１８年前、故郷の山梨県に居を移し、自然風土が破壊されてゆく実態を目の当たりにしたことが転機となり、現在は、市民運動にも積極的に関わっておられます。

八ッ場ダム予定地は、若山牧水、与謝野晶子ら、多くの文人を魅了してきた吾妻渓谷。ダム事業の負の側面は、今まで主に科学的な視点から解明されてきましたが、人文学の分野での検証は、問題の本質をさらに深く認識するのに大いに役立つことでしょう。

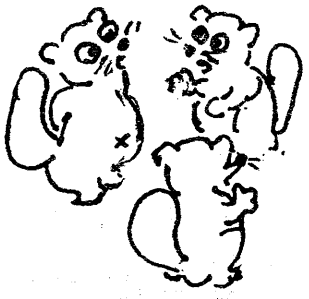
【訴訟スケジュール】

＊第三回裁判

千葉	８月２６日	午前１１時	千葉地裁

＊第四回裁判

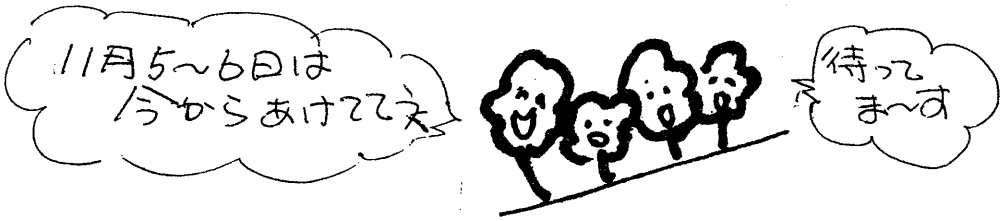
埼玉	９月７日	午後１時半	さいたま地裁
栃木	９月８日	午前１０時	宇都宮地裁
群馬	９月１６日	午後１時	前橋地裁
宇都宮	９月２１日	午後１時１５分	宇都宮地裁
茨城	１０月４日	午後１時半	水戸地裁
東京	１０月５日	午前１１時	東京地裁



事務局ニュース

秋の現地イベント ～～～日程決定!!

好評の現地イベント、この秋は吾妻渓谷が紅葉真っ盛りの１１月５～６日に行います。１日目は、嶋津暉之さんによる現地案内。２日目は、散策、ミニコンサートなど、今回も盛り沢山なプログラム。詳細は１０月発行予定の次号でお知らせしますが、川原湯温泉が最も込み合う時期ですので、宿泊ご希望の方は、各地の連絡先（↓　　参照）に早めのご連絡を！



暮しの手帖 17. 2005年夏号に

「遅すぎることはありません
八ッ場ダムを考える」

という記事が、素晴らしい写真入りで、
7ページにわたり載っています

すぐ書店に行って
ぜひご一読を！

【各地の連絡先】

★八ッ場ダムを考える会

[redacted]

★首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

[redacted]

★八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会

[redacted]

★八ッ場ダムをストップさせる東京の会
★八ッ場ダムをストップさせる千葉の会
★八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会
★八ッ場ダムをストップさせる群馬の会
★八ッ場ダムをストップさせる茨城の会
★ムダなダムをストップさせる栃木の会

[redacted]

★八ッ場ダムを考える千葉の会 [redacted]

★八ッ場ダムを考える市民の会おおた [redacted]

ダムに沈む村

ダムに沈む村の
田んぼはひからびて
ガマの穂は破裂し
畑は草が生い茂って枯れ
荒れはててせつない

ダムに沈む村の
石仏は柔和
お墓は無表情に
西を向いて
高台から
村を見守っている

ダムに沈む村は
誰もいない
太った野良猫が一匹
日向ぼっこをしている
空っぽの電車が通り過ぎ
国道は大型ダンプカーが
忙しく行き交う

私の生まれた
ダムに沈む村は
美しい渓谷と
ひなびた小さな温泉場
六月になると仏法僧は鳴き
山には大好きな山野草が
咲きみだれる

ダムに沈む村の家は
今日は一軒
明日は二軒と
解体されて
基礎石だけが
無言で
すべてを物語っている

ダムに沈む村の夜は
真っ暗闇
昨日までここに住んでいた
人々がまぼろしとなっては
消える

あとには
月の光と
星の輝きの中に
夜を迎える

ダムに沈む村でも
夜は悲しく
美しい

詩集「ダムに沈む村」
・豊田政子・より

八ッ場ダムは現在の計画では、2010年完成の予定です。
けれども本体工事はまだ始まっていません。
次の世代の“いのち”のために、八ッ場ダム計画を見直しましょう。

編集：八ッ場ダムを考える会
【URL】http:/www.yamba-net.org　【E-mail】info@yamba-net.org

吾妻渓谷
八ッ場ダム
2005. 10　No. 13

新聞の社説には載るけれど…

利根川流域脱ダム宣言

選挙期間中、与党が繰り返した
「改革を止めるな」というキャッチフレーズを聞くたびに、
八ッ場ダムはどうなるのだろうと思いました。
「改革」は痛みを伴います。
具体的なテーマをどのように解決するのか、
私たちの生活がそれによってどう影響されるのか、
政府は説明責任を果たしていません。
巨大与党の政権下、八ッ場ダム事業はまるで
艦長のいない戦艦大和のように迷走しています。

八ッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

現地の方から、
下流の皆さんへメッセージをいただきましたので掲載します

【特別寄稿】

【水没予定地住民より首都圏の皆さんへ】

今年は戦後６０年、いろいろの企画が行われている。八ッ場ダム計画も、今年で５３年目を迎えた。

最近、関東では、大きな台風や水害、渇水騒ぎもなく、治水、利水ともに安定しているようだ。一時は群馬県の最重要課題として紙面に取り上げられていた八ッ場ダムも、今では世間から忘れられようとしている。

昭和２７年から始まったダム闘争は、５０年の歳月を経た平成１３年６月の補償基準交渉妥結調印により、ようやく終焉を迎えたかに思われた。当時、住民は、長いダム問題から開放され、肩の荷が下りたように一様に安堵したものだ。しかし、ホッとしたのも束の間、現地再建計画に取り組まなければならなかった。

国交省は以前から水没者に、現地に残るか否かのアンケート調査を、数回にわたって実施してきた。県はこれを受けて、移転希望者に先行投資という形で、補償金を肩代わりする制度を作った。２年間という期限つき、利息まで県が負担するという制度だった。この制度が引き金になり、それでは私もと、町外へ出て行く人が多くなったのは事実だ。

おもえば昭和５５年、県が独自の生活再建案を作成して以来、６年がかりの見直し、修正、さらに３２項目の要望事項を追加して、これらが本当に受け入れられ、実行が約束されるならばと、地元でダム建設が容認された経緯がある。

その当時の住民の心情は、「代替地は補償金の範囲内で安く買える。今後は造成も急速に進み、まもなく新しい土地に引っ越しできる」と、誰もがその日を望み、期待をもっていた。補償基準の提示、交渉、妥結、そして調印・・・一般的に考えて、これですべての作業が終わったものと思ったのだ。

しかし、その後、国交省が提示した代替地の分譲価額は予想以上に高かった。値下げを要望したが、僅かの金額を下げるとの返事に１年も待たされた。その後も、再度の値下げ交渉を行ったが、国交省の回答はゼロ回答であった。

特に川原湯地区の場合は、温泉街ゾーンの価格が、他の地価の３割増しであることを不服とし、単独の再交渉に踏み切った。だが国交省の回答文は、

「少しでもご希望に沿った見直しができないか検討させていただきましたが、国といたしましては残念ながら、基本的にこれ以上の見直しはできません。ご不満の点も多々あろうかと思いますが、何卒、ご理解いただきますようお願い申し上げます」

というものだった。

川原湯では村総会を開き、意見の集約を図ったが、再度のゼロ回答に会議は紛糾し、しかたなく無記名投票を行い、票差で基準額を受け入れることが決まった。

こうした経緯の中で、国の姿勢は、「ダムを造らせて」から、「ダムを造るんだ」というものに変わっていった。ここを墳墓の地と決めた人々も、国の姿勢に加え、分譲に伴う複雑な仕組み、事業予算の制約などによる用地買収の遅れ、さらに未整備の代替地造成など、この土地に見切りをつけ、人知れず最後の決断をすることになった。

「丈夫なうちに・・・動けるうちに・・・」

「ここにいても、先行き見込みがない・・・」

心の中で思っていることを、誰に話しようもなく、ただ涙をのんで住み慣れた我が家を捨て、一人、また一人と、親しい友人、隣近所の人たちに別れを告げ、故郷をあとにして行くのだ。

水没者はどこまでいっても犠牲者なのだ。これを癒してくれるものは何もない。

国策の名の下に、下流受益都県の人々のため、という名目で、故郷を奪われ、家をなくし、人の財産や名誉、さらには人生までも台無しにしてきたダム行政、水行政を根本的に見直すことを、この際、強く望みたい。

メッセージをお読みになってのご意見、ご感想を、八ッ場ダムを考える会へお寄せください。地元の方も、下流の皆さんからのメッセージを希望しています。

＊事務局連絡先：[redacted]

現地は、今…その4

―守られなかった約束―

2005. 10. 20

▼ 13年前の文書 ▼

13 年前、長野原町では~~国交省~~と群馬県に対して、代替地を早急に用意するよう要望書を提出している。 ―当時は建設省でした(間違えましてごめんなさい)

＊１９９２年２月２４日

《水没予定地住民の生活再建について、長野原町から建設省と群馬県への要望》

「国・県道、鉄道、代替地、学校など基幹施設の早期着工をはかり、特に代替地造成にあたっては、水道、下水道、消防施設など社会生活環境施設と農業用水についても一体整備をはかり補償基準妥結時には分譲できるよう対処すること」

返答の日付は、わずか４日後 ―

＊ １９９２年２月２８日

《上記要望に関する建設省、群馬県の回答》

「生活再建対策上必要とされる基幹施設については、早期に着工します。

代替地造成にあたっては、関連施設の一体整備を含め補償基準妥結時には、移転が可能となるよう実施します」

この年は、水没予定地がダム計画を実質的に受け入れた節目の年にあたる。1992 年 7 月 14 日、地元と群馬県、建設省は八ッ場ダム事業の基本協定書、用地補償調査の協定書を締結している。建設省には、地元の歓心を買う必要があったといえるだろう。

▼ 代替地交渉の終了 ▼

代替地は未だに完成していないが、さる９月７日、代替地分譲基準の調印式が長野原町で行われた。計画より 53 年をへて、国は漸く水没地区との交渉を終えたことになる。

しかし現地では、住民の生活再建の道筋が見えず、集落の存続さえ危ぶまれる深刻な事態に立ち至っている。

～～～

2005.10.1
読売新聞
群馬版

（第三種郵便物認可）

八ッ場」代替地造成急げ

県が一部先行取得

補正予算案 9億円計上 国交省予算減受

長野原町の八ッ場ダム建設計画で、県は水没住民の移転代替地の一部を今年度、事業主体の国土交通省に代わって先行取得する方針を決めた。取得費用として、9月定例県議会に提出した補正予算案に約9億1000万円が盛り込まれた。同省の今年度予算減額に伴う異例の措置で、代替地造成を急ぎ、事業の遅れなどから加速する住民の地区外転出を食い止める狙いがある。取得用地は来年度以降、同省に売却する。

同省や県特定ダム対策課によると、移転代替地は水没5地区約1160世帯などを対象に、ダム予定地の高台に10か所まで計12・7ヘクタ

だが、八ッ関する国の今同省が要求し に対し、20億 0億円にとど分には代替地 一部が含まれ は来年度までの 取得が困難と が、県に用地の 要請していた。 県も、水没地区 地生活再建」の 図るため、1

だ。借地人が多い川原湯では、充分な補償金が期待できず、地区外転出での生活再建にも不安を抱く人が多い。だが最近は、転出という苦渋の決断をする人も増えている。

現在、川原湯地区は人口257人、85世帯、川原畑地区は8人、27世帯（9月末、長野原町役場）。実際の数字は、住民票届出状況によるこの数字をさらに下回るという。ちなみに補償基準調印前の平成13年3月末、川原湯は人口504人、176世帯、川原畑は人口247人、94世帯であった。

群馬県は9月県議会で、八ッ場ダム代替地の取得費用として、補正予算案に9億1453億円を盛り込んだ。国交省の今年度のダム事業予算が300億円から280億円に削られたため、県が肩代わりして先行取得をするという。代替地の分譲が予定通り、今年度から始まるのなら、土地買収はとっくに終わっていなければならないはずだ。

▼ アンケート ▼

国交省は8月から、水没予定地の住民を対象に、代替地に関する意向調査を始めた。このアンケートで住民の希望を把握し、その結果を代替地の造成計画に反映させるという。調査の結果は10月上旬をメドに住民に知らされることになっていたが、10月20日現在、未だに公表されていない。いずれにしても、国は「造成計画の大幅縮小は避けられそうもない」とアナウンスすることになると見られる。

代替地への移転は今年度から始まる予定だが、造成状況からみて遅れるのは必至。八ッ場ダムの場合、計画通りに物事が進まなくとも、誰も驚きはしない。（清沢）

「我が国では、経済成長、所得倍増、地域発展等がうたい文句になり、意味のない公共事業が対象区域の住民を無視し、数多く実施されてきた。地元住民の意思や生活の必要性はどこに考慮されたのであろうか。地元住民のライフスタイルを本当に捉えて実施された公共事業があったのだろうか。住民及び国民は、その公共事業の実施に伴う変化について、どれ位知らされていたのか。これは、政治的、経済的、社会的問題であり、総体として日本人の文化的問題なのである。ダム建設を含めた大型公共事業は環境問題ばかり話題になることが多いが、文化的問題も重要で、「環境問題は文化問題」という基本的で長期的な認識をもたないことには、生活再建もうまくはいかないし、我が国の公共事業も変わらないであろう。」（矢部俊介氏・土木技術者）

吾妻川のヒ素問題

監修：嶋津暉之

■ 温泉水に含まれるヒ素 ■

八ッ場ダム予定地の上流には、温泉、旧鉱山跡地など、重金属類を多量に含む汚染源が散在しています。中でも、草津温泉の源泉にヒ素が高濃度で含まれていることは、飲用水の水質を考える上で、見過ごすことのできない問題です。

泉源	pH	ヒ素濃度 mg/L	最大湧出量 L/min	ヒ素量 mg/min
万代鉱源泉	2.1	9.7	6,200	60,140
湯畑ほか	1.7	0.07	30,000	2,100
合計			36,200	62,240

上の表は、草津温泉の代表的な源泉である、湯畑と万代鉱源泉のヒ素濃度を示しています。ヒ素などの重金属類は、温泉水には元々含まれているものです。ヒ素は経口摂取すれば問題ですが、温泉療養には逆にプラスに評価された時代もあり、温泉愛好家の間では、ヒ素が含まれる温泉の方が好ましいという意見さえあります。ヒ素の排出基準が厳しく規制されるようになった現在でも、慣行的に利用されている旅館業の排水には、基準は適用されていません。

■ ヒ素のゆくえ ■

草津温泉源からは、年間およそ 24 トン（湯畑、万代鉱源泉の年間平均毎分湧出量 27,000L に基づき計算）のヒ素が排出されますが、その大半は、中和処理で加える石灰などと一緒に水の中から沈殿し、中和生成物の中に取り込まれ、下流の品木ダムに堆積します。中和生成物は浚渫・脱水して、品木ダム周辺の産業廃棄物最終処分場であるＡ土捨て場（終了）、Ｂ土捨て場に処分されています。Ｂ土捨て場は平成 18 年３月で満杯になるため、現在、Ｃ土捨て場を建設中です。1987 年から浚渫作業が始まり、一日およそ６０㎥が浚渫されてきました。Ａ、Ｂ土捨て場の累積処分量は 22 万㎥になります。

以下の表は、国土交通省が公表した中和生成物のヒ素含有量です。

①湿式分析の含有量試験　（単位 mg/kg）

		砒素
2005年2月	品木ダムの底泥1	5,600
2005年2月	品木ダムの底泥2	4,900
2005年2月	品木ダムの底泥3	1,100
2005年2月	品木ダムの底泥4	3,100
2005年2月	脱水ケーキ	11,000

〔注〕湿式分析の含有量試験：全含有量を計測する試験

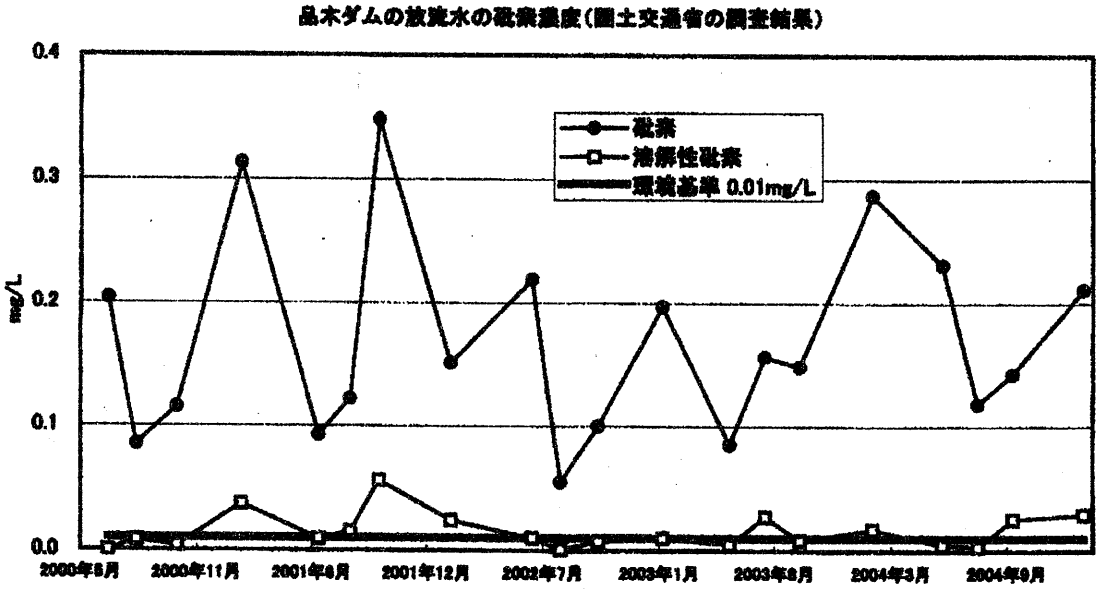
②含有試験　（単位 mg/kg）

		砒素
2001年11月7日	脱水機場	856
2001年11月7日	B土捨場	491
2002年10月8日	脱水機場	671
2002年10月8日	B土捨場	521

〔注〕硝酸と硫酸を用いて抽出する含有量試験であるが、左記の試験方法との違いは不明

吾妻川のヒ素問題

中和処理だけではヒ素を十分に除去することはできません。品木ダムの放流水は、環境基準（0.01mg/ℓ）の10～30倍のヒ素濃度となっています。



■ 八ッ場ダムとヒ素問題 ■

現在、品木ダムの放流水は、八ッ場ダム予定地の上流で東京電力によって取水され、導水管を流れて水力発電に利用されています。群馬県の調査によれば、吾妻川が利根川に合流する直前の吾妻橋地点では、ヒ素濃度は環境基準をクリアしています。流域の沢水によって希釈され、ヒ素が鉄化合物とともに次第に沈殿したためと考えられます。

吾妻川の水は利根川本流と合流し、さらにいくつもの大きな支流を集めて、首都圏へと流れてゆきます。現在でも、この利根川の水は下流都県の生活用水として利用されており、健康被害が目に見える形で発覚したことはありません。

しかし、水質の良い地下水とくらべ、遠くの水源地から運ばれてきた河川水は、高度な浄水処理をしなければ飲用に耐えません。八ッ場ダムが完成すれば、都市用水の河川水への依存率は、ますます高まることになります。ダム建設による水源開発を中心とした水行政が、将来世代にどのような影響を及ぼすのか― 安全だという保証はどこにもありません。

《私にとって八ッ場ダムとは》

冨永 靖徳（埼玉県朝霞市在住）

はじめに

インターネットのGoogleで「ダム　凍結」のキーワード検索をしてみたら、以下のURLに次のような文が掲載されていました。

http://www.pref.gunma.jp/chiji/speak/damu.htm

****

XXダム建設事業については、－　略　－

財政面から考えますと本体工事に着手することにより今後数年間で２百数十億に及ぶ大きな投資を必要とすることになります。現在の県の厳しい財政状況を考慮すれば、これはなかなか難しい事であります。

また事業の緊急度や県民の事業に対する理解度という点において、カスリーン台風以来大きな被害が出てないことや、ここ数年、水道需要が伸びていないこともあって、治水・利水の両面において、さらに慎重な対応が必要な状況にあると考えております。

これらを総合的に勘案いたしますと、現時点におきましては、XX ダムについては、来年度より当分の間、本体工事等残工事への着手を見合わせることとし、―以下略―

（「平成15年12月3日（群馬）県議会本会議における小林義康議員（自由民主党）の一般質問に対する小寺知事の答弁」）

****

私は、この答弁を見て唖然としました。XXダムとは群馬県営倉渕ダムのことです。この答弁の中で「倉渕ダム」を「八ッ場ダム」に置き換えて、財政上の数字をちょっと変更するだけで、なんと、八ッ場ダムにもそのまま通用するではありませんか。つまり、この答弁は、はからずも、八ッ場ダム事業が、現状の財政・治水・利水を全く考慮していない事業であることを自ら認めているようなものです。

八ッ場ダム問題との出会い

私が「八ッ場ダム」事業のことを知ったのは１０数年前です。国道１４５号線を通った時に、まもなく川原湯温泉が、「まるごと」ダムに沈んでしまうと聞いて、びっくりしました。現地の川原湯温泉まで出かけ、吾妻渓谷も歩き、どうやらほんとうの話だとわかり、二度びっくりしました。その後、国道１４５号線を通るたびに、いつも割り切れない思いをしていました。こんなおり、国交省から工事費値上げの話が出た直後に、埼玉で開催された嶋津さんの講演に出会いました。嶋津さんの話は明快でした。利水・治水の両面で、もはや不用の事業であること、明らかに不用であるだけでなく、むしろ有害であることを認識しました。すぐに群馬の考える会とコンタクトをとり状況を教わりました。近隣の仲間と相談し、川原湯温泉と周辺の状況の見学会が実現しました。群馬の考える会の方々には全面的なご協力をいただきました。

ダムは治水と利水に役立つのか？

５０年以上前、私が小学生の頃、ダムの目的として教わったのは、水力発電と川の水量の調整だったと記憶しています。曰く、大雨の時は水をせき止めて下流の洪水を防ぎ、干ばつの折りには貯めた水を放流して下流の水量を一定にし、しかも、この水で発電が出来るという、いい事ずくめでした。しかし、現実に多くのダムは、干ばつになると放流を制限して下流の水量を減らし、大雨になるとダムの保護という名目で大量の水を放流するというのが実態です。要するに、ダムは、平時にはそれなりの水量の調整が出来ても、ほんとうに肝心な折りには役立たずか、逆の事しか出来ないのだと知りました。特に、八ッ場ダムでは、この最小限の治水・利水の論理すら破綻しているのは、冒頭の群馬県知事の答弁からも明白です。

本当に水の問題を解決するのであれば、１）上流の山々の樹木の生態系を管理し、常に生き生きとした緑の涵養林を維持する事、特に、２）山を崩してゴルフ場を造成するような愚挙を絶対にしない事、３）足下の河川の改修を適正に行う事、そして、なによりも、４）下流での水の消費そのものを適正規模に抑える方策を真剣に考える事、だと思います。広葉樹林の保水力と水の調整力のすごさは、ダムの比ではないと思います。ダムという見せかけの調整力に頼るのではなく、上流の山々の樹木の調整力の方に合わせて、下流の水の利用計画を策定するのが本筋です。地下水や雨水の利用も視野に入れれば完璧です。

地元の補償を考える

八ッ場ダムについては、本体工事だけは、絶対に凍結・中止にしなければなりません。どうしても地元のための公共事業としてお金を使う必要があるのなら、それは生活道路や生活関連事業のみに限定するべきと思います。公共事業の大義名分として、ダムと抱き合わせにするから問題が複雑になるのです。また、状況が変わってダムの建設を中止する時に、必ず問題になるのは補償金の問題です。すでに払われてしまった補償金や、これから支払われるべき補償金は、これまで何十年にもわたる地元への迷惑料と考えれば、数年前に銀行に投入された税金に比べれば、数段、趣旨もわかりやすいし、決して批判される事ではないと思います。むしろ、補償金だけでなく、地元の生活再建を法的裏付けをもって、最優先にするべきと思います。

おわりに

一度始めると引き返せないのは、お役人の無謬神経症なのでしょうか。そろそろ、国交省のお役人も、７０年も前の米国のテネシー渓谷開発公社(TVA)によるニューディール政策の亡霊から脱却し、新しい時代に適合するビジョンを持ってほしいものです。

総会記念講演会（11/23）講師の川村晃生さんは、慶応大学で環境をテーマに、ユニークな授業を展開しておられる文学部の先生です。

先頃、八ッ場ダムをテーマに９０分の講義をされたとのこと。その際、学生さんたちが書いたリアクションペーパーの一部を掲載します。

大学生はこう思う　慶応大学生の感想文

＊　若山牧水の生き方に興味共感を抱くことから、今回の講義は始まった。そんな彼が、どうしても訪れたいと予定を変更してまで再度訪れた吾妻渓谷、その美しさは、彼が数時間で２２首もの歌を詠みあげたところからも強く感じられた。そのように美しい川に、わざわざ中和作業を行ってまでダムを造ろうというのは、国のエゴイズムだと感じた。

＊　東京都の水が十分足りている今、若山牧水も愛した素晴らしい景観を壊し、村民の方達を住み慣れた村から追い払い、なおかつ巨額の税金を無駄に投入して、国は何をしたいのでしょう。このダム建設によって利益を得るのは、一体誰なのでしょうか。

＊　スライドで見た国土交通省のチラシは、もう理解不可能で言葉も出ないようなものだった。人間は高度な思考能力を兼ね備えた生きものなのかもしれないが、同時に、高度な間違いも犯しえる可能性をもった生きものだということを、今日の授業で改めて気づかされた。

＊　ダム建設によって地方の土木事業者に仕事を与えるという公共事業の手法が批判されるようになってから随分たつというのに、未だにこのような計画があることに驚いた。政府は改革、改革と聞こえのよい言葉で国民を扇動しているが、実際にはこうしたムダを排除できていないことに改めて落胆した。

＊　木々が生い茂った山の保水量の方が、ダムのそれよりも多いということ、初めて知りました。目先の容易さだけを理由に、高額なダム建設が成し遂げられることが悲しいです。私達の税金がそこに投じらるということも、悲しいです。この建設を決断した方々の想像力のなさが、何より悲しく哀れです。

＊　先生のお話を聞き、写真を眺めていると、いかにも八ッ場ダム計画が破綻していることがよくわかりました。温泉街をそっくり別の場所に移すなど、もっての他だと思います。それこそ、温泉をテーマパークか何かと同じように考えているのではないかと疑問に思いました。

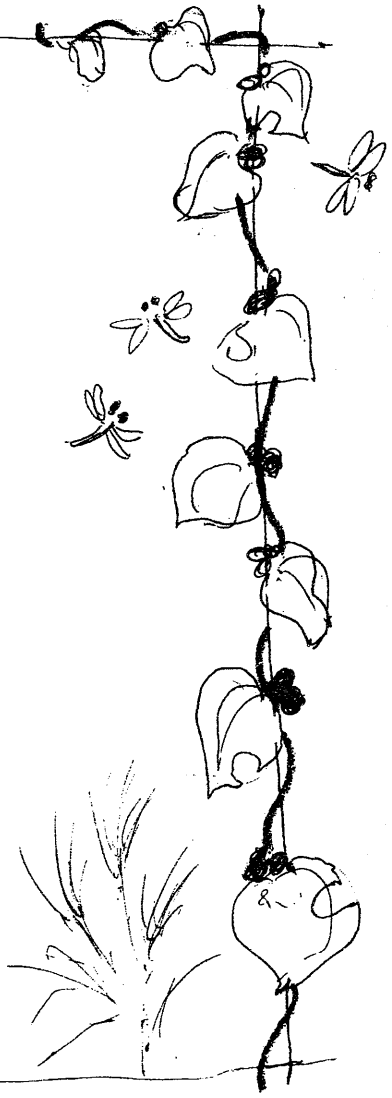
＊　今日はダムに関しての様々な問題を知った。東京都では水が余っているという現状があり（初めて知りました！！）、全く無駄使いであると思う。ダムよりも森林の方が水をためられるのだったら、どうしてもっと早くから木を植えなかったのだろう・・・？

某大学生はこう思う

＊　住民の反対が20年も続くなんて、はっきり言って異常なのに、それでも粘り勝ちのようにして、何が何でも造ろうという姿勢が不思議だった。ダムを造るのはおそらく生活のためであるはずだが、川原湯温泉の人々にとっては本当に翻弄されたもいいところで、生活が立たなくなる見通しも大きく、何のためのダムなのだろうか。

＊　今までは、水不足に対する備えのためのものであると思っていたけれど、実はダムの役割はそれほど大きくないことを知って、混乱してしまった。広葉樹林を中心とした保水力豊かな森林の整備の方が、ダム建設よりはるかに有効であるならば、時間がかかっても森林を豊かにして、長野県の田中知事の言うように、「緑のダム構想」を実現すればいいのではないかと思う。

＊　所詮、莫大なお金を流用して、必要もない、むしろ造ることで私達の害になるダムを造ろうと働きかけている国の力は、カネを使い回すことしか知らない、悲しく弱い権力にすぎない。カネではなく、国民の真の幸せ、美しい自然を約束することこそが、本当の国を守る、国の上に立つ力なのではないか。



川原湯温泉

河野　千絵（長野県佐久市在住）

山峡の湯脈千年絶えざるをほんとうに潰さねばならぬのか
これまでに喪われたる故郷の数をかぞえる、魂のごと
人さまの悲しみに便乗する心なきかなきかと幾たびも聞え
住民の半数が去りし現在も反対の声挙がりやまぬに
語らねど吾のすべてを見し人と気づかされたり向き合いしのち
帰り来し吾の日常に兆したる起ちあがる心決して去るなよ

事務局ニュース

【新年度が始まります】

11月23日、前橋で総会が開かれます。八ッ場ダムを考える会では、総会を会計年度の区切りとしています。お手数ですが、会へのカンパ、来年度の会費は、同封の振込用紙の通信欄に、会費、カンパの別をご記入の上、お振込み下さい。なお、事務作業を軽減するため、振込用紙の受領証をもって会の受領書に代えさせていただいております。受領の通知をご希望の方は、通信欄にその旨お書き添え下さい。

【各地の連絡先】

★八ッ場ダムを考える会
[redacted]

★首都圏のダム問題を考える市民と議員の会
[redacted]

★八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会
[redacted]

★八ッ場ダムをストップさせる東京の会
★八ッ場ダムをストップさせる千葉の会
★八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会
★八ッ場ダムをストップさせる群馬の会
★八ッ場ダムをストップさせる茨城の会
★ムダなダムをストップさせる栃木の会
[redacted]

★八ッ場ダムを考える千葉の会 [redacted]

★八ッ場ダムを考える市民の会おおた [redacted]

【訴訟スケジュール】

千葉	１１月１８日（金）	午前１１時	千葉地裁
栃木	１１月２４日（木）	午前１０時	宇都宮地裁
埼玉	１１月３０日（水）	午前１１時	さいたま地裁
東京	１２月１２日（月）	午前１１時	東京地裁（弁論準備期日）
茨城	１２月１３日（火）	午後１時３０分	水戸地裁
群馬	１２月１６日（金）	午後１時３０分	前橋地裁

事務局ニュース

吾妻渓谷が美しく色づく季節、今年も好評の現地イベントを開催します。すでに沢山の方からお申し込みがありました。予約がいっぱいになり次第、締め切ります。ご希望の方は、宿泊、バス、お弁当の都合がありますので、事務局（TEL/080-3278-9005）までお早めにご連絡を！

紅葉の吾妻渓谷エコツアー

★水没予定地の野道を歩く★川原湯温泉を堪能する★自然の中でミニコンサートを楽しむ
★しっかりダム問題を学ぶ・・・と盛り沢山なプログラム。希望に応じて一部参加もＯＫです。

11/5（土）　□　～秋の半日ハイキング～　□
吾妻渓谷、水没予定地の里山など、２コースぐらいに分れてハイキング
１２：３０　川原湯温泉駅集合（１０時上野発、１２：１９着の特急草津３号あり）
★参加費（資料代など）３００円

11/6（日）　□　～ダム予定地見学とミニコンサート～　□
バスで全行程を回ります。八ッ場ダム問題の第一人者、嶋津暉之さんの解説
（バスは高崎から温泉駅に来ます。高崎駅東口交番前からバス利用も可。９時出発。要予約）
１０：３０　川原湯温泉駅からバス出発
　　午前中はダム予定地周辺を見学
１２：００　梅林で昼食
１２：３０　ミニコンサート　♪ギターとツインボーカルのガーネット♪
１３：３０　バス出発、草津中和工場、品木ダム、長野原取水堰
１６：１５　長野原・草津口駅着（１６：３２発、１９：０４上野着の草津８号あり）
バスは川原湯温泉駅を経由し、高崎まで行きます。途中下車可。高崎駅１８時ごろ到着予定
★参加費　４５００円（お弁当＆コンサート１５００円、バス代大人３０００円、
　　中学生以下　２５００円）

～推薦図書～

『日本文学から「自然」を読む』　川村晃生※著　勉誠出版

環境人文学という新しい学問分野を切り開きつつある著者による、ユニークな日本文学論。川べりの柳、萩の原、松林― 古来、日本人が和歌に詠み、随筆に書きとめた自然素材は、日本人と自然との関わりを解き明かすキーワードであるとの視点から、民俗学、植物学など様々な学問分野の成果を駆使した知の探求は、実にスリリング。和歌研究にいそしんだ文学者が、なぜ、一見まったく違う分野の環境問題に真摯に向き合うことになったのか？　この本を読むと、それがむしろ自然な思索の軌跡であったのだと納得させられます。　※10/23の八ッ場ダムを考える会総会記念講演の講師です。

総会・記念講演会のお知らせ

八ッ場ダムを考える会

■ 日時：１１月２３日（勤労感謝の日）

■ 場所：群馬県女性会館（前橋市、群馬県庁北隣）
総会：午後１時半～２時

■ 記念講演：午後２時１０分～３時１０分

「吾妻渓谷はだれのものか
――作家が語る景観」

講師　川村晃生さん（慶応大学文学部教授）

■ 八ッ場ダム問題の現状レポート：午後３時２０分～４時半予定
① ヒ素を含む水質問題・・・嶋津暉之さん（顧問）
② 水没予定地住民の生活再建・・・伊藤祐司さん（群馬県議）ほか

八ッ場ダムは現在の計画では、２０１０年完成の予定です。
けれども本体工事は、まだまだ先です。
次の世代の“いのち”のために、八ッ場ダム計画を見直しましょう。

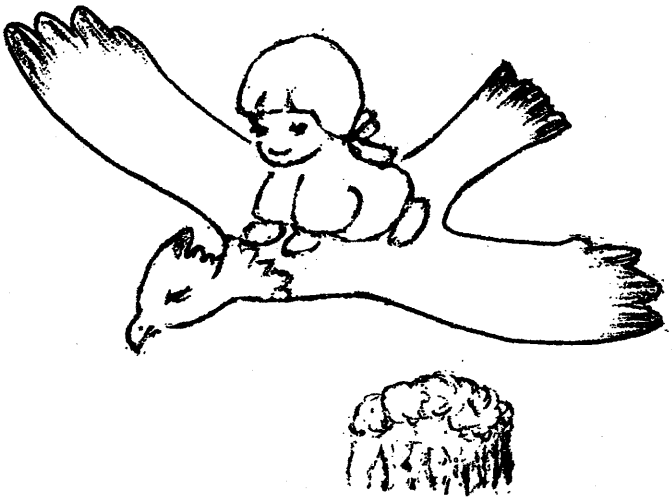
会員年中募集中
年会費（秋の総会から次の総会まで）／個人会費 2000 円、団体会費 3000 円
《カンパしてもいいな、という方は・・・》
郵便振替口座番号００５５０－２－３２６８１

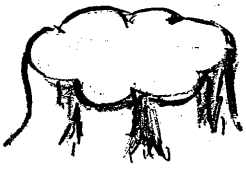
編集：八ッ場ダムを考える会

吾妻渓谷
八ッ場ダム
2005、2　No14

いま共生の時代

利根川流域脱ダム宣言





これまで祖先が築いてきた価値をないがしろにする時代
―八ッ場ダムによって破壊されようとしている
吾妻渓谷の景観を前にして
……人間はどう生きたらよいのか、ということを
もう一度考え直すことが大切だと思います

「吾妻渓谷はだれのものか
―作家が語る景観」　川村晃生
P13～16 掲載より

八ッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

現地は今……その5

～～川原湯温泉観光協会ホームページより転載～～
(http://www.kawarayu.jp/)

《2006年1月19日》

昭和40年頃、川原湯には2軒の床屋さんがありました。その頃の大字(おおあざ)長野原内には5軒も床屋があったのです。

昨日「広報ながのはら」という長野原町発行の広報誌が届いた。昨年行われた国勢調査の結果速報なるものが掲載されていた。昨年10月1日付の世帯数と人員数が前回の国勢調査（平成12年）と比較してある。一目瞭然、その減少ぶりには唖然とさせられる。日々の生活の中で隣近所が引っ越され、家屋は取り壊されてゆくのを実感しているはずなのに、数字で見ると愕然としてしまう。

ちなみに、対岸の川原畑地区では	Ｈ１２－世帯数８０世帯	人員２１１人
	Ｈ１７－世帯数３０世帯	人員８３人
ここ川原湯は	Ｈ１２－世帯数１５６世帯	人員４６１人
	Ｈ１７－世帯数７５世帯	人員２３４人
前出の大字長野原	Ｈ１２－世帯数３２５世帯	人員９０２人
	Ｈ１７－世帯数３０８世帯	人員８２８人

現在、川原湯で床屋さんを営んでいるのは1軒だが、この減少する住民が相手のお仕事なので、さぞかし苦しいと察しがつく。さて、どうしてこれほどの減少を示しているかは、川原湯通の皆さんなら御存知であろう。

昨年9月7日の分譲基準合意の際の首長の挨拶で「犠牲の無いダム造りを目指して」との言葉　これは現実の犠牲ではないのだろうか？　町民が減少することが真の問題として見られないとすれば、悲しい事だと思う。

川原湯温泉恒例の「湯かけ祭り」は明朝5時に始まる。この少なくなった住民が協力し合って今年一年の無病息災と温泉への感謝の気持ちで盛大に行う。今年は、一段と多くの転出者が見込まれているが、そんな現実に立ち向かうように大きな声で「お祝いだ～」の声がひびくのだろう。(by 五郎)

～～～

河川をめぐって、国と国民の攻防戦が最終段階を迎えようしている今、
脱ダムの時代を実現するために、　水問題の専門家・嶋津暉之さんから
利根川水系住民に大同団結の呼びかけが届きましたので、ご案内します

利根川水系河川整備計画の策定に対して
利根川流域住民の声を結集しよう！

1　河川法による治水面でのダムの上位計画

1997年に河川法が改正され、利根川等の各水系ごとに河川整備基本方針と河川整備計画を策定することになりました。また、この改正により、河川環境の整備と保全が河川法の目的に追加され、さらに、整備計画の策定において地域の意見を反映することが求められるようになりました。

- 河川整備基本方針
  河川整備の長期的な目標を定める。ダム名は記載しない。
- 河川整備計画
  今後20～30年間に行う河川整備の事業計画を定める。ダム名を記載する。

治水面でダム建設を位置づけ、ダムの上位計画となるのは河川整備計画です。
利根川水系ではこの河川整備計画の策定がこれから急ピッチで進められていきます。

旧河川法時代の工事実施基本計画
旧河川法時代に策定されていたのは工事実施基本計画で、この計画には、河川整備の長期的な目標と河川整備の事業計画の両方が含まれていました。
新河川法の経過措置として、河川整備基本方針と河川整備計画が策定されるまでは従来の工事実施基本計画をそれらの代わりとしてみなすことになっていますが、
河川整備計画と工事実施基本計画は意味するところが全く違いますので、このみなし規定を長年の間、使い続けることは法の趣旨に反することです。
工事実施基本計画は　① 環境の視点がない。
② 地域の意見を反映したものではない。
③ 長期目標と事業計画が混在している。

2　利根川水系における動き

河川法が改正されてから8年も経過したにもかかわらず、利根川水系においては河川整備計画が策定されておらず、八ッ場ダム等のダム事業は上位計画がないまま、法律を逸脱した状態で進められてきました。

①　河川整備基本方針

つい最近まで河川整備基本方針の策定の動きさえ見られませんでしたが、昨年の10月になって急に利根川水系に関する審議会が開かれて、形だけの審議が行われてきました。審議終了ということで、2月中頃には基本方針が策定されることになっています。

河川整備基本方針で最も重要な点は、基本高水流量、すなわち、想定洪水流量を何㎥／秒にするかです。利根川の工事実施基本計画では、来るはずのない過大な洪水流量（八斗島地点で22，000㎥／秒）が想定され、そのために八ッ場ダムの他に、数多くのダム建設が必要とされてきました。これから新たに数多くのダムを建設することは事実上不可能なことです。ところが、審議会は基本高水流量の是非について全く議論を行わずに、従前からの数字22，000㎥／秒を踏襲した事務局案を承認してしまいました。

そのため、利根川水系の河川整備基本方針は、従来の工事実施基本計画と同様、実現することが困難で、現実性がなく、意味のないものになりました。

② 河川整備計画

国土交通省関東地方整備局と各事務所（9事務所）が利根川水系河川整備計画の策定作業を始めました。平成18年度には河川整備計画の原案が示され、住民の意見を聴くなどの手続きが進められることになっています。

上述のとおり、河川整備基本方針は現実性がなく、意味のないものですが、一方、河川整備計画は今後20～30年間に実施する河川事業の内容を書くものですから、現実的な意味を持ちます。

河川整備計画は流域住民の安全と河川の環境を真に守ることができる計画でなければならないはずですが、官僚たちにまかしておくと、大規模工事を行うことを自己目的化した計画になってしまうでしょう。国は八ッ場ダムを河川整備計画に入れることを予定しています。

河川整備計画の策定では住民の意見を反映することが求められています。この点で、住民に対して開かれた形で整備計画の策定作業を進めてきて、大いに参考になるのは、淀川水系です。一方で、形だけの流域委員会をつくって数回の会議で審議を終了し、型どおりの公聴会で住民の意見を聴いたことにする水系もあります。

> 淀川水系の場合
>
> 2001年2月に流域委員会が発足し、さらに2005年2月に新たな流域委員会が発足しました。委員数は約50名で、その人選は一般からの一部公募も行った上で、有識者からなる準備会議で審議して決定しました。また、委員会の運営は委員が自主的に決定し、事務局を民間シンクタンクが担って、会議、会議資料、議事録等を原則としてすべて公開しています。さらに、委員会においては傍聴席からも意見を述べる時間がとられています。

3 利根川流域住民の声を結集しよう

利根川水系においてこれからどのような流域委員会が設置されていくのか、また、住民の意見の反映がどのように行われるのか、全く予断を許しません。このままでは住民の意見を聴くポーズをとるだけで終わってしまうことが予想されます。そうならないようにするためには、私たち住民の意見を関東地方整備局に対してどしどしぶつけていくことが必要です。

利根川流域の住民の声を結集して、住民の参加が保障される流域委員会を設置させる運動を展開していきましょう。

流域委員会において科学的な議論が十分に行われるようになれば、利根川水系河川整備計画への八ッ場ダムの記載を阻止することができるに違いありません。

流域住民の安全と河川の環境を本当に守ることができる利根川水系河川整備計画を策定させる運動に是非ご参加ください。

（当面の連絡先　嶋津暉之 [redacted]）

＊ 06年事業費は356億円

12月20日、2006年度予算の財務省原案が内示され、八ッ場ダムの事業費は国交省が概算要求した370億円に近い356億8900万円（今年度280億円の1.27倍）という数字が公表されました。国の公共事業予算が4.4%削減される中での大幅増額です。

来年度は、ＪＲ・国道の付け替え工事に加え、吾妻川の流れを迂回させる「転流工」に着手するなど、ダム本体工事に向けて関連工事がさらに進められます。吾妻渓谷左岸では、現在、下流の吾妻町と水没予定地を結ぶ国道の松谷トンネルの工事が進行中ですが、転流工も加わり、渓谷の景観は大きく変容することになります。

吾妻渓谷左岸は古来から、地質の脆さが知られた交通の難所です。下流関係都県からコスト削減、工期厳守の声が高まる中、国交省にとっては工費の圧縮、工期の短縮、安全性の確保を両立させるだけでも至難の業です。

＊ 公開質問書を送ってみましたが・・・

上毛新聞など地元各紙によれば、国交省現地事務所は事業費増額の理由を「代替地造成が本格化するため」としています。
八ッ場ダムを考える会では、1985年から20年越しで進められてきた現地再建計画に数々の疑問があることから、昨年11月18日、公開質問書を国土交通省現地事務所と、群馬県特定ダム対策課に提出しました。
回答期限を過ぎた12月22日、群馬県から「これ以上の転出者を出さないため、代替地の早期造成を引き続き国土交通省に強く求めていく」という回答が寄せられました。
しかし、起業者である国交省からの回答は、いまだに届いていません。

当初、国交省は回答が遅れる理由を、
「質問内容に過去に遡った項目があるため、調査に時間がかかっている」と説明。

その後、担当課の課長は
「代替地縮小案について、地元との交渉に人手をとられて遅れている」と語りました。国交省と地元は12月中、代替地縮小案をめぐって会議が続き、特に温泉街のある川原湯地区とは「ドンパチやっている」（副所長談）状況が続きました。

＊ 代替地の縮小

この縮小案は、住民流出に合わせて代替地の面積を当初計画の4割に減らすというものです。川原湯地区の場合、代替地は「打越」と「上湯原」とされていましたが、縮小案では、温泉街の坂上にある「上湯原」は、新温泉駅、ＪＲ線、道路の整備はするものの、駅周辺の観光施設、商店、宅地の予定地が国の事業用地からはずれました。

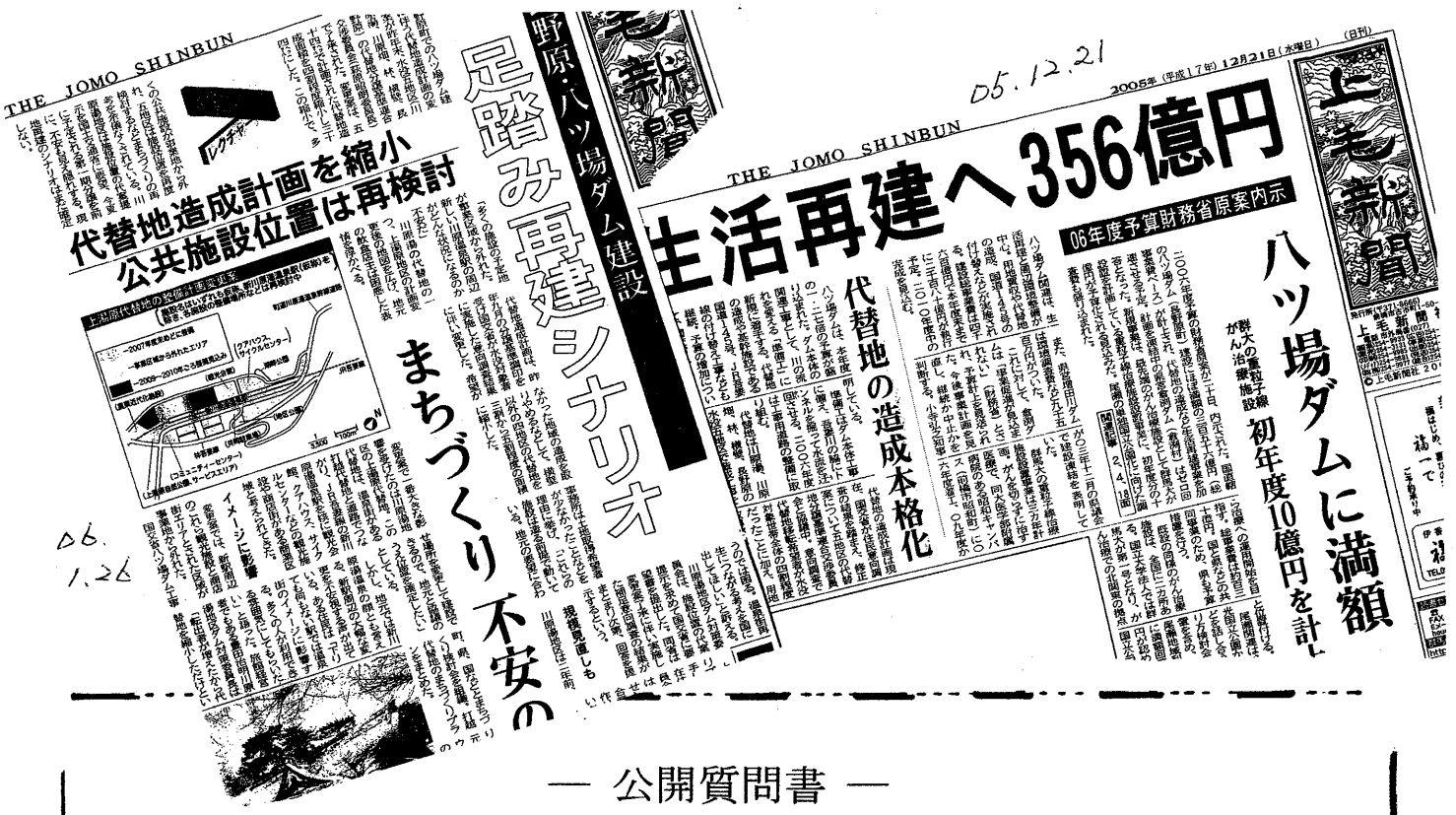
バブルがはじける前に代替地計画がスタートした川原湯では、ダム事業受け入れと引き換えに観光会館（千人収容のホール併設）、クアハウス（約千㎡）などが構想されてきましたが、縮小された代替地に大型レジャー施設を建てる余裕はありません。
上湯原の造成の多くが官から民に移譲されることで、温泉の引き湯問題も浮上。地元は説明責任を果たしてこなかった国交省に反発して交渉が難航しましたが、暮れも押しつまった27日に水没五地区代表が縮小案を了承とアナウンス。翌28日には、代替地移転の希望を問う“補足”意向調査票が住民に発送され、机上のスケジュール通り地元説得の仕事を終えた国交省現地事務所はお正月休みに入りました。

＊　沈黙する水没予定地

年が明け、担当課に再度問い合わせたところ、**「再意向調査の作業に追われ、回答が遅れている」**という説明です。一度目の意向調査は昨年８月～９月にかけて行われました。その後も住民の流出は止まらず、地域の崩壊が進んでいます。

考える会では１月 13 日、国交省現地事務所に回答を促す要請書を送りました。八ッ場ダムは当初、昭和 40 年代に完成するはずがズルズルと遅れ、未だに姿が見えてこない遅刻常習犯のような事業ですから、市民団体の質問への回答が遅れるくらいでは、誰も驚きはしません。遅れる理由は、仕事が忙しいからとか。業務がある間は、国民に対する「説明責任」という仕事をすっぽかし続けるつもりなのでしょうか？

大寒の１月 20 日、今年も川原湯温泉では恒例の湯かけ祭りが執り行われました。無機質なロボットのようなダム事業と、温泉の存続を願う住民達の祈りにも似た思いと一狭い谷あいの村で、今年も両者のせめぎ合いが続きます。（清沢）


THE JOMO SHINBUN
代替地造成計画を縮小
公共施設位置は再検討
野原・八ッ場ダム建設
足踏み再建シナリオ
まちづくり不安の
05.12.21
2005年（平成17年）12月21日（水曜日）（日刊）
THE JOMO SHINBUN
生活再建へ356億円
06年度予算財務省原案内示
八ッ場ダムに満額
群大の重粒子線がん治療施設
初年度10億円を計上
代替地の造成本格化
06.1.26

― 公開質問書 ―

【質問１】ダム構想浮上以来、長年、水没予定地では反対闘争がありましたが、1985 年、疲弊した地元が生活再建案を受け入れたことで、反対闘争は転機を迎えました。建設省と県が作成したこのいと一狭い谷あいの村で、今年も両者のせめぎ合いが続きます。（清案では、水没地区を山側の中腹に移転させる“現地再建ずり上がり方式”が採用されました。しかし、すでに６割以上の人が転出し、現地再建は当初の約束と大きく変わってきています。生活再建の現状について、地元では、「約束が違う」という声がしばしば聞かれます。当初の約束と大きく変わったことについてご見解をお示し下さい。

【質問２】1990 年代、ダム計画を受け入れた地元住民は、生活再建の基本となる代替地の早期完成を再三要望し、建設省と群馬県は補償基準妥結時には移転可能と言明しています。しかしな

がら、補償基準妥結から4年経た2005年現在、未だに代替地は完成していません。その理由をお示しください。

【質問３】水没予定地では、代替地の分譲価格が高額であることも住民流出の原因と指摘されています。居住環境が極めて劣悪な八ッ場ダムの代替地分譲価格が、周辺地の地価、先行ダムの代替地価格より高額となったのは何故でしょうか？

問４】代替地の意向調査では、移転の希望を調査し、その結果によって造成規模を縮小するとされています。通常の土地売買では、購入者は実際に分譲地を見てから購入を決定します。造成が終わらず、ライフラインが未整備の土地について、紙面上で希望を出させるという手法は住民軽視と思われます。このことについてご見解をお示し下さい。

【質問５】水没予定地の最大集落である川原湯地区は、温泉街を抱え、当初、約200世帯ありましたが、代替地移転の希望は30世帯余にとどまっています。代替地は標高の高い北斜面を切り開いた所にあり、巨大なロックフィルの擁壁、防災ダムに囲まれ、自然環境が破壊された最悪の条件の中で再出発しなければなりません。吾妻渓谷の景観美に恵まれ、自然湧出の優れた泉質を誇る川原湯温泉が代替地で存続する見通しは厳しいものがあります。代替地での温泉の立地条件と、代替地の居住環境についてご見解をお示し下さい。

【質問６】代替地分譲開始は今年度とされていますが、実際の分譲開始時期、造成規模について、現在の代替地計画の内容を明らかにして下さい。

【質問７】盛り土した造成地が居住可能となるためには、相当の期間が必要と考えます。居住可能となるための年数をお示し下さい。

【質問８】地質が脆いと指摘されている代替地があると聞きます。その代替地の安全性について、ご見解をお示し下さい。

【質問９】八ッ場ダムの事業費には、多額の税金が投入されています。9月の群馬県議会では、代替地取得費用の不足を理由に補正予算が組まれ、県が国土交通省の代わりに一部先行取得をすることが決まりました。50年以上経ても完成しない八ッ場ダムのために犠牲を強いられてきた地元住民の生活再建をダム事業の最優先課題にするべきと考えますが、このことについてご見解をお示し下さい。

【質問１０】水没予定地の住民の中には、借地・借家層など、ダム事業の手当てだけでは生活再建の見通しが立たない人々も少なくありません。このような人々の生活再建が可能となるよう、改善策を講じることが必要ですが、この改善策について、ご見解をお示し下さい。

【質問１１】水没予定地では人口減少による地域の衰退が進んでいます。八ッ場ダム水没予定地の再生について構想がありましたら、明らかにして下さい。

八ッ場ダムの不要性 ― 東京の水あまり

苗村洋子（小平市議会議員、生活者ネットワーク）

八ッ場ダム計画を止めたいと、流域都県で多くの市民が声をあげました。最下流に位置する東京に住むわたしたちにとって、八ッ場ダム問題は、まずは飲み水、身近な水道水の問題です。東京都は、水道水源確保のために八ッ場ダムが必要であるとしています。そのため、事業費が２倍以上の4600億円に引き上げられたときも、あっさりこの基本計画変更に同意してしまいました。

しかし、東京の水源を確保するために、ほんとうに八ッ場ダムが必要なのでしょうか。実は、東京都はすでに充分な水源を持っています。今後の需要を考えると、今以上に水源を開発する必要はありません。東京都がダムの必要性の根拠としているものに対して、わたしたちの主張を要約してレポートします。

１．東京都の水需要予測が過大であること

東京都は、2003年12月に、それまでの過大な水需要予測を下方修正し、2013年度の１日最大給水量を600万㎥としました。ところが、この数字さえ過大です。都内の水の使用量は、この10年あまり着実に減ってきています。近年東京都の人口が増加しているにもかかわらず、減少しているのです。これは、節水機器の開発・普及や雨水利用、水のリサイクル、水道局の漏水対策などの効果によるものです。多くの人の知恵や努力によって減ってきた１人あたりの水の使用量は、今後も減ることはあっても増えることは考えられません。これからの水需要を考えると、東京ではしばらく人口増加が予想されるので、仮に給水人口がピークで 1300 万人になったとしても、2005年の１人あたり１日最大給水量（406ℓ）を前提にすれば、１日最大給水量は、「406ℓ×1300万人」で、528万㎥、猛暑であった2004年度の１人１日最大給水量420ℓを使ったとしても、420ℓ×1300万人で546万㎥となります。これが需要の上限であると考えます。その後人口が減少に転じるからです。東京都の予測600万㎥とは、実に50万㎥以上の差があります。

２．東京都の保有水源量を少なく見ていること

東京都は、保有する水源量は日量623万㎥(未完成のため暫定水利権である霞ヶ浦導水も含めて)であり、うち取水の安定性に問題がある「課題を抱える水源」が日量82万㎥含まれると言っています。しかし、わたしたちの調査では、東京都の保有水源量は日量 701 万㎥(霞ヶ浦導水を除いて)になります。わたしたちは、次の３つの観点から、東京都の主張はおかしいと考えています。

① 原水の水利権量と給水量換算した数字の差が大きい。

東京都は、浄水場で蒸発するなどのロスを過大に見積もり、平均６～７％の消失があるとして給水(可能)量を計算しています。浄水場でのロス率は、過去の実績に基づけば１％程度であり、安全側に厳しく見ても２％ですから、ロスを想定した修正率は98％となります。実態に合わない計算方法をとっているため、それだけで日量31万㎥の違いが出てきます。

② 多摩地域の地下水が保有水源に入っていない。

大切な水源である多摩地域の地下水が保有水源に含まれていません。現在、未統合市も含めると、揚水量は1日平均約37万㎥、多摩地域全体で水道水源の約3割を地下水が占めています。ところが、東京都は、水源である地下水を認可水源でなく予備水源として扱い、国の指導によって認可水源となった2004年3月以降も、依然として保有水源量に入れていません。地盤沈下は沈静化しており、現在汲み上げている量は安定的に使用できるのです。

③ 「課題を抱える水源」が日量82万㎥とあるが、課題の内容は手続き上の問題である。

「中川・江戸川緊急導水」など課題があるとしている水源について調べてみると、都がいう課題というのは、水資源の枯渇とか、取水を困難にする客観的な事情が存在するというものではなく、手続きの問題であったり認可権の問題であったりするだけです。これは、単なる行政手続き上の障害であり、事実としては、安定的に使える水源です。

3．東京都の渇水対策は進んでいる

1964年のいわゆるオリンピック渇水時には、断水し給水車が出動するなどの事態となりました。そして、渇水というと、このときの状況がことさら例に挙げられます。しかし、東京都は、その後多くの水源開発に参画し、水源確保に努めてきました。1990年代には、保有水源が増え、水の使用量が減りはじめたことで、1日最大給水量を保有水源量が上回り、今では1日最大給水量508万㎥(2005年)に対して水源量701万㎥と、1.4倍もの水源があるのです。このため、渇水時も含めて、もう何十年も断水には至っていません。取水制限・給水制限が実施され、一部で減圧給水が実施されたこともありますが、近年最も渇水が厳しかったとされる1994年の渇水時も含め、生活への実際の影響はほとんど出ていません。実績として、この年も含めてここ20年以上問題なく推移しているのです。これは、どう少なく見積もっても、10年に1回、20年に1回程度の渇水に対応することが十分可能であることを示しています。

「利水安全度」という言葉が使われて、「もしも水が足りなくなったらどうするんだ」「水源は多いに越したことはない」と言われます。下流の東京ではどんな気象状況でも水をジャブジャブ使い、そのために川の上流で山を切り開き、巨大なコンクリートの塊を次々と造ってきました。けれども、そんな時代はもう終わりました。

わたしたちは、どんな東京に暮らしたいのでしょうか。魅力的なまちの姿を考えると、節水型のエコロジカルなまちがこれからのトレンドになるはずです。そうでなければ、財政面から見ても環境面から見ても、破滅への道をまっしぐらに進むしかありません。

これまで述べてきたとおり、データにもとづく検証から、東京にとって八ッ場ダムの不要性は明らかです。さらに、「利水安全度」という強迫観念から脱するのは、検証の根底に脈打っている意志です。それは、ダムがもたらすさまざまな弊害に対する怒りや悲しみから発しているのかもしれません。わたしたちは、現地の山や川、森、そこに暮らす人たちに思いを馳せながら、自分たちの暮らしを見つめなおし、八ッ場ダム計画の中止を訴えています。「ダムはもういらない」。

小平・生活者ネットワーク　http://www5c.biglobe.ne.jp/~kodaira/

……川は･誰の･もの‥(1)……

利根川水系に今求められる住民の知恵

利根川のことが問題になっているらしい。

さる1月23日、利根川水系について、国土交通省は「社会資本整備審議会河川分科会」という長ったらしい名前の会議を開いた。「そんなの、知ってるヨ」という方は、このページをすっ飛ばして下さい。

国交省の河川政策に通じた人々から、「大変大変！」という声がしきりに聞こえてくるようになったのは昨秋のこと。実は、「社会…河川分科会」の前に、「社会資本整備審議会河川分科会河川整備基本方針検討小委員会」という、さらに長い名称の会議が10月以来、5回も開かれていた（10/3, 10/12, 11/9, 12/6, 12/19)。この「社会…小委員会」で、利根川水系の方向性が検討され、これでいいでしょう、という案が1月23日の会議で了承され、2月には本決まりになるという。

これらの会議は傍聴可能が原則だけれど、国交省が日程を公表するのは、いつも会議の2～3日前。あまり知られたくない会議だったらしい。

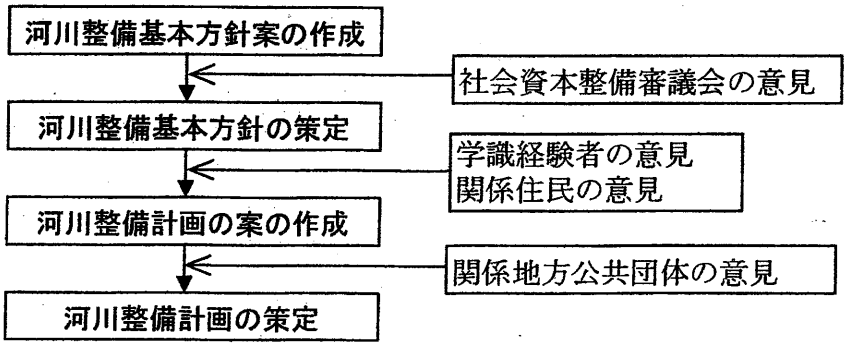
〈新しい河川法というけれど・・・〉

無理して会議を開いている理由は、1997年の河川法の改定にある。1990年代、国は長良川河口堰運動をきっかけに、河川政策の転換に踏み切った。新河川法の目玉は「環境への配慮」と「住民との対話」。

環境意識の高まりの中、「環境への配慮」が登場したのは自然の流れだった。ところが「環境」の名の下、環境に何のプラスにもならない事業も次々と生み出されているのが現状で、全体としてみれば日本の河川の危機に大きな変化はない。

もう一つの「住民との対話」はどうだろう？　河川によっては淀川流域委員会のように、中立の立場の有識者、流域住民の意見を聴く場を設けるケースもある。ところが利根川には流域委員会も、それに類する機関もない。なぜ関西でできたことが、関東の利根川でできないのかといえば、それはハッ場ダム計画があるからだという。

河川整備計画　　策定の流れ



衆議院調査局国土交通調査室

〈利根川迷走計画?!〉

新河川法では、最初に河川整備基本方針（抽象論）を策定→河川整備計画で具体的な事業を組み込む、という手順を踏むことになった。昨秋以来の利根川の会議は、この前半の基本方針を審議する会議だった。

全国には「国土保全上または国民経済上、特に重要な水系」（河川法）として、109 の一級河川がある。05 年 12 月時点で基本方針が策定された河川が 35 水系、整備計画までできたのは 16 水系。旧河川法改定から 8 年たつというのに、それ以外の水系では、これまでの「工事実施基本計画」がそのまま使われてきた。ところが国交省は昨年、突如、「07 年度までに基本的に全ての水系の基本方針を策定する」と宣言。急ピッチで作業を進めはじめた。

新たに水系ごとの「基本方針」を作るのだから、新河川法の理念が反映されてもよさそうなものだが、利根川の場合、「審議らしい審議は行われず、事務局案をほとんどそのまま承認した。この基本方針に沿った治水計画を実施するとなると、利根川水系に新たに 17 基のダムが必要」（水源開発問題全国連絡会）という基本方針が通ってしまった。

〈川と共に生きる知恵〉

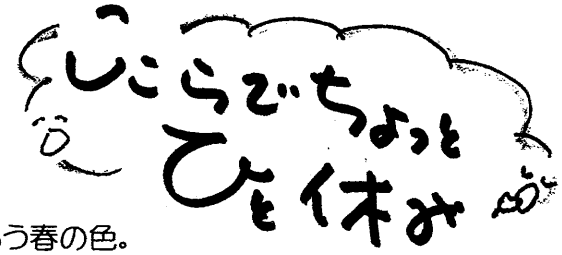
ダムに象徴される近代河川工法は、明治 29（1896）年の河川法制定に始まる。この河川法によって、江戸時代、各地方、河川ごとに培われた治水の技術が見捨てられ、全国の河川管理を内務省が行うことになった。

第二次大戦が終わり、内務省が解体され、業務が建設省に引き継がれた後も、明治の河川法は生き続けた。現在の河川法（旧河川法）に切り替わったのは昭和 39（1964）年のことだ。河川法制定と同時に、土地収用法の改定も行われた。新たな法整備のきっかけは、ダム闘争史上に残る“蜂の巣城の闘い”（熊本県）にあった。大山林地主、室原知幸氏が 13 年間、知力、財力をふりしぼって 70 回に及ぶ法廷闘争を繰り広げたことが、国の大きな教訓となったのだ。ハッ場でダム闘争が開始されたのは翌 1965 年。首都圏繁栄のため、という“大義名分”は、直前に制定された法律の裏づけによって水没予定地住民の人権を蹂躙し続けることになった。

1997 年の河川法改定は、ダム反対運動の途上にあった多くの市民に希望を与えたが、河川法の骨格は昭和 39 年当初と変わってはいなかった。基本方針の審議をする委員会では、委員長は国交省ＯＢ、学識経験者の委員は国交大臣の任命、事務局案は国交省の作成になる。関係各都県知事代理も参加して、間接的に流域住民の意見を反映するという体裁をとってはいるが、どの知事も「ハッ場ダム推進」を公約に掲げて選ばれたわけではない。国交省の意向を通すためのセレモニーといわれても仕方のない仕組みだ。

基本方針の次には、具体的なダム名も含まれる整備計画の策定作業が国交省関東地方整備局で始まる。この段階で河川管理者（国交大臣）は、「必要があると認めるときは、公聴会の開催等関係住民の意見を反映させるために必要な措置を講じる。」（河川法第 16 条の２）とされている。川と人との関係を再生させるためには、この条文が生かされるよう、住民の側からの働きかけが不可欠だろう。水源連共同代表の嶋津暉之さんは、「流域住民の大同団結を呼びかけていきたい」と語っている。川が瀕死の状態にあろうと、ダム予定地住民が悲惨な境遇にあろうと“お上まかせ”ですませる時代は、もう卒業したい。（清沢）

蕗やきもち（春のじぇらしい　とも）



猛烈に寒かった冬の出口のいま、広がる空はもう春の色。
八ッ場ダム予定地と豪雪の水上町とは直線距離で約 50 ㎞、
そのちょうど真ん中あたりの山里に我が実家はあるのです。
節分の頃、春の気配を嗅ぎ分けて凍てつく土の中から頭をのぞかせ始めた固い蕾の蕗のとうをほじり出し、まず作るのが早春の味・蕗やきもち。
地粉に刻んだ蕗のとう・味噌・（砂糖）を加えて、焙烙（ホウロク）で焼くというのが、群馬県吾妻地方の昔ながらの作り方のよう。

東京大空襲で焼け出され嫁いできた母は、「こんな寒さも大雪もここに来てから初めて！地球温暖化のせいで寒いなんて、これからどうなっちゃうんだろねぇ、」とこぼしながら、80 歳を越えた今年もほろ苦い早春の味を焼き始めています。
“春のほろ苦さ”を楽しむ、母のお気に入りレシピをご紹介します。

材料と作り方：　小麦粉（中力粉）2カップに、蕗のとう（2～3個）・長葱5cm・みかんの皮2cm　・桜海老少々をそれぞれ刻んで加え、卵 1/2、胡麻、味噌、砂糖、重曹少々も加えてザット混ぜ、スプーンからポットと落ちるくらいの硬さになるまで水を加えて混ぜて、たねを作る。　油を薄く敷いて温めたフライパンに、適当な大きさにたねを落とし、弱火で1cmくらいの厚さに両面をこんがり焼く。

春の野菜や山野草には、苦いものが多いですね。　これは、たいせつな新芽や蕾を虫や鳥から守る植物の知恵ともいわれます。　この春の苦味は、実は私たち人間にとっても（きっと他の生き物にとっても）とてもありがたいもので、冬の寒さで固まった体をほぐして暖かい季節向きに活動しやすく変えてくれるというのです。

母の 200 坪ほどの蕗畑は、早春の蕗のとうに始まり、春は三つ葉、晩春から初夏には一面のふき（蕗の茎）、そして夏には全てがみょうがに埋め尽くされます。
50 年近くも前に植えられた蕗と茗荷に、野草の三つ葉が仲間入りして宿根の根をからめ合い、何ともありがたい共生の畑を作り上げているのです。

しかしここ数年、母の手が回らず、よもぎ、ぎしぎし、やぶがらし、りゅうのひげ等の侵入が深刻問題。
“求むアンパンマン”の事態は、ここでもまさに進行中。
今年は私もアンパンマンに応募して、半農半商の生活をスタートしましょう。　　（ｂｙ　れい・きらく）

ここらでちょっとひと休み

で、できちゃった！

本マグロ中トロ軍艦巻き５０個 !!

立春も近い土曜の夕方、日帰り温泉の帰り道に、上越線と利根川を跨ぐ新しい大きな橋を渡った。背中には、朱を抱いた黄金色の残光の空に榛名・浅間・妙義の西上州の山々が黒々と浮かび上がり、目の前には、灯り始めた前橋市街の夜景が鮮やかに広がっている。

「こんなに気軽に温泉つかって、こんな景色の中をドライヴする。 縄文の、江戸の、つい50年前の人たちにだって、想像もできない王侯貴族の生活よねぇ」

「その王侯貴族が、今飢えて死にそうな人たちまで・・・、地球上のいのちすべてをタイタニック号の道連れにしようとしているんだものなぁ・・・」

こんな話をしながら、新潟の寺泊直送という魚専門店に、久しぶりに立ち寄ってみた。きょろきょろ見回す目の端っこにふと、“地中海産本マグロ中トロ　1240 円”と書かれたなんとも美味しそうな小さな一舟が引っかかった。

こりゃ分不相応と、さらにきょろきょろ。と、あら！あるではないか“地中海産本マグロ 350 円”の超大盛のあらが、通路のお買い得棚に。

台所で先の薄いスプーンを握って奮闘すること20分。本マグロの厚い皮の内側には白い脂ののった身が、筋の間にはぷりぷりした赤身がたっぷり詰まっていた！出来上った50個の大振り軍艦巻きに、遥か地中海を泳ぐ大きなマグロの姿をふと思い浮かべながら、居合わせた20代の息子2人と一緒に、4人でありがたく堪能させていただきました。

ふっくら美味しい酢飯の作り方

米1合(炊飯器付のカップ1)あたり、酢大さじ2・砂糖大さじ1・塩小さじ 1/2 強の合わせ酢を用意。

分量の合わせ酢を煮立て、炊飯器の炊き上がり直後の飯にサッと掛け回し、直ぐに炊飯器のふたをして 20～30 秒待つ　―これがポイント。

炊飯器から出し、扇ぎながらしゃもじをきるように使って冷ます。

冷飯で作る場合は、温めた合わせ酢を冷飯と混ぜ合わせ、電子レンジでOK。

炊飯の水加減は少なめに

【訴訟スケジュール】（裁判情報は各地のストップさせる会にお問い合わせ下さい）

群馬	２月１０日（金）	午後１時３０分	前橋地裁
東京	２月１６日（木）	午後１時	東京地裁（弁論準備期日）
千葉	２月１７日（金）	午前１０時２０分	千葉地裁
茨城	２月２８日（火）	午前１１時３０分	水戸地裁
栃木	３月９日（木）	午前１０時	宇都宮地裁
埼玉	４月１９日（水）	午前１１時	さいたま地裁

高木仁三郎著『鳥たちの舞うとき』執筆をめぐって

高木久仁子

２０００年１０月８日癌で亡くなった高木仁三郎は、その年の初夏『鳥たちの舞うとき』にとりかかっていました。　８月２１日に冒頭部の手書き原稿と吹込み済み録音テープ１１本を工作舎の編集長、十川さんに送り出版できるか打診しています。　９月１８日、ホスピスに入る前に加筆原稿を出版社へ送り、９月２７日には早速ワープロ入力されたゲラが病院に届きました。　もう少し手を入れてほしいと依頼されましたが病状悪化のためゲラは１０月３日にそのまま返送することになりました。

そして死後出版された『鳥たちの舞うとき』（高木仁三郎著、工作舎２０００年１１月刊）が彼の最後の作品となったのです。

なぜ『鳥たちの舞うとき』を書きたかったのか？

『いま自然をどうみるか』（高木仁三郎著、白水社、増補新版１９９８年刊）で、彼は次のような考えを述べていますが、これを小説で表現してみたい、それが『鳥たちの舞うとき』の動機のようです。

『…そもそも「環境問題」という考え方に問題があることを、私はすでに別のところで触れたし、本書でも言葉を選んでほとんど使ってこなかったつもりである。
環境という言葉に関して言えば、これは人間中心主義の言葉である、と私には思える。
人がいてその周りに人が生きるために必要なその周囲＝まわりがあるというのが、西洋の環境という捉え方である。
そこでいわれる環境問題というのは、人間が生きていくためのまわりの自然条件がいま破壊され、生きていきにくくなった、そこに問題が生じた、という発想である。
　そういう人間主義の発想こそ転換されねばならない。自然の大きな全体があって、それを構成するあらゆるものが共生することでその全体が成り立つ、人間はその一構成員にすぎない。
それでも、私たちの呼吸する空気、飲む水があやしくなった、という身の回りのことをきっかけとして、自然環境への考えが始まる―そのこと自体はもちろん責められるべきことではない。
そして「環境」問題がスタートしたのは、実際に私たちの住む地域の公害や環境破壊からだったから、そこから問題意識がスタートしたのはごく自然なことだったといえる。
　しかし、いまや問題の次元は明らかに違ってきた。
グローバル＝地球大になったのである。
その自然の破壊の問題を考えているときに、もはや人間中心的な考え方ではダメだ。
そういう意味から言うと地球環境という言葉は言語矛盾ではないだろうか。

しかも、その原因をつくり出しているのは、地上における人間の営みである。
強いて言うならば、これは地球環境問題ではなく、地球人間問題といえるかもしれない。
すなわち、地球に対して人間が問題を起しているのであり、問題は人間のほうにあるのである。こう考えれば、地球環境問題という言葉への違和感がはっきりしてくる。』

と述べ、自然と人間との関わりの根源的転換を提起する。

『自然をどうみるか、それは結局みられるべき自然の側の問題ではなく、私たちの側の問題である。そしてそうであるならば、問題はつまるところ私たちがどう生きどう運動するかということになってくる。
･･･３つの共生、
第１は、地上におけるすべての生命の共生ーエコロジー的共生、
第２は、同時代的な、異なる地域、社会、文化、エスニシティー＊（民族性）の間の共生、いわば人々の共生である、
第３が、過去や将来の世代との通時代的共生、主要には将来世代との共生ということである。』

そして、

『とくに触れておくべき点は、第３の将来世代とどう共生するかということだろう。
･･･自然と人間の問題で見た場合、その不公平さとして主要に三つの問題がある。
すなわち、
（１）有限の天然資源（とくに石油などの地下のエネルギー資源）の一方的消費に伴う資源枯渇の問題、
（２）現世代の排出する有害廃棄物をそのまま次世代に押し付けることの問題、
（３）修復不可能な環境破壊を遺してしまうことの問題。
それこそが私たちの世代責任というべきだろう。
そして、そのためには、目先の問題にうろたえて対処するよりもある程度長い射程で
･･･人間の行為が人間自身の未来を奪いつつあることが明らかになってきたのである。
そうであるならば、未来を取り戻さなければならない。未来の世代と地球の姿を予測し、そこから現在の私たちの生き方を逆照射するやり方が有効なのではないだろうか。
…そうすることであらためて、望ましい未来に向けて私たちの未来を構想することも可能であろう。』

「自分の命の期限が大体数ヶ月ということが見えてきた」段階で、「猛然とその短い間にあと少なくとも５年分くらいの仕事はしてしまいたいという意欲がわいてきた、どうしてもひとつ前からあたためていた小説を残してみたいと思うようになりました。」とテープにはありました。

人と自然の共生というとき、自然とは人を思想も含め育んできた自然に違いありません。
仁三郎にとって『鳥たちの舞うとき』の舞台がＧ県なのは必然といえます。
仁三郎の愛した前橋の地で偲ぶ会を開いて下さった樽谷先生をはじめ皆様ありがとうございました。

（2005.10.30　高木仁三郎を偲ぶ会での
スピーチ「高木仁三郎さんと八ッ場ダム」より）

「吾妻渓谷はだれのものか
―作家が語る景観」

ハッ場ダムによって谷が破壊されることは何を意味するのでしょうか？川村晃生さん（慶応大学文学部教授）による講演（〇五年十一月二十三日、前橋市）の要約をお伝えします。

若山牧水と吾妻渓谷との出会い

吾妻渓谷を文学者として初めて発見したのは、若山牧水であろうと思います。

牧水は一九一八年（大正七年）、初めて吾妻渓谷を訪れました。親友、佐藤緑葉が吾妻出身であったことから、“吾妻”という地名に親しみを抱いてはいたものの、渓谷を見たいと旅立ったとき、牧水の最初の関心は、利根川上流に注がれていました。ところが、その帰途、信州・松本の歌会に向かう途上、馬車に乗って吾妻川を上流に遡った彼は、予想だにしなかった吾妻渓谷の彫りの深さ、美しさに心を打たれます。牧水のエッセー「静かなる旅をゆきつつ」には、こう綴られています。

「…端なく通り懸かつたこの吾妻の渓はまつたく渓らしい渓である。利根の水上より遥かに渓らしい幽邃と閑寂とを備へて居る。五町、十町、十五町と見てゆく間に私は殆んど酔つた者のようになつてしまつた。何時からとなく永い間心に宿つてゐた渓といふもの、幻影を端なくいま眼の前に見据ゑた様な、寧ろ不思議に近い感動をすら覚えてゐたのである。」

渓谷を過ぎ、川原畑の宿場で馬車を乗り換えるはずが、たまたま馬車が来ていなかった―このことが、私たちにとって幸いなことに、牧水が吾妻渓谷に深い関わりをもつチャンスとなりました。渓谷を自分の足で歩いてみたいという欲望がムラムラと起こってきた彼は、宿場の向かいの川原湯に宿をとり、大急ぎで渓谷の再確認ともいえる散策に出かけます。

“関東耶馬渓”と讃えられているものの、九州・大分の耶馬渓とは異なる景観、両岸の岩の面白さ、老木の多さ、渓に降りかかる落葉の美しさ、鳥の声―

「…何という事なく心の疲労を―心ばかりではない謂はば生命全體の疲労をしみじみと感じて居る昨今では私は寧ろこのどちらかといへば形の小さな深くて静かな吾妻の渓により多く心惹かるゝのを感じた。」

そして、わずか数時間の間に二十二首の歌が生まれます。文学の完成度としては疑問符がつくかもしれませんが、これは異様な創作量といってよいでしょう。初めて接した渓谷への感動が、自然に歌となってほとばしり出たと考えられます。酒好きの彼は、古びた吊り橋を見つけ、ここで杯を傾けます。

「…異様に緊張した今日の私の心にはどうも途中で飲むだけの餘裕が出てこなかつた。そして此處から引き返さうとして偶然この珍しい飲場を見出したのであつた。…（中略）不思議な飲酒場での冷酒は常にもましてしみじみと腸に浸み渡つた。」

新緑の吾妻渓谷

二度目に牧水が吾妻へ出かけるのは、翌々年の大正九年。五月十一日に東京を出発しています。二年前の旅では、十一月十二日に東京を発っていますから、ちようど半年の季節のずれをわざと作っているわけです。

最初の旅は落葉の季節でした。折しも彼は一冊の歌集を編集する時期を迎えており、歌稿を携えての川原湯滞在でした。薄緑の中にツツジや山藤の咲く春の吾妻渓谷は、牧水の期待を裏切りませんでした。渓谷に日課のように足を運んだ牧水には、新しい発見が様々起こってきます。秋には川の水が少し枯れていましたが、今回は静かな流れと急流が織り交ざり、滝水の流れの音も聞こえてきます。

「この渓を挟む両岸に樹木の多い事はこの前此処を通つた時の紀行にも私は書いておいたが今度聞けばすべて官有林であるのださうだ。私はどうかこの渓間の林がいつまでもいつまでもこの寂びと深みとを湛へて永久に茂つてゐて呉れることを心から祈るものである。ほんとに土地の有志家といはず群馬懸の當局者といはず、どうか私と同じ心でこのさう廣大でもない森林のために永久の愛護者となつてほしいものである。若しこの渓を挟んだ森林が無くなるやうなことでもあれば、諸君が自慢して居るこの渓谷は水が涸れたより悲惨なものになるに決まつてゐるのだ。…（中略）…これらあるかなきかの夢のやうな滝に向つてゐると心の底に沈んでゐた人間の寂しさやものなつかしさがあからさまに身體を浸して来るのを覚えがちである。」

牧水は、森林が川に影響を与えている、森林を守ることが大切だと言っています。

沼津の千本松原

さて、吾妻へ旅をしていた同じ時期、大正九年、牧水は静岡県沼津に移住します。富士川河口から狩野川河口まで二十キロに及ぶ千本松原の向こうに富士が望める景観—この松原の広大さ、美しさに惚れ込んで、牧水は沼津永住を決意しました。

沼津千本松原は戦国時代の戦乱で破壊された場所です。当時、農民が塩害、風の害を蒙って苦しんでいるのを見かねて、増誉という旅のお坊さんが松原の復活を一人でやったという伝説があります。砂地で岩が多いという悪条件の中、なかなか松が根付かないため、増誉は一本松を植えるごとに阿弥陀経を唱えたといわれます。

牧水は全国の松原を訪れている人ですが、この沼津の千本松原は、どの松原よりも優れているといい、東西から訪れる多くの客にも自慢し、「日本としての自慢に値するもの」と記しています。ところが移住して五～六年後、千本松原が県当局によって伐られるという「沼津千本松原伐採問題」が起こります。これに対して住民が反対運動を起こすのですが、牧水は沼津日日新聞に投稿して、伐採に対する反対意思を示します。

「然るにわたしは近来このわが一生の好伴侶である松原の中に、驚くべき悲しむべき一現象を發見した。そはわが親愛なる松の木の幹の皮を剥ぎ「一三五」とか「一五八」とかいふ番号の書きつけられてあることであった。」

松を伐ってお金にはなるかもしれないけれど、それは一瞬のことだろう、と牧水はいいます。この松原を再現するためには、その何十倍、何百倍ものお金と気の遠くなるような歳月がかかるだろう、とりかえしがつかないじゃないか、とい

うのです。

「噫、悲しむべき風説よ、どうかただの風説として速やかに通り過ぎて呉れ。痛ましい計畫よ、どうか夢みられた計畫としてきよらかに流れ去つて呉れ。わたしは此處に誰にとはなく、何處にとはなく、たゞ親愛なる沼津千本松原のために合掌してその無事を祈るのみである。」

この文は「吾妻の官有林を残してくれ」という先の文章と重なります。牧水という男は、自分が発見した景観美を何とかして後世の人々に伝え残したいと思い、文筆活動の中で積極的にその意思を開陳した人でした。

井上靖の感性を育てた松原

さて、今、日本の海岸線の松原はどうなっているでしょうか？　私は「文学と景観」というテーマを考え始めてから、「日本文学に、なぜ松原が多く出てくるのか」という疑問を抱き、夏休みになるとリュックサックを背負って、全国の松原を見て歩くようになりました。五～六年前、沼津の千本松原にも行きました。その時の松原の印象は、牧水の松原とはかなり異なったものでした。

牧水が描いた風景がいつまで続いたか、ということを示す例として、ここで井上靖の文章を取り上げたいと思います。井上さんには「しろばんば」という少年小説の傑作がありますが、それに続いて「夏草冬濤」（なつくさふゆなみ）、「北の海」という自伝的小説があります。井上さんが最も多感な中学生時代を過ごした沼津の町での生活を描いたのが、「夏草冬濤」です。この作品に千本松原が出てきます。

「三人は千本浜へ出る道を歩いていった。最初の松の木が見え出す頃から、道には砂が多くなり、靴の中に砂が入った。」

「旅館の前を通り過ぎると、道はなくなり、広い砂浜が拡っていて、右手の方は〝千本浜〟というだけあって、どこまでも松の林が続いている。」

「松林を抜けると、広い砂浜がゆるやかな傾斜で波打際まで拡っている。波打際の近くは拳大の石で埋まっているが、あとは全部砂浜である。

洪作たちは砂浜を横切って、石のごろごろしている地帯まで行くと、そこに腰を降ろした。波が打ち寄せては砕ける度に、潮の飛沫が飛んで来る。」

これが書かれたのは昭和三十九年という時代です。ちょうど日本で高度経済成長が熟していく時期。実はこの頃から、日本の海岸の砂が減っていく、いわゆる貧弱期に入ってゆきます。ご存知のように、ダムの堆砂問題と深い関わりがある現象です。

井上さんが中学生の頃、沼津の海浜は牧水の親しんだ松原と変わりませんでした。作品の中では、三人の中学生の実に他愛のない会話が繰り返されるのですが、その会話の場所が、豊かな松原、砂浜、海という三つの景物で構成されていることに注目しなければなりません。

現在の千本松原はどうかといいますと、松林自体はず～っと続いて、いちおう千本松原の名残はあります。けれども、松原から波打際までゆるやかな砂浜の傾斜だった場所には、国土交通省が築いた防潮堤があります。防潮堤の上を車が走り、松林と海岸は完全に断絶しています。日本の海岸線は今、ほとんどこの形です。

千本松原の中にあるる井上靖の文学碑には、こんなことが書いてありました。

「千個の海のかけらが、千本の松の間に挟まっていた。少年の日、私は毎日、それらを一つずつ食べて育った。」

人間の最も大事な成長期に、精神の栄養剤として自分はこの風景を取り込んだ、と井上さんは言っています。「しろばんば」から始まる一連の自伝的小説には、自然の風景が頻繁に出てきます。井上さんの小説を読むと、これら自然の風景に囲まれて育ったからこそ、彼の優れた感性が育ったということがよくわかります。

景観破壊がもたらすものは・・・

井上靖という作家に象徴されるこの事実は、実は人間全体についても当てはまるのではないでしょうか？　自然の風景が失われることで、荒んだ人間の感性が子ども達や成長期の人々の心の中に出来上がっていくことを私は危惧します。

福井県の加斗の松原は、沼津の松原よりさらに無残です。昭和初期、子ども達が砂浜で遊んでいた原風景的な写真が残っていますが、今は全く原型を留めていません。砂浜にはコンクリートブロックが沢山並んでいます。そうしないと、少なくなった砂までも洗い流されてしまうからです。一体こういう風景を見ながら、健全な子どもが育つでしょうか？　風景を壊していくことが、日本人にどんな影響を与えてきたのか、検証しなければならない時期にきています。そのために、文学者が残してきた作品群を謙虚に読み直してみることが必要だろうと思います。

皆さんが抱えている、そして私もすでに抱え始めたダム問題の地、川辺川ダムの予定地にも行ってみました。五木村の小学校、壊されてゆく民家、ダムと引き換えに出来た道路、ずり上がり方式の新しい町・・・。どこもかしこも、同じことをやっています。東京の郊外住宅地のように一律的にできあがっていく町は、なんとも不自然です。人の住まいは人それぞれの感性、生活に従って作られていくもので、同じ区画に区切って作る町はおそらく町として成立しないでしょう。

でも、ダムの“ずり上がり方式”だと、どこでもこういうことになってしまうようです。

景観は誰のものか

吾妻渓谷の景観は誰のものでしょうか？　地元住民だけのものではない。現代の私達だけのものでもありません。まして国のものでないのは、言うまでもありません。

若山牧水が見出した吾妻渓谷、あるいは平家物語の時代から受け継がれてきた千本松原―これら先祖達が形作ってきた歴史的な景観は、日本に住んでいる人間全体が共有しているものです。しかも、受け継がせるべき未来世代のものでもあります。私たち今生きている者たちには、過去に生きた人々、未来に生きる人々と共有すべき財産として、景観を守ってゆく責務があります。そう考えてゆくことによって、なぜこういう景観が残されてきたのか？　過去の人々が、これらの景観を守るために様々な努力、苦労、不便を厭わず、自らの生活を律していた、その生活の仕方を忘れ去ってしまったことを顧みなければなりません。

明治以降、とりわけ高度経済成長期以後、私たちは金と科学の力で景観を破壊してきました。私は日本の古典文学の研究者でしたが、ある時期、和歌研究の中にある伝統的な歌枕の世界が、その原型を留めていないことに気づきました。これまで先祖が築いてきた価値をないがしろにする時代ー八ッ場ダムによって破壊されようとしている吾妻渓谷の景観を前にして、文学者の景観に対するまなざしを評価する能力、受け止める力を共有し、人間はどう生きたらよいのか、ということをもう一度考え直すことが大切だと思います。　＊「静かなる旅をゆきつつ」は、若山牧水全集第八巻（増進会出版社）に

新年度スタート　八ッ場ダムを考える会

昨年１１月２３日、第七回総会が終了し、新年度がスタートしました。
長い歴史のある八ッ場ダム問題の解決に向けて、多くの流域住民の知恵とエネルギーを結集させるためには、皆様のご支援に支えられた地道な活動が欠かせません。
どうか、今年度も宜しくお願い申し上げます。
会費、カンパをお送り下さる場合は、同封の郵便振替用紙をご利用下さい。

【新年度運営体制】
＊代表：樽谷 修
＊副代表：西薗 大実
＊顧問：嶋津暉之、大熊 孝、矢部俊介、
高木久仁子、山口幸夫、川村晃生
＊特別顧問：加藤登紀子
＊幹事：代表、副代表、事務局メンバー、
宇津野洋一、伊藤祐司、福田寿男、
阿部ともよ、神原禮二、深澤洋子
田中清子、藤永知子、入江晶子、
大河原雅子（東京支部長）
＊事務局：渡辺洋子（事務局長）
真下淑恵、西岡令子、奈賀 由香子、
松原富貴子、角倉邦良、岡田 良

【前年度の会計報告】
＊収入　1.965.805 円
（会費・カンパ 589,900 円、
アウトドア自然保護基金より助成金500,000 円、
岩波書店より印税 240,000 円、
書籍売上 320,500 円、
繰越金 251,215 円等）
＊支出　1,000,827 円
（書籍購入 330,729 円、
ホームページ運営費 146,750 円、
交通費 121,650 円、
送料 121,504 円、
他団体へ賛同金 75,000 円、
印刷費 42,598 円等）
＊ 繰越金　964,978 円

【各地の連絡先】

★八ッ場ダムを考える会
[redacted]
★首都圏のダム問題を考える市民と議員の会
[redacted]
★八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会
[redacted]
★八ッ場ダムをストップさせる東京の会
★八ッ場ダムをストップさせる千葉の会
★八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会
★八ッ場ダムをストップさせる群馬の会
★八ッ場ダムをストップさせる茨城の会
★ムダなダムをストップさせる栃木の会
[redacted]
★八ッ場ダムを考える千葉の会 [redacted]
★八ッ場ダムを考える市民の会おおた [redacted]

【訴訟スケジュール】
は、10ページに
あります。よろしく!!

事務局ニュース

★ハッ場ダムを考える春日部市民の集い

■日時：2006年3月4日（土）
午後2時～4時

■場所：春日部市民会館（ロビンソン隣）
３Ｆ中会議室

■講師：嶋津暉之、藤永知子

お問い合わせ先：
[redacted]

★ ミニ学習会「 まさのあつこさんと ハッ場ダム問題を考える 」

◇ 日時：５月１４日（日）
午後３時～５時

◇ 場所：高崎市労災会館会議室
（高崎駅東口より徒歩１０分）
[redacted]

★ アースデイ2006年 in 東京

1970年、アメリカで始まった“アースデイ”は、世界最大規模の環境フェスティバル。わが国でも1990年以来、毎年、地球に感謝し、美しい地球を守る意識を共有する日として、各地でイベントが催されてきた。

4月22~23日のアースデイ in 東京は代々木公園で行われます。　ハッ場ダムのブースも出展する予定です。

★ 恒例の現地イベント “新緑の吾妻渓谷を歩こう”

◇ 日程：５月６（土）～７日（日）
イベントの詳細は、電話でお問い合わせ下さい [redacted]。

イベント紹介

★「いのちの共生を歌にのせて― おトキさんとハッ場ダムを考える」（仮タイトル）

◇日時：２００６年１０月９日（祝・体育の日）
◇場所：日本青年館大ホール（東京・神宮外苑横）
◇主催：イベント実行委員会

昨夏、ダム予定地を訪れたご縁で、歌手の加藤登紀子さんが八ッ場ダムを考える会の特別顧問に就任されました。東京でのイベントの話が持ち上がったのは11月のことです。

現在、下流都県では、八ッ場ダムＮｏ！の声が上がり、各地で住民訴訟が始まっていますが、大半の首都圏の人々にとって、“やんば”はまだまだなじみのうすい言葉です。

水没予定地をはじめとする地方と都市の共生、未来世代との共生を実現するためには、東京をはじめとする首都圏のより多くの人々が“やんば”が教えてくれる様々な問題を知ることが必要な第一歩です。トキコさんに協力をお願いしたところ、永六輔さんらにも呼びかけてイベントをやりましょう、ということになりました。

昨年末、実行委員会を立ち上げ、トキコプランニングと話し合いを重ねているところです。未経験のビッグイベントですが、多くの皆様のお知恵とエネルギーを結集させてイベントを成功させたいと準備をしています。チケット予約、個人・団体・企業カンパを受け付けています。どうか宜しくお願いします！ [redacted]

「そこには風が吹いていた」

作詞・作曲 加藤登紀子

そこには風が吹いていた たえまなく音をたてて
遠い昔の物語が 語りかけてくるこの街に

古い上着を脱ぎ捨てるように 急ぎ足で歩いてきた
大切な過去たちを どこかに置き去りにしたままで

獲物を追いかける 狼のように
走り続けてる時だけ 生きてると感じた

どうして泣けてくるんだろう まだ旅の途中なのに
探し続けた星たちが 砂粒のようにみえてくるよ

思い出を禁じられた 孤独な亡骸のように
美しいこの街を 今一人で歩いているよ

忘れられた石畳に 咲きこぼれた花びらが
きらめきを惜しむように 嵐の中で踊っているよ

君はまだ僕を忘れていないか
ぼくはまだ生きているよ 君のかがやきの中で

どうして泣けてくるんだろう たどりついたこの街で
求めたはずの未来たちが 遠い過去のように見えるよ
求めたはずの未来たちが 遠い過去のように見えるよ

歌手生活40周年を迎えた加藤登紀子さんが、デビューと同じ年に本格的に始まった八ッ場ダム計画の地を訪れたのは、昨年のお盆過ぎのこと。11月の群馬県渋川市でのコンサートでは、八ッ場の人々への思いを込めて、「そこには風が吹いていた」を歌いました。

編集：八ッ場ダムを考える会

【URL】http:/www.yamba-net.org 【E-mail】info@yamba-net.org

吾妻渓谷

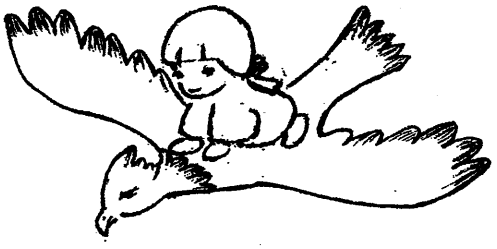
ハッ場ダム

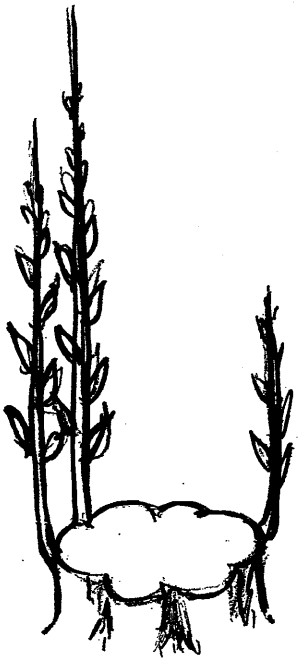
2006. 5　NO. 15

渓谷はいま芽吹きどき

現地の今を見て下さい!!

利根川流域脱ダム宣言





目次

1.　本当に大丈夫？ ハッ場ダム
2.　現地は、今― その6
3.　アースデイ in 代々木公園
4.　おいしい地下水を飲み続けたい
5.　青い夜にうたう夢
6.　裁判は、今
7.　事務局ニュース

八ッ場ダムを考える会

首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

本当に大丈夫？ 八ッ場ダム

06年(平成18年)1月15日(日曜日)

やんば

2006 1/15 No.12

広報やんば

水とともに生きる

■発 行 国土交通省八ッ場ダム工事事務所
群馬県吾妻郡長野原町与喜屋11
☎0279-82-2311
ホームページ http://www.ktr.mlit.go.jp/yanba/
■編 集 上毛新聞社出版局

八ッ場ダムの上流域は日本有数の火山地帯

火山活動で浅間山噴火の際には火山泥流が吾妻川に流れ出し、過去には大災害も起きている。そうした状況の時、八ッ場ダムは巨大な砂防ダムの役割を果たすと考えられている。

大地震

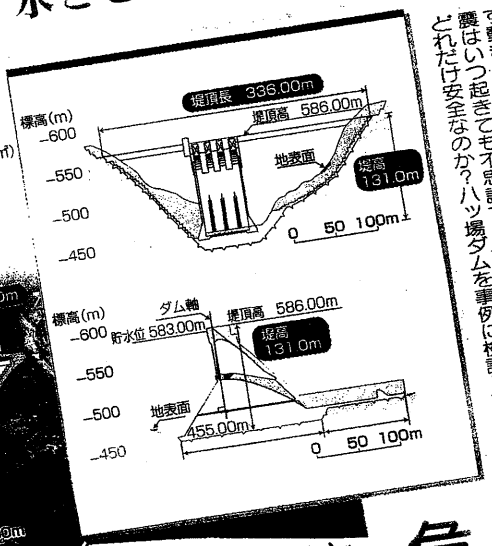
昨年、発覚したマンション・ホテルの耐震データ偽造問題をきっかけに、建造物に対する不安・不審の目が社会全般で強まっている。公共建造物を含め耐震性を見直す動きも広がっている。地震大国と言われる日本。大地震はいつ起きても不思議ではない。地震に対してダムはどれだけ安全なのか？八ッ場ダムを事例に検証してみた。

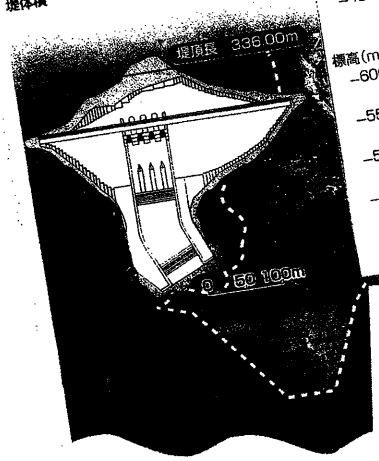
最大震度7を記録した一昨年の新潟県中越地震、土砂災害でできたせき止め湖の危険性は、あたかも「ダム決壊」を思わせるものだった。しかし、八ッ場ダムに大型の人工構造物である本物のダムが、地震で決壊したという日本ない。

八ッ場ダムの構造

重力式コンクリートダム

総貯水量	1億750万㎥(有効貯水容量9千万㎥)
堤頂長	336m
堤高	131m
堤体積	160万㎥



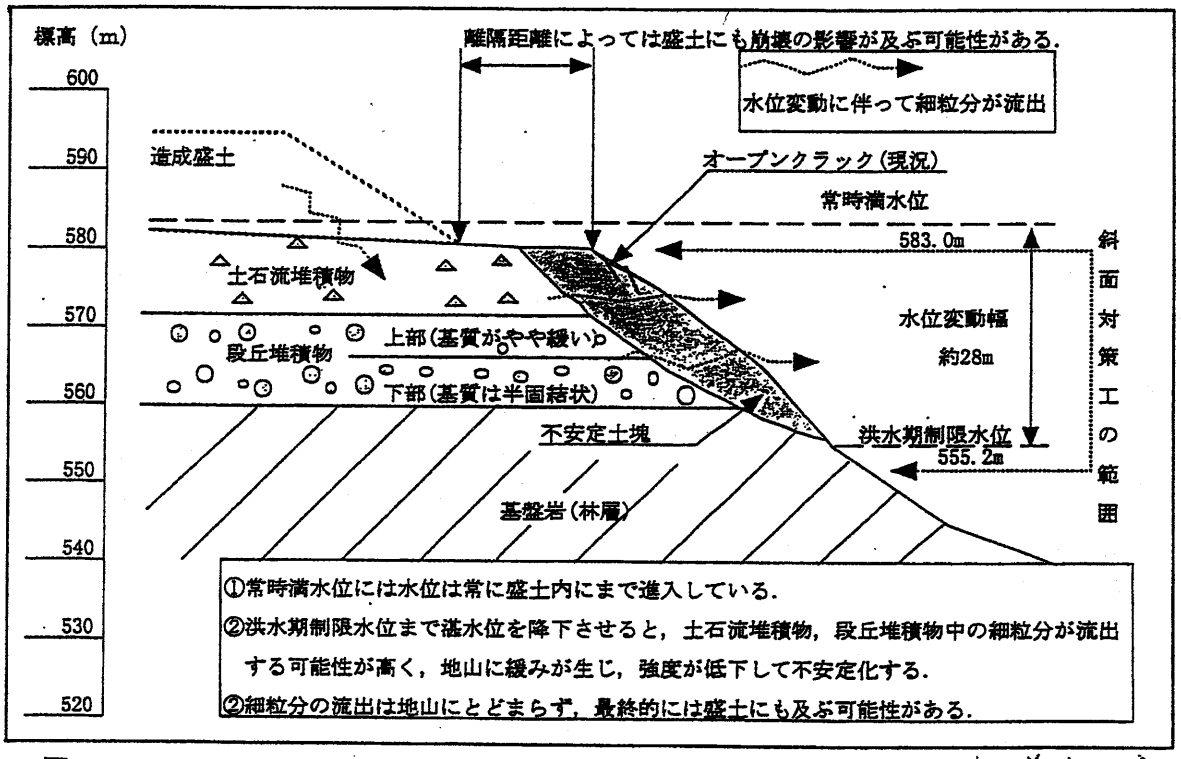


「広報やんば」は国交省八ッ場ダム工事事務所発行。吾妻川流域住民に新聞折込みで届けられている。

危機管

広報やんば NO.12より

地震にも噴火にも強い八ッ場ダム―国交省



図V.1.1.4 西久保地区河岸斜面の構造と土木地質的問題点（国交省開示資料より）

住民らが参加し、下久保橋で行われた開通式

観光振興と地滑り対策

藤岡・譲原地区

念願の道路と橋 開通

国土交通省が藤岡市譲原地区で進めている地滑り対策事業で、工事用道路と下久保橋（仮称）の開通式が十八日、下久保橋付近で行われ、工事関係者や地元住民ら八十人が出席した。

同地区は、一九九一、九二年の集中豪雨で大規模な地滑りが発生。建設省（現国交省）の調査で、面積が約百ヘクタールにも及ぶ大規模な地滑り地区であることが分かった。

このため、九五年から全国で十二番目の直轄地滑り対策事業指定個所となり、これまでに集水井戸や排水トンネルを設置。本年度までに全長二・五キロの工事用道路と橋が完成した。

国交省や自治体関係者らを招いた式典では、金婚・白金婚を迎える地元の夫婦三組が、テープカットし、くす玉を割って完成を祝った。

美原二区地域づくり協議会の桜井定男会長は「神流湖から三波石峡へ通じる観光道路としても大切な橋で、地域にとって念願だった」と喜んでいる。

（上毛新聞 06.3.21）

地すべりも中和事業も観光資源 ― 群馬県

＊税金のブラックホール

四十年近く前にできた同じ利根川水系の下久保ダム（群馬県藤岡市）では、１９９１～１９９２年の集中豪雨で約百ヘクタールにも及ぶ大規模な地滑りが発生しました。このため、国が地すべり対策を実施しています。費用はダム建設費をはるかに上回る三百七十九億円。

ハッ場周辺は下久保ダム周辺と同じく、群馬県内有数の地滑り多発地帯。ダム完成後、地滑り対策が必要になれば、新たな公共事業が生まれます。

市民団体が八ッ場ダム予定地における地質の脆さを指摘してきたことで、水没予定地住民の中には、地滑りを心配する声があがりました。国交省は、「地滑りが起きたら、対策をとるから大丈夫」と言い切ったそうです。

……地滑りの対策費はどこから出るのでしょう？

現地は今……その6

2006年4月

◆リゾート法と生活再建

水没予定地にある川原湯温泉では、冬の間、水道水源が枯れ、住民の生活に暗い影を落とした。ダム工事によって水脈が切られたのが原因だという。ダム建設現場に取り巻かれた観光地は、経営が苦しくなる一方だ。

ハッ場では、水没住民の生活再建の手立てとして“現地再建方式”というレールが２０年以上前に敷かれた。当時、下流ではダム不要論を訴える声は小さく、夏になるとお決まりの渇水騒ぎが報道されていた。地元住民は孤立し、ダムを受け入れざるをえない状況に追い込まれていた。

ダム建設の布石は中曽根政権のもとで次々と打たれてゆく。国の意向を受けた群馬県が、疲れきった住民らを説得する道具として利用したのが“現地再建方式”であった。国会では「大規模リゾート建設促進議員連盟」（会長：小渕恵三）の旗振りでリゾート法が制定される（1987年）。ハッ場地区はリゾート法に基づく“ぐんまリフレッシュ高原リゾート構想”の重点整備地区に指定され、バブリーな箱物政策が住民に幻想をふりまくことになった。

「（昭和）57年2月の衆院予算委員会で公明党が建設業界の作ったダム工事の談合の資料を明らかにした。ハッ場ダムは当時、福田元首相に近い大成、前田建設が請け負うことになっていた。しかし、その後、中曽根元首相の親戚にあたる鹿島建設が浮上。鹿島建設は実績づくりとして、同町の浅間高原に総額250億円のリゾート開発『浅間スポーツアリーナ』計画を打ち出し、昨年、県が計画を承認した。ハッ場ダム建設は、生活再建案に伴う整備計画を含み五千億円を上回る一大利権事業だという人もいる」

— 東京新聞、1990年2月18日記事より

かつて鳴り物入りで登場したリゾート法による計画は、その後、宮崎のシーガイアをはじめとして全国いたる地域で破綻した。ハッ場地区は、リゾートと生活再建は目的を異にするとの理由から、いつのまにか“リゾート構想”から外される。

◆矛盾のツケはどこに？

けれども代替地計画そのものは、ダム事業が続く限り生き続ける。国の約束では、補償基準調印（２００１年）の際には、代替地への移転が可能になる筈であった。だが、10年かかって出来上がったのは、モデルハウスと長野原第一小学校だけだった。この間、ダム建設を前提として生活設計を立てている住民らは、「一刻も早く代替地を」と要望してきた。国交省は2005年度中には代替地分譲を開始すると改めて約束したが、2006年4月現在、分譲開始の見通しは立っていない。

水没予定地の世帯数と代替地移転を希望する世帯数(2006年2月)

年 / 集落名	1979年	2000年	2003年	2005年	2006年	代替地希望
川原畑	79	95	70	27	26	17
川原湯	201	181	150	93	73	36
林	103	108	102	96	99	22
横壁	47	62	54	45	51	16
長野原	392	321	312	308	307	38
計	822	767	688	569	556	129

＊ 川原畑、川原湯は全水没予定。他地区は一部水没予定。

＊ 1979年の数字は群馬県調べ、2000年～2006年は3月末、長野原町調べ。

全国のダム予定地と同様、ハッ場でもダム事業が動き始めると補償金目当てで水没予定地に流入する、いわゆる“ダム屋”がいた。2001年の補償基準調印後、それらの人々は真っ先に出て行ったが、水没予定地に留まる住民は依然として少なくなかった。しかし2003年12月、国交省が周辺地価より遥かに高い代替地の分譲価格を発表すると、人口流出は一気に進む。分譲基準が正式に調印された2005年9月以降、川原湯温泉街では、家屋の解体が日常風景となった。

国交省は年末、代替地計画を4割も縮小したため、昨夏に続き、この冬、代替地移転の希望を確かめる意向調査を改めて行った。だが、実際に代替地に移転する世帯がどれほどあるかは、依然として不透明だ。国交省は「住民との合意の上で代替地計画を進めたい」としているが、代替地の最終的な設計図は未だにできていない。地権者の中には、ダム事業の進め方に納得できず、道路、代替地などの用地提供を拒む人も少なくない。

「めがね橋も国道のトンネルも二車線しかない。それなのに、1～2キロしか続かない村の土地は四車線分の用地を買うという。ヘビがカエルを呑み込んだような、変な道路ができるだろうヨ」― 税金のムダ遣いを目の当たりにしている地元では、「ハッ場ダムの完成は2010年度」という国交省の言葉を信じる人はいない。

◆ 春祭り

川原湯の対岸にある川原畑では、住民の心の拠り所である神社の解体が始まった。温泉街の坂の上にある川原湯神社も、つけ替え県道の予定地にかかっている。4月8日、川原湯神社では太々神楽が奉納され、老若男女が待ちかねた春の訪れを祝った。古式ゆかしい装束に身を固めた川原湯の男衆が、国ツ神、天ツ神、ヤマタノオロチなどの面をかぶり、笛と太鼓に合わせて古(いにしえ)の物語を演じる神楽殿には、春の光があふれ、時折吹き込む突風が笹の葉をザワザワと鳴らした。地元、長野原町では4期16年続いた田村町政が終わりを告げ、4月23日の町長選で新町長が誕生した。 (清沢)

ライブ＆トーク

「加藤登紀子と仲間たちが唄う 八ッ場いのちの輝き」

■開催日時：２００６年１０月９日（祝・体育の日）、１５：００～１７：００
■場所：東京・日本青年館大ホール（神宮外苑横、約 1300 人収容）
■チケット代：自由席 3000 円、指定席 5000 円

■出演者：加藤登紀子（歌手・国連環境計画親善大使）
永六輔（放送タレント、作家）
野田知佑(カヌーイスト･エッセイスト)、
大熊孝（新潟大学教授）、他

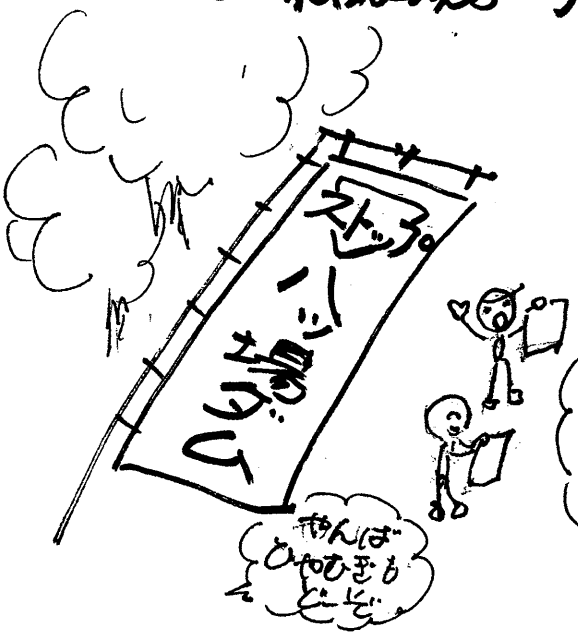
■プログラム：加藤登紀子さんがナビゲーターとなってすすめるライブ＆トーク
＊おトキさんのギター弾き語り、子ども達との合唱
＊ゲストの永六輔さん、研究者らをまじえたトークショー、
＊野田知佑さんのハーモニカ　などのアイディアが出ています。
■プロデューサー：前田和男
■主催：「八ッ場といのちの共生を考える」」実行委員会
実行委員長　大河原雅子(八ッ場ダムを考える会・東京支部長)

■事務局連絡先：八ッ場ダムを考える会 [redacted]

"世界の環境まつり" アースデー

4月22・23日
東京 代々木公園

実行委員長：C.W.ニコルさん



やんば？
聞いたことない
名前だな？

やんばの運動に共鳴します。
登紀子さんのイベントの呼びかけ人
になりましたよ。

Im!!
今ごろダム
やってんのか〜

タモリの番組も
みのもんたの番組も
見たわヨ

他を圧倒する気迫で、
予定したちらしは全て
撤ききりました。

捨てられたチラシも
ほとんど見かけず、
ホッとしました。

大河原雅子(八ッ場ダムを考える会・東京支部長)

加藤登紀子さんのメッセージ

『川原湯温泉をはじめて訪ねたのは去年の夏、温泉宿のあかりにそそられ坂道を登り「旬」でおいしい川魚料理をつまみながら一杯飲んだ。
その時の話題のひとつ。「ダムに沈む川原湯温泉」という看板の字を変えるので、今新しいアイデアを募集中だという。私も「心も体も美人がいっぱい」など、いくつか考えてみた。

ダムが計画されて五十余年、二千億円以上がすでに投入されたが、まだ、ダム本体の工事までたどりついていない。代替地の整備もおくれ、宙ぶらりんの状態におかれた地元の人たちは、あきらめと苛立ちにゆれている。

浅間山噴火の後の火山地質が工事を困難にしている上に水質にも問題があるという。東京、埼玉、千葉、茨城など首都圏の飲み水の確保と治水のためというけれど、このダム計画自体の是非も論争の中だ。

こんな不確かな状態に何十年も生きてきた人たちの辛さを思うと、東京や千葉の人たちが何も知らずにいていいのかと申し訳なさでいっぱいだ。
　今もダム工事では予算が投じ続けられているけれど、さらに数千億円かかるこのダムが出来ない可能性もあることも考えておかなければいけないだろう。

せめて、今、この水没予定地で生きている人たちを力づけたい、思うことはただそれだけだ。
そして、知らん顔してる首都圏の私たちに、何が出来るのかを考えたい。
「旬」の家の少年つとむ君が描いたピチピチの岩魚の絵が忘れられない。
大人たちがいろんな思惑に疲れ果てていても、子供たちにはふるさとを全身で受けとめていてほしい。どんなことがあっても、生きるよろこびにむかって生きていけるように。』

歌手・国連環境計画（UNEP))親善大使
加　藤　　登　紀　子

加藤登紀子さんと実行委員会の呼びかけに、早くも
　宇沢弘文さん（経済学者, 東京大学名誉教授）、
　羽田澄子さん（映画監督）、
　C．W．ニコルさん（作家）、
　野田知佑さん（作家・カヌーイスト）、
　池田理代子さん（漫画家）、
　中平順子さん（子供文化研究家）
など、社会の多方面でご活躍の方々が呼応し、イベントへの協力を申し出て下さっています。

おいしい地下水を飲み続けたい

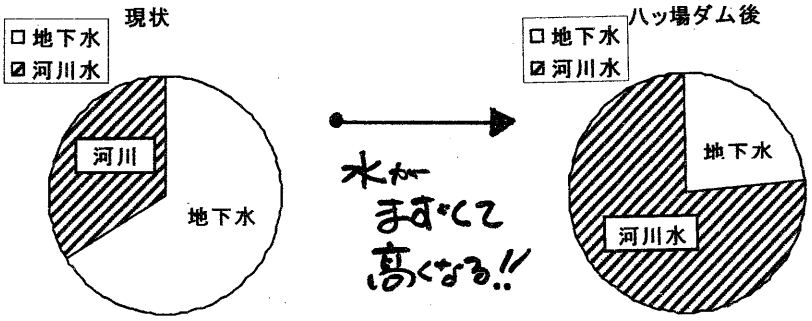
～ 地下水を切り捨てるハッ場ダム計画～

入江晶子（佐倉市議会議員）

私が住んでいる佐倉市は、千葉県北総部に位置し、印旛沼を抱える豊かな水と緑に恵まれた街です。城下町としての歴史をもちながら、高度経済成長期には大規模な宅地開発が行われ、人口は 17 万 5 千人に達しましたが、2,3 年後をピークに減少に向かうと推計されています。市内には今もなお「谷津田」と呼ばれる里山風景が広がり、湧水も豊富です。

＜ハッ場ダムで佐倉の水道水はどう変わる？＞

佐倉市の水道水は、1985（昭和 60）年以前は地下水 100%でしたが、それ以降は印旛広域水道用水供給事業から利根川の水を受水しています。これは、千葉県公害防止条例（現在、千葉県環境保全条例）により、佐倉市が地下水の汲み上げ規制地域に指定され、増加する需要分は表流水でまかなうとされたためです。市には 33 本の井戸がありますが、そのうちの 25 本が暫定井戸で、ハッ場ダムが完成すれば廃止されてしまいます。



1960 年代後半は地盤沈下が進行し、地下水汲み上げの全面的な規制が進められましたが、その後、佐倉市の地盤沈下はほぼ沈静化しています。現在と同程度の地下水の汲み上げは問題ありませんが、未だにこの県条例に縛られ、霞ヶ浦導水事業やハッ場ダム建設への参画理由となっているのです。県内では佐倉市と同様、ダムなどの水源開発によって地下水利用が廃止されるケースが数多くあります。

佐倉市議会では千葉県知事に県条例の見直しやハッ場ダム事業の見直しを求める意見書を提出し、安全でおいしい地下水を飲み続けたいと訴えてきました。ハッ場ダムが完成すると、単純計算で現在の水道料金の倍以上に値上げしない限り、水道事業経営が成り立たないという事態が予測されます。脱ダムの流れが世界の潮流となるなか、日本でも限られた資源の有効活用を真剣に考える時代にきています。自前の貴重な水源である地下水を保全するために、雨水の涵養をはかり、適度に汲み上げて使い、地域の健全な水循環を促す総合的な水政策こそ求められているのではないでしょうか。

千葉県の水道事情について
各自治体の地下水依存率など
詳しいデータをご希望の方は、事務局まで
ご連絡下さい。

<いま、"市民力"が試される>

八ッ場ダムに関する千葉県の負担金は国庫補助金を除くと328億円、うち利水負担が153億円、治水負担が175億円、その他負担金をあわせると総額383億円にも上ります。2004年住民訴訟スタートまでに、すでに130億円が支出されました。巨額の負担を強いられながら、自治体は国の直轄事業であるため、国の方針には異議を申し立てられないというのが本音ではないでしょうか。地方分権とは名ばかり。相変わらずお上の言うなりに行政運営を行っているのです。官僚主導の中央集権的な流れを変え、必要のない無駄な公共事業を中止させるために、八ッ場ダムの運動の輪をさらに広げていきたいと思います。

【千葉県内の水道水源井戸】　　(嶋津暉之さん作成)

	暫定井戸(八ッ場ダムなどが完成したら廃止される井戸)		非暫定井戸(廃止されない井戸)	
	井戸本数	一日平均揚水量 m3/日	井戸本数	一日平均揚水量 m3/日
東葛地区	16	1,361	132	81,772
葛南地区	5	894	78	57,052
千葉・市原地区	61	20,812	117	38,889
君津地区	32	11,285	55	36,147
北総地区	140	38,215	108	40,276
合計	254	72,567	490	254,136

(日平均揚水量は2002年の値を示す)

<八ッ場ダムと印旛沼>

2003年11月、国から八ッ場ダム事業費を4600億円に増額する変更案が示されると、関係都県の知事をはじめとする利水予定者は、実質的な再検討を行わないまま、国の方針を認めてしまいました。佐倉市が加わっている印旛郡市広域市町村圏事務組合でも、国の変更案に対して"異議なし"の回答をしました。また、これに先立つ県との協議では、八ッ場ダムの水利権を減らし、その分を新たに印旛沼開発高度利用の水利権に振り替えることになりました。"印旛沼高度利用"というのは、昭和38年から44年の国営印旛沼開発事業によって整備された水資源開発施設を有効利用し、八ッ場ダムと印旛沼の水を合せて水開発を行うというものです。一時停止していたこの計画が再浮上してきたものの、詳細は未定です。"印旛沼高度利用"の安定水利権を得るのは、現在進められている印旛沼開発施設緊急改築事業の完了後となる2010年度以降と見込まれ、この取水と関連して印旛沼の水質浄化も促進させるとのことです。

今年2月に国交省が示した利根川水系河川整備基本方針では、戦前からの利根川放水路計画を変更し、洪水時に印旛沼に毎秒1000トンもの放水をし、調整池として機能させることになりました。千葉県は、国から印旛沼の水質浄化につながるとの説明を受けて歓迎していますが、生態系にはどのような影響が及ぶのでしょうか？　まして印旛沼は、現在でも飲料水を取水する湖沼のなかで"水質ワースト1位"です。河川整備基本方針を具体化する基本計画が今年度中に策定される予定ですが、印旛沼に係わる事業が治水面、利水面でどのように展開していくのかを注視し、住民として声をあげていかなければなりません。

青い夜にうたう夢

山本 まり

山がうたうのを聞いた。
中学生の頃だ。
私は屋根の上で空を眺めるのが好きだった。
妹は、「お姉ちゃんは猫のようだ」と言って笑った。
ある良く晴れた煌煌と月の輝く夜、私は月の光に誘われてこっそり屋根の上に忍び出た。
昼間の太陽の温かさを吸い込んだ屋根瓦のほんのりとした温みをお尻に感じながら、
私は星と月と山やまを眺めた。

山から吹き降ろす風が私の前髪を弄った。
芳香を含んだ風を吸い込みながら、
山やまの木ぎが、ざわざわとその身をくねらすのを見た。
山がうたっていた。
規則正しい波長で。
ラベルのボレロとか、バッハを思わせる旋律を確かに私は身体に感じていた。
青い月の光に包まれて。
山はうたうのだな、とそう想った。
しびれるような気持ちで、私は山と月と星を眺めた。
静かな夜。

あの山やまのおかげで、私はなんとか、無事に大人になることができた。
私には、はっきりと、山に守られている実感があった。
もし、山の無い場所で育っていたら、
私はとうに心か身体かどちらかを病んで死んでいただろう。

そしてあの山は死んでしまった。

私は見ていただけだ。山が死んでいくのを。

青い月の光に包まれた、山も川も里も遠い幻になってしまった。
もう取り返せない。もとには戻らない。

いっそ、あの山に深い穴を掘って私も一緒にうずめて欲しい。
そして、青い夜にうたう夢を、山とともに見よう。

「青い夜にうたう夢」は、ジャーナリストのまさのあつこさんのパソコン通信、『ダム日記』に1997年9月27日に掲載されました。

著者の山本まりさんは、岡山県に建設された苫田ダムによって故郷を奪われました。昭和３２年に計画が発表された苫田ダムは、当初から地元、奥津町が自治体を挙げて国の政策に反対。県下町村への見せしめともとれる行政圧迫は熾烈をきわめました。治水・利水・地質などの問題を抱えながら、お金と時間と権力の力で地元民の結束が切り崩されていった苫田ダム反対闘争の経緯は、八ッ場の闘争を彷彿とさせます。

計画から42年後の1999年、苫田ダムは本体着工され、ついに昨年完成。ダムが堰き止めた吉井川は瀬戸内海の児島湾に流れ込みますが、今年は海苔の色落ちが発生したということです。山本さんが子どもの頃、町内には「ダム絶対反対」という看板と共に、「苫田ダム建設銭次第」という、県からの切り崩し工作によって賛成派となった人たちの大きな看板が乱立していたそうです。

山本さんから、原稿の掲載許可をいただくとともに、「月日が流れ（水没地のことが）“過去”のこととして忘れ去られてしまうのかと思うと、なんともやりきれない気持ちです。これ以上ムダなダムによって苦しむ人、壊される自然がふえないことを願っています」とのメッセージをいただきました。

～☆　やんばの絵葉書　☆～

アウトドア自然保護基金、パタゴニアの支援金で絵葉書が出来上がりました。川辺川の運動で活躍してこられたデザイナー、渡辺誠さんが、チラシ同様、ボランテイアでデザインを担当。八ッ場の風景、動物の写真＋クマタカの写真つきメッセージカードの七枚組みです。川原湯の道祖神の写真は、暮らしの手帖社が無償提供して下さいました。皆さんのおかげで、ステキな絵葉書に仕上がりました。

カンパも含め、定価500円で販売します。(八ッ場ダムを考える会の会員特典として、送料は会で負担します)お店、団体などで販売して下さる場合は、卸価格300円（送料別）で提供します。

ぜひ、ご利用下さい。

ハッ場ダム裁判は、今

原告代表　嶋津暉之

◆ はやくも一年半・・・

一都五県の住民が一昨年 11 月に各地方裁判所にハッ場ダムの住民訴訟を起こして早くも約 1 年半が経過しました。この訴訟は、各都県が不要かつ有害なハッ場ダム事業に参加して巨額の費用を負担するのは住民に多大な損失を与えるものであるとして、ハッ場ダム事業からの撤退を求めるものです。各地裁では数ヵ月おきに裁判が開かれてきていて、すでにそれぞれ6～8回目の裁判になっています。

被告の各都県側は「国の事業の是非を住民訴訟で問うのは、住民訴訟の範囲を逸脱している」として却下を求め、それに対して原告の住民側は、「各都県が自らの意思でハッ場ダム事業への参加をきめているのであるから、ハッ場ダムの是非を各都県が判断する責任がある」として、ハッ場ダムの是非についての審理に入るように求めてきました。

この本案（ハッ場ダムの是非）に入る前のやり取りは、入口論とか本案前とかという言い方をしますが、今年に入ってようやく入口論は横において、中身の議論に入ってきました。ただし、入口論の決着がついたのではなく、中身のことも聞かないと入口論の判断もできないという各地裁の考えによるものです。

◆ ようやく中身の議論に入ってきた

ということで、住民側は各地裁で、治水、利水の両面においてハッ場ダムが各都県にとってどれほど不要なものであるかを具体的なデータで明らかにした書面を順次提出し、その陳述を行ってきています。陳述は、パワーポイントによる映像を使って弁護士さんまたは原告が行っていますが、それぞれわかりやすく迫力があってなかなか好評です。治水、利水の書面提出が終われば、続いてダムサイトの危険性、環境問題の書面を提出する予定です。被告もこの詳細な書面に対して反論せざるをえないでしょうから、裁判は必然的にハッ場ダムの是非という本案の議論に入ることになると思います。

◆ 画期的なさいたま地裁

各地裁の審理の進め方は裁判長の意向によって多少の差がありますが、それほど大きな違いがありません。ところが、4月19日のさいたま地裁の裁判では、新しい裁判のやり方を垣間見ることができました。半年ほど前に着任した左陪席（傍聴席から見て右側）の女性裁判官が本案前の事柄の一部について原告、被告それぞれの主張と裁判所の検討案をまとめた詳細な表を原告被告の双方に配って、次回までに検討することを求めました。裁判長はいずれ、本案についてもそれぞれの主張と裁判所の検討案を整理したものを示していくと述べていました。裁判というのはとかく一方的なものであって、双方の主張を裁判所がどの程度理解しているのか、よく分からないまま、判決が出てしまうものなのですが、このさいたま裁判では裁判所がどのように理解し

ているかを事前に示し、検討を求めるというのですから、画期的な審理の進め方ではないかと思います。裁判員制度の導入を3年後に控え、これからは、裁判所も新しい裁判のやり方に変わっていくのかもしれません。

◆ 最高裁に報告される傍聴者数

各地裁での裁判で重要なことは傍聴席を住民がほぼ満席して、裁判の成り行きを見守っているという姿勢を示し続けることです。裁判所に前に勤めていた人の話では、各裁判の傍聴者の数が最高裁にも報告されているそうで、その裁判がどの程度社会の関心を集めているかを重視しているようです。裁判官もそのことを意識していますから、大勢の住民が見守っていれば、住民側の主張に耳を傾けて、慎重な審理を行うことになります。その点で、是非、皆様もお時間がありましたら、裁判の傍聴に参加してくださるよう、お願いします。

【裁判スケジュール】

茨城	5月9日(火)	午後1時30分	水戸地裁
群馬	5月12日(金)	午前11時00分	前橋地裁
栃木	5月25日(木)	午前10時00分	宇都宮地裁
千葉	5月26日(金)	午前11時00分	千葉地裁
埼玉	6月14日(水)	午前11時00分	さいたま地裁
東京	7月4日(火)	午前11時00分	東京地裁

・・・【各地の連絡先】・・・

5月13日 14日

八ッ場をめぐる 政治・経済のからくり 学習会

★ 「まさのあつこさん学習会」in 群馬・高崎

ダム問題、林業、不妊治療などなど、八面六臂でご活躍中のジャーナリスト、まさのあつこさんのミニ学習会を高崎で開きます。政策秘書として国政の裏方を担った経験をもとに、八ッ場ダムを取り巻く政治、経済のカラクリをお話しいただきます。

[redacted]

▽ 日程：２００６年５月１４日（日）午後３時～５時

▽ 会場：高崎市労使会館２階会議室

（ＪＲ高崎駅より徒歩１０分、[redacted]）

★ 「なぜ止まらない!? ムダな公共事業＆八ッ場ダム学習会」in 東京・小平

◇ 日時：5月１３日（土）１：３０～４：００

◇ 場所：小平市中央公民館ホール（西武多摩湖線青梅街道駅より徒歩３分）

◇ 講師：佐藤謙一郎さん（公共事業チェック議員の会前事務局長）

住民訴訟報告：梶原健嗣さん（東京大学大学院博士課程在籍）

◇ 主催：八ッ場ダムをストップさせる東京の会 [redacted]

国の借金が８００兆円を超えたというのに、ためた水を使うあてのないダム、飛行機の来ない空港、車の走らない道路が作り続けられ、ムダな公共事業は一向に止まりません。その一方で、福祉の切り捨て、増税など、国民の負担は重くなるばかり。ムダの温床、特別会計をはじめ、こうした国の構造をどうしたら変えることができるのでしょう？　公共事業をチェックする議員の会の事務局長として活躍され、全国の現場に足を運んだ佐藤謙一郎さんにお話を伺います。

★ 会費・カンパのお願い

皆さんの力がつながり合って、ようやく八ッ場の運動も地に足がついてきました。国のダム事業に待ったをかけるために、私たちは様々な攻め口を探ってきました。

◆科学的実証に裏付けられた正論（ダムの不要性、危険性、不経済性など）の提起

◆広報活動による世論の喚起

◆政官財癒着構造の解明

◆代替案（ダム中止後の生活再建・地域再生プラン）の提示、などなど。

事務局では、これら様々な活動の側面支援に資金を活用させていただいております。運動のさらなる飛躍のために、たびたびのお願いで大変恐縮ですが、年会費（2000 円）、カンパご入金に同封の振込み用紙をご利用下さい。経費節減のため、振込み用紙の受領書を領収書に代えさせていただきます。正式な領収書ご入用の際は [redacted] にご連絡下さい。

新緑の現地に行こう！

5月6日・7日

★　吾妻渓谷でチラシをまこう

同封のチラシは、アウトドア自然保護基金からいただいた助成金で制作しました。このチラシを５月７日、吾妻渓谷で配ります。新緑シーズン、現地を訪れる多くの観光客が、国交省の掲示板を読むだけで、ダムの様々な問題、水没関係住民の苦しみを知らずに帰ってしまうのは、なんとも残念！　是非、皆さんもチラシまきにご参加下さい。スタートは、ダムサイト予定地、午前10時です。[redacted]

なお、チラシの単価は実費で５円ですが、会員さんには無料でお分けします。（郵送をご希望の場合は、郵送料をご負担いただけると助かります。）

★　新緑の八ッ場エコツアー

◇日程　２００６年５月６日（土）

１１：００　　高崎駅東口駅交番前　バス出発　（昼食は各自でご用意下さい）

１２：３０　　ＪＲ川原湯温泉駅、バスで出発

＊八ッ場ダム問題の研究者、嶋津暉之さんのガイドによる現地バス見学。

吾妻渓谷、ダムサイト予定地、品木ダム、草津中和工場、長野原第一小学校 etc.

１６：３０　　川原湯温泉駅着

＊バスは高崎駅東口まで戻ります。途中乗車、下車とも可能です。

＊参加費・・・１人３０００円（バス代込み）。

期日が迫っておりますので、お申し込みは至急[redacted]へ。

★ 利根川ツアー

６月３～４日、バスによる利根川ツアーが実施されます。長大な坂東太郎の上流から下流まで、目と足で確かめてみてはいかがですか？　詳細については、[redacted]へお問い合わせ下さい。

★　追加のお知らせとお願い

- 住所不明で会報が返送されてしまうケースが多々あります。住所変更、市町村合併により住所表記が変わった方は、ぜひ事務局へご連絡下さい。

- トキコさんイベントチケット予約受付中。売り出しは６月の夏至の日の予定。問い合わせ多数につき、どうぞ早目のご予約を！

シンポジウム

ハッ場ダムは大丈夫か　第二弾 in 群馬・中之条

昨年３月、ダム予定地直下の中之条で地質をテーマに学習会を開催しました。その後、国交省の情報開示などにより、ダムサイト予定地の岩盤、代替地の地質について、さらに多くの問題が明らかになりつつあります。

今後、裁判でも地質問題が論じられることになりますが、それに先駆けて、シンポジウムで大枠の問題提起を行います。

○日程：２００６年７月２日（日）　午後１時半～
○会場：群馬県中之条町ツインプラザホール
（JR 吾妻線中之条駅より徒歩１０分、[redacted]）
○講師：高橋利明弁護士、嶋津暉之氏、矢部俊介氏

＊シンポジウム終了後、バイオントダム崩壊の悲劇を伝えるイタリア映画「プロジェクトＶ」の無料上映会を行います。

ハッ場ダムは現在の計画では、２０１０年度完成の予定です。
けれども、本体工事はまだまだ先です。
次の世代の“いのち”のために、ダム計画を見直しましょう。

年会費（秋の総会から総会まで）／個人会費２０００円、団体会費３０００円
郵便振替口座００５５０－２－３２６８１　（カンパもよろしくお願いします！）

編集：ハッ場ダムを考える会
[redacted]
【URL】http:/www.yamba-net.org　【E-mail】info@yamba-net.org

吾妻渓谷
八ッ場ダム
2006. 7　No. 16

7.2 中之条シンポジウム特集

利根川流域脱ダム宣言

—目次—

1.　特集　7.2 中之条シンポジウム
2.　加藤登紀子となかま達が唄う
　　八ッ場いのちの輝き
3.　水余り・大県茨城
4.　事務局ニュース

八ッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

特集

ー7.2中之条シンポジウムー

7月2日、ダム予定地下流の群馬県中之条町でシンポジウムを開催しました。今回は初めての試みとして、市民連絡会と共催となりました。プログラムは前回シンポの続編（第一部）に加え、水没予定地の生活再建問題を正面から扱う二部構成。三時間余にわたった中身たっぷりの議論、要約してお伝えします。

第一部「八ッ場ダムは大丈夫か？ー国土交通省の開示資料を読み解く」

高橋利明　訴訟弁護団団長、東京弁護士会所属、NPO法人情報公開市民センター理事長
矢部俊介　土木技術者、考える会顧問
まさのあつこ　ジャーナリスト

まさの：今日は　情報公開の専門家、高橋利明さん、土木技術の専門家、矢部俊介さんに、八ッ場ダム建設のリスクについて、また、それらのリスクをどう捉えたらよいのかをお話しいただきます。もちろん国交省も地すべりを起こそうとしてダムを造るわけではありませんが、起こらないように事業を進めても起こってしまった最近のケース、ご紹介下さい。

＊大滝ダムーわが国ダム災害至上最大の地すべり

矢部：奈良県の大滝ダムは、紀ノ川水系、吉野川上流にあります。２００３年、ダム完成直後、試験湛水中に多数のひび割れ、沈下が発生し、貯水を中止しました。災害現場の白屋地区住民全３８戸が、廃校になった小学校校庭の仮設住宅に移転して今に至っています。一昨年、現地に行ったところ、白屋地区の入り口にはゲートが設けられ、取り締まりの警備員がいました。住民は一日２~３時間だけ畑作業のために地区に入れるということでした。仮設住宅に住む方々は生活再建もままならず、本当に気の毒というのが正直な感想です。

国は地すべり対策に２７０億円を計上。総事業費は３２１０億円から３４８０億円に膨らみ、奈良県、和歌山県なども約９３億円を負担。対策工事が２００８年５月末を目標に行われていますが、地すべり解決のメドは立っていません。押え盛り土に４６万㎥、鋼管杭１２２本を垂直に刺して地すべりを止める。それにアンカー工法―岩盤にアンカーを突き刺してもたせるポピュラーな地すべり対策です。さらに集水井が６ヶ所。押え盛り土工はコストがかからないという理由で、八ッ場でも採用されます。

＊首都圏のダムでも地すべりー滝沢ダムの場合

高橋：埼玉県の滝沢ダムは、国交省ではなく、水資源開発公団のダムです。事業をやると言ってから３０年、紆余曲折がありました。場所は荒川の最上流のまた上流。秩父という

場所は、日本の中でもかなり地質に問題がある所で、もともと問題のある場所で予想はできたけれども、現在の科学技術をもってすれば地すべりだって何だって押さえることができるんだ、と始めた工事。しかし、やっぱり人間の力は及ばなかったという実例です。

地すべりが起きたのは、つい昨年です。１９９９年に本体工事に着手、０４年にコンクリート打設を完了し、昨年１０月１日、事実上の完成式典を華々しく祝って試験湛水を始めたところ、わずか一ヶ月で上流側に地割れが起き、ただちに貯水中止。荒川ダム総合事業所は、盛り土などの対策工事を行うと発表。地すべり箇所直下の河床で約５０万㎥の盛り土工に着手。３９億円をかけて突貫工事を進め、今秋から試験湛水を再開、０８年４月に運用開始の予定ですが、地すべり再発の危険は十分あると言われています。

＊八ッ場の地質の生いたち

高橋：国交省は八ッ場ダム予定地の地質について、色々な調査会社に膨大な資料を作成させています。それらの中から、主に最近の資料を情報公開制度によって入手しました。これからお話することは、基本的にこれらの国交省資料を基にした説明です。

ダム問題に何百万年も前の地質の歴史が関係あるのか、と思われるかもしれませんが、私たちが今いる建物の下の地盤も、昨日やおととい出来たものではありません。ダムは１００メートル以上のコンクリートを打って水を止めるわけですから、その岩盤は叩いても割れない丈夫なものでなければいけない、というのがダム建設の共通項なのです。

さて、現在の吾妻川は長野県との県境の鳥居峠を水源としていますが、数十万年前の河道はどうだったのでしょう？　地質の教科書には、草津の酸性水が流れる白砂川が、かつては浅間山の脇を通って長野県の千曲川の方に流れていたと書いてあります。現在のダムサイトのあたりに尾根があり、ここを分水嶺として西側が千曲川の流域、東側が利根川の流域だったというのです。その頃は浅間山の火山活動が活発でした。やがて白砂川はせき止められ、古吾妻湖ができました（約３０万年前）。なおも続く火山活動の影響で、なんとこの湖があふれて八ッ場の尾根を超えだします。それから約２０万年の間に、尾根は削られ、現在の吾妻渓谷が形成されました。河川による侵食、吾妻川流域の地盤の上昇は、ダムサイト予定地付近の地質に大きな影響を及ぼしています。

＊ダムに不向きな弱い岩盤

ダムサイトは、当初計画では吾妻渓谷の中心部に造られるはずでした。渓谷最大の観光スポット、「鹿飛橋」付近は、川幅が狭く、岩盤もしっかりしており、ダムの適地であったのです。ところが社会党の国会議員、文化庁の反対意見など様々な政治的な力で、ダムサイト予定地は６００メートル上流に移されます。建設省内部では、一旦は「上流案ではどうしても造れません」と中止になりますが、その後の経緯で、どういうわけか現在の場所に移されました。岩盤が弱くてできないと渋っていた所になぜできることになったのか、国交省のホームページを見ても理由は書いてありません。

報告書を見ると、このあたりの地質は両岸に透水性の高い割れ目があると指摘されています。そして、この２～３年だけでも、報告書が出るたびに水が透る範囲がだんだん広が

っている。一年半ぐらい前までに出された報告書を入手しているのですが、１０数年調べても、どこまで水が透るかわからない、技術的に対応できないシーティング節理（水平に剥がれるような割れ目）が無数に存在するというのです。ひび割れにセメントミルクを流して水漏れを防いでもいいのでしょうが、そうしようにも範囲が決まらないし、亀裂があまり大きすぎると、セメントミルクが岩盤に重圧を加えることになる。報告書を読む限り、国交省には安全なダムを造る基礎的な資料がまだ十分揃っていません。ダム左岸の部分は亀裂がつながって、せん断強度が十分でないというレポートも出ています。これらの調査がどうなっているのか、引き続いて検討するつもりです。

＊地すべり地帯があちこちに

ダムサイト予定地のすぐ上流にある二社平（じしゃだいら）を見てみましょう。八ッ場大橋のすぐ下流、吾妻渓谷の「白糸の滝」というお蕎麦屋さんの向かいのトンネルから２００メートルぐらい入ったところです。このあたりはマグマが地表に吹き上がってできた、八ッ場安山岩と呼ばれる岩盤（八ッ場層）が基本です。ふつう地層は下からだんだん積み重なるものですが、マグマが噴出した所では新しい地層が古い地層にもぐりこんでいます。ここでは温井（ぬくい）貫入岩という一番新しい地層が、八ッ場層と、それよりさらに先輩の川原畑層の間に割り込んで、八ッ場層を脆弱化させました。さらに熱水によって変質して粘土化している所が多く、過去に地すべりが起きています。水に浸かれば地すべり再発の可能性があるので、国は押さえ盛り土を斜面の先端にやる予定です。けれども八ッ場層は、貫入岩のせいでお豆腐みたいになっています。地すべり土塊が固まりであれば、爪先部分を丈夫にすれば何とかなるかもしれませんが、お豆腐ではどこから崩れるかわかりません。吾妻川に突き出た尾根筋には、畳三畳、四畳半ほどもある巨岩がゴロゴロして異様な景観です。幸い人は住んでいませんが、鋼管杭で地すべり対策をするはずだったものが、安上がりだと押さえ盛り土工法になったのは、安全性から見てどうなのでしょう？

＊代替地も地すべり不安

さて、二社平に隣接して三平（さんだいら）があります。村全体が水没する予定の、川原畑地区の住民が移転する代替地や国道の予定地です。三平の切り土面には、熱変質で粘土化した地層が見られます。一千万年以上前にできた川原畑層の中に温井層が割り込んで、いわば“大もめにもめている”地質です。しかし国交省はそのことはあまり心配していませんで、上にのっている浅間山噴火の泥流堆積物の沈下を心配しているようです。

矢部：地質断面図は、三平が非常に稀な地質であることを示しています。泥流堆積物は岩、石、火山灰から成っている、いわば砂系です。この堆積物が、雨が降ったり水位が下がるとダム湖に引っぱられます。海浜の砂が波で海に流されるのに似ています。その下にある温井貫入岩は熱水変質しており、スメクタイトという膨潤性の粘土鉱物が含まれています。スメクタイトは水や空気に触れると変化して、土の粘着力が非常に薄まるという性質があります。浅間山による堆積物が地すべりを起こすと、その下の熱水変質帯の部分も崩壊す

る可能性があります。ここは押さえ盛り土も行われないということです。地すべりは人命の問題もありますが、土砂がダム湖に流れ込んで堆砂量が増えることも問題です。

＊安上がりな押さえ盛り土は役に立つのか？

高橋：ダム湖周辺でいちばん問題とされるのが、林地区の地すべりです。ダムサイト上流３～４キロ地点にあたります。この周辺は、林層（林安山岩）が基盤です。林層は２００~３００万年前のもっとも新しい年代の地層で、固結度が低く脆弱ですが、さらに林層を押し上げる形で、千メートル級の山々が、雲仙普賢岳よろしくムクムクと昇ってきました。金華山、堂岩などの山々が、貫入岩の親分みたいな顔をして出てきたのです。おかげで破砕帯、断層・亀裂が生じて周辺の地盤はメチャメチャになりました。

平成元年、幅、奥行きともに４００メートル、深度８０メートルを超える大規模な地すべりが起きました。ＪＲ吾妻線のレールや国道の路盤が沈み、川の方に押し出されるなど被害は甚大でした。列車が走れば転覆もありえたと大騒ぎになり、群馬県は全面に集水井を掘りました。地すべりは地質が弱いことと同時に、地下水の上昇が基本的な素因です。国道の下、吾妻川との間にも、１０数億円かけて何百本というアンカーボルトを打ちました。対策が功を奏し、地すべりは小康状態ですが、ここがダムによって水に浸かります。

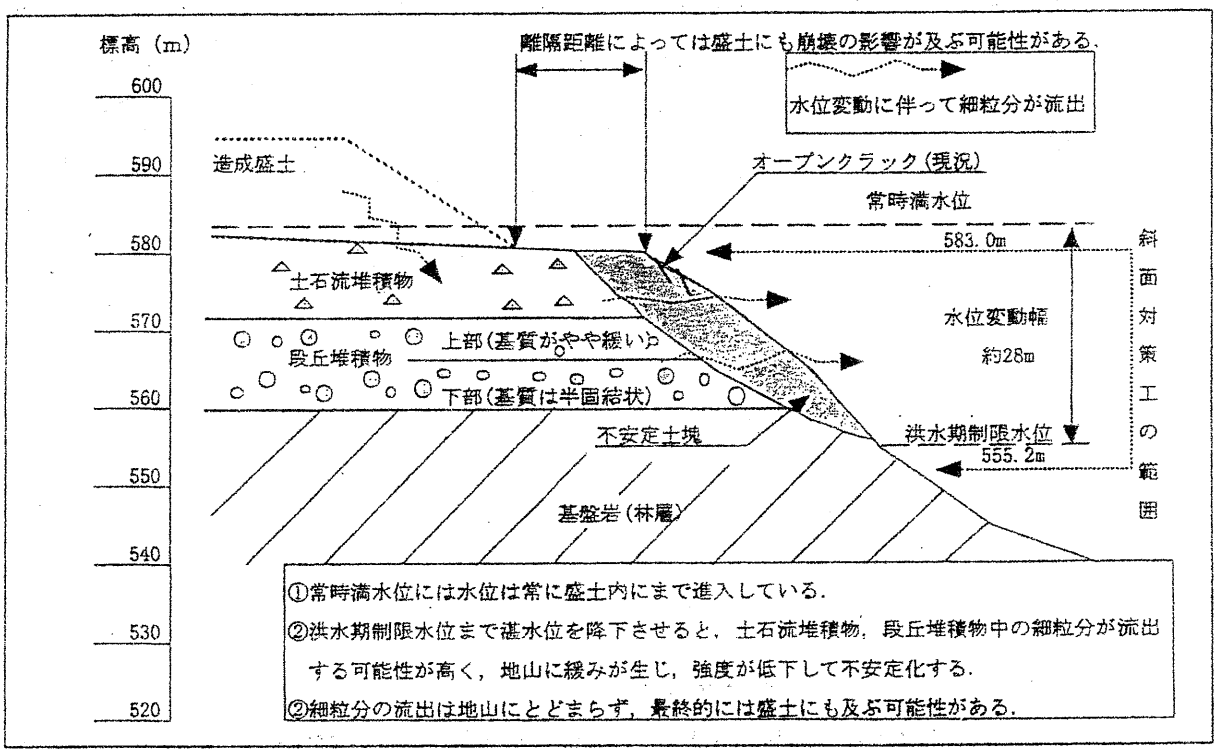
林地区の地すべりのメカニズムについて、調査会社や建設省では数年かけてもなかなか結論が出ませんでした。林地区の段丘には、２万４０００年前の浅間山噴火で、吾妻川を流れ下った泥流が３０～５０メートルの厚さで今もたまっています。しかし、すべり面は堆積物ではなく、基盤の林層にあると見られています。林層が壊れることによって、上の火山堆積物が地滑りを起こす可能性が考えられます。ここも押え盛り土で補強することになっていますが、林層の地すべり土塊はかなり痛んでいます。土塊が一体となって動く場合でなければ、押え盛り土は効果がありません。地すべり地の上に東原代替予定地がありますが、こういう場所を代替地として国が売るのはどんなものかと思います。

＊横壁代替地の下は“斜面崩壊危険箇所”

対岸の横壁地区も、林層が基盤です。南に丸岩がそびえる横壁の小倉（こぐら）では、長大な擁壁を造って壁の向こうに盛土をし、代替地を造成しています。壁の下には、中途半端にコンクリートが吹きつけてあります。岸壁には川が運んできた砂礫の地層と林層が見えます。八ッ場ダムでは夏場、洪水に備えて水位を２８メートル下げる計画です。満水位では代替地の盛り土部まで浸水し、水位が下がると林層まで下がります。国交省が委託した調査報告は、「貯水位が低下すると残留水圧が発生し、安全率が低下する。同時に、林層の上の堆積物の細かい砂が流出し、地山にゆるみが生じ、不安定化する。これが繰り返されると、上部の宅地が沈んだり、空洞化する可能性がある」と警告しています。(P5参照)

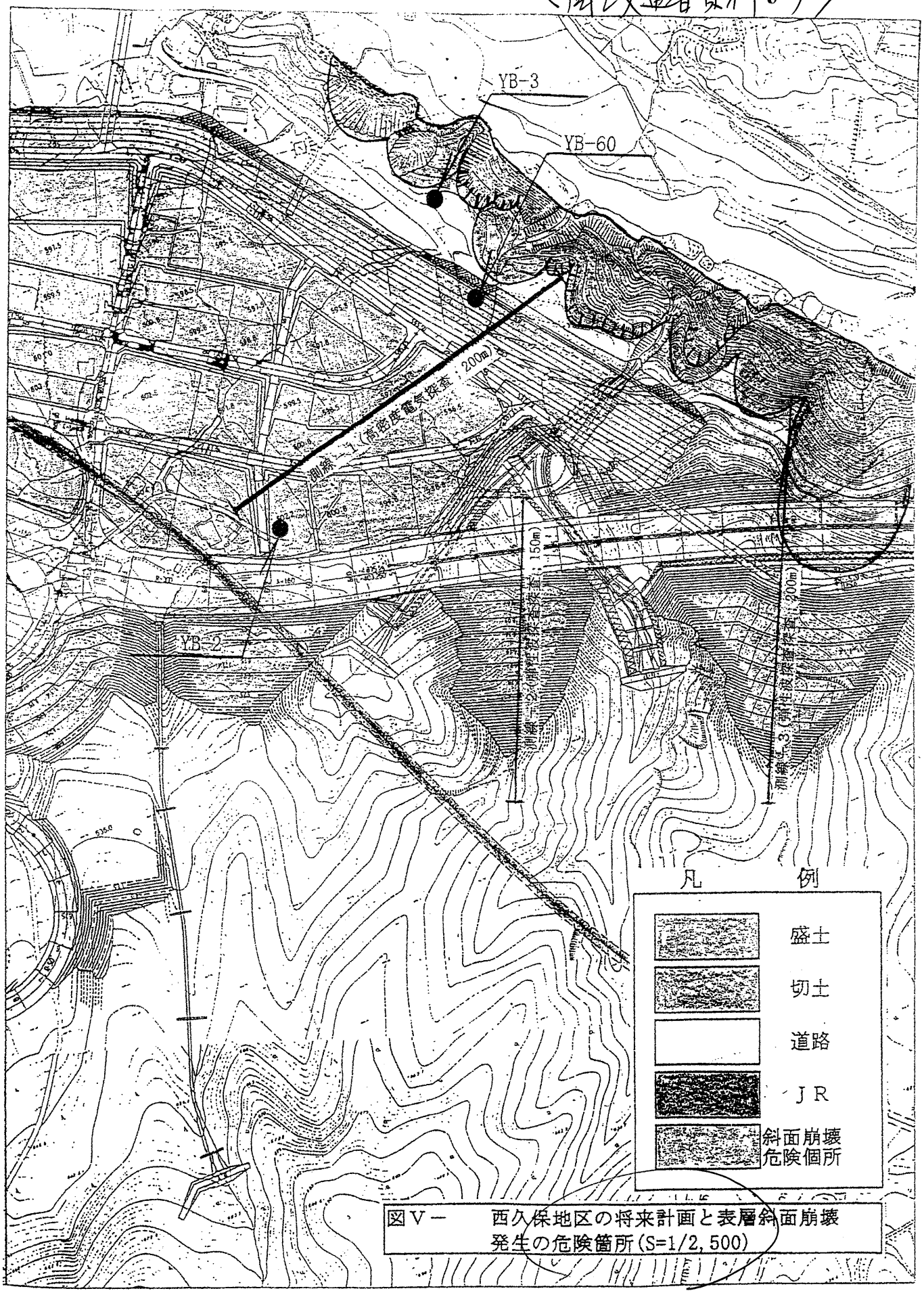
矢部：堆積物は小石や砂で構成されていますので、基本的に粘り気がありません。浮力が働くとひび割れなどが発生する可能性が高いと同時に、水位が変動すると堆積物がダム湖の方に吸い出されます。この岸壁にはマットのような吸出し防止剤を貼り付ける対策をとると思いますが、それでも宅地造成地の安全が確保できるとはいえません。

<国交通省資料より>



図Ⅴ.1.1.4　西久保地区河岸斜面の構造と土木地質的問題点

<国土交通省資料より>



図Ｖ－　西久保地区の将来計画と表層斜面崩壊発生の危険箇所（S=1/2,500）

＊シンポジウム＊

高橋：頑丈な壁を造っても、その下の土がなくなってしまえば、代替地の地盤が傾きます。八ッ場は土地が狭いから大変なのだとは思いますが、報告書に“斜面崩壊危険箇所”と書いてある所に、どうして水没される方に住んで下さいと言えるのか、国交省の神経が、ちょっとわかりません。（略）

小倉は平成８年の報告書では、「地すべりはない」場所のはずでした。ところが、その２年後の秋、地すべりが起こりました。斜面の上部、町道わきに１００メートル以上にわたり段差と開口亀裂が発生しました。一部の崖くずれではおさまらないことは明らかでした。国交省は平成１２年になっても小倉地区には地すべりはないと言い張っていましたが、１，２年前、ホームページでようやく地すべりを認め、応急対策をとりました。彼らも一生懸命やっているには違いないのですが、滝沢ダムでも地すべりは起こってしまったし、小倉でも起きた。とにかくダム工事というものが非常に難しいのは確かです。

＊川原湯の代替地

矢部：川原湯の打越代替地は、表面的には非常に土の締まり具合がいい。いい材質の盛り土材を使っていると思ったんですが、温泉駅近くから約７０メートルの高盛土（たかもりど）という法面の造成工事を行うことになっています。７０メートルというと、２３階のビルの高さです。同じ打越代替地でも下流側の、ダムサイト予定地近くの方では、５年前からの法面工事が完成しているようです。土を徐々に上の方に重ね、そのたびにローラーで締め固め、上にロック（岩）が敷き詰められています。

水田を宅地化する場合、土を盛って５年は置いておかなければなりません。沈下すれば、家が傾く恐れがあるからです。造成地が落ち着くのに、最低５~６年はかかるでしょう。「新しい川原湯の町づくり」という報告書（平成７年）では、「計画における盛土の安定性の確保と、これを実現するための入念な施工管理が必要」とあります。切り土は安定勾配で表面をきちっと処理すれば、あまり問題ないのですが、盛り土造成は問題です。

＊浅間山の噴火

まさの：八ッ場ダムは治水・利水対策のために造られます。ところが国交省は、今年１月の広報誌（「広報やんば」）に、「八ッ場ダムは浅間山噴火の際には巨大な砂防ダムの役割を果たすと考えられる」と書いています。実は岩波のブックレットを執筆する際、国交省関係のコンサルの方に取材過程でそんな話を聞いたのでブックレットに書いたのですが、まさか国交省自体がこのように書くとは、その当時、思ってもいませんでした。

矢部：土石流に備えて造ったものを砂防ダムとか防災ダムといいますが、治水・利水ダムとは根本的に設計時の思想が違います。浅間山が噴火して泥流がダムに堆積するとしたら、あくまで結果論として砂防ダムに適用されたということです。浅間山の泥流は、江戸時代、天明三年の噴火では、時速３０~４０キロで流れ下ったとされています。車の一般的な時速とあまり変わらない速さです。土木研究所は泥流総量を一億㎥としています。八ッ場ダム（総貯水容量：１億７５０万㎥）は泥流でほぼ埋まってしまう計算です。上流から一億㎥

の泥流が３０～４０キロの速さで流れてきた場合、ダムの水は越流して、最終的に下流にかなりの被害が生じる可能性があります。同時にダムの水位上昇によって、周辺地盤に浮力がかかりますから、雨が降ると地盤が軟弱化して地すべりが起きることも考えられます。まさの：長野県の御嶽山では、牧尾ダムができたおかげで、１９８４年、それまで地震がなかった地域に地震が起こりました。泥流が川に流れ込み、地すべりが起こり、小さな関西電力のダムが埋没― こういう実話を知ると、コスト削減という名の下で潜在するリスク対策をおろそかにしていいのか、リスクを勘案してダムを造らないことはできないのかと考えさせられます。

高橋：私どもは一都五県で裁判をやっております。利水・治水面で不要な八ッ場ダムの負担金を各都県が支出するのは違法だ、というのが論拠です。しかしダム事業を調べていくうちに、国はダムの安全性に問題を抱えているのではないか、半世紀たってもダムができないのはそこにも理由があるのではないか、と考えるようになりました。裁判所に提出する準備書面は、地質だけでも１５０ページに及びます。訴訟グループのホームページにいずれ、今日の話を詳述した書面がアップされますので、是非、お読みになってみて下さい。

第二部「生活再建待ったなし」

嶋津暉之　市民連絡会代表、水源開発問題全国連絡会共同代表、考える会顧問
司波寛　都市計画コンサルタント、㈱ 都市総合計画代表取締役
西田穣　町づくりプランナー、NPO法人まちづくりに夢をつなぐ市民の会理事
渡辺洋子　八ッ場ダムを考える会事務局長

＊八ッ場ダムとの出会い

嶋津：八ッ場ダム問題との出会いは、４０年近く前になります。地元で強力な反対運動があった１９６０年代後半、私がダム予定地で見たものは、人々の苦しみでありました。生活を守るために建設省に対する抗議行動、対策会議に追われ、ダムがらみの生活で緊張の日々を過ごしているのを目の当たりにしました。ダムというものは、住民に大きな犠牲を強いるものだと痛感し、なんとかダムを造らないですむ方法はないかと考えました。

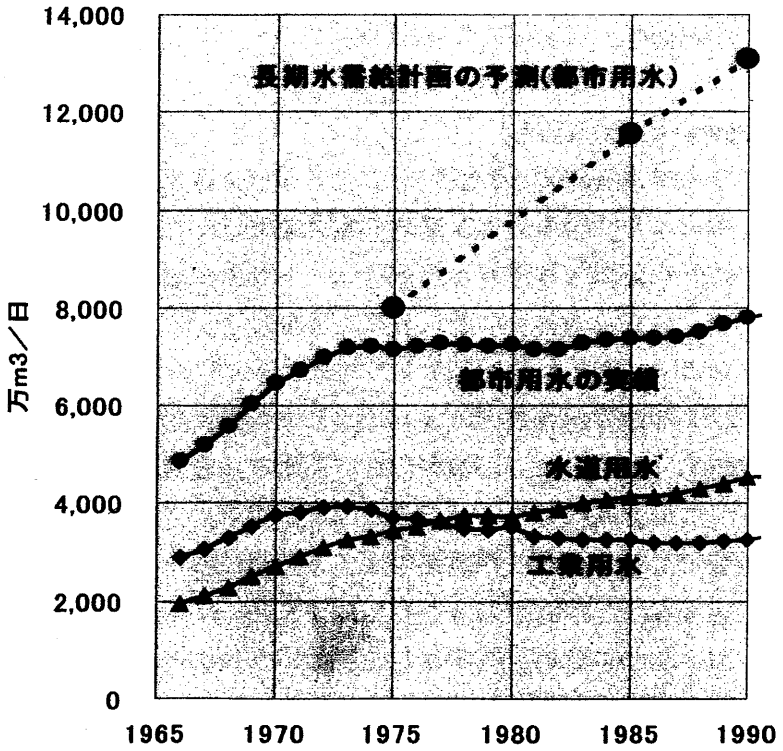
当時、ダム建設の最大の理由は、都市用水の需要増加でした。もう一つの目的である治水は付随的なものでした。昭和４０年代前半は高度成長の真っ只中で、全国の都市用水が右肩上がりで、首都圏でも、都市用水（水道用水＋工業用水）の増加がダム建設を求める最大の理由でした。ならば需要の増加を抑制できれば、ダムを造らないですむのではないかと考えました。私は水の研究をしておりましたので、大学院で水節約技術の研究に取り組むことになりました。関東地方の主な用水型の工場を回り、調査を繰り返すことで、技術を導入すれば水を節約できるという研究成果を得ることができました。

＊先にダム計画ありき

その後、昭和４７年、東京都に就職。運命というべきか、幸いにも仕事は研究成果を実践に移すことでした。当時は地盤沈下が進行し、工場が地下水を大量使用する時代でした。工場に対して、組織として水節約技術（＝水使用合理化）の指導を徹底し、時間はかかりましたが、地下水揚水量を１／３にまで減らすことに成功しました。　　建設省の土木技術研究所の中に、この実践結果を高く評価してくれる方がおり、研究所に委員会が設置されました。委員長は河川工学で有名な高橋裕先生（当時、東大教授）です。委員会でまとめた水節約技術の報告書（Ｓ５３年発行）の大半は、委員であった私が書いたものでした。建設省を通して全国に配布されたこの報告書がベースとなって、水行政が少しでも変わることを期待しましたが、残念ながら変化はありませんでした。

昭和５５年頃、改めて水需要の動向を調べてみたところ（図参照）、高度成長時代とその後では状況がガラッと変わっていることがわかりした。工業用水は増加が止まって、漸減の傾向となり、水道用水も伸びが鈍化していました。ところがダム建設の前提となる水需要予測は実態と乖離し、高度成長時代の増加率をそのまま採用していたのです。必要性があるからダムを造るのではない、「先にダム計画ありき」だったのです。研究者としての技術的な提案に限界があることに、否が応でも気づかされることになりました。

１９８０年代、私はいわゆるアフター５に、全国のダム反対運動の技術的な支援に取り組むようになっていました。ダム問題に関わるきっかけは、水没住民の生活が根底から覆される状況をなんとかしたいという思いだったのですが、運動を支援する過程で、ダムというものは自然を大きく損ない、災害の危険を伴うなど、様々な災いをもたらすものであることを改めて認識するようになりました。八ッ場ダムについても、なんとかダムを中止したいと運動したのですが、当時はなかなか広がりませんでした。



都市用水の実績と国の予測（全国の計）

＊なおざりにされた生活再建

渡辺：当時は脱ダム運動もまだなく、時代の先駆けであった嶋津さんの呼びかけに応える人は限られていました。時代は変わり、八ッ場ダムの運動は今、一都五県の裁判へと進展しています。嶋津さんは、長年の思いをぶつける形で原告代表になっておられますが、現地住民の生活再建はメドが立っていないことから、大変心を痛めておられるとのことです。

生活再建はダム計画の最初からの課題でした。昭和４０年代、建設省が土地収用法によって現地に水準測量の立ち入りを伝える文書には、「今回の測量は、みなさんの生活再建対策を立てるため」とあります。地元がダム計画に協力するよう仕向けられていった背景には、破壊された生活を取り戻したいという住民の切実な願いがあったと思います。

嶋津：昭和６０年、地元がダム容認に変わった大きな理由の一つが、代替地を造って生活再建できるという、群馬県のばら色のプラン提示でした。その後も国と県は、「地域居住計画」(1989 年)、「第一次、二次土地利用計画」(1991 年、1995 年)、「修正第二次土地利用計画」(2000 年)と、次々と計画を地元に提示していきます。これらのプランは「ずり上がり方式」といって、各地区ごとに水没線より上の山側に移転するというものです。ダムの是非は別として、補償基準が調印（２００１年）されて個別交渉が始まった時点で、代替地は完成していなければなりませんでした。国と県は、住民への約束を破ったのです。

渡辺：最近の計画では、今年３月、分譲が開始されるということでしたが、第一期分譲予定地は、まだ造成半ばです。長野原東中学校では現在、二学期の開校を目指して急ピッチで工事が進んでいますが、通学路となる道路はできておらず、子どもたちは工事用道路で通学しなければなりません。校舎の建物が立派なのは、先に移転した第一小学校と同じですが、学習環境がよいとはいえません。

嶋津：代替地計画は造成の遅れと同時に、分譲価格がムチャクチャ高いという問題があります。温泉街用地が約１５~１７万円、一般用地が１２~１４万円。県庁所在地の前橋の郊外並みの地価です。なぜ山あいの長野原町で、こんなに高いのでしょう？　これでは補償金があまり期待できない借地・借家人、小規模土地所有者は、代替地に土地を取得し、営業を再開することができません。安い他所の土地に転出してしまうのは当然です。

＊代替地でコストカット

八ッ場ダムを考える会は昨年１１月、国交省に公開質問を行いました。「分譲価格がなぜ高いのか？」との質問への回答は、「代替地の分譲基準は土地取引事例と、土地価格形成上の諸要素とを総合的に比較考量して適正価格を定めたものである」とお役所的な言葉で説明しています。このような算定方式なら、なぜもっと早く分譲予想額を提示しなかったのでしょう？　最初に伝えていたら、地元は計画の非現実性を知ることができたでしょう。

０１年の補償基準、昨年の分譲基準の調印を受けて、２００世帯あまりだった川原湯は世帯数が当初の 1/3 から 1/4 と、急速に転出が進みました。代替地への移転希望は、今のと

ころ当初の１～２割。この中には、とりあえず代替地取得の権利を確保しておこうと希望を出した世帯が含まれていますので、実際の移転世帯はまだ減る可能性があります。代替地面積も縮小し、川原湯が当初の４７％、川原畑２５％。今年の秋から第一期分譲を開始すると言ってはいますが、それも遅れる可能性があります。

代替地造成の遅れについて、工事事務所は公開質問に次のように答えていますー「補償基準妥結前でも地上権設定で代替地の用地が出来ると考えていたが、無理だった」「補償基準妥結後も、代替地分譲基準が妥結する前であったので、用地買収交渉がはかどらなかった」。この回答は、ダムづくりのプロとは思われない見通しの甘さを示すものです。地上権の設定とは、いわば借地権です。難しいはずの地上権を簡単に設定できると考えていたこと自体、国交省が代替地計画を真剣に考えていなかった証といえます。現地再建計画は地元住民をダム容認に変える道具でしかなかったのだと思います。

渡辺：地質に問題のある場所に代替地を造るには、莫大な予算がかかります。ところが今、国交省から聞こえてくる説明は、「現地再建ずり上がり方式」には無理があったというものです。代替地計画でコスト縮減に努めることをＰＲすれば、下流の納税者に喜ばれると思っているようですが、下流の住民も生活者という立場では地元住民とかわりませんから、地元の方々のことを考えざるをえません。地元はダム事業の中で生活再建を目指さざるを得ない状況ですから、ダム反対の市民団体とは立場が違いますが、このことは私たち運動に関わる者にとって、大変辛いところです。

＊地域再生のキーポイント

司波：水没予定地は非常に難しい問題を抱えている地域です。たとえば川原湯―ダム計画が始まる前は、２００世帯が仲良く助け合っていたと思いますが、現在は人間関係がうまくいっているとはいえない状況であることを感じます。しかも補償基準締結の後、ポロポロと抜けていっている。地域社会は、そこに住む人々が横につながり、連携プレーができるかどうかが大事ですが、そのような状況にはない。その中で、一軒一軒の方々は頑張っておられると思います。緑も多く、よい温泉、独特の地形に恵まれ、首都圏から２～３時間という場所ですから、たとえ残った世帯がわずか５０軒でも、協力し合えば地域づくりは可能なはずです。ところが共同でやるための基盤がない・・・非常に残念なことです。

西田：最初に嶋津さん、渡辺さんにご相談を受けたとき、「川原湯の打越代替地で温泉街の再生は可能でしょうか？」と聞かれました。打越での“町づくりプラン”を見て、川原湯は田んぼの中に温泉が湧いた天童温泉（山形県）や悪名高き石和温泉（山梨県）を目指しているのかと感じました。バブル期に始まった計画なので、大きな施設を作る夢があったのかもしれませんが、川原湯はもともと湯量が多くありません。地形的にも成り立つような計画ではなかったのではないでしょうか。その後、現地を何度か訪れ、川原湯のコンセプトを元に戻す計画作りがお手伝いができたら、また、そのような代替案をもってヤンバの運動をされたらいいのではないかと思い、研究会を作りました。

打越での温泉街の再建は、地元の方々の中でも現実的な話ではなくなってきているのではないでしょうか？　上湯原の再建案の見直し、ダムの水位を少し下げて川原湯、川原畑が水没しない可能性、さらに、もしダムが中止になれば、農村地帯と温泉街との関係を再構築する可能性も生まれてきます。

鵜津：私どもは、様々な災いをもたらす八ッ場ダムを何としても止めたいと思っています。しかし同時に、地元の人々がダムの重圧から解放され、新しい生活設計ができ、幸せな生活を営むことが可能なようにしていかなければならないと思います。現在、地元の人々は八ッ場ダム事業の中で、代替地への移転を前提として生活再建を考えていますから、ここでダムがただポンと中止になって終わりというわけにはいきません。またダム予定地の人々は、今までに精神的にも経済的にも大きな損失を蒙っています。ダム中止のためには、生活再建を支援するための法整備が必要です。

もう一つ考えなければならないのは、関連事業の扱いです。ＪＲ，道路などの付け替え工事がどんどん行われていますが、途中まで造られた道路をただ止めてよいかというと、決してそうではありません。現在の鉄道や国道は、災害（地すべり、浅間山噴火など）の危険性のある場所を通っているので、付け替えの必要が元々あったという意見もあります。

＊八ッ場ダム中止シミュレーション

西田：研究会では、中止された公共事業をどうするか？ 事業費組み替えのケーススタディとして、“八ッ場ダム中止後“を考えてみました。基本は、「不要になった本体事業費」を「必要不可欠な継続事業」に組み替えることです。継続事業を絞り込むには、地域のスケールにあった新しい「地域再生・振興計画」を地域主体で立案することが必要です。(P12参照)

現計画の事業費では、起債の利息も含めた国民負担の総額が８２００~８８００億円と試算されています。見直しによって、事業費は1/2～1/3に圧縮可能と考えられます。

ダム事業で実際に地域のために使われる予算は約１割強です。いちばん使われてきたのは「その他」の部分で、地質調査もここに含まれます。本体の設計は確定していませんから、実際にはもっと増えるかもしれません。ダムを中止しますと、本体工事費（１）は残事業費がまるまるあまります。用地補償費（２）は、残事業費の一部を生活再建措置費として地域管理の基金（損失補償的な性格）を計上することが可能です。３のうち、国は国道を四車線高規格にする部分を負担することになっていますが、これを二車線にしますと、群馬県に先行事業費を返還することになります。ＪＲ，県道は、地域の安全という観点に立って継続と考えます。６，７，８については、代替地計画を廃止し、地域主導の再建・振興計画づくりへ組み替えます。今までの国の補助には、農業振興という発想がありますが、温泉宿の振興も考える必要があると思います。自然が破壊されてしまった代替地の状況を考えれば、自然回復のために新たに“緑の公共事業”を創設することも必要です。

司波：わが国の財政状態を考えると、いずれにしろムダな公共投資はできないと自民党ですら言っています。ただ、中止した時の問題について真剣に考える政党はあまりありませ

＊シンポジウム＊

司波：わが国の財政状態を考えると、いずれにしろムダな公共投資はできないと自民党ですら言っています。ただ、中止した時の問題について真剣に考える政党はあまりありません。事業が止まれば、残事業費がすべて節約になるわけではない。西田さんのシミュレーションでわかるように、地域を切り捨てずに大きな事業を止めるには、結構お金がかかります。そのことを言わずに、もったいないから止めろというだけでは無責任です。今まで弾みがついて動いてきたものが地域にとって必要か必要でないか、線引きをしなければなりません。それを誰がやるか。川原湯でいえば、５０世帯あまりの方々がまだおられます。出て行った方の中にも、土地が水没しないなら、もう一回戻ってやってみたい、という人もいるかもしれません。川原畑でも同じでしょう。

坂道のある今の川原湯温泉街を、私は大変好きなのですが、これからどうしていくのか、そういう議論を地元の発意でやらなければなりません。ダム中止の際、最初に必要なのは、地元の方々がもう一度仲良くつき合える仕組みづくりをお手伝いすることです。行政がキチッと行司役をやって、地域計画の仕事をするプロが出しゃばらない形でお手伝いする。たぶん最初のうちは空気がギスギスしているでしょうが、地域の方たちの気持ちを柔らかくしながら、一年ぐらいかけて話し合いができる雰囲気を作り、次の一年で、地域の人たちが次の世代が引き継ぐ川原湯、川原畑について話し合って計画を作っていく。資金面での責任は、ダム事業を進めてきた国が持つべきですが、計画自体には口出しをさせない。私はこの地域は再建できると思っているのですが、手続きを誤ると中止した後に荒れ果てた地域とやりかけの工事が残ってしまう。政党にしろ市民団体にしろ、ダム反対を仰るのであれば、ダム中止後、こういう形で地域をよくしようという提案とワンセットで考えていただきたいと思います。

＊公共事業の見直しと新しい法律案

鵜津：水源開発問題全国連絡会では、ダム計画中止に伴う生活再建支援法案を作りました。この法案は鳥取県の県営中部ダムの中止事例をベースとしています。鳥取県の片山知事は大変すぐれた方で、予定地住民に対して県として責任のある対応をしました。その手法は、地元の方々と県職員が何度も話し合い、共同の現地調査を繰り返してプランを作るというものでした。鳥取県のこの事例は、現行制度で出来る範囲でやったものです。確かに道路建設の組み替えなどは、現行法でも可能です。けれどもやっぱり、住民の生活再建をきちんとやるためには、新しい制度が必要だと考えて法案を作成しました。

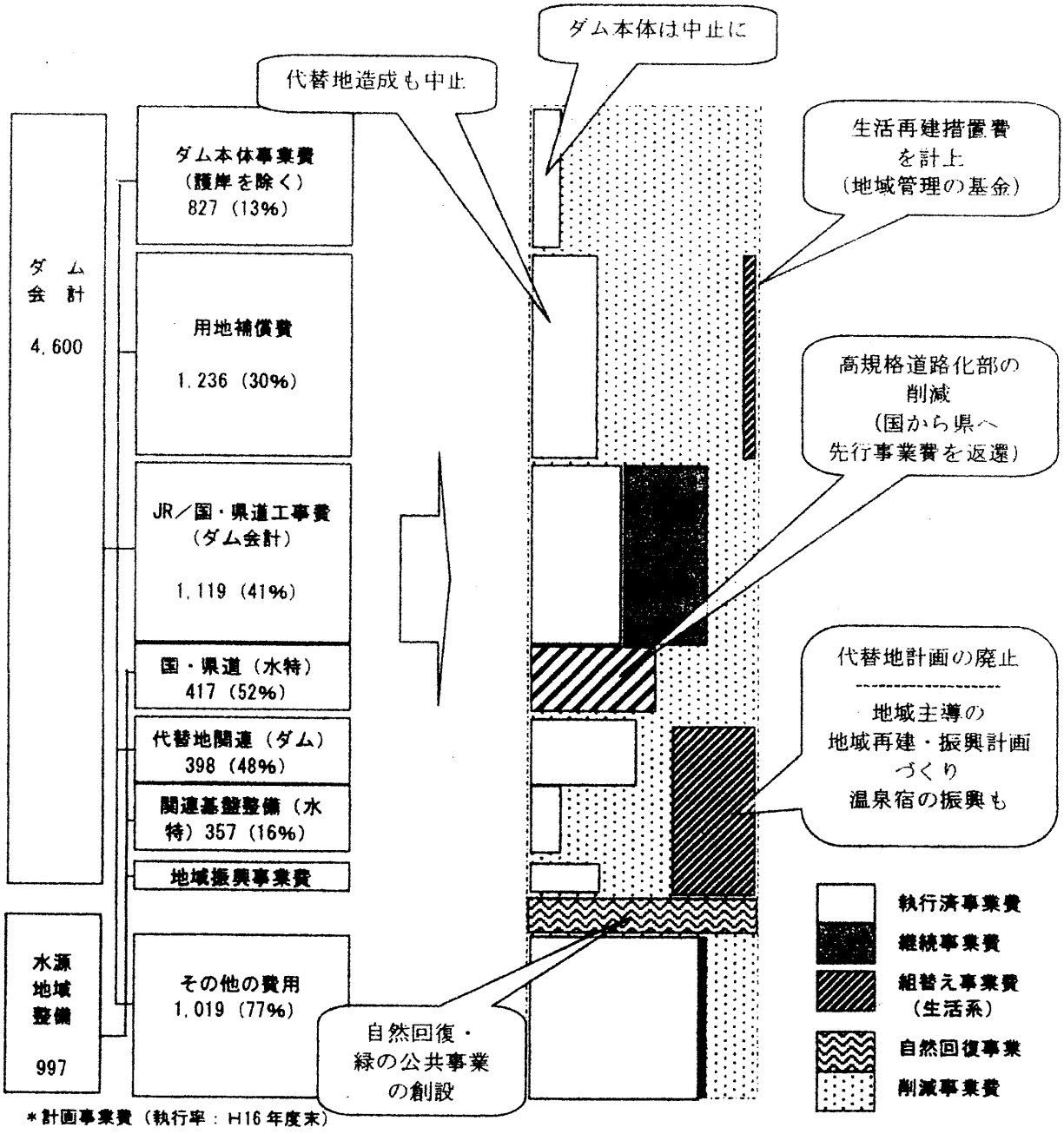
ただ、この法案はダムだけを対象としたものでした。全国では他の公共事業においても、住民が犠牲を蒙ってきた地域はいくらでもありますし、ダム事業に限るのでは法案成立は難しいことから、今回は研究会で公共事業全体を対象とした「公共事業の見直しに関わる地域振興の促進に関する法律」案を作成しました。まず地域を指定し、当該区域の自治体に設置した地域振興協議会において、振興計画（生活再建事業、地域基盤整備事業）を作成するというやり方です。お金の手当てについては、国費の負担を増やして補助率を上げる、地方債を財源とするなどの具体的な項目を入れました。今、私たちは、この法案の成立をめざし、政党に働きかけているところです。このような法整備ができれば、八ッ場ダムの地元の生活再建、地域振興もできるのではないかと考えています。

2．ハッ場ダムの場合（ケーススタディ）

○事業フレーム

・ダム会計（本体事業費）	約　４，６００億円
・関連事業費	約　９９７億円
水源地域整備費（水源地域特別措置法）	
・水源対策基金基金事業	約　２５０億円
・直接事業費	約　５，８５０億円
・後年度負担	約　２，３５０－２，９５０億円
利子等（総事業費の４－５割）	
・総　　計	約　８，２００－８，８００億円

図-2　事業中止後の組替え事業費（イメージ）



＊計画事業費（執行率：H16年度末）

【質問タイム】－－－－－－－－－－－－【質問タイム】

Q：お話しいただいたシミュレーションですが、ダム中止に伴って、企業者はどういう風に方向転換をするのか、考える場や指導の場をもてるのか、お聞きできたらと思います。

司波：下請けに対する面倒見は、行政が直接やることはできないでしょうが、たとえば川原湯の道路を直そうというような仕事― ダムが中止になっても地域に必要な継続事業は残ります。単に計画を描くだけでなく、どんな仕事が生まれるかというあたりも検討した、きめの細かい振興策作りが必要です。

西田：県や市町村の話を聞きますと、公共事業はだんだん地元の建設業者にはできないような高度な技術になってきて、結局、お金は東京に流れ、手間仕事だけが地元に落ちているのが現実だと。そういう公共事業ではなく、もっと身近な公共事業に組み替えることが、地域の再生につながるのでのはないでしょうか。八ッ場ダムの水源地域整備事業をよく見てみますと、バブル期の影響を受けて、実行できそうもない農業・畜産振興事業や、造ってもとうてい維持費が出ないような大がかりな観光会館など、ダム事業が継続しても出来ずに終わってしまうと思われる事業が目につきます。

Q：中央の大企業が利権を握っている社会を変えないとどうにもならないと思います。気が遠くなることではありますが、一人ひとりが身近なところに自分のこととして考えられる場をつくっていく必要を感じます。そのあたりについて、お考えを伺えるでしょうか？

司波：逆に質問に教えられたような感じがいたします。いずれにしても国主導の仕事は、これから減っていかざるをえません。地方のことは地方がやる―社会そのものの仕組みを変える話でもあります。小泉首相が言ったことは、そういうことだったはずですが、現実は逆噴射みたいなことになっている。しかし改革というのは、まさにそういうことです。地方ができる範囲で地域を振興させる仕組みづくりを、こういう大きな馬鹿げた事業を中止していく中でやってみるといいと改めて思っています。

意見：今回のシンポジウムはストップさせる群馬の会のニュースで知りました。この会場に来て、第一部の話をうかがうと、「ダムは危険なので、安全対策をとらないといけない」、第二部では、「現地の生活再建案をきちんと作らなければならない」と。こういう話を普通の県民が聞くと、主催者がどの方向に向いておられるのか、わからなくなることがあります。パネラーの方々がやってこられたことは、長い時間をかけて取り組んでこられたことですが、ごく一般の県民はそれが見えなくて、「あ～、八ッ場は、もう止まらないところまできてしまったのか」と思ってしまう。けれど、こういう話をマスコミで見ている私と、現地へ来て真剣にご討議されている皆さんのお話を聞くのとでは、やっぱり違います。今日は、間接的ではなく、自分で確認することがどんなに大切かを痛感しました。

Ｑ：地域再生について、地元の方たちが話し合いできる場作りを、という話でしたが、今の行政に本当にできるのかな～という懸念があります。それだけ地元のことを考えられる行政なら、今までにもう少し何かできたんじゃないかという気がするのです。

司波：私も長い間、市町村とおつきあいをしてきましたので、仰るような心配はあります。ただダム中止後、地域振興計画を作るためには、住民の集め役ぐらいは行政がやってくれないとダメです。そのくらいの能力は、今の行政にもあるんじゃないでしょうか。

意見： 地元の長野原地区の者です。何年か前、同じこの会場のシンポジウムで、鬼石町長であった関口茂樹さんのお話が大変印象に残っています。私は地区のダム対策委員会の役員をしております。一年のうち５０~６０日は会議にとられ・・・夜、仕事が終わってから、そんなことが１０年ぐらい続いております。本当に苦痛です。私たちの年代ですと、もう八ッ場ダムに賭けております。ダムによって故郷を再生するんだと、そういう気持ちでやってきました。ですから今日のお話をうかがって、頭の中が白くなって、目の前がグレーになったような残念な気持ちです。明後日、役員会がありますので、シンポジウムの話を披露したいと思います。どうもありがとうございました。

Ｑ：地盤の問題は、お金をかければ安全性をクリアできるのでしょうか？　ロケットの打ち上げでも、安全性が１００％確保できなければ中止するわけです。今までゼネコンのための工事を色々やってきましたが、安全確率はどのくらいなのでしょう？

矢部：部分的な工法を見れば、予算があれば安全は確保できると言えるとは思いますが、安全基準は経験値です。日本のダム技術は世界的に高水準であることは間違いありませんが、その反面、人間がやることに絶対がないのも事実です。

高橋：浅間山の噴火対策としてのダム建設についていえば、天明３年規模の大噴火は５００年に一度の確率です。台風の２００年に一度でも、カスリン台風が再来しても八ッ場ダムは役に立たないと国交省が認めているのです。浅間山噴火は５００年に一回、来るか来ないかわからない、そんなものが公共事業になるわけがありません。だから私は、あの広報誌が真面目に考えて書かれたとは思いません。東京の裁判で、（ダムが防ぐのは）台風災害だけじゃなく、実は浅間山ですよ、と被告側が言ったら、裁判は勝ったと思います。

まさの：今日、この会場に川原湯から来て下さっている方がいます。ご本人が恥ずかしがっていらっしゃいますので、シンポジウム後半をお聞きになっての感想を代弁させていただきます。

―「今の川原湯の状態は、司波さんが指摘された通り、まとまりがなくなっています。今日の先生方のお話を聞いて、心から私たちのことを心配して下さっていると思いました。地元から次々と住民が出て行き、とても寂しいです。そして、このダム事業に関しては、どうしても納得がいきません」

ライブ&トーク八ッ場いのちの輝き

同封のチラシは、ＮＰＯ法人“みんなの夢の音楽隊”（埼玉県）が「ヤンバの運動支援のために」と、良心的な価格で印刷してくれたものです。東京コミュニテイ パワー バンク（通称CPB）は“草の根市民助成事業”としてイベントへの低利融資を決定。チケット印刷、チラシ第二刷も進行中です。なまけもの倶楽部の辻信一さん（イベント呼びかけ人）が教鞭をとる明治学院大でのイベント、加藤登紀子さんのコンサートなどでチラシ配布が始まりました。（チラシではゲストの永六輔さんが「交渉中」となっていますが、出演が決定しました。）

◇新たな呼びかけ人（一刷目のチラシ掲載に間に合いませんでした。）

天野 祐吉さん（コラムニスト）
立川 涼さん　（元高知大学学長）
中下 裕子さん（ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議事務局長）
中村 敦夫さん（俳優・作家）
藤原 寿和さん（廃棄物処分場問題全国ネットワーク）

～☆ 呼びかけ人からの一言メッセージ（抜粋）☆～

＊渡辺 斉さん（ジャーナリスト）― 豊かな自然環境を次の世代にどう引き継いでゆけるか、いま一度、考えることが必要だと思います。

＊須田 春海さん（市民運動全国センター世話人）― 言い尽くせないほどの辛酸あり、書ききれないほどの無念さがあり、それでもなお、このプロジェクトを断ち切れない非力さ！　ただただ時間と風化に負けない意志の持続に希望を賭けるのみです。

＊岸田 衿子さん（詩人 童話作家）― 川原湯温泉のある、長野原町の山の方に住む者として、ダムの話は昔から聞いていました。あの豊かな文化や自然環境が残る吾妻渓谷が水没することは残酷なことです。同時に数えきれない生物（動植物）が生きる場所をうばわれることです。何も云えない子どもたちや、命のある生きものたちの代わりに、私たちが今がんばらなければいけないと思います。もうダムは要らないという専門家の意見も聞いています。間違いだとわかったら、勇気をもって引き返しましょう。

＊田中 優さん（未来バンク代表）― このダムを進めることの愚かさは、知らせるだけで人に伝わります。今回のこの試みによって、多くの人に伝えられるかもしれません。“初めて知る人へ”のメッセージとして、この試みが成功することを祈っています。

＊富山 和子さん（立正大学名誉教授）― 下流の皆さんが立ち上がって下さることを、どれほど長く待ち望んできたことでしょう。うれしいです。がんばってください。

＊秋月 岩魚さん（写真家）― ムダなダムができ、ブラックバスの釣り場になり、生態系と血税が失われる。国民はもっと怒れ。

＊大沢 悠里さん（フリーアナウンサー）― 八ッ場ダム工事について、もっと詳しく知りたく思います。

＊山口 幸夫さん（原子力資料情報室共同代表）― 国家官僚が一知半解で決めたことを、多勢の民衆の力でくつがえしましょう。十分に可能だと思います。

＊鳥越 俊太郎さん（ニュースの職人）― 時代遅れ、無用の長物となった八ッ場ダム計画は環境破壊の元凶。登紀子さん、応援しています。

＊羽田 澄子さん（記録映画作家）― とにかく再検討することが必要と思います。

＊岡田 幹治さん（ライター 元朝日新聞編集委員）― 八ッ場ダムを止めることは、日本をまともな国にする大きな一歩になります。

＊姫野 雅義さん（吉野川シンポジウム実行委員会代表世話人）― 川はかけがえのないふるさと。住民が力を合わせて守りましょう。

＊中川 李枝子さん（童話作家）― むかしむかしから今日まで、ずーっとだいじにしてきた野や山です。これからもだいじにしていくのは、あたりまえと思います。あたりまえの通らない世の中にはしたくありません。

＊十川 治江さん（工作舎代表取締役社長）― 高木仁三郎さんの著書となった小説『鳥たちの舞うとき』に記された「ダムを止める夢」、是非、現実のものにしましょう。

【イベントチケットの予約申し込みは・・・】

○ 郵便局ご利用の場合― 同封の青色振込み用紙に、①氏名　②住所・電話番号　③予約数を明記の上、下記口座に①名義でチケット代をお振込み下さい。

【口座名義】八ッ場といのちの共生を考える実行委員会

【口座番号】００１５０－４－３７２６０９

川原湯温泉湯かけ祭り

詩集『ダムに沈む村』（豊田政稀）より

――水余り大県・茨城――

― 水需給計画の基になる人口予測を大幅に下方修正。
もう、「八ッ場ダム」から降りなさい。―

神原禮二（八ッ場ダムをストップさせる茨城の会事務局）

20年ほど前、何度か市役所へ足を運んだことがあった。思えば茨城県が八ッ場ダムに「参加します」と手を挙げたころだった。そのとき担当者がしきりに“先進都市”と言うのが気になってしかたがなかった。そんな言葉があるのかと、驚くと同時にいささか不快でもあった。

認めたくないのだが、地方には抜きがたいコンプレックスがある。しかも、このコンプレックスは政治の餌になり、土木と結びついて政策になってしまうから始末が悪い。土木と結びつくのは分かりやすく何かが出来れば、コンプレックスが分かりやすく解消できるからだ。

水余りで溺れそうな茨城県が八ッ場ダムに参加するのも根は同じだ。バブルが弾けて久しいにも関わらず高速道路を引き入れ、港湾を拡大、百里基地を民間共用にし、工業団地をバンバン造ってぺんぺん草の草原をつくっているのは“産業大県・茨城”を築き上げようという壮大な企てなのだ。

だから、どんなに企業が中国に移転しても、日本の人口減少が深刻になろうとも、茨城県にはどんどん企業が進出し、人口は爆発的に増える。というバラ色の政策なのだ。それには何をおいても「水」がいる。進出企業にはタップリの工業用水を進ぜましょう。人口はどんなに増えても給水率は100%、深山幽谷の一軒家まで水道を引きましょう。“先進県・茨城”の幸せを提供しましょう。という目頭が熱くなる”善政”の証が「八ッ場ダム」だったのだ。ところが・・・。

「もう人口は増えません。それどころかどんどん減ります。」と悪びれず宣言

2005年度の国勢調査の結果が出た。それによると茨城県の人口は297.5万人、前回2000年度調査に比べ11000人の減少である。これまで「日本が人口減少社会を迎えても、茨城県人口は2020年まで右肩上がりで増え続ける」と、頑なに膨張政策をとってきた県当局に厳しい現実を突きつける形になった。

それを受けてか、この3月、茨城県は2007年度の計画案策定に際し、2020年度人口予測を323万人から300万人未満へと大幅に下方修正する旨県議会へ答申した。2030年以降は270万人～285万人になるだろう。とも加えた。答申案のタイトルは、「元気いばらき戦略プラン」とある。膨張政策による過大投資で瀕死の財政を抱えながらこの厚かましさである。

しかし、このことは2001年度に策定された「いばらき水のマスタープラン」が、根底から破綻したことを、県自ら認めたことには違いない。

以下は「いばらき水のマスタープラン」と1994年度、2003年度の実績の比較である。

	人　口	給水人口	水洗普及率	1日最大給水量	1人当り1日最大給水量
1994年度	295万人	246万人	83.4%	102.0万㎥	414ℓ
2003年度	297.5万人	266万人	89.4%	102.5万㎥	386ℓ
【マスタープラン】					
2020年度	323万人	323万人	100%	164万㎥	508ℓ

先ずマスタープランのバカバカしさに呆れて欲しい。次に、この10年間、給水人口で20万人、水洗便所普及率で15%伸びながら、1人当たり1日最大給水量は28ℓ減少し、1日最大給水量は横ばいにあるという事実に注目されたい。つまり実績から見る限り茨城県の水需要はすでにピークにあるともいえるのだ。

たび重なる過大な人口予測。そして下方修正。でも減るどころか増える1日最大給水量。

茨城県は八ッ場ダム事業に参加決定をした1985年、基準となる将来人口を2000年度420万人としていた(1978年度策定)。なんと2000年度実績を上回ること120万人強、1.4倍の杜撰さだ。さらにこの時期は、人口を維持できる合計特殊出生率2.07を下回り続けること10年、人口減少社会は十分に認識されていた筈である。その上での参加決定は犯罪行為と言わずしてなんだろうか。

その後も茨城県は破廉恥な計画を立て続けている。

【茨城県の水需給計画における人口予測と水需要予測の推移】

計画年度	達成予定年度	人口予測	給水人口	1日最大給水量	1人当り1日最大給水量
1991年	2010年	403万人	393万人	198.2万㎥	505ℓ
1996年	2010年	370万人	362万人	145.9万㎥	403ℓ
2001年	2020年	323万人	323万人	164.0万㎥	508ℓ
2007年予定	2020年	300万人未満	????	????	????

それにしても2001年度計画はひどい。人口を大幅下方修正しておきながら、1日最大給水量を大幅に増やしてしまった。この計画の趣旨は、県の主張する水源開発分を含む所有水源181.7万㎥／日に、何が何でも辻褄を合わせることだったに違いない。

※原告の主張する水源開発分を含む所有水源は、上記の181.7万㎥に、使いみちのない県の保留分7.2万㎥と、県も企業も持て余している県営工業水道の余剰分57.2万㎥を加えた246.1万㎥。

さて、2007年度計画はどうなるのだろうか。2020年人口300万人未満は我々が訴状でも主張してきた数字だ。もう逃げも誤魔化しも効かない。どうする茨城県。

普通なら「ゴメンナサイ。八ッ場ダムは降ろさせていただきます」となるのだが・・・

世の中、このぐらいデタラメが発覚すれば、県知事以下20～30人の首は飛んでいてもおかしくない。驚くことに知事は四選され、県議たちもほとんど入れ替わっていない。天を仰ぎ地に伏して号泣してしまうほど嘆かわしい。

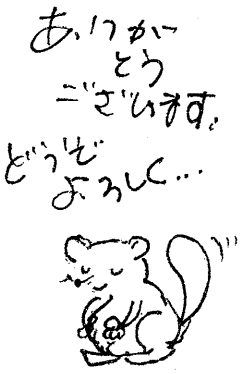
茨城県よ、心あらば、次回法廷に被告・本人の橋本知事が出廷し「ゴメンナサイ、八ッ場ダムは降ろさせていただきます」と敗北を認めなさい。

茨城県民の皆さん。口惜しいけれど私たちの「市民力」が問われています。年末の県会議員選挙では、知事の与党を任ずる議員達はことごとく落としませんか。さもないと茨城県はやっぱり「後進県」といわれてしまいますよ。

☆　ご支援に感謝

１９９９年の考える会設立より７年。国のダム事業に異議を唱える運動は、山あり谷ありで、決して平坦なものではありませんでしたが、皆様のご支援を力に活動を続けてくることができました。ボランテイアのみで運営している事務局で、手の回らないことが多々ありますが、どうか今後ともよろしくお願いいたします。

八ッ場ダム問題をコンパクトにまとめたチラシ、１０月イベントのチラシ配布をご希望の場合は、事務局 [redacted] へお電話下さい。会費・カンパと一緒にイベントチケット代お振込みの場合、同封の赤色振込用紙（振込み手数料無料）をご利用いただいてかまいません。チケット、会費、カンパ、ご連絡先の明記をお忘れなく！



☆　アウトドア自然保護基金

アウトドア自然保護基金より、今年度の後半期も助成金を最高額の５０万円いただきました。また６月には、１０月のイベント支援も決定しました。ありがとうございます！

アウトドア自然保護基金のメンバーは、以前から八ッ場ダムの水没予定地に何度も足を運んでおり、「川原湯の不動の滝でアイスクライミングしたり、吾妻川にはまったこともある」（アライテント・福永さん）そうです^^。

（「山と渓谷」７月号に、アウトドア自然保護基金の支援団体として、八ッ場ダムを考える会の活動、絵葉書が取り上げられました。）

☆　利根川流域市民委員会の発足

利根川江戸川流域ネットワークをはじめとする利根川流域の市民団体は、このほど「利根川流域市民委員会」（発起人：佐野郷美トネド・ネット代表、嶋津暉之さん）を結成し、７月１０日、関東地方整備局（さいたま市）に発足宣言文を手渡しました。

１９日、市民委員会は長妻衆院議員（民主党）のコーディネートで国交省にヒアリングを実施。国交省は布村河川計画課長はじめ本省河川局４名、関東地方整備局２名が参加しました。

〈意見交換での質疑から一〉

住民「（２月公告の）利根川の基本方針は矛盾だらけ。数字の辻褄さえ合っていない。」

国交省「数字は計算して出したもの。学識経験者の先生方に審議していただいた。」

住民「（千葉の）印旛沼周辺の住民は、利根川放水路の新計画によって、将来の生活が脅かされると心配している。行政から何の説明もないのはどうしてか？」

国交省「住民には県を通して説明。今までの１０倍の水をどうやって流すかは・・・（沈黙）」

住民「スーパー堤防、八ッ場ダムなど豪華計画が目白押しだが、予算はどの程度見込んでいるのか？　国の財政が逼迫する中、見通しは？」

国交省「全体予算の見積もりはしていない。事業の優先順位は整備計画で決めたい。」

事務局ニュース

住民「基本方針と具体的な整備計画が矛盾する場合はどうするのか？」
国交省「基本方針は１００年計画。策定中の整備計画は２０~３０年の計画。社会情勢の変化によって矛盾が出てくれば見直しをする。」
住民「淀川のように、住民の意見を反映させる流域委員会の設置を利根川でやらないのか？」
国交省「まだ何も決まっていない。市民の意見をすべて取り上げるわけにはいかない。」

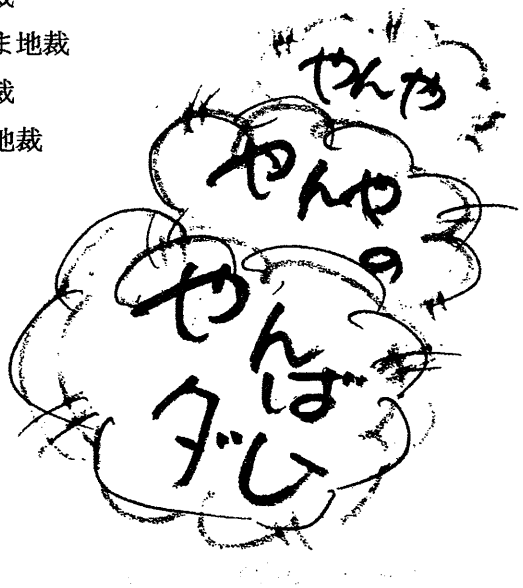
長妻議員は国交省に、一週間後をメドに疑問点のバックデータ提出、流域市民委員会と国交省の意見交換を継続的に実施の二点を確認しました。

次回の市民連絡会の会議は、７月３０日午後１時半より、浦和駅近くの埼玉会館[redacted]で行われます。参加自由。

利根川市民流域委員会の最新情報は、生まれたホヤホヤの専用ブログをご覧下さい。↓
http://tonegawashimin.cocolog-nifty.com/blog/

裁判スケジュール

□茨城　７月２５日（火）　午後１時３０分　水戸地裁
□栃木　７月２７日（木）　午後１時１０分　宇都宮地裁
□千葉　８月４日（金）　午前１１時００分　千葉地裁
□埼玉　９月１３日（水）　午後２時００分　さいたま地裁
□群馬　１０月６日（金）　午後１時３０分　前橋地裁
□東京　１０月１７日（火）午前１１時００分　東京地裁



【各地の連絡先】

★八ッ場ダムを考える会
[redacted]

★首都圏のダム問題を考える市民と議員の会
[redacted]

★八ッ場ダムをストップさせる市民連絡会
[redacted]

★八ッ場ダムをストップさせる東京の会 [redacted]
★八ッ場ダムをストップさせる千葉の会
★八ッ場ダムをストップさせる埼玉の会
★八ッ場ダムをストップさせる群馬の会
★八ッ場ダムをストップさせる茨城の会
★ムダなダムをストップさせる栃木の会
★八ッ場ダムを考える千葉の会 [redacted]
★八ッ場ダムを考える市民の会おおた [redacted]

ダムの水没予定地は、里山風景が広がる農村地帯。
ダム反対闘争が激しかった地元が、
今、ダムという公共事業頼みになってしまった根っこには、
農林業では食べていかれない、という現実があります。

山の荒れようは目を覆うばかり。
田畑は、高齢者が自家用の食べものを収穫するのには役に立っても、
農業で生計を立てるのは、およそ無理な話です。
７月２日の中之条シンポジウムでは、ダムに依存した地域経済を転換する
代替案の一端を紹介しました。

ダムによる破壊の影響は、むろん地元だけではありません。
昭和３０年代、東京でも、井戸端風景はいたる所で見られ、
飲み水は確かに“うまかった”のです。

それぞれの地域の「ふるさとを取り戻したい」という願いが、
ヤンバの運動を支えています。

八ッ場ダムは現在の計画では、２０１０年度完成の予定です。
けれども、本体工事はまだまだ先です。
次の世代の“いのち”のために、ダム計画を見直しましょう。

年会費（秋の総会から総会まで）／個人２０００円（学生１０００円）、団体３０００円
郵便振替口座００５５０－２－３２６８１　（カンパもよろしくお願いします！）

編集：八ッ場ダムを考える会

[redacted]

【URL】http:/www.yamba-net.org　【E-mail】info@yamba-net.org

吾妻渓谷

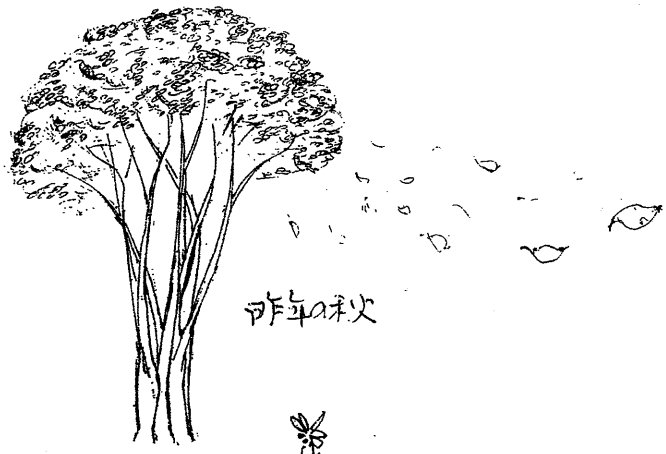
ハッ場ダム

2006. 11 No.17

ライブ&トーク 加藤登紀子となかま達が唄う

◀特集▶ ハッ場いのちの輝き

利根川流域脱ダム宣言



— 目次 —

1. ハッ場ダムの黒い糸を断つために
2. ライブ&トーク ハッ場いのちの輝き
・ハッ場あしたの会”設立趣意書
・会場からの感想など
3. 東京の水あまり
4. 事務局ニュース — 新しくできました
・環境マンガ『5分でわかるハッ場ダム』
・ハッ場運動支援Tシャツ

ハッ場ダムを考える会
首都圏のダム問題を考える市民と議員の会

八ッ場ダムの黒い糸を断つために

渡辺洋子（「八ッ場といのちの共生を考える」実行委員長）
（八ッ場ダムを考える会事務局長）

１９７７年の新聞記事に、こんな一節がありました。
「八ッ場ダム。それは、もつれた糸を次々に繰り出す、黒い糸車のように見える。」
（朝日新聞群馬版）

この時、すでにダム計画発表から２５年が経過していましたが、それから３０年近くたった今も、八ッ場ダムは黒い糸を吐き続けています。

首都圏のダム反対運動に対して、長年の闘争のはてにダムを受け入れた水没予定地の住民は、「今頃になって反対しても、もう遅い」と反発してきました。今も昔も起業者である国は、ダム事業の全体像を流域住民に明らかにしようとしません。ダム計画発表と同時に、水没予定地では生活破壊が始まりましたが、下流では地元がダムを受け入れ、実際に事業がスタートして初めて、税負担、環境破壊などの被害が実感されるようになりました。破壊された生活を再建したいという地元民の切実な願いは、黒い糸車にかかると「ダム事業の推進」にすり替わり、「公共事業のコスト縮減」のターゲットとされてしまいます。これではいつまでたっても、下流と地元の利害が対立する構図は変わりません。

“八ッ場”という言葉は、今は群馬県長野原町の一部となっている旧川原畑村の字の名です。吾妻渓谷に近い川原畑は、対岸の川原湯と共に全水没地とされています。昨年、川原畑から転出した方に、八ッ場の名のついた沢を案内してもらいました。かつて澄んだ水が豊かに流れ、岩魚、山女が棲んだ八ッ場沢は、巨大な砂防ダムによって流れを幾重にも遮られていました。

八ッ場ダムとは何なのか？　ダムとセットで語られる八ッ場に、人々の生活があり、命があることに、今まで首都圏下流の私たちはどれだけ目を向けてきたのか、あらためて考えさせられました。脱ダム運動には様々なアプローチがありますが、ダム計画が現地で破壊してきたもの、破壊しようとしているものが、何よりも雄弁に問題の本質を語っているように思えました。

昨春、加藤登紀子さんに手紙を出したところ、思いがけず夏休みに現地を訪ねて下さいました。多くの環境問題に関わってきた登紀子さんにも、八ッ場は大きな衝撃を与えたようです。これをきっかけに、さる１０月９日、東京で八ッ場をテーマとした初のイベント“ライブ＆トーク 加藤登紀子と仲間たちが唄う 八ッ場いのちの輝き”が開催されました。

１３００席ほぼ満杯の会場を裏で支えたボランティアは７０名を越え、その中には鴨川自然王国、八ッ場の各市民団体の呼びかけに応えた２０名以上の学生たちの姿もありました。

八ッ場の今を紹介するビデオで幕を開けた第一部は、登紀子さんと永六輔さん、専門家の大熊孝さん、嶋津暉之さん、司波寛さんをまじえたシンポジウムでした。イベント呼びかけ人の澤地久枝さんがこの国のありようを語り、野田知佑さんが国交省の河川政策を告発し、池田理代子さんが「ふるさと」を独唱。南こうせつさんも加わったライブでは、「神田川」「そこには風が吹いていた」「Power to the people」と、曲を追うごとに会場は熱気に包まれ、フィナーレでは全員が手を取り合って「故郷の空」の大合唱となりました。

イベントのシンボルとなった岩魚の図案は、水没予定地にある川原湯温泉の食堂の少年が描いた木彫画です。登紀子さんが川原湯を訪ねた昨夏、周辺の沢で魚釣りをするという小学６年生の少年は、近所の大工さんから貰った硬い集成材に、岩魚が川面から跳び上がって蝶を捕まえる瞬間を刻みつけていました。

岩魚の少年はこの春、中学生になりました。４年前、少年の通った小学校は、群馬県で一番古い木造校舎を解体して代替地に引越しましたが、今度は入学したばかりの中学校の解体作業が始まりました。廊下を雑巾がけするとき、木のにおいがするのが好きだった、という子どもたちは、「僕たちの小学校を返して！」と親たちに訴えたといいます。

人間関係が希薄といわれる時代ですが、山村の人々と都市の住民が共生するためには、人と人とがつながり合い、叡智を結集するしかありません。どんな時代にあっても、未来に向かって生きる子供たちがいる限り、いつも希望は私たちと共にあります。

ステージで加藤登紀子さんが、「みんなで一緒に温泉に行きましょう」とアピールした川原湯のお湯は、今日も地の底からこんこんと湧き出ています。温泉街のカツラの木が、黄色い小判のように色づいてきました。

故郷の空　　スコットランド民謡

夕空晴れて　秋風吹き
月かげ落ちて　鈴虫泣く
おもえば遠し　故郷の空
あゝわが父母　いかにおわす

澄みゆく水に　秋萩たれ
玉なす露は　すすきに満つ
思えば似たり　故郷の野辺
あゝわがはらから　たれと遊ぶ

（明治二十一年5月明治唱歌1より）

＊ライブフィナーレで大合唱となりました。

“八ッ場あしたの会”設立趣意書

本日は「加藤登紀子となかま達が唄う八ツ場いのちの輝き」にご来場いただきありがとうございます。

加藤登紀子と私たちにとって、本イベントは「八ツ場問題」を広く社会化するための第一歩です。単に「八ツ場ダムを中止させればこと足れり」とは思っておりません。ダムをストップさせても、半世紀にわたる筆舌につくしがたい苦節のなかで疲弊の極にいたった現地の再生がなされなければ意味はありません。また、仮に建設工事が進められても、粘り強く地域の再生と現地の人々の暮らしの再建を、地元の人々と共に模索していきたい、そう考えています。

「釣り上げられてしまった魚だ」と諦めるのではなく、網を破って自由な生をまっとうする未来を夢見て、そのための知恵と方策をフル動員しよう、そんなしたたかでしなやかで粘りのある未来志向の運動を願っています。

それは、巨大開発によって破壊された「持続可能な暮らし」と「自然環境」をどうすれば取り戻せるか、そのための多様な知恵をあつめるプロジェクトでもあります。すでに、本イベントと並行しながら、持続可能な地域と環境を再生させるための法律や制度の素案づくりに取り組み、その成果の一端を本イベントの第一部で発表いたします。

やがては吉野川可動堰、諫早湾干拓、川辺川ダム、中海宍道湖埋め立てなど、戦後の大型公共事業に対する運動ともつながって、日本各地で失われた自然環境と持続可能な暮らしを取り戻す大きなうねりとなることを願っています。

そんな夢に向けたささやかな第一歩として、「八ツ場あしたの会」を立ち上げようと思います。当面目指すのは、

①「八ッ場」の現状と課題を一人でも多くの人びとに知らしめる。

②「八ッ場」の地域再生プランを地元の人々と共に考える。

③そのなかから、公共事業や巨大開発によって破壊された全国各地の地域を再生させるための法律や制度をつくる国民運動を展望する。

そのために「知恵」と「汗」と「資金」のすべてか、少なくとも一つを提供する意思をお持ちの方のご参加をお待ちしています。

「ライブ＆トーク 八ッ場いのちの輝き」呼びかけ人代表 加藤登紀子
「八ッ場といのちの共生を考える」実行委員会（委員長・渡辺洋子）

＊ イベント会場で“八ッ場から地域の再生を考えるみんなの会”（仮称）設立趣意書を配布しました。イベント終了後、「会の名称は短く親しみがもてるものにしたい」という意見により、正式名称は登紀子さんの提案で“八ッ場あしたの会”に決定しました。“八ッ場あしたの会”の今後の活動は、会報でご報告する予定です。事務局はイベント実行委員会事務局と同じです。

◆加藤登紀子さんのコンサートを聴いて◆◆

中平 順子（イベント呼びかけ人・子ども文化研究家）

電車を乗り継ぎ、千駄ヶ谷の駅からタクシーをとばして青年館へ滑り込んだ。
第一部がちょうど終わるときだった。
朴訥な風情の永六輔さんがステージ中央に立っていて、会場はとても盛り上がっていた。
「永六輔さんは、グラビア写真とちっとも変わらないお顔なのね」と妙に納得する。

休憩を挟み、第二部が始まった。
登紀子さんが歌うと、切々たる悲哀が不思議なことに人生の喜びに転化する。
歌声が流れ、低音から高音と、その歌詞の一言の響きが胸にしみる。
オブリガードとギター・・・ピアノの音色がうつくしい。
歌が豊かにふくらむ絶妙のコンビだ。
人生を重ねて歌うとは、このことか・・・。
歌にのせて伝わる深い思いと、そして重なる私の人生…涙が溢れた。

友情出演の南こうせつさんの「神田川」は、私の新婚時代そのもの。
神田川に近い畳一間のアパートが私たちの出発だった。
風呂屋を出るときの合図は、彼の大きな咳払い。
南こうせつさんの優しい歌が、40年にならんとする以前の懐かしい光景を思い出させてくれた。
私ももう60歳を超した。
人生は本当にあっという間だが、生きとし生けるものすべては生を全うし、死を迎え、脈々と続く悠久の土となる。
吾妻渓谷も、悠久の時間が創造した「生物の歴史と生命の循環の美」なのだ。
いずれ、私たちも山になるのだろう。

♪夕空晴れて秋風吹き・・・♪
登紀子さんとみんなで合唱しながら、紅く染まる吾妻渓谷を思い出す。
加藤登紀子さん、ハッ場に心を寄せてくださってありがとう。
私たちでは絶対出来ない素敵な出会いを創ってくださってありがとう。
手を取り合う優しさと、そして何よりも声に出すこと。
よりよき選択へ行動する勇気と希望に向かう生命の燃焼をありがとう。

“八ッ場いのちの輝き”アンケート　《感想より》

♡ 久しぶりにイベントで涙が流れました。大変感動しました。
♠ 是非、近いうちに川原湯に行き、語りながら飲み明かしたいです。（東京）
◇ 群馬に住んでいても、あっちの方で何かやっている、という感じでした。当事者の方々は、出て行った人も、残った人も、自分の意志や努力とは関係なく傷ついてしまった。皆が懐かしい故郷や友人を思い出せるとよいと思います。（群馬）
♣ 自然の大切さが母体から生まれた子のように、心、体、頭で感じられた。（東京）

♡ 人生で最高のコンサート。ありがとうございました。（東京）
♠ 大きな公共事業を止めるには、大きな「力」が必要なこと。この力は世論であることを知らされました。地域再生の政策をしっかり立て、住民の方々と国、県、町へ要求をしていければと思います。（埼玉）
◇ 川原湯の方々と関東圏の人たちが歴史を共有し、地域再生を応援してコラボレートできる運動のスタートになればよいと思いました。（千葉）
♣ 川原湯の出身です。今になってダムが中止になったら、やむなく出て行った者は国交省を許せないだろうと思っていましたが、イベントに参加して涙が止まりませんでした。故郷を見捨ててはいけない、と感じました。（東京）

♡ 八ッ場ダムに対する気持ちの整理の機会になりました。（長野）
♠ 筑波でも集会を開かねばと思いました。ホームページ見せていただいています。（茨城）
◇ ダムのこと、地域のことを考えると、どうしようもない歯がゆさ、辛さと向き合うことになり、心が重くなりました。でも、まずは川原湯温泉につかりたいです。この運動が、これからの新しい形の国民運動として広がりをもつことを願っています。（千葉）
♣ 是非、川原湯温泉を訪ねたいと思います。選挙で選ぶ人をしっかりと見極めたいと思います。（埼玉）

♡ 八ッ場ダムのことは当初から知っています。あの渓谷美が壊れないのなら、今からでも間に合うのなら、ダム建設を中止させたい。（東京）
♠ ダムを止める以上、八ッ場の人々の生活再建、壊れかけた自然の再生をしっかりやってゆかなくてはいけないと感じた。（群馬）
◇ 現在の問題と可能性とを、確かな情報と共に知ることができた。（東京）
♣ ダムの是非よりも、住民の生活再建、その後について深く議論してほしかった。最後に司波さんが話していた「地域再生」にこそ力点を置くべきではないか。すべての責任を行政に押しつけてしまったのは残念。

♡ トキコさんのパワーはすごいですね。おいちゃん(南こうせつ)に会えてよかった（東京）
♠ はじめに見ました映像の川原湯温泉の鄙びた風景のすばらしさがダムに消えることは何としても反対し、この風景が後々まで続くことを望みたいです。（千葉）
◇ 会場の熱気、登紀子さんの力で何かが動く思いがあります。（群馬）
♣ 八ッ場ダムの問題点をやわらかく訴えてくれた。登紀子さんの素朴なギターの弾き語りがよかった。（千葉）

♡ １０月８日現地に行き、共同浴場“王湯”に入浴しました。湯温、泉質がとてもよかったです。食堂『旬』は安くておいしく、豊田乳業のヨーグルトはとても美味でした。山林が全体に荒れている感じがしました。（東京）
♠ 長野原町の地元の者です。別個にたつかもしれませんが、共に撃てればよいと思います。（群馬）
◇ 池田理代子さんの生の声、南さんの飛び入りなど、意志をもつ原動力をもらえたと思います。どう実際に動くか、自分に問い直す機会になりました。ありがとう！（東京）
♣ 数字による論理的な説明と現場の生々しい状況説明があり、非常によかった。（神奈川）

♡ 地元の人を応援したいという加藤さんの想いを一緒にできたと思います。自分でできることをと思い、群馬の親戚にチラシ、詩集を送りました。（東京）
♠ 川原湯温泉に行きます。いっぱい誘って行きます。（兵庫県）
◇ ディスカッション、スライドもよかった。すばらしかったです。ありがとう。（東京）
♣ ５０年間ダムがなくても生活できたのに、なぜ続けるのかわからない。（登紀子倶楽部）

♡ 知らなかったこと、知る必要があることを気づかせていただいた。「ダメなものはダメ！」と小さな声をたくさん集めて声を上げていくことが一番ですね。
♠ 温かい気持ちにさせていただいた。勇気を持って、よいと思うことをささやかでも続けてゆきたいと思わせていただいた。
◇ ダム計画のことがわかった。現地の人たちを応援したいと思いました。（埼玉）
♣ ヤンバと読むことすら知りませんでした。お世話になりました。Ｔシャツはダムストップの文字が入った方がよかった。これだけの出演者で３０００円は安かった。（群馬）

♡ 永六輔さんの話をくだくテクニックがすばらしかった。同時におトキさんの一生懸命さが伝わってきました。いつにもまして歌詞に聴き入っていました。（登紀子倶楽部）
♠ 八ッ場ダムのことは恥ずかしながら知らなかった。登紀子さんの活動に感動。（千葉）
◇ 一人ひとりがつながって、大きな輪ができることを信じたい。（東京）
♣ 同じ長野原町の中の問題であるにも関わらず、町民の連帯がつくれません。本当に悲惨なダム問題をこんな形で支えることもできるのかと思いました。（群馬）

～☆ 会場へのメッセージ ☆～

高木久仁子さん（イベント呼びかけ人）より

今回のイベントには残念ながら参加できませんが、この催しを機に、八ッ場ダムストップの声がますます大きく広がるよう願っています。

高木仁三郎は2000年10月8日に亡くなり早や6年が経ちます。
彼は、

「群馬の偉人内村鑑三は、コスモポリタンたらんとする自分にとっては、とりたてて故郷がどこであるかということなど問題にならんという趣旨のことを書いている。
少年のころの私も、たまたま自分が生まれ育った土地風土や人間関係などにとらわれたくない、とある種の突っ張った気持ちで考えていた。
ある面では、この気分をその後もずっと私は引きずっていて、今に至っている。
その一方で、自分ほど故郷、特にその自然に愛着を持ち、その影響を受けたものは少ないのではないかともずっと思ってきた。
これはもう思想以前の問題で、自分の体に染み付いてしまっているものだ。」

と書いています。
赤城の山から吹き降ろす峻烈な空っ風にむかって歯を食いしばって歩いた少年仁三郎の故郷へのこだわりが、彼の人生最後の時間を『鳥たちの舞うとき』執筆に駆り立てたのかもしれません。

思想・文化も、哲学も歴史も経済も、自然風土抜きに語ることはできません。
貪欲に、もっと多くのエネルギーを、もっと多くの水を、と大消費地のニーズを口実にする手法は、原子力開発もダム開発も驚くほど似通っています。人類の過度のエネルギー消費は自然破壊をもたらし、温暖化どころか熱帯化を、地球全体の気候変化さえひきおこすに至っています。

八ッ場ダムの工事は進行中と聞きますが、こんな無駄なダム開発を許していいのか、私たちの力量が後世に問われる天下分け目のたたかいです。八ッ場ダムにNOの声をもっともっと大きく広げていきましょう。お集まりの皆様へ連帯の気持ちをこめて。

註：市民科学者、高木仁三郎さんのパートナーであった高木久仁子さんは、現在、NPO法人高木仁三郎市民科学基金の事務局長としてご活躍です。
イベント前日の１０月８日は、奇しくも高木仁三郎さんの七回忌でした。

富山和子さん（イベント呼びかけ人）より

どうか目を向けてほしいと、繰り返し繰り返し訴えてきましたが、ようやく今、このようにして東京から、心ある人たちが立ち上がって下さったこと、とても感慨深く、心強い思いがいたします。

実は『水と緑と土』発表以前の昭和４０年代半ば頃から、すでに林野庁内では、立場上ダム批判までは打ち出せないものの、下流消費地の皆さんが水源地へ目を向けて下さるよう検討会が設けられていました。私も黒澤丈夫上野村（うえのむら）村長などとご一緒に委員として会議に参加してきたのを思い出します。が、利根川流域各県が参加しても東京都だけは決して出てこず、結局、会は立ち消えに終わったのでした。

それほど古くからの課題であっただけに、私も、「東京都知事は一度でも都民に説明したことがあるか」と近著でも書き、いつまでもしつこい人だと、一部の読者からお叱りをいただいていたのでした。

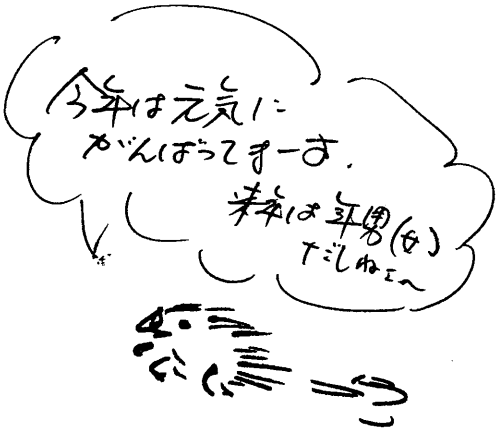
「水は土壌の産物であり、その土壌は日本列島にあっては、人間の労働の産物である。」これが私の終始掲げてきた持論です。

さる５月３日の憲法記念集会（日比谷公会堂）でも、今年のスピーチは日本代表としては私がお手伝いをしましたので、（あと一人は韓国代表、スピーチは毎年三人プラス志位共産、福島社民党首の計４名です）簡単ながらこの問題にも触れました。国土に目を向ければ、平和憲法も水の問題も、互いに重なり合う問題だと思っています。

当日は参加できませんが、会のご成功を祈ります。

註：環境問題評論家の富山和子さんも、高木仁三郎さんと同じく群馬県前橋市のご出身です。富山さんの“日本の米カレンダー”は、制作１８年目となりました。

（山の田んぼは、
いのししで大被害!!
収量激減でした。）
今



東京の水あまり

只野 靖（弁護士）

八ッ場ダム建設反対裁判の争点は、①利水上の必要性がないこと、②治水上の必要性もないこと、③環境破壊であること、④ダム地盤の危険性・貯水池地すべりの危険性があることの大きく４つに分けられる。本稿は、最大の争点である利水上の必要性がないことについて、筆者が東京都等を相手方とする裁判を担当している関係から、特に東京都の事情に絞って述べるものである。

1　ダム建設反対を巡るこれまでの裁判例

ダム建設を巡っては、これまで多数の裁判があったが、最終的に裁判において勝訴した事例は、筆者が知る限り、川辺川利水裁判、永源寺第二ダム裁判、二風谷ダム裁判の３例しかない（ただし、二風谷ダム裁判は、既にダムが完成していることから、結論としては収用裁決を取り消すことは公共の福祉に適合しないとする事情判決であった）。これらは、それぞれ、土地改良事業変更計画に対する異議申し立て棄却決定の取消、土地改良事業計画決定等の取消、土地収用法に基づく収用裁決の取消を求める裁判である

これに対して、八ッ場ダム裁判は、不要なダムに対する公金支出の違法性を争う住民訴訟であり、これら３つの裁判とは裁判形式を全く異にしている。住民訴訟の形式でダム裁判に勝訴した事例は未だ一例もないが、数ある敗訴判決の中には注目すべき指摘を行っている例もある。

その中でも、相模大堰事件（横浜地裁平成１３年２月２８日判決）が最も参考になる。

判決は、相模大堰を建設する利水上の必要性について、次のように述べている。

「県の一般会計から県企業庁の水道事業特別会計に支出される本件支出が、財務会計上の行為であることは疑いようがなく、かつ、本件支出について必要最小性に関する要請（地方財政法４条１項の「地方公共団体の経費は、その目的を達成するための必要且つ最少の限度をこえて、これを支出してはならない」との要請）に一定の裁量が認められるとしても、その裁量を越えた不必要な公金の支出は、財務会計法規上許されないというべきである。したがって、本件支出の必要性の有無の判断はこのような意味では避けることはできない。」

「昭和６２年ごろからの水需要の実績値については、増加傾向が減少し、横ばいともいえる傾向が見てとれるばかりか、前年度より減少した年度も見られる。このように実績値と予測値が一見して相当に乖離してきたのであるから、一部事務組合としての企業団としては、法令に従い予測値の過程を再検討すべきことが要請されたというべきである。」

ただし「水需要予測という確定値が定まらない事項を対象とする判断であること、水需要に変化が生じてきたといっても上昇の傾向が弱まったという程度であり、これに対応する必要性が消失したということではないこと」等から、「裁量権濫用の違法の非難は免れるというべきである」

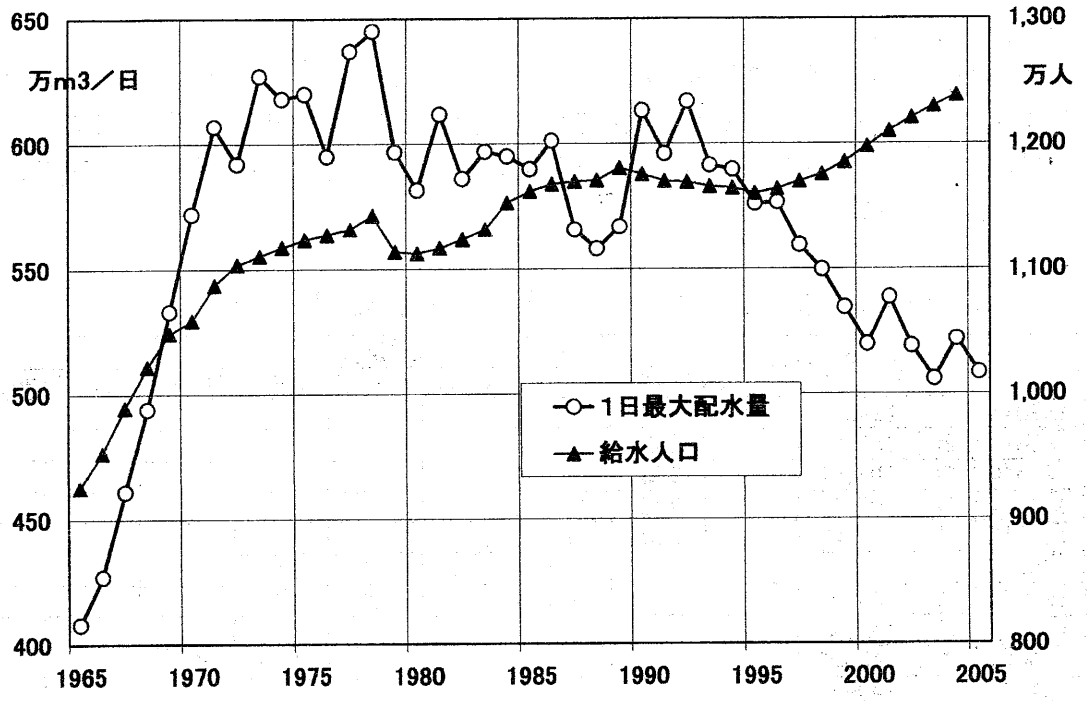
従って、この判例を前提とすると、「長期的な需要予測等に基づいて計画的に行う公共事業について、適切な分析に基づいて計画を策定しなかった場合、あるいは計画実施後検証を繰り返して適切に事業計画の見直しをせず、漫然と当初計画どおりに事業を進めてきた場合には、事業支出が違法とされる可能性が高いこと」になる。（伴義聖ほか「水道行政は水物？」判例自治２５９号１１頁。なお、伴義聖氏は、相模大堰事件の神奈川県等の代理人であり、八ッ場ダム裁判でも、群馬県、茨城県及び千葉県の３つの裁判で県側の代理人となっている。）

2　八ッ場ダムの利水上の必要性について

それでは、八ッ場ダムについてはどうか。

図表１は、東京都における過去 40 年間の１日最大配水量の実績と人口数をグラフ化したものである。配水量のデータは、1972 年までは日本水道協会「水道統計」により、73 年以降は都水道局「事業概要」に従った。東京都における１日最大配水量の実績は、1978 年の日量 645 万m3 をピークとして、基調として緩やかな減少傾向にあり、特に 92 年以降の減少は顕著である。東京都では過去 27 年間において、１日最大配水量が 137 万m3（ピーク時の２割以上）も減少している。

【図表１】東京都における過去 40 年間（1965 年～2005 年）の１日最大配水量の推移



特筆すべきは、近年給水人口が増加しているにもかかわらず、１日最大配水量は減少していることである。これは、一人あたりの水使用量の減少量が、人口の増加による水需要の増加量を完全に上回っていることを意味している。

一方、東京都が現に保有する水源は、東京都が認めるものに限っても日量 623 万m3 に上っている。１日最大配水量と比較すると、ここ３年間で最も大きい 2004 年でも 522 万m3 であるから、東京都の主張する保有水源 623 万m3 を約 100 万m3 も下回っている。年間でたった１日の最大時に、このような大量の水源が余っているのである。

なお、東京都が認める 623 万m3 には、現に利用している地下水が入っていない。東京都が実際に保有している水源は、東京都が認めている 623 万m3 よりもはるかに大きく 700 万m3 に達しており、その前提に立てば余剰水源はさらに著しく大きくなる。

結論的に言えば、「水需要予測」は確かに「確定値が定まらない事項を対象とする判断で」はあるが、東京都においては「水需要」の「上昇の傾向が弱まったという程度」にとどまらず、すでに一見して明らかに長期的減少傾向を示しており、新たな水源整備を行う「必要性」は全く「消失し」てしまっているのである。

3　東京都の主張のまやかし

すでに水余りの状況にあるという住民側の主張に対して、東京都は何ら正面から返答していない。東京都が八ッ場ダムの利水上の必要性に関して述べているところは、水需要が今後は増加するという点と、１／１０渇水年に対応する必要があることの２点である。

(1)　東京都は、水需要を予測するにあたって、「都は他の都市に比べて人口や社会経済規模が大きく、都の水道需要はこれらの影響を受けやすいことから、単に水道需要実績の傾向のみを捉えて推計を行うのは妥当ではなく、人口や社会経済動向の変化と水道需要との関連性について分析し、分析結果を基に推計を行うべきと判断し、重回帰分析手法を採用している」として、あたかも、これが唯一無二の信頼できる予測であるかのごとく述べる。しかしながら、重回帰分析手法などを用いたという東京都の過去における予測は、ことごとく過大であった。これが現実である。

図表２は、東京都における過去の水需要予測であり、これをグラフ化したものが図表３（右頁）である。これをみれば、いかに東京都が過去行ってきた水需要予測が過大であったか、一目瞭然であろう。東京都は、常に水需要予測を過大に見積もり、ダム建設への参加を正当化してきたのである。

【図表２】東京都の水需要予測の改定経過（１日最大配水量　万m3／日）

			基準年度	目標年度								
				1975年	1980年	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2013年
計画策定年度	1970年	A	1969年	698	834	931						
	1974年	B	1973年		832							
	1975年	C	1974年		778							
	1976年	D	1975年		725	810						
	1978年	E	1977年		688	762	820					
	1980年	F	1979年			693	748	797	847			
	1982年	G	1980年			647	689	720	740			
	1986年	H	1985年				640	670				
	1990年	I	1989年					650	670	680	690	
	1998年	J	1995年						620	630		
	2003年	K	2000年									600
実績値				582	561	590	613	576	520	508		

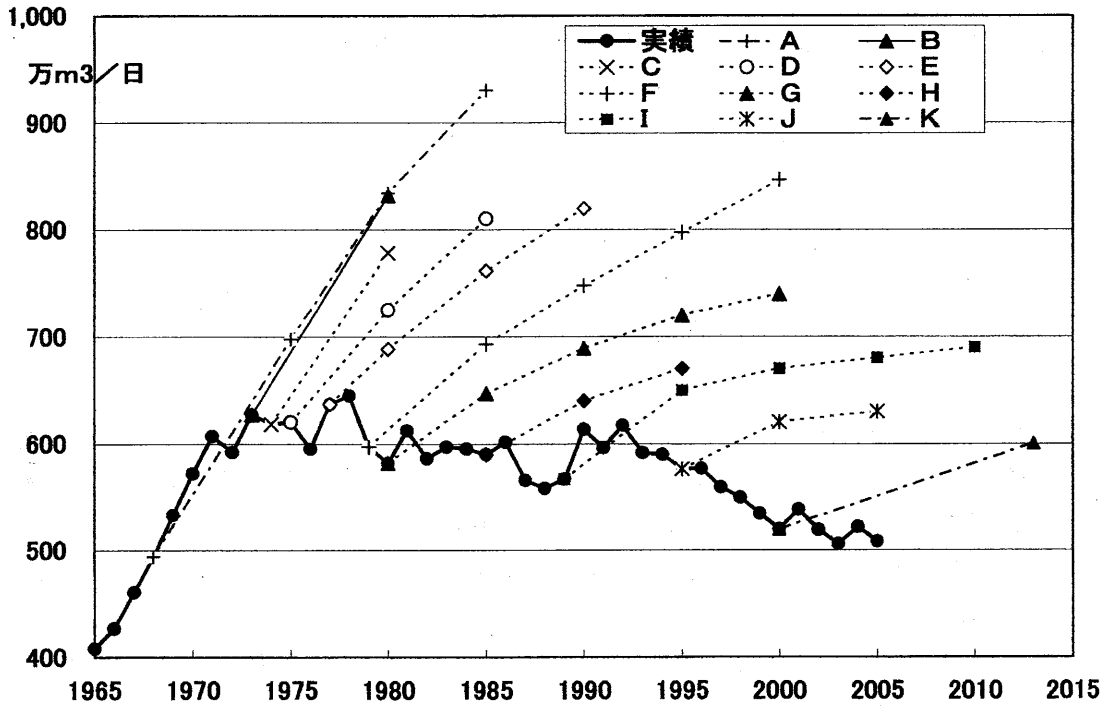
（出典　「東京都水道局の事業概要」昭和 45 年度～平成 17 年度）

このような東京都の予測の誤りは、東京都が採用しているという重回帰分析手法による計算結果が、全く信頼に足るものではないことに起因する。回帰分析とは、たとえて言えば、喫茶店において、毎日の気温とアイスコーヒーの注文数とが何らかの関連性があることを前提として（気温が高ければ注文が多い、気温が低ければ注文は少ないという傾向があることを前提として）、気温と注文数との間の関係を関数で求め予測を行うといった方法である。

ところが、東京都が、生活用水の予測のために用いた説明変数（社会経済指標）は、「個人所得」と「平均世帯人員」のわずかに２つだけであった。しかし、現在我が国で、「所得が増加すると水使用量が増加する」という主張が、どれだけ説得力を有するであろうか。むしろ、個人所得の伸びは、節水型洗濯機、自動食器洗浄機（節水効果は手洗いよりも高い）等に代表される節水機器の導入の要因となっているのではないだろうか。また、多人数世帯の１人１日当たり使用水量は、

少人数世帯のそれよりも少ないように思われがちであるが、一人世帯よりも二人世帯の方が、１人１日当たり使用水量が多いという統計もある。いかに優れた手法であっても、その手法を使用する者が適切な項目を選定しなければ意味がない。重回帰分析を用いた水需要予測が、大はずれを繰り返してきたことが、何よりの証拠である。

【図表３】東京都の過去の水需要予測（表―左頁）と実績値（１日最大配水量　万m3／日）



(2) そこで、東京都が展開してきたのが１／１０渇水年への対応が必要との議論である。東京都は、5年に1回程度発生する規模の渇水時には、近年の小雨傾向により河川流況が減少傾向にあることから、河川から取水できる水量は当初計画した水量に比べておおよそ２割減少するという。しかしながら、この主張は、いかにも苦しまぎれというべきであろう。

4　まとめ

以上のとおり、八ッ場ダム建設の利水上の必要性については、水需要の論点では被告の主張が全くの誤りであることを論証し、渇水対策ということを持ち出さざるを得ないところまで被告を追い詰めている。今後は、渇水対策目的が、地方財政法４条１項「地方公共団体の経費は、その目的を達成するための必要且つ最少の限度をこえて、これを支出してはならない」に関して、裁量の範囲内と言えるのか（裁量を越えた不必要な支出ではないか）という点が、最大の争点になると思われる。

＊ 本文の図表は、嶋津暉之氏、梶原健嗣氏の協力を得て、八ッ場ダムをストップさせる東京の会で作成した。

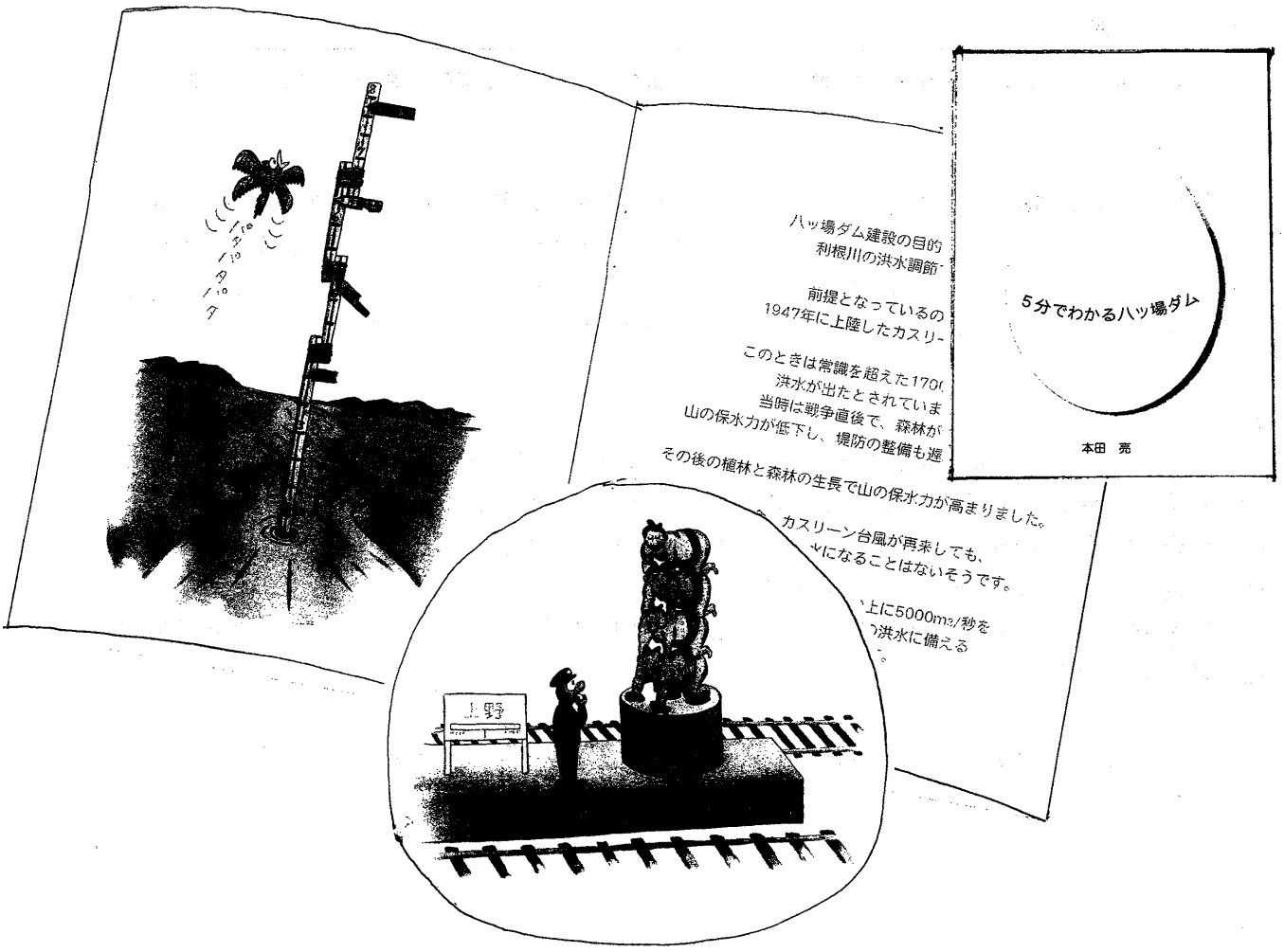
◆ 環境マンガ『5分でわかる八ッ場ダム』ーヤンバ！ ヤメンバ！ー

“八ッ場いのちの輝き”呼びかけ人の本田亮さん（東京在住）が制作して下さいました。

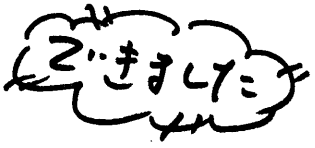
本田さんは♪ ピッカピッカの一年生…♪ など数々のヒットを飛ばしてきた電通のCMプランナー。1980年代、趣味のアウトドアスポーツが高じ、同僚らと“日本で一番過激でヘタなカヌーチーム―サラリーマン転覆隊”を結成。90年、環境問題に目覚めてイラストを描き始め、試行錯誤してたどりついたのが、今、旬の環境マンガ『エコノザウルス』です。

CMプランナーとして、写真家として、環境マンガ家として大活躍の本田さんが、超多忙生活の合間にボランティアで手がけた本書は、掌サイズの小冊子に楽しいマンガが満載です。どうぞご活用下さい。

会員価格：100円（送料別）
監修：大熊 孝、　嶋津暉之　　編集：八ッ場ダムを考える会
デザイン装丁：KURUMI HONDA　　発行：同文社
問い合わせ先：[redacted]（東京・田中）、[redacted]（千葉・入江）



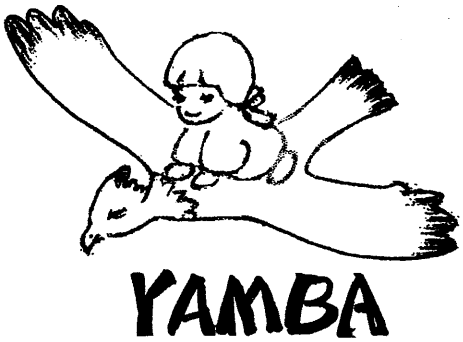
事務局ニュース



◆パタゴニアの　八ッ場運動支援Tシャツ

“八ッ場いのちの輝き”支援にと、パタゴニア日本支社よりオーガニックコットン100%Tシャツ200枚を提供していただきました。
左胸元に、会報の表紙でおなじみのデザイン（下図）がプリントされ、左前すそにはパタゴニアのロゴマークが入っています。

価格：3000円（送料込み）。
色・サイズ：　白（女性S）、　黒（男性S，女性M）、
　　キナリ（男性M・L，女性L，LL）
問い合わせ先：[redacted]（事務局）。
＊5枚以上ご希望の団体には卸売価格で提供します。



（キャラクターの紹介です）
わたしの名前はショウ
吾妻渓谷にずーっと昔から生えている
ミズナラの木の精です
そして　これはイヌワシのクー
そばの崖の上に　いく代もいく代も前から
巣を作っています
（会報1号表紙より）

◆ メーリングリストを開設しました

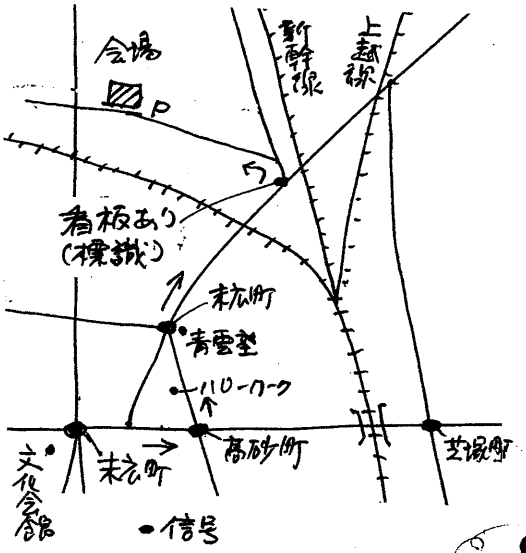
ホームページにこのほどメーリングリストのページを加えました。どなたでも入れるオープン形式です。マスコミだけではわからない生情報、双方向の意見がドシドシ投稿されるような、そんな活気あるメーリングリストが運動の輪を広げることを願っています。

メーリングリストの登録をするには、八ッ場ダムを考える会のホームページを開いて、トップページの一番下にある「八ッ場メーリングリスト」の右端の赤い矢印をクリックしてください。
アドレスは→http://www.yamba-net.org/modules/ml/
＊自動登録を希望する場合は、事務局メール（info@yamba-net.org）へご連絡を！

八ッ場ダムを考える会総会のご案内

第七回総会を下記のように開催いたしますのでどうぞご出席ください

日時：11月26日午後1：30～
会場：高崎市総合福祉センター
高崎市末広町115－1
TEL 027－370－8822



〈 高崎駅からの行き方 〉
西口バス停より『ぐるりん』
（高経大線六郷先回り）
12：55　発―13：07　開場敷地内着
13：40　〃―13：52　　〃

八ッ場ダムは現在の計画では、２０１０年度完成の予定です。
けれども、本体工事はまだまだ先です。
次の世代の“いのち”のために、ダム計画を見直しましょう。

年会費（秋の総会から総会まで）／個人２０００円（学生１０００円）、団体３０００円
郵便振替口座００５５０－２－３２６８１

編集：八ッ場ダムを考える会

[redacted]

【URL】http:/www.yamba-net.org　【E-mail】info@yamba-net.org